

PROPAGATION

Totsuka DXers Circle

August 2017

Edition 5



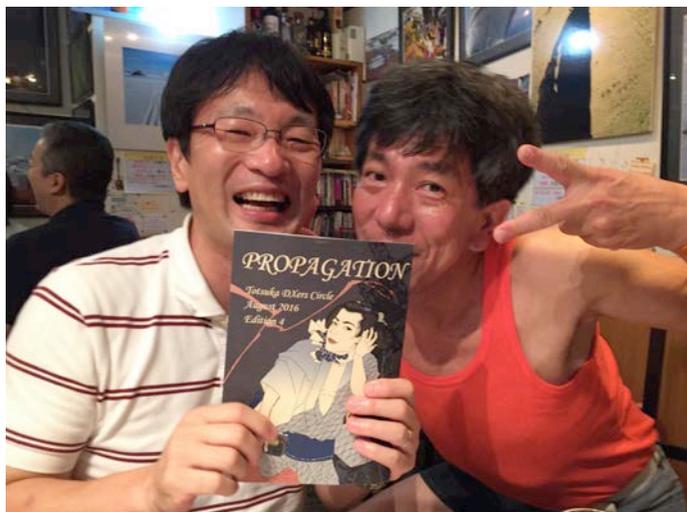
PROPAGATION

August 2017 Edition 5 Totsuka DXers Circle



No DXing, No Dreams.

4	Greetings!	Satoshi Miyauchi
6	特集1 海外で楽しむ BCL	
7	夢の Oregon クリフ合同ペディ記	宮内 聰
14	Oregon Cliff DXpedition Report	中川 弘夫
19	Signal strength advantage of the Rockwork 4 site Rockwork 4 における、信号強度のアドバンテージ	Nick Hall-Patch ・意訳:宮内 聰
23	Rockwork 4 DXpedition July 2016 Log	Tom Rothlisberger
25	ラジオ放浪記～ペルー・リマ篇	甲斐 迅
38	新潟、和島ペディション参加レポート 2016	岡村 博行
40	手持ちの設備で十分 中波 DX ペディは SDR 所有が必須なのか?	澤谷 淳一
45	ちよいぺの軽量化 一試行錯誤編一	板倉 健
50	ミニテントを活用 冬の江の島テントで快適移動大作戦	澤谷 淳一
57	新潟県コミュニティ FM 局 全局受信ドライブ	五十嵐 雄希
65	編集対談「わが青春の CALL SIGN、そして PROPAGATION へ」	せきやま☆あすか ・長谷川 真也
75	OM 探訪 第三回「田辺 保晴氏」	中川 弘夫
79	TDXC 会員シャック訪問記 ～板倉 健さんのシャック編～	五十嵐 雄希
81	リビング DX の構想	板倉 健
83	Radio Australia を今は Streaming からラジカセで聴く	宮内 聰
84	ヴィンテージ地球儀リプルーフのある BCL 書齋	宮内 聰
85	片手で簡単に世界中のラジオを探索できる Radio Garden について	峯松 史明
90	Mac で PERSEUS を動かそう～BootCamp で Windows10 インストール～	栗本 佳明



93	Colibri NANO SDR を手に取って。	岡村 博行
96	船舶気象通報の中波放送廃止を知って	山田 寿一 ・竹野 伸郎
104	特集 2 アンテナをつくろう	
105	デルタフラッグアンテナの製作と使い方	シエスタ
113	TDDF(Twisted Double Delta Flag)の実験について	シエスタ
120	TDF(Twisted Delta Flag)の実験について	シエスタ
125	MIZUHO UZ-K1 製作記	中川 弘夫
129	手持ちラジオでお手軽 DX 高感度ミニループで中波 DX 大作戦	澤谷 淳一
133	CC Skywave 専用 Ultralight 外部アンテナの製作	長谷川 眞也
137	意外な状況で性能を発揮!? 乗鞍ハイキングと CCSKYWAVE	長谷川 眞也
139	60 歳からの入門 BCL ブック「第 3 回 ラジオを聞こう」	せきやま☆あすか
140	BCL グルメの旅「湘南ビーチFMビール 789」	長谷川 眞也
143	ラジオ書籍レビュー ありがとう いとしのうおーくまん・すかいせんさー	澤谷 淳一
144	リグの傍にこの一冊「ラジオ受信バイブル」	長谷川 眞也
145	映画情報「きみの声をとどけたい」	長谷川 眞也
146	アマチュア無線再入門～e ラーニングで 2 アマ取得編～	長谷川 眞也
148	DX Report September 22, 2016 Taitosaki DX Pedition Log	長谷川 眞也
151	戸塚川柳道場 2017	
152	会員だより	
153	返信情報・PROPAGATION Edition 4 正誤表	
154	編集後記／TDXC からのお知らせ	

Cover Illustration: 長谷川 眞也



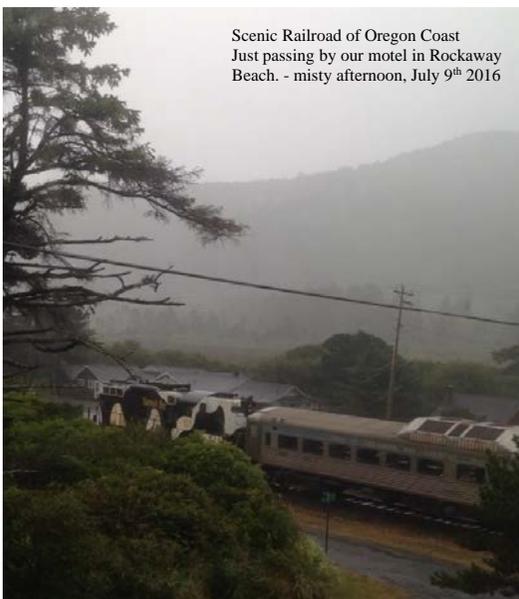


Easy and comfortable ride on Portland's train – MAX Light Rail.

Greetings !

Satoshi Miyauchi

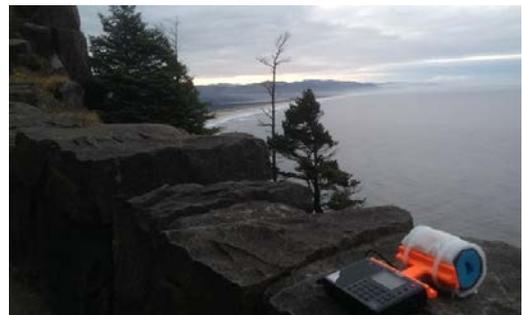
■ "Travel Gives Life".. the words from Goethe, Johann Wolfgang von (1749-1832), and it is such an inspiring words especially for those who are in the travel business or someone involved in hospitality industry. Simply traveling makes people richer both in actual knowledge of the foreign land, and also spiritually, fulfill the mind with something new and excitement by travelling.



Scenic Railroad of Oregon Coast
Just passing by our motel in Rockaway
Beach. - misty afternoon, July 9th 2016

■ It has been said that the hobby of listening to the world-band radio or monitoring shortwave radio is sort of virtual travel of that time, in another words, it is the instant but inspiring armchair travel, till mid 90s before internet comes in to our daily life. All you have to do was just sit down and relax, turn on the radio, tune in to the "destination" that took us out of the listening room, and let us feel the atmosphere of foreign land, not only in languages, but also in their small differences of peculiar accents of announcers, and in the rustic music that we have never heard of. Simply it was the only instant source of information that we could access to rather easily. I believe many DXers that time had the skill of identifying the languages in a few seconds away while turning the dial, for instance whether it is Telugu or Tamil, though most of us never had the chance to be those places where that language was being spoken.

■ Things had changed a lot over the decades. There are much less number of stations on world-band radio,



but real overseas traveling got extremely easier and much less expensive than before, then why not travel? – that's the message.

■ During the 2016, as TDXC, me and Mr. Hiroo Nakagawa san had the chance to visit Portland, Oregon, and the coastal region of that beautiful state, in our joint DXPedition with three of DXers in USA/Canada, Mr. Gary DeBock, Mr. Nick Hall-Patch, and Mr. Tom Rothlisberger. Not to mention all of them are active and unique DXeres, Recently, Gary-san also introduced FSL antenna designed for Frequent-flyer, which is relatively smaller in size and lighter in weight, that may not get too much attention from security personnels at the airport. Quite an invention!

■ I wonder the revival of radio cassette popularity is only happening here in Japan? Well, most of us in our



Photos - From the Radio Cassette Exhibition at Parco Museum in Dec 2016 in Tokyo (both above and below)

generation of those born around 1960s, we all passed through all those analog, but precise mechanical products – and on top of that, SONY’s Walkman. Last December, there was an interesting exhibition here in Tokyo that focused on the Radio Cassette Coders. The looks of all those radio cassette players are still so exciting to old boys. One of the displayed small radio could catch even DX right in the middle of that



exhibition, whose room location is well inside the building, but still provided recognizable audio on 972kHz. Amazing sensitivity and long life of that product, simply salute to the engineer of that time.

■ One other thing that is keeping me indulge myself these-days are – to be in the atmosphere of some nostalgia. We saw a major loss of shortwave broadcasting during 2016–2017, it was the complete shut down of shortwave from the land of kangaroos and koalas.. It use to be my ritual – to start the new log book with the reception of Radio Australia, which could be easily found any time of the day all year around. There may not be a time again that the radio waves over the shortwave may play the vital role of communication, bringing all the information, however, simply the nostalgia wins in the absence of all those familiar audio from the radio. Later in this edition, my personal proposal is to use the 70’s radio receivers – its function as a loud speaker box, connected to the wifi which takes streaming audio from those familiar used-to-be-heard on shortwave stations, like Radio Australia.

Spicing up the atmosphere of radio shack may be possible with items like vintage “Black Ocean” REPROLOGUE Globes, which tells us the name of the countries that once existed. It is a mixed sense of nostalgia, with a little bit of our imagination on history. Imagining what actually happened to the



people and places when new country was born.. Simply it is a luxurious moments while we plan for the next trip. Could it be in the places where we haven’t been before, or somewhere with very little noises away from the city... Just to meet up with DXers.. Till then, 73.. ■



特集 1 海外で楽しむ BCL

異国の地でラジオを聞くと、そこには国内とまるで違う世界があります。バンド内にずらりと並ぶネィティブのローカル局。そしてそれらをかいくぐって聞こえてくる、日本では受信できないような珍局。DXer にとっては、非日常を堪能できるまたとない機会でしょう。

技術の進歩は Web SDR を生み出し、遠い海外での受信環境を自宅にしながら再現できるようになりました。それでもやはり自分がその地へ赴き、自分のラジオやアンテナで受信する、「愛機で電波をキャッチすることを楽しむ」ことを BCL の矜持とする DXer はまだまだたくさんいます。ある意味では自己満足とも言えますが、苦勞して自分の力で手に入れた受信音は、やはりオンリーワンの宝物だと思います。

また、その国に住む BCL や DXer との Face to Face の交流も、距離や言葉の壁を乗り越えて現地へ行った人にしかできません。世界中にいる同じ趣味の仲間と直に会って話せば、SNS をはるかに超えた喜びや満足感が得られることでしょう。

労力と勇気を惜しまず、そんな夢のような体験を実現した TDXC 有志のレポートをお届けします。



左から、中川さん(中さん)、Mr. Tom Rothlisberger 氏、Mr. Gary DeBock 氏、Mr. Nick Hall-Patch 氏と筆者。

夢の Oregon クリフ 合同ペディ記

宮内 聡

■”米国のこの Cliff で合同のペディションをしてみたい！”Ultralight DXing の開祖者であり伝道師でもある、Gary Debock 氏が、オレゴン州のクリフ、断崖絶壁のあの場所で、数々の YouTube ビデオを撮られてアップされている映像を見ては、何度も夢を膨らませたのが 2015 年であった。丁度その年の年初に、TDXC の岡村さんの紹介で Gary さんと知り合いとなり、氏の手による Ultralight DX 用・外付けバーアンテナを取り付けた機材を入手してからというもの、このラジオ単体がもたらす極めて簡単でシンプルな DXing の愉しみに引き込まれていた。

■2015 年 12 月、純粋に来年の夏に Cliff でのペディにご一緒したい旨の打診をしたところ、ジョイントペディは大歓迎である旨の返信を頂戴し、同時に、既に 7 月に同地区のモーターの予約を済まされていることを教えて頂いた。日程が決まっているということは、こちらの予定が合せられれば OK。非常にシンプル。この件を TDXC の集まりで紹介し、参加者を募る。それは行きたいけど実際には休暇の申請も必要であり、それなりに高いハードル。そんな中、手を挙げていただいた中さんとご一緒に、2016 年夏、オレゴン地に降り立つことが出来た。

■これは後で中さんから聞いて驚いたのだけど、中さんが DX 界で交流をされていた John Bryant 氏（残念ながら故人）と Gary DeBock 氏は共にこの Ultralight DX を提唱されておられたとのこと。今回のジョイントペディ、中さんと John 氏が引き寄せてくれた様でもあり、それはそれで、なんとも感慨深い。

■「旅」は人生に生きる喜びを与えてくれるもの、今号の英文グリーティングスで紹介した言葉であるが、今回のクリフへのペディ記、前半は出発からの「旅」を愉しみながら、彼らとのジョイントをするまでの記録を、後半にて憧れの地での活動の報告としたい。

■出発一週間前～出発当日

メールや SNS のやり取りがあっても、海外旅行は一大イベント。中さんとは出発前週に、現地でのスケジュールについてのブリーフィングを、境川サイクリングロード近くで行う。いつもながら、航空会社の E-ticket（電子航空券の控え）を眺めては、これから始まる旅にワクワクする。

2016 年 7 月 7 日、夕刻に羽田空港へ集合。日付が変わった 8 日（金）の零時過ぎ発の日本航空便（予約はアメリカン航空便名）で日本からは約 9 時間、アメリカ・西海岸・サンフランシスコに到着する。到着は前日 7 日の 17 時過ぎ。20 年以上も昔、初めてサンフランシスコに仕事で降り立ったあの時の緊張感を少しだけ思い出す。空港からホテルへは、日本で手配済みの乗り合



いミニバン、Super Shuttle。乗り場を見つけ、車を待つ間、空港ビルをバックに中さんは早速 Ultralight 機を取り出しローカル局チェック！流石の DXer 魂。一泊だけのサンフランシスコ滞在中は、欲張った観光はせず、明日午後の

ポートランド行きに乗るまでの短時間トランジットでこれからのペディ(修行！)への体力温存。到着時、日本時間では既に翌朝ではあるが、あくまで現地時間での生

活となると、再び夕食時間である！旅で何が楽しいかと言えば、食べることと言って憚らない、特に日本と違うという単純に異質な部分を楽しみながら、同じ事だが似て非なるものを堪能する、というのが信念でもあり、今回



は中さんとことんお付き合い頂いてしまった。初夜のディナーは、ギャグではないが、Gary 氏に会う前に、Gary レストラン。サンフランシスコ、フィッシャーマンズワープ周辺での人気のレストランで、Gary Danko (800 North Point St, San Francisco, CA 94109) の予約を入れていた。ホテル至近なので、ちょっと時間が早かったが席が空いていれば早めに？と期待して行ってみるも、流石は人気店。予約の時間に再来を促され、しばし、二人で夜のフィッシャーマンズワープ散策となる。繋がれているボートの通信アンテナに目が行く。空のグラデーションが夜のモトーンに変わりつつある頃、予約の時間になり席に着く。彼氏彼女のカップルがちらほら、同じ様にサンフランシスコでのディナーを楽しんでいる。食べ始めればあつという間のコースディナー。特徴あるチーズが幾つか載せられたトレーから、◎△X の臭いがする、とかいうのだけは避けて、ここは無難なものをチョイスして初日ディナーの締めに向かう。この観光地ロケで、この値段ならグッ'バリューである。

■2016年7月8日、朝は6時からゆったりとフィッシャーマンズワープのウォーキングで始動。曇り空ではあるがキリッとした空気の朝は気持ちがいい。カフェを探すのがファーストフードチェーンの、Jack in the box を見つけてグリルブレックファースト、ハッシュブラウン、レギュラーコーヒーの朝食セットで腹ごしらえをする。何気に手にする「レシート」に記載された情報に、僕の好きなアメリカらしさが溢れている。「このクーポン使わなきゃ損損！」と強烈に訴えかけてくる。アンケートに答えて、このレシートを持ってきてくれたら、タコスを2つ差し上

げます！だの、購入品の情報よりも、この手の次回のリピートにつなげる為の涙ぐましい仕掛けと情報の数々、それらが延々と紙レシートの3/4を占めて訴えてくる様は、まさにアメリカらしくて凄くよしい！13時の空港発に乗るための迎いの乗り合いミニバンは10時過ぎ、しばらくは近くのファーマシーなどで、日本では目にしない品々を眺めてこれまた社会科見学。そうこうしているうちにサンフランシスコともお別れ。いよいよポートランドへ出発だ。



■ポートランドは米国でも珍しく空港から市内までは列車で移動が出来る。この列車が優れもので、空港出発直後は近郊列車のスピードでかなり速く走るのが、街中に着くと、低い床の車体はそのまま tram/路面電車に変身してしまう。空港～ダウンタウンの移動においては、米国西海岸らしくなく、素晴らしく楽である。この列車乗車時も中さん、待ちきれなくて Ultralight Radio を取り出しての周波数チェックをされている。素晴らしい DXer。見習うべし。街中の一等地に建つホテル Hilton Portland & Executive Tower (921 SW 6th Ave Portland OR 97204) にチェックインをしたら、近くのデパート Macy's で所用をこなし、街中散策をしながら本日のディナー会場、タウン誌に宣伝のあつレストラン、Portland's Oldest Restaurant & Bar, HUBER'S (411 SW Third Ave, Portland, OR 97204) へ向かう。目前に迫ったクリフ・ペディ本番へ向けて、も一度乾杯！

■2016年7月9日、いよいよポートランドからクリフの街へ向けて出発。ポートランドへ宿泊したのは動きやすい地形なのと自転車でのローカルツアーにも参加したい、といった希望もあったものの、予約をしていなかったり具体的に計画していない部分は結構現地では時間に圧されて実現できず、折角の滞在であったのに

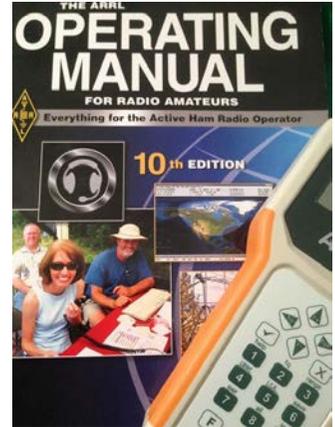
ちょっと残念な部分。それでも清しいポートランドの街を一度空港へもう一度トラムで戻り、3日間のレンタカーに乗り換える。ポートランドからクリフ近くの町、Tillamook Countyまでは約140km、寄り道しなければ2時間程度で到着するはずなので、夕方到着へ向けて経路地を決める。中さんのご希望が2箇所、奥様へのお土産ということでトレーダー・ジョーズでのエコ・バック。すっきりとしたデザインのそれは、日本で結構な人気らしい。まずはトレジョでの買い物を終え、さて、というところで次なる中さんお目当ての場所とは、今年のサンディエゴ記事にもあった「AM局電撃訪問」！。まあ今日は日曜日でもあり、普通に考えればネガティブ感溢れる企画ではあるが、既に候補となる訪問局のロケ



ーションを調査済みで詳しく地図まで印刷されているのを見

てはこれはドライバーとしては是非足を運んでもらわねば。ということで、距離や位置関係などから KUIK 1360kHzにする。程なく大通りに面した局舎に到着。ドアを叩く。事情説明をすると快く中に入れてくれて担当営業も紹介してもらおう。おう、なんと素晴らしい展開！何事もトライしてみるものである。かなり暫く前のレポートをお渡しになりQSLを依頼されるが、その後は返信がなかった様なので、リップサービスだけだったのか。同局、地元の野球チームやフットボールの試合などを中継しているらしく、訪問中も放送中のスポーツ解説が流れていた。いやいや僕としてはちょっとしたサプライズの局舎訪問で興奮した。ポートランドでの予定のひとつに、地元のハムショップを覗くことがあった。Ham Radio Outlet (11705 SW Pacific Hwy, Portland OR 97223) 今回目当てとする候補は既にオンラインでチェック済みであったので、あとはその中のどれが在庫があって、店員さんの評価なんかも参考に決めたいな、という思いであった。最近の Ultralight からアマチュア無線のQRP運用熱もあって、FT-817 専用のアンテナチューナーにしようか、MFJの小物類。いろいろ迷っていると既に中さん、外でお待ちの状態。頼りにしていた店

員さんの評価は、誰に聞いてもHFはやってないので判らないな。と心もとない。結局はHFアンテナのSWRをグラフィック表示してくれるアナライザーとした。



ARRLのOPERATING MANUAL - For Radio Amateurs をかなり暫くぶりに入手する。広く無線趣味についての解説のリファレンスとしては貴重な資料だ。ということで退屈だった中さんに詫びていよいよ太平洋を目指す。カーナビに従って西

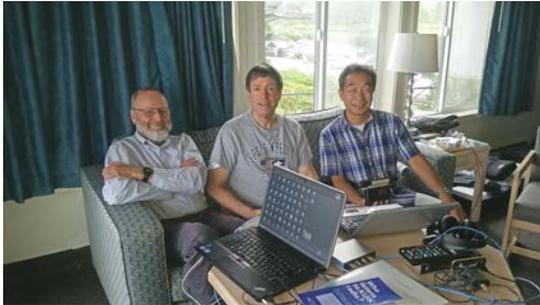


へ、Avisで借りたMitsubishi Lancerを駆る。郊外の対面通行の道もすこぶる快適。ほどなく夢に見たティラモック・カウンティーに到着。ここで雲行きから雨具をお持ちでなかった中さんには、しっかりした雨合羽を奨めてご準備頂く。これは本当は自分にも欲しかったのは翌朝痛感することとなる。海岸沿いに走る101号線沿いのRockaway Beachにある、SURFSIDE RESORT (101 Northwest 11th Avenue, Rockaway Beach, OR 97136) に無事チェックイン。僕達もかなり前々から予約をしていたが、この夏のシーズンでは予約そのものも最低2泊が必要だったりと繁盛ぶりが伺える。駐車場に面したモーターのバルコニーからは既に楽しそうな声も聞こえてくる。この頃天気は既にかなりしっかりとした雨。宿に着いたら連絡をする様に言われていたので、Garyさんに電話を入れる。結構お近くに滞在されておられるとのことで、すぐにこちらに来てくれることとなり暫く緊張の時間。そんな中、雨の中で列車の汽笛とガタンゴトン。隠れ鉄の血が騒ぐ。そういえば道路からモーターに入る前に踏み切りがあり線路を渡った。後で調べると、Oregon Coast Scenic Railroadなる観光列車が走っていた。牽引しているのはWebで出てくる蒸気機関車で

はなかったが、それでもこんな海沿いの米西海岸でガタンゴトン音を耳に出来たのがなんとも嬉しい。嬉しいのはここからが本番！ Gary DeBockさん、Nick Hall-Patchさんのお二人が手土産を持って(地元のビール)訪ねてきてくださった。

既にバルコニー近くのテーブルに2台のペルセウスと

Garyさんデザインの3.5'FSLを装着した、通称



“Science Fiction”モデルで開店していたのをご覧いただき、おお、やってるね〜！と。Garyさんからは、Garyさんデザイン・モデルを持ってきてくれて一緒にペディが出来る事が一番の光栄である旨のお言葉も

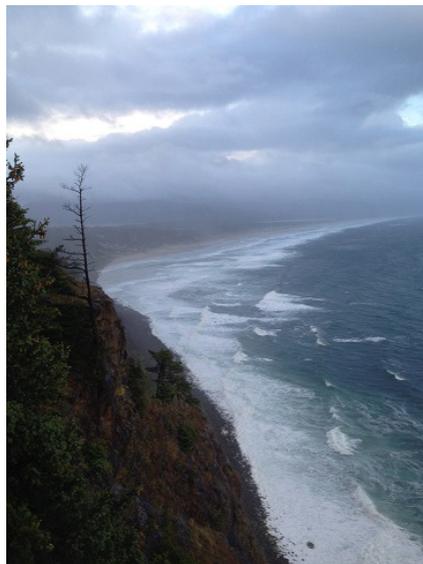
頂いてこちらも嬉しくなる。今回の僕自身のテーマは、「このラジオでタヒチを聞く！」でもあり、既にYouTubeでもアップの通りそれは最終日に完璧に実現もしてそれだけで「ただただ来てよかった」である。さっきまで降っていた雨が上がった頃、一緒にディナーをしよう、ということになり分乗してWheelerに向かう。中さんはNickさんの車に、僕のレンタカーにはGaryさんに乗っていただく。短い移動時間であったが、丁度選局していたReligious musicフォーマットのFMラジオ番組を聴きながら、こういった音楽やメッセージがクリスチャンであるGary氏にとって如何に大切であるか、といったことをお話していただいたり、それでも若い頃は日本のアイドル歌手、なにさんが好きだった、などといったことを話しているとあっという間に到着。その名も

Tsunami Restaurant。ただ目の前は海につながる湾であり対面の陸地も見えて、津波が押し寄せる、といったイメージではない。いや田舎町だからこんなところしかなくて、と謙遜されてのレストランではあるが、DXer皆で食べる食事はまた格別。この場所では明日からご一緒する、Tom Rothlisbergerさんも合流。氏は日本のアニメにも詳しく、彼の地で開かれた初回アニメ・コンベンションから参加されているなど、想いを熱く語ってくれた。一眼レフを携えて、ぱっと見だけでも十分におたくっぽいところにも親近感。Nickさんは別レポートにもある通

り、非常に面白い実験をされて、データ分析をされ、またその後に気付いたのは、とにかく日々いろいろな情報を発信されているアクティブな方である。皆で明日・明後日のジョイント・DXペディションに向けての想いを

語りながら、辺りが明るいうちに、一度明日朝のロケーションを見ておこう、ということになり本当にいよいよ、Rowkwork4クリフへ向かう。オレゴンこの頃の日の入りは21時頃なのでここから15分位としてもまだ大丈夫。101号線のほぼほぼ登りきったところの海側に、ちょっとした駐車スペースがあり、GaryさんがいつもあのFSLを並べられている聖地である。

海から419フィート、158mの断崖絶壁である。このDXポイントたる重要な要素は多分に背後に控えるこれまた崖である。この地形が単純に大陸内部からの局を減衰させたり、同時に太平洋側からの電波をパラボラ



の様に集めるのではないか、というのが素人的な感覚である。正式な理論ではないまでも、それでも実験として、この海岸の海拔ゼロメートル地点と、クリフでの受信比較、これが同行したNickさんのレポートであるので、そちらも参照されたい。クリフから眺める夕日、海の白波、かなり風が強いこともあり雲も切れ間なく西か

ら沸いてくる。一抹の不安が翌朝的中するのだが、クリフでの朝に向けて皆とりあえず仮眠をする為に宿に向かう。明日は、このクリフへ向けて101号線の勾配が始まる少し手前のベストポジションに陣取っているGaryさん達の宿に、朝3時半に集合、ということになった。ということは、僕らのモーテルは3時過ぎには出発だ。

■2016年7月10日朝。真つ暗な外であるが風雨が止まない。大切なペディション初日である。時間通りに

起きだすと中さんは既に準備万端。急いで支度をして車を出す。嵐の中、101号線を Gary さん達のモーテルを目指すも目印にしていた看板を見落として、クリフへの坂を登り始めてしまう。いやおかしい？まだ？いや、こんな上ではなかった筈、と嵐の坂道途中でUターン。漸く DXer 達と朝の挨拶。風雨が一向に止まない中、肅々とセットアップを始められる。車内に居ていい、という声も聴いた様に思うも、それでも伝播がどうなのか、はやくワッチしたくてうずうずするも、どうやって何をするか、わからない！それでも Gary さんは 15 インチの FSL をセットアップして準備をしていただけた。こちらら大きめの ZipLock に入れた C.Crane Skywave の Gary さんバージョンを近づける。かつて Gary さんの YouTube で観た聴いたニュージーランド局も来ている。ID 確認には至らずとも、ぼそぼそとした男性アナのトンガ (1017kHz) も聴くことが出来た。5 時半の夜明け直後くらいに念願のタヒチ (738kHz) も音になる。おう、このために来たのだと雨の中での独りガッツポーズ。闇と風雨の中での3時間、後で聞いた中さん談では早く帰りたい。。だったのだが、申し訳ない。。折角来たのだし二日の一日を台無しにしてしまっは、と根っからのケチ根性が勝って雨しぶきとぐちよぐちになった下半身の不快感もなんのその、SDR を Tom さんのアンテナにつ

体感 は冬の様な寒さとぐしょぐしょの不快感の中、黙々と DX を続けられていたのは皆さんですよ！本日のメインセッション終了と同時に速攻でモーテルへ戻り暖かいシャワーで漸く生きた心地を取り戻した。その後ちょっとだけ仮眠？をしたかどうか、それでも天気が急速



に回復してすこぶる好天に。ではオレゴン101号線を南下して行ける所まで行こう、とドライブ開始である。途中ガソリンを満タンにしようとしてガソスタンドに寄る。地元のお姉さんが入れてくれる。米国ではセフルのガソスタンドしか使ったことがないなどと話したら、オレゴンでは必ずスタッフがガソリンを入れることになっていて逆にセフルはないのだと。なるほど、効率だけでない人との



なげさせてもらい、一応初日から大事なファイルはゲットである。Tom さんのブロードバンドワイヤーアンテナは、3mくらいのポール先端から張り出したもので、このポールが強風で倒れることしばしば！仕舞いにはワイヤーアンテナ部分を近くに停めていた僕らのレンタカーのリア・トランクに引っ掛けて閉めてしまうなど、ごちゃごちゃ状態。Tom さんごめんなさい！夜明け後の少し明るくなってきた頃から漸く天気が回復し、雨も止む。Gary さんが早速携帯端末のビデオ撮影に入る。なんとも Miserable な日本からのビジター、と言ってくれる。それでも僕らの Determination ・実行しようという堅い意志を褒めてくれる。いや、それは同時に我々も逆から考えていたことです Gary さん！と心の中で呟く。そう、闇と冷たい雨の中、気温摂氏 10度程度と7月なのに、

触れ合いも生まれるし、多分に雇用対策にも有効だろうから、それはそれでありなのだろう。逆の発想というのもいつも大事とこんなところでも気付かされる。この日の目的地は、Gary さんが You Tube で紹介されていた Cape Perpetua。ただ景色の良い101号線、起伏もそれなりにありカーブの連続の森と海・湾/川沿いの走行にはそこそこの時間もかかり、翌朝のこともあるので Lincoln City を過ぎた辺りの公園を最後に折り返す。復路車内で岡村さんからのメッセージと激励が届く。ありがとう！次回は是非一緒に来よう！移動中の通信状態がいまひとつであったが日本で見守ってくれている友は嬉しい限りである。米国滞在最後のディナー、これまた Gary さんからも気遣い頂いてお誘いを受けるも、

ちょっと遠くまで来過ぎてしまって、よい時間に戻れないことを告げ、中さんと往路で見ていた途中のステーキハウスに向かう。こんな田舎町と言っては失礼な小さなレストランで食べるステーキが何気に美味かったりする。なにか、肉の食べ方をよくよく知っている方々の調理方法であり、焼き加減であり、真似出来ない。外側結構しっかり焼いて中がミディアムレアという感じ、これが僕の好きな食べ方と改めて認識する。夕方 20 時頃には宿に戻って、中さんは十分に睡眠をとりたかったところに、僕が一人で星の写真を撮りに行く、それもあのクリフに夜、という話をしたら律儀にも起きて待ってもらい心配もかけてしまった。21 時過ぎの日没後、暫くしないと星が美しく見える時間にならない。そんなこんなでタイムラプス撮影を 400 枚、5 秒おきにしていたら 22 時を廻ってしまう。流石に宿到着 5 分前に心配をした中さんから携帯へ電話をもらってしまう。中さんめんごめんご！！天気がいまひとつで雲もあった中、クリフから南方方面、Manzanita や Wheeler 方面を眺めながら、星の軌跡を作成！やった、これでもうひとつの目的達成である。

■2016 年 7 月 11 日 有難いことにこの日は昨晚の様な風雨はない。Gary さんも完全なベストポジションにす



*** 上記写真は Tom/Gary さんから頂戴したものの



べての機材を並べて臨戦態勢。この日は一緒に来た Nick さんがクリフでの機材セットを早々に終えたら、海岸まで降りていかれての比較試験をされていた。(別記事参照) Tom 氏のアンテナも SDR も順調そうである。この日は自信の SDR でセッション終了近く、ちょうど YouTube に撮った 738kHz タヒチが良く来たあたりが録れていなく残念。。それでも南太平洋から over 8,000 マイル、9,000 マイル以上離れたローカル局をいくつも聴けて満足。この瞬間、この風、この仲間、こうして DX が出来ることに感謝しつつ、またここにも戻ってきたいし、またどこかの地で同じ様に新しい経験も積みたいと強く思った。

■DX が聴ける時間はそれは短時間である。いくら SDR を後ろで動かしているからといっても、Ultralight で聴くそれはそれで格別である。だからこそ、その操作は間違いが許されないし慌しい。ある意味では刹那的の快樂。計画的な。時間は短くともその計画段階からここまでは、その刹那に比べればとてつもなく(大げさ)長い日時があった。またそれは、TDXC という仲間からの紹介や縁がきっかけでもあり、そこから生まれた企画であり、単独では決して成し得なかった。改めて皆に感謝し、まだまだ未定であるも次回のペディに

繋げて行きたい。■
(メモ: ポートランド空港～Rockaway～Rockwork4 複数回往復～101 号線 Lincoln City 近くまでの往復トータル走行距離=484mile / 778km)



<https://youtu.be/7FyB7vk1tdg>



** 上記写真は Garv さんから頂戴したものの



DXing at the Rockwork 4 ocean cliff near Manzanita, Oregon, USA
with the greatest help from American & Canadian DXers,
Gary DeBock, Tom Rothlisberger, and Nick Hall-Patch
Thanks once again for the great experience
Hiroo Nakagawa & Satoshi Miyauchi, July, 2016

Oregon Cliff DXpedition Report

中川 弘夫

本ペディについては、本企画の主催者宮内さんより詳細なレポートが上がっているので、私はサブ的に、私なりの視点で補遺しておきたい。

元々海外ペディの話が出たのは2014年のTDXC忘年会辺りからであった。2013年に沖縄、14年には北海道ペディを敢行し日本の南北両端に行ってしまったので、この後は海外に行くしかない(?)という論議であった。しかしその時は漠然と近い海外ということで、グアムとかサイパンとかを話題に載せたに過ぎなかった。

それが Oregon という一気に米本土になったのは、翌2015年春～TDXC内で一気にブームとなった UltralightDX の影響であった。メンバーの岡村さんがこの分野の開祖とも言える米シアトル在住の Gary DeBock 氏と Facebook を通じて知り合い、そして Gary 氏謹製の PL-380 改が茅ヶ崎ペディに登場してから、一気に UltralightDX に対する関心が高まった。4月にはメンバー有志で工作検討会が開催されて、これを契機として、メンバー各位のこのジャンルに対する熱が高まっていくのが感じられた。

その最も熱心な愛好者になったのが宮内さんであり、得意な英語も相まって、Gary 氏とのインターフェースも進んで取って下さるようになった。後には Gary 氏謹製 PL-380 改 FSL バージョンを入手なさるなど、ますますのめりこんでいる様子であった。

その他のメンバーも検討会後に実施された城ヶ島、茅ヶ崎、太東崎、初島などのペデ

ィでの UltralightDX 実践、また工作会を通じて自身のラジオを改造するなどして、この分野へ造詣を深めていった。そしてその年の年末、宮内さんより翌年7月の Gary 氏とのジョイントペディの提案がなされた。私はこの提案にいち早く飛びついた。それは BCL 復活数年後から一貫して、自身の夢は海外 DXer との交流であったからだ。この点については詳述が必要であろう。それはついで会う機会がなく、その機会を永久に逸してしまった DXer～John H. Bryant 氏との交流についてである。



John 氏と交換した唯一の写真

氏とは2005年秋に知り合った。ペディで米ルイジアナ州 WWL を受信した時に、大先輩 OM さんより「是非 Glenn Hauser に投稿すると良い」とアドバイスを頂き、それに従って投稿した。しばらくすると、それで私の名前を知った John 氏よりメールが来た。HDD クラッシュで当時のやり取りが何も残っていないが、多分日本の放送について

の何某かの照会だったと思う。Glenn Hauser に投稿するくらいだから、実力のある DXer と勘違いされたのかもしれない。しかしこちらとしては海外の DXer から貰う初めてのメールだったので嬉しかったし、何とかその期待に応えようと一生懸命調べて拙い英語で返信したのだと思う。その気持ちは通じたのだろう。その後 John 氏とはメールをやり取りする間柄になった。そして彼が主宰する、世界の有名 DXer が参加している「Coastalroundtable」というメーリングリストにも私を加えてくれた。

John 氏はその世界では有名な方だが、オクラホマの建築系の大学の教授であった。日本にも造詣が深く、実際に何年か在住していた。そして DX の世界でも実力・情熱ともに兼ね備えた DXer であり、特に日本の放送への関心は高く、ニッポン放送の深夜番組「オールナイトニッポン」について調べた際に私にも協力を求めて来たので、可能な限り調べて返信した。



Introducing Japan's Most Popular Radio Program: All Night Nippon



Japan's most popular radio program, All Night Nippon (ANN), is a long-running and almost inescapable phenomenon in Japan but is virtually unknown outside the country. Learn more from an [article](#) (in MS Word format) written by John H. Bryant with Taka Okuda and Hiroo Nakagawa.

▶ [To the Article](#) (February 16, 2006)

「DXing.info」に今なお残る記事に私の名前が

そんなやり取りを通じて、私はいつか必ず John 氏に実際に会って色々話そうと決めていた。そのためにももっともっと語学力を磨かねばと思ったものだ。

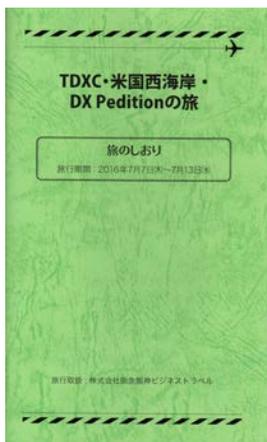
しかしながら私のそんな夢はあえなく潰えた～John 氏の不慮の逝去である。2010年2月、梯子に登って自宅の所用をしていたという氏は落下して重症を負い、そのまま亡くなってしまったのである。そのニュースを聞いた私は大変驚き、そして悲しみにくれた。68歳ではあったが、DXer として情熱も実際の行動も現役そのものであった。そんな氏と会うことはおろか声すら聞くことも無く、交流の機会を永遠に逸したことを残念に思った。

そうした痛恨の出来事があっただけに、出会えるチャンスは決して逃すまいと固く心に誓っていた。今回作って頂いたチャンスに感謝し、絶対に掴もうと瞬間的に決めたのにはそういう伏線があったのだ。

その後3月末に具体的なフライトの提案があったが、様々な制約～特に日程的に約1週間を確保するのは容易ではないので～実際の参加は宮内さんと自分の2名となった。

4月には同じく参加を予定していた数名の海外 DXer に向けて自己紹介のメール送った。それに対しては Gary 氏からも丁寧な返信を頂いたが、それを読んで大変驚いた。氏のライフワークである UltralightDX は、実は Gary 氏と John 氏が一緒に築き上げてきた分野であったことが分かったからである。これは何かの偶然だろうか？何か見えない糸が、我々を繋げてくれたような気がしてならない。

そうして仕事のトラブルが発生しないことを祈りつつ月日が過ぎて、いよいよ出発日である 7/7 (木) を迎えた。宮内さんとは羽田空港で合流し、日付が変わった 8 日 0:05 の便で出発した。



旅行のプロでもある宮内さんが作ってくれたしおり

そうして同じ日の夕刻に経由地であるサンフランシスコに到着。ここでは宮内さんが後学のために是非一度行ってみたいと言ったフィッシャーマンズワーフのその名も”Gary” Danko で夕食。サンフランシスコの夜を優雅に過ごした。



翌日は少し周辺を散策した後空港に向かい、今度はポートランドに移動する。空港からはトラムで市街地に向かう。そしてこの日

は前日と違って安く済ませるため、ホテルにあったレストランマップから Happy Hour が掲載されていたアメリカンレストランに行つてここは節約。

翌日はレンタカーでポートランド市内を回る。共通の関心事であるハムショップへは HRO を訪問。その後はラジオ局電撃



訪問で、今回の行程で行ける可能性のあった Hillsboro の KUIK を訪問。日曜だったので誰もいないかと思つたが、セールス担当に会えて趣旨を伝えレポートを渡すことが出来た。残念ながら原稿を書いている今日 (2017 年 6 月) 現在返信は来ていないが...



そうしてやっと今回のペディ地である Cliff に向けて出発。天候が今ひとつだったので、宮内さんは私に雨合羽を買うことを勧

める。まさかそんなもの着てまでやることはないだろうと思っていたが、傘を持たずに来た身としては降った時に皆さんに迷惑を掛けても申し訳ないので、Tilamook の釣具屋で 30 ドルほどで購入。そして宿泊先である Rockaway Beach の Surfside Resort に着く。ここでしばらく寛いでいると、Gary 氏より電話が入りこちらに来るとのこと。で少しして Gary 氏と Nick Hall-Patch 氏が到着。遂に感動の対面だ！ Gary 氏は日本語も上手で、我々には日本語で話してくれて、緊張していた自分はちょっと拍子抜け。そして今晚のペディのインストラクションをして貰った後、会食に向かう。配車は自分は意図的に Nick 氏の車に乗せてもらう。Nick 氏は John 氏の後に知り合った DXer の一人で、2007 年頃には写真も交換していた。で車中でやっと会えた喜び、写真に写っていた家族のその後などを話す。

会食にはもう一人のゲスト、Tom Rothlisberger 氏も合流。その名も Tsunami というレストランで軽く食事。本当は「飲みましょう」と言っていたのだが、皆車である。日本同様飲酒運転には厳しいとのことなので、残念ながらビールは諦める。またいずれ、同じホテルに泊まったときの楽しみだろう。



Tsunami レストランでの会食後

そして会食後現地視察。遂に憧れの聖地 Cliff の地に降り立つ。写真では何度も見た光景に、太平洋を越えて着いたことに感慨を覚える。



Cliff より眺める太平洋。標高 175.4m

その後別れて一旦ホテルに戻り仮眠。2 時に起きて 3 時の集合だ。運悪く雨が降っている～それも結構強く、しかも風も強い。気温は 14 度前後だが、体感気温は 10 度以下だろう。そんな中でもアンテナを張るのだ。崖に非常に微妙なバランスでマストを設置する Nick 氏に大丈夫か？と尋ねると「I hope」とか言っている（汗）。Tom 氏のアンテナも倒れてばかりだ。合羽を着ていても寒いしとにかく濡れる。こんな中ではとてもやる気になれず、PERSEUS もセットしなければ、PL-380 も持って出ない。さすがに参って、正直早くホテルに帰りたと思った。



それでも朝が近づくにつれ天候は回復し、終了の 6 時には概ね止んでいた。ここでペディは一旦終了し、各々のホテルに帰還。

とにかく身体が冷え切ってしまったので、食品ストアでカップラーメンを買って食べる。日清製品を買ったのだが、日本のものとは全然味が異なりガッカリ。宮内さんは「辛ラーメン」を買ったが、こちらはオリジナル通りであり正解だったと思う。

一旦就寝後、この日の日中は海岸線の 101 号をドライブに出掛ける。ところどころビュースポットがあつてきれいだ。途中私もハンドルを預かり、1 年ぶりに左ハンドル右側通行を楽しむ。そして Tilamook に戻って、最後の晚餐はステーキ。いかにもアメリカっぽいステーキ屋で分厚いステーキを食べてアメリカを満喫。そして大きなスーパーで土産の調達。

日が長いのとサマータイムとで勘違いしてしまうのだが、実は結構遅い時間だった。自分は 2 時起床に備えてビールを飲んで早

く寝るつもりだったが、宮内さんはどうしても Cliff で星の写真を撮りたいと出掛ける。

明けた翌日は雨が降っておらず良かった。なので今度は Tom 氏にお願いして PERSEUS を繋がせて貰う。しかし例の如く途中でフリーズしたりして調子が悪いことこの上ない。更に私の手製 PL-380 は発振気味で、DX には不適のようだ。今回ほど機材の不良を恨めしく思ったことはないし、絶対にこれを整備しようと固く心に誓うのであった。

そうして朝 6 時までやって記念写真を撮って散会。Gary 氏は即席アナウンスを入れながら動画を録ってくれる。そしてホテルに戻るとすぐに Facebook にアップしてくれた。仕事が早いし、「アメリカのさわぼん」と呼びたい気分だ（笑）。彼らのフレンドリーさは嬉しかった。言葉はやはり言いたいことの半分も伝えられなかった。こうした数々の口惜しさを解消するために、勉強して機材を直してまたこの機会に臨みたい。



参加したメンバー。左より Tom、私、宮内、Gary、Nick の各氏

Signal strength advantage of the Rockwork 4 site
Rockwork 4 における、信号強度のアドバンテージ
 by Nick Hall-Patch

オレゴン州、マンザニタの101号線上に位置する The "Rockwork 4" なる DX サイトは、Gary さんによって紹介されてから、特に夏の時期にはニュージーランドからの中波局を聴くのに適した場所とされている。DXer としてはこの場所が太平洋各地からの受信に非常に適した場所なのか疑問に感じているところでもあった。確かに数々の実績から間違いのないと思いつながら、これまで Rockwork4 と近隣の別の地点とを同時にしっかりとした比較実験は行われたことがなかった。そこで、この夏に Gary 氏と Tom Rothlisberger 氏、さらには日本からの中川氏・宮内氏の両名が同行するペディションに参加し、何らかの証拠（エビデンス）を掴むべく実験を行った。



図 1 -- Rockwork 4 site



図 2 -- Nehalem Bay site

2016年7月11日の早朝、まずは Rockwork 4 地点において、AMRAD アクティブ・ホイップアンテナを設置し（図3）RFSpace NetSDR から Acer ノート PC というセットを Tom 氏の車の後部座席に展開させてもらった。
<http://www.amrad.org/wp-content/uploads/2014/12/actant.pdf> 同時に自分自身は Nehalem Bay 地点で同じ設備で同じ時刻の MW 全帯域を記録して比較しようという試みである。図1は Rockwork 4 のグーグルアース画面であり、図2が Nehalem Bay 地区を上空から見た様子。二地点の距離は、約 5.5km であり、Rockwork 4 site（図5参照）からみて 160 度の方角。またすべてのグーグルアースは北を上に乗せている



図 3 - Rockwork 4 ホイップ



図 4 - Nehalem Bay ホイップ

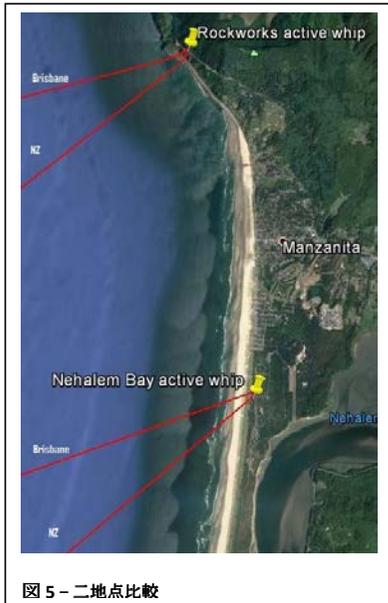


図 5 - 二地点比較

図 1 . 2 . 5 = @Google Earth

Nehalem Bay 側のアンテナ設置場所は、キャンプグラウンドの裏山、満潮時の最高水位地点よりも約 300m 入ったところ（図 4）で、海岸からの距離では Rockwork4 よりも幾分内陸になる。アンテナそのものは周囲の木や葉よりは上に出るようにしているも、Rockwork4 の様に周囲に何も無い、という状況ではなかった。もう数百フィート長い同軸を利用して、少し海沿いの砂丘のてっぺんなどにすればベターかもしれないが、限られた時間であることや、視界が悪く暗闇の中での作業といった制約があったので仕方がない。一方、下記の結果でも明らかな様に、国内局の信号強度においては両地点共に同等であったので、Nehalem Bay の方が受信能力において劣っていたという訳でもない。

両地点で受信した信号の分析

両地点での受信でまず簡単に気付くこととしては：1123-1248UTC において、Nehalem Bay では海外 DX 局は殆ど聞こえず、Rockwork 4 では少しだけ聞こえていたという差異である。例えば、900kHz、1228UTC、両サイトで ESPN radio が聞こえるも、Rockwork 4 のそれはハワイ局であり、Nehalem Bay では Wenatchee, ワシントン州であった。これだけでは Rockwork 4 で単純に DX が強い、或いは Nehalem Bay においては国内局が強い、という確固たる証拠にはならないが、純粋な信号強度は重要であるも、通常私は DX 受信においては、シグナル強度と混信信号の関係が一番良い指標と考えている（Mark Durenberger のキャリア対ノイズ（C/N）のこと）

図 6 -- Rockwork 4 reception using a 750kHz center frequency and 300kHz span

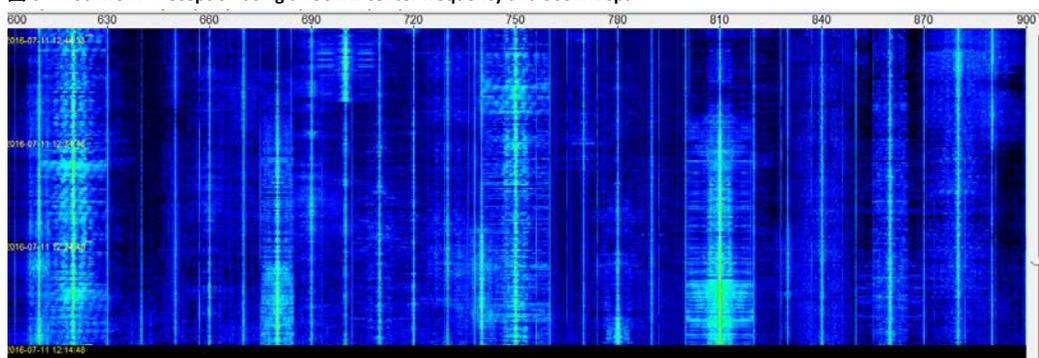
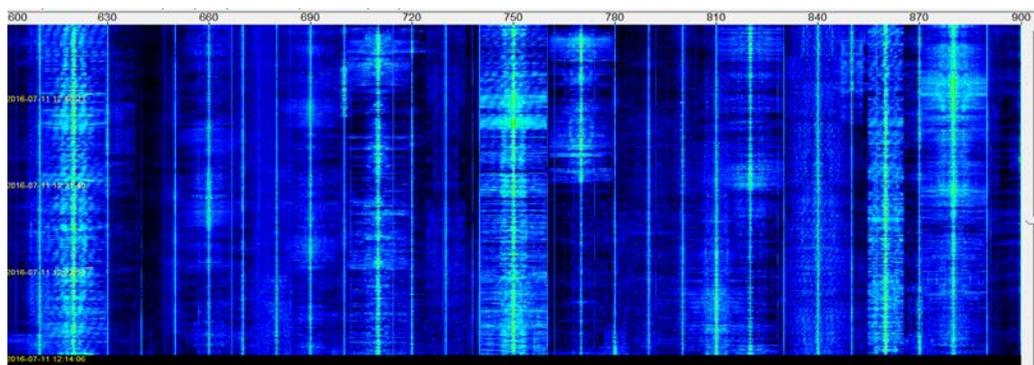


図 7 -- Nehalem Bay reception using a 750kHz center frequency and 300kHz span



今回すべての SDR ファイルは RF Space の SpectraVue ソフトウェアを使用し、帯域を 450kHz から 1750kHz とした。他の SDR ソフトでもそうである様に、SpectraVue は”ウォーターフォール”表示にしてバンドのコンディションを示すことが出来る。もちろん 9kHz のチャンネル毎の確認についてはバンド中の数百 kHz に留めた方がよい。下記では 1215 から 1245UTC の間、Rockwork 4 と Nehalem Bay の両サイトにてバンド全体を一本のウォーターフォールで示してみた。図 6 は Rockwork 4 のもので、図 7 は Nehalem Bay。上下に時間軸で、上が 1215UTC、一番下が 1245UTC である。

Rockwork 4 において、幾つかの国内局が Nehalem Bay よりも強かった、という事実はサンフランシスコの 680、810kHz に示されていた。逆に Nehalem Bay の方が強かったのは、同じ国内でもシアトル地区の 710、820kHz であり、ポートランドの 750、860kHz であった。違いの例として、KCBS 740kHz は Rockwork 4 の方が平均して 10dB 強く、KKXA 770kHz は逆に Nehalem Bay の方が 7dB 強い、といったところが挙げられる。Nehalem Bay の方は舗装されたキャンプサイトのすぐ近くということもあり、各モーターハウスの出すノイズが影響してか、全体的にノイズレベルが高かった。ノイズは 666 の様に断続的だったり、680kHz の様に拡散していたり、また Rockwork 4 では特に 760kHz 付近でのスプリアスが鬱陶しい。前日はなかったのだが、Tom 氏の車中へ引き込む同軸のどこかで、誰かの PC が発するものを拾っているのではないかと推測している。

これまで Rockwork 4 で DX がよく聞こえるという成功の理由としては、垂直に立ちはだかる崖と背後に道路上 25m も伸びる崖の好影響と考えられていた。(崖には岩などが道路に落ちないようにワイヤーがメッシュ状態に張り巡らされてもいる) 確かに、シアトルやポートランドの局については、図 6・7 で明らかな通り弱い。しかしながら、多くの国内局はブロックされるどころか、特に南方となるサンフランシスコなどは逆に Rockwork 4 が強い、という結果が出ている。

記録された SDR のファイルを SpectraVue においては、絶えず変化する信号強度 (キャリア) の値を、コンティニューム (Continuum・連続性) 機能を使い、狭帯域 1Hz 以下で測定し、帯域全体において時系列で CSV ファイルに吐き出すことが出来、きちんと補正された機材同士であれば、装備が同じであれば同じ信号強度になる筈。

結果としては Nehalem Bay は平均 MW バンド全帯域平均で -37.1dBm、Rockwork 4 のそれは -36.5dBm であった。Rockwork 4 において国内局の減衰は示されず、またウォーターフォール表示からも明らかな様に、国内局の減衰が太平洋の強力な局に補填されたことでもない。

ただ DX についてはどうだろう。今回の DX セッションにおいて Rockwork 4 では Star 657kHz やタヒチの 738 が非常に強く、657 については図 6 では非常にはっきりと見えるラインが、図 7 では殆ど見えない。同様のことは、他の周波数 774、792、828 などは 675 より弱いものの Nehalem Bay ではさらに弱い。738 は 657 に比べて図 7 でも見えるものの、特にセッション後半において図 6 に比べれば弱いものである。

SpectraVue のコンティニュームにおいては、例えば 0.73Hz といった非常に狭い帯域での記録が可能である。ということは、各 AM 局のキャリア強度を混信の殆どない環境でその変化を知ることが出来る。レシーバーの Pre-calibration 作業と同じアンテナ装備とすれば両地点で DX 局を同様に記録することが出来た。

加えてノイズ/スプラッターのレベルも DX キャリア周波数周辺の狭い帯域での記録と平均化が可能である。658、737、827、1117kHz など DX に非常に近い周波数でのことで混信を与える信号のよいサンプルにもなる。

記録の分析結果は下記テーブルに示す。C/N はキャリア対ノイズ比強度であり、ノイズ対スプラッターと比較している。ノイズが明らかに何か別の要件で違うなどの場合には、推測を notes に記載している。素の (raw) 信号強度と C/N の 2 つの拠点での幾つかの矛盾については国内局の影響ではないかと考える。

frequency	noise frequency	average DX signal strengths at Nehalem Bay			
		signal dBm	noise dBm	C/N	notes
657	658	-94.7	-118.1	23.5	
738	737	-96.8	-129.1	32.3	
765	768	-109.9	-117.7	7.8	KKXA-770 is 7dB stronger here
774	768	-99.4	-117.7	18.2	
828	827	-102.1	-123.6	21.5	
1116	1117	-97.9	-107.9	10.1	KPNW-1120 is 9dB stronger here

frequency	noise frequency	average DX signal strengths at Rockwork 4			
		signal dBm	noise dBm	C/N	notes
657	658	-87.2	-118.8	31.6	
738	737	-81.5	-120.3	38.8	KCBS-740 is 14dB stronger here
765	768	-101.9	-124.5	22.6	
774	768	-96.9	-124.5	27.7	
828	827	-98.9	-122.2	23.3	
1116	1117	-105.5	-115.9	10.5	

frequency	noise frequency	raw strength advantage Rockwork 4 (dB)		C/N advantage Rockwork 4 (dB)
657	658	7.5		8.1
738	737	15.3		6.5
765	768	7.9		14.8
774	768	2.6		9.4
828	827	3.3		1.8
1116	1117	-7.6		0.4

これから言えるのは、Rockwork4においては素の信号強度と C/N 値においてのアドバンテージが、少なくともニュージーランド、太平洋局にある。当日 2016 年 7 月 11 日はオーストラリアはほんの少ししか聞こえておらずであったので、Rockwork4 でのオーストラリア局の素の信号強度が弱い点は誤差の範囲とも考える。ひとつ興味深いことは（考えを巡らせると）、Rockwork 4（地形的・海に面して）は、ニュージーランドや太平洋、特にタヒチに向けての方角とは直角に交わっている。

あと一点、ニュージーランド各局（765,774, 828）やタヒチ 738 の各周波数においては、それ以外に少なくとも比較的しっかりしたキャリアが届いていた様で、それはオーストラリア局のものと同様と推測され、結果に若干の影響をもたらしていたかもしれない。

いずれにしても大変に複雑で複数の要素が入り乱れていて、自身もすべてを把握して理解しているとは思わないし、この 2 地点での違いがこれほどはっきりしていた理由について解明したとも思えず、さらなる調査が必要なのは明らかである。

上記オリジナル記事は IRCA の DX Monitor に投稿されたものを、今回 TDXC 掲載用に直接 Nick 氏より頂戴したものです。（意訳：宮内）

The above article was originally published in IRCA's DX Monitor - By Nick Hall-Patch on 2016.

Rockwork 4 DXpedition July 2016 Log Logged by Tom Rothlisberger

Date	UTC	KHz	Station	Comments	KW	City	Country
7/9	1232	531	531 PI	Samoan language "Island" music	5	Auckland	NZL
7/9	1222	549	TAB Tracksideradio	//828, with race results and payouts	1	Napier-Hastings	NZL
7/10	1246	549	2CR ABC Central West	Jazz program with alto sax and rhythm section, alone and clear	50	Orange	AUS
7/10	1248	558	4AM	Harp and apparent "NQ music continues, Easy, Relaxing" between songs	5	Atherton	AUS
7/9	1229	567	RNZ National	//675, fair with up-tempo rhythmic song	50	Wellington	NZL
7/11	1242	570	KUAI	"Kauai's Country...KUAI" by female announcer and into music	1	Eleele, Kauai	HWA
7/11	1243	576	Star	//909 with slow Christian music sung by female	2.5	Hamilton	NZL
7/11	1256	590	KSSK	Musical jingle "92-3 KSSK" between songs	7.5	Honolulu	HWA
7/10	1245	594	Star	//909 with male vocalist and distinctive bass line	5/2	Timaru/Whanganui	NZL
7/11	1218	603	Radio Waatea	Briefly loud with Maori language music	5	Auckland	NZL
7/10	1233	650	KPRP	"KPRP 650 AM and Pinoy Power Radio.com"	10	Honolulu	HWA
7/11	1212	657	Star	Music into announcements by female, water purifier commercial	50	Wellington	NZL
7/11	1159	670	KPUA	Hilo"	5	Hilo, Hawaii	HWA
7/9	1229	675	RNZ National	//567, much louder with up-tempo song	10	Christchurch	NZL
7/11	1250	684	Rhema	String of commercials	5	Gisborne	NZL
7/9	1228	693	Radio Sport	//774, 792 with Fox Sports feed	5	Dunedin	NZL
7/9	1222	702	Magic	Blasting in with "Cotton Fields Back Home", "Strangers In the Night"	10	Auckland	NZL
7/10	1228	702	2BL ABC Sydney	Loud with female announcer // 774	50	Sydney	AUS
7/10	1224	729	5RN ABC National	Good with male and female back and forth as if reading short news items	50	Adelaide	AUS
7/11	1235	738	Radio Premère Polynésie	Huge at times, almost local-like with pop music	20	Papeete	FPO
7/9	1250	738	Magic	"Feels Good...Magic" by male ann. between oldies, under talk from Tahiti	5	Christchurch	NZL
7/9	1230	740	KCIK	"Maui's Immaculate Heart Radio" over KCBS	5	Kihae, Maui	HWA
7/10	1243	756	RNZ National	//567, weaker with synopsis of current films	10	Auckland	NZL
7/9	1300	760	KGU	"Hawaii's Business Authority...KGU Honolulu" all alone	10	Honolulu	HWA
7/9	1228	765	Radio Kahungunu	Loud with nice Maori song with female vocalist and guitar	2.5	Napier-Hastings	NZL
7/9	1228	774	Radio Sport	//792, 693, Loudest of the Radio Sports, Fox Sports crew discussing the NFL	5	New Plymouth	NZL
7/10	1228	774	3LO ABC Melbourne	//702 with female announcer, not as loud	50	Melbourne	AUS
7/11	1235	792	4RN ABC National	//828 commentary by male announcers	25	Brisbane	AUS
7/9	1228	792	Radio Sport	//693, 774 with Fox Sports feed	5	Hamilton	NZL
7/10	1245	801	Rhema	times	1.6	Nelson	NZL
7/11	1235	828	3GI ABC Gippsland	Loud with two males in conversation // 702	50	Sale	AUS
7/9	1228	828	TAB Tracksideradio	Briefly loud with race results, instrumental music	2	Palmerston N.	NZL
7/11	1230	830	KHVH	KHVH"	10	Honolulu	HWA
7/11	1230	891	Magic	"We Can Work it Out" (Beatles) // 702, over weak ABC News fanfare (5AN)	5	Wellington	NZL
7/10	1230	891	5AN ABC Adelaide	ABC news with fanfare intro; offset on the half hour (indicating SA time zone)	50	Adelaide	AUS
7/9	1300	900	KMVI	"Maui's ESPN Radio Station KMVI AM 900 Kahului" at TOH	5	Kahului, Maui	HWA
7/11	1241	900	Star	//657, 909 weak and behind domestic with slow Christian music	10	Dunedin	NZL
7/11	1241	909	Star	//657, 900 loud with slow Christian music	5	Napier-Hastings	NZL
7/11	1240	927	Newstalk ZB	1044	2	Palmerston North	NZL
7/10	1239	936	4PB ABC News Radio	Presumed; Female announcer reading news in EE	10	Brisbane	AUS

7/10	1241	940	KKNE	"All traditional Hawaiian all the time AM 940" and Ala Moana Center ad	10	Waipahu, Oahu	HWA
7/11	1248	954	TAB Tracksideradio	//828, 549, 1224 and briefly loud with distinctive instrumental music	2	Hamilton	NZL
7/11	1240	954	Coast	Presumed with oldies (Hall & Oates "She's Gone", etc) Not // 828	1	Dunedin	NZL
7/11	1244	963	Star	vocalist	10	Christchurch	NZL
7/10	1230	981	Star	//657 with music and male singer	2.5	Timaru	NZL
7/11	1218	990	KIKI	"The Herd: Weekdays, Live from 6 to 9 on Fox Sports 990" under KATD	5	Honolulu	HWA
7/11	1246	1008	Newstalk ZB	//1026 with spoken commentary	10	Tauranga	NZL
7/9	1225	1017	Newstalk ZB	//1035 with male announcer interviewing woman on phone	2.5	Christchurch	NZL
7/11	1245	1026	Newstalk ZB	"Newstalk ZB" ID //1098, pronounced echo effect from two stations	2	Kaitia	NZL
7/10	1245	1026	Newstalk ZB	"Newstalk ZB" ID //1098, pronounced echo effect from both Northland stn's	2	Whangarei	NZL
7/9	1225	1035	Newstalk ZB	show	20	Wellington	NZL
7/10	1251	1040	KLHT	"The Pure Light of Hawaii KLHT Honolulu 1040 AM" between songs	10	Honolulu	HWA
7/10	1229	1044	Newstalk ZB	//1035 Two males in discussion	10	Dunedin	NZL
7/10	1246	1053	Newstalk ZB	//1026 briefly good with male announcer interviewing woman on phone	2	New Plymouth	NZL
7/11	1245	1098	Newstalk ZB	Briefly loud; commercial, then "Newstalk ZB" ID	7.5	Christchurch	NZL
7/11	1250	1107	RadioLive	Commercial followed by "Radio Live" ID and selected frequencies	1	Tauranga	NZL
7/9	1233	1110	KAOI	KBND	5	Kihea, Maui	HWA
7/10	1248	1116	4BC Brisbane	"Brisbane's News Source 4BC" followed by several clear commercials	50	Brisbane	AUS
7/10	1243	1161	4FC Radio TAB	briefly good; racing odds from woman on phone with male announcer	2	Maryborough	AUS
7/9	1238	1179	Radio Ake	Briefly loud with "The Sweetest Taboo" by Sade, other US pop, Maori ann.n.	5	Auckland	NZL
7/11	1239	1206	TAB Tracksideradio	Two male announcers in discussion // 828	2	Dunedin	NZL
7/11	1240	1224	TAB Tracksideradio	Briefly good with two male announcers in discussion // 828	1	Invercargill	NZL
7/9	1223	1314	2KY Racing Radio	Presumed; Horse racing action being called	5	Wollongong	AUS
7/9	1252	1332	Radio Sport	laughing	10	Auckland	NZL
7/9	1230	1503	Radio Sport	//774, 792 with Fox Sports feed, weak	5	Wellington	NZL
7/10	1300	1540	KREA	MBC chimes, then "This is KREA Honolulu 1540 AM" at TOH	5	Honolulu	HWA
7/10	1238	1566	UNID	choral men's group singing, non-EE male speaking; briefly fair	***	*****	UNID
7/11	1233	1570	KUAU	"Keep it right here...KUAU Haiku, Maui"	15	Haiku, Maui	HWA
7/10	1239	1575	Otago Access Radio	Presumed; Man and woman in EE taking turns reading slowly, BBC mention	2.5	Dunedin	NZL
7/10	1226	1611	Vision Radio Network	Lecture or sermon in EE by male with voice inflections of preaching	0.4	Several Affiliates	AUS
7/10	1223	1701	Radio Brisvaani	Hindi music with male/female duo singing and chanting. Best X-band signal.n	0.4	Brisbane	AUS

※Tom Rothlisbergerのサイト“Amateur Radio Station K7WV”より転載許諾を頂きました。

<http://www.qsl.net/k7wv/>

勿論全て英語ですが、Tom氏の幅広い無線/DX関連趣味が網羅されており、この趣味に対する氏の見識の広さと熱い情熱が伺えます。

ラジオ放浪記～ペルー・リマ篇

甲斐 迅

kay, hayashi

Señor, ¡buenas tardes! 恐れ入りますが、どうぞこのカバンを開けてくださらない？そう、これヨ、この中にある四角い小さな箱と、銀色の棒は何かしら？ご説明いただけますか？

¡Hola, guapa! ¡¿Cómo estás? あっ、これかい？これは俺の「マラ M-ALA」さ。俺の趣味は海外から飛んでくる短波放送をラジオで聴くことなんだ。この箱に《如意棒》を屹立させれば見事アンテナのできあがり、そしてこれをラジオにつなげば、そう、君がいつも聴いているD.F.²のラジオ放送を、俺の住むTokioにいたって聴けちゃうんだぜ。

¡Wow! なんて素敵なの、あなたの「マラ M-ALA」！きっと凄い感度なのね。私も是非試してみたいワ。

じゃあ、これから俺はペルーに出張なんだけど、10日後にはまたここを通るから、その時に時間があつたらネ、¡Chao!

Señor、お気をつけて。¡Buen viaje! よい旅を。またお待ちしているわ！！

2016年8月、俺は行く先々の空港で、俺の魔羅、もとい、シエスタ師から拝借した

《Mobile ALA》、略してM-ALAに興味津々の、美しいラテン系女性検査官たちと、出入国のたびに、こんな会話を愉しみながら（嘘つけっ！）、ペルーの首都リマへの出張を敢行した。M-ALAとは、スペイン語で「悪女」っていう意味にもなるじゃねえか、なんてことを考えながら。

俺の仕事はアンデスの歴史の勉強だ。現在進めている調査は、ペルーの民衆宗教史研究、特にスペイン人によって征服された先住民たちが、キリスト教をどのように受容したのかを、17世紀に遺された先住民の宗教実践をめぐる訴訟記録を軸にずっと学んできた。今回の出張の目的は、リマの古文書館に眠る史料の重要部分を写真撮影することであった。

ほぼ毎年、仕事のために訪れるペルーであるが、昨年3月は、不慮の右腓骨骨折により、予定していた出張を断念せざるをえなかった。しかし戸塚DXersサークルのメンバーの暖かい励ましのおかげもあって患部は予想以上のスピードで快癒し、8月に向け研究旅行の予定を立てることができた。今回、航空券のチケットは、サークル仲間と旅行会社にご勤務の宮さんに手配をお願いすることにした。TDXCではいつもその繊細な気配りで私たちを支えてくださる宮さん、無線を通じて蓄積してこられた「世界」をめぐるその該博な知識につねに瞠目させられてきた彼にお願いすれば、きっとよい旅になるだろう。宮さんは快諾してくださった。

さて問題は、飛行機、どこのキャリアを選ぶかだ。このところ、ペルーへの旅は、ずっと成田（NRT）→Los Angeles（LAX）→Lima

¹ guapo/pa = 【名詞】《美男子／美女、カワイコちゃん》

² Distrito Federal 連邦特別区。Mexico Cityのこと。

(LIM) という行程を選んできた。ロサンジェルスまではANA、リマまではLAN Chile (チリの国策的航空会社、現在はLATAM) というのが時間的にもっとも効率が良い。しかもANAのサービスは抜群だ。だがロサンジェルスの乗り継ぎが1~2時間くらいしかないのだ。毎年、毎年、もう顔なじみとなったANAのLAX地上勤務の女性と一緒に全速力で巨大な空港を疾走し、トランジットの入・出国審査を掻い潜るという危険な綱渡りをしてきた。心臓バクバクのあの経験はちょっと遠慮したいな。それに、人をヒトとも思わないアメリカの審査はこりごりだ³。よし、今回は合衆国回避だ。そうなると、カナダ経由かメキシコ経由だが、やはりスペイン語圏への旅だし、いきなりスペイン語のシャワーを浴びたほうが刺激的だよね、帰国便では、D.F.でかなり待たされるけれども、直行便になったし、機材もBoeing787だから快適だ、エコノミー座席も3-3-3で少しゆとりがありそうだし⁴、よし決定、ということで宮さんにAeroMéxicoの往復便の手配をお願いした。

もう一つ、決めなければいけないのは、宿舎だ。若い時からなんども滞在してきたリマ、しかし1995年、該地の大学で教壇に立っていた時にリマの海岸沿いのアパートに家族で住み、付近の快美さを熟知したこともあり、近年はいつも太平洋に面したミラフローレス区にホテルを探している。リマの海岸部はまさしく「崖海岸」であり、高さ30メートルを超えるcliffが、南北にずっと続いていて、その風景がなんとも美しいのである。しかも今回は、ごく限られた時間にはなろうが、仕事の合間を縫って短波・中波受信にチャレンジせよ、というTDXCの先輩方からいい渡された

宿題もある。^{クリフ}崖に陣を張る、というのがベストだ。Booking.comで「ミラフローレス」「シーサイド⁵」で検索。すると何件か面白い物件が引っかかった。そのひとつがブティック・ホテル《インカの家》、崖からわずか20mの好位置、古い邸宅を改装したようホテルである。しかも地図を見ると、なんと、1995年、家族と半年住んだ高層アパートの隣のあの邸宅ではないか。生後半年の幼子を乳母車に乗せ、近所を散歩していた時に気になっていた不思議な建物があった。塀越しに見ると、なにやら考古学的なレリーフが飾ってあり、異様な雰囲気^たを湛えている。なんとそれがホテルになっていたのだ。でも、あの考古学的なレリーフはなんだったのかな。謎はそのあと明らかになる。



³ LAXである時遭遇した一場面。身体検査の際、おデブさんのお姉さん係官にあまりにもしつこく、意地悪くチェックされていた韓国人のおじいちゃん、ついに切れてしまって、じゃあ、すべて見やがれっ、とパンツまで脱ぎだした。「いえ、そこまではしなくても結構です」と赤面したおデブ女係官はじいちゃんを放免した。あっぱれであった。

⁴ LANChileも787を使っているが、ケチなお国柄を反映してか、3-4-3、しごく窮屈で辛かった思い出が蘇る。

⁵ スペイン語の場合、malecónという単語をシーサイドがわりに検索した。

ホテルは迷わずここに決めた。普段定宿にするホテルたちと比べると、一泊の値段は1ランク上だが、今回は持ち出し覚悟で受信環境を最優先にした。さあ、そして、いよいよ受信装備である。こちらは、ぬかりなく用意していた。メインのリグはSONY ICF-SW55である。e-Bayの競売でヨーロッパから良いブツを落としていた。海外旅行にはこれがいちばん、という声がどこからか聞こえていたし、荷物の重さの制限などいろいろとある南米旅行には、なるべくコンパクトなラジオが良い。中華製ラジオを持っていこうかなという気も起きたが、信頼性という意味ではやはりSONYだし、中華製ラジオならペルーでもじゃかすか手に入るだろう。アンテナは、もうこれは冒頭からご紹介しているとおり、シエスタ師がMobile-ALAをころよく貸してくださった。出発の数日前には、「文系電気音痴人」用に師がつくってくださった接続仕様をヴィジュアル化した写真とともに、M-ALAが届いた。

切符も、ホテルも、ラジオもアンテナも整った。南半球の冬に突入するための洋服も、いつもの革ジャン+ヒートテック系の下着を充実させたことにより万端準備できた。大型スーツケースを開け、ラジオとアンテナを柔らかく包むべく洋服の要塞をつくり、その中に、そっと「宝物」を押し込む。生まれつき人相の悪い俺は、これまで世界を動くたびに、いつも空港で抜き打ち検査的なチェックを受けてきたので、今回も覚悟を決め、変な偽装工作は施さない。てやんでえ、俺の魔羅を見やがれ、という心持ちである。

いよいよ出発の日が近づいてきた。8月の出発の気がかりは、颱風である。おりしも7号が列島に接近しつつあった。小心者の俺はいつも不安になる。さっそく宮さんにご相談すると、細かな颱風の進路予測をしてくださり、たしかに出発日の時刻と最接近時とが重なる可能性がありますね、では、万が一飛行機が

飛ばなかった時のために、成田空港のホテルを予約しておきましょう。こうした繊細なお心遣いのおかげだろう、幸いなことにも、暴風の巨大円環は、搭乗する飛行機がメキシコから成田に到着する前に、列島を離れていった。

出発当日は、颱風一過の青空のもと、吉祥寺からリムジンで成田へ。突発的インシデントに備えて少し早めのバスを予約したこともあり、空港には出発の5時間前に着いてしまう。でも俺は空港でたくさんの時間を過ごすことが好きだ。俺にとって飛行場は、さまざまな国で生まれた人々の生き生きとした姿態を観察できる素晴らしい展覧館だ。そして必ず何か出会いがある。今回は、カウンターが空くまで列をつくって待っている俺に、セニョール、ちょっといかがいたいのですが、メキシコ便はここで待っていれば良いのですか、久しぶりの飛行機で、ボク、全然わからなくて。スペイン語と日本語がちゃんぼんになった小柄な少年に声をかけられた。うん、ここだよ。君はメキシコからペルーまで行くの？ええ、ボクは日系のペルー人なのですが、6歳の時に両親に連れてこられて、それから数えて11年、こんど初めてリマに帰るんです。じゃあ、小中学校は日本で？はい、中学を卒業して、ずっと滋賀のトラクター製造工場で働いていました。ああっ、久しぶりのペルー、リマ、どんなでしょうかね、興奮するなあ。おい、でも、君、けっこういまのリマは治安も悪いから、気をつけた方がいいぜ、とくにタクシーには気をつけるよ……

なにか、日本人=ペルー人、立場逆転したような、ひとこまだ。こんなたわいのない話をしながらでも、錆びついていたスペイン語にちょっこしヤスリがかかっていくのが実感できる。チェック・インもスムーズに済み、いよいよ搭乗だが、早く着きすぎたこともあり、出発までまだ2時間もある。こういう時のた

めに、今回は楽天カード経由で世界各国のビジネスクラス・ラウンジが使えるPriority Passに入会しておいた（カードの無料特典なのだ）。これさえあればトランジットが長時間にわたる旅行の時にも助かる。とくに帰国便のメキシコでは待ち時間が9時間もあるからラウンジが利用できるのとそうでないのとは大違いだ。成田では大韓航空のKALラウンジが使える。静謐かつ清潔な空間で、おにぎりやカップ麺を頂戴し、お腹もくちて、少し眠くなってきた頃、いよいよ機内に入る。

宮さんにご無理をお願いして、往復、通路側。Boeing787ドリームライナー、同機は空調が非常によく、飛行機独特の乾燥がない。通常の機材だと、旅のあとには、鼻腔にこびりついたかたまりをこそげ落とす作業が大変だが、787では鼻奥はしっとり潤っている。AeroMéxicoはお料理もおいしく、俺は大変満足、とはいえしかし、なにしろ太平洋超えは時間がかかる。機内でどのように過ごそうか。昔の国際線フライトでは、いつもお隣さんと自然に会話がはじまったものだが、お隣のご老人に声をおかけしようにも、座席眼前のディスプレイに釘付けのご様子、仕方がない、おれも映画を観るか。AeroMéxicoだけあって、スペイン語の新作映画がたっぷり用意してある。リマ到着前のスペイン語塾だ、おっ、まだ日本列島には届いていないスペイン映画があるぞ、《バスクの8つの名字 Ocho apellidos vascos》、おっ、これはスペインで大ヒットを記録したやつじゃないか、わおっ、その続編の《カタルーニャの8つの名字 Ocho apellidos catalanes》もあるぞっ！カスティーリャ、バスク、カタルーニャ、ガリシアなど、1つの国土のなかに、異質な、水と油的な文化圏を包摂し、ずっと歴史のなかで沸々とコンフリクトを煮えたぎらせてきたスペインの特質を、アンダルシア男とバスク女の恋愛を基軸に浮かび上がらせつつ、しかし、最後は《和解》の可能性を仄見えさせ

てくれる快作だ、お隣のおじいさんのことを気にすることなく、ガハガハと大笑い、高速スペイン語の会話も大分聞こえるようになってきたぞ、なんてはしゃいでいるうちに飛行機はメキシコ・シティのベニト・フアレス Benito Juárez 国際空港に無事到着、たっぷり13時間の飛行であった。

ここで旅が終わればずいぶんと楽なのだが、南米旅行はまだこれから。あと7時間ものフライトが待っている。美人税関吏と冒頭の会話を交わしたあと、Priority Pass特権でプルミエ・ラウンジに疲れた身体を滑り込ませる。トルティージャをはじめとするメキシコ風おつまみと白ワインが五臓六腑に染み渡って陶然とした気持ちになり、宮さんに途中経過を報告するメールをお送りしたところで、ようやく搭乗の呼び出し、リマ行きの小ぶりの飛行機に乗り込む。もうあとは眠るだけだ。目を開けると、眼下の雲の切れ間に、宝石が散りばめられたようなリマの街灯のオレンジ色の洪水が見えてきた。ホルヘ・チャベス Jorge Chávez 国際空港が、冷たい湿った懐かしい風で俺の頬を撫でながら、いつものように出迎えてくれた。深い冬霧のリマ。気温は15度くらいだから、寒さはとっさには感じないのだが、この時期、湿度は常時90パーセント以上あるので、時間が経つと、徐々に湿った冷気が、皮膚を滲透して、骨の髄へと染みこんでくる。油断していると、あっという間に不快な喉風邪にやられ、あるいはお腹を冷やし、酷い下痢に苦しむことになる。あわてて旅のお供にいつも携行しているピクーニャのセーターを羽織った。

案の定、リマでもトランクを全部開けさせられ、M-ALAを含めての受信装置一式について説明を要求される。ここもスペイン語のC調言葉でなんとかクリア！俺もなかなかやるじゃん、なんて調子に乗っていたら、後日、ペルー日系の友人に、リマの空港の場合、邪悪な検

査官にぶち当たると、ラジオなどの通信装置は没収される憂き目に遭うこともある、と聞かされ、冷や汗を流すことになる。

深夜12時を回っているというのに、リマの空港は大変賑やかだ。北米からやってくるさまざまな国際便フライトの到着がこの時間帯に集中していることもあるが、ペルー社会の特徴なのか、遠来の家族や知人を空港に迎えに行く、というのが大切な文化的行事となっているようだ。税関を抜けて外に出て行く乗客が最初に目にするのは、何百人もの人々の、知り合いを探すぎよろぎよろとした眼、眼、眼、眼。これもリマのいつもの風景だとな懐かしく気圧されつつ、安全な空港タクシーを頼み、ホテルへと向かう。空港も目的地の宿舎も海際にあるから、車は海岸段丘直下の道路を、太平洋の波をかぶりながらひた走る。30分ほどで到着、《インカの家》の従業員が眠そうな目をこすりながら出迎えてくれた。

のちにいろいろと世話になるフロントのジョシュアくんが、部屋にトランクを運び入れてくれた。最初に入った部屋は一階、海を見下ろす崖までの距離は20メートルくらい、波の音が聞こえてくる部屋だ。なかなかのアンティーク仕様で、お洒落な感じ。予約時にあらかじめメールを送り、趣味がラジオ聴取なので、できるだけ海に面した部屋を、とお願いしておいたことが奏功した。ジョシュア君曰く、セニョール・カイ、このお部屋だったら、セニョールの余暇のご趣味には最適だと思いますよ。その心くばりに感謝しながら、でもさらなる受信環境の向上を考えつつ、図々しくも、二階とかに同じような部屋はないかい、とたずねてみる。はあ、いまはお客さまが宿泊されていますが、このホテル最高品質の《テリョの間》というのがございまして、明後日には空室になりますし、それではフロントで調整してみます、お値段はかわらないと思います、でもセニョール、とにかく今夜

はゆっくりとお休みくださいな。時計を見ると、もう2時をまわっている、そうだ、明日から古文書館で仕事だったっけ。とりあえず、パジャマだけ鞆から出し、巨大なベッドに身を横たえてみた。とはいうものの、だめだ、頭がカンカンしてしまって、眼は冴えっ冴えだ、よし、こういう時は飲むが一番！と部屋備え付けのクーラーボックスから冷えたビール、お馴染みの《クリスタル Cristal》を一本取りだし、グビグビと飲み干す。美味〜い！ほんわり、すこし気持ちが落ち着いてきた。よし、一眠りしよう……

目が覚める。ずいぶん眠ったような気がしたけど、まだ5時、3時間も眠れていない。いつものことだ。これ以上ベッドにはいっていてもさらなる睡眠は期待できない。もう起きるしかないよね。食事まではまだうんと時間があるし、どうしようか……それじゃちょっとラジオでも聴くかいな、となるのがBCLの宿命の性、大きな音をたてないようにスーツケースをひきずりだし、洋服のクッションに包まれたM-ALAとSW55、そしてケーブルなどを取り出した。変圧器もちゃんと用意しておいたので、M-ALAに嬉しい赤ランプが点灯した。寝ぼけ眼で、さてと、まずはどこから聴こうかなあ……リマにおける今回滞在の処女局は、やはり、これはもうキリヤバンバ《Radio Quillabamba》でしょう！

5025kHzの該局、日本ではこれまでいろいろな場所からチャレンジしてきたけれども、一度も聴けたことがなかった。なにせ、同周波数には《Radio Rebelde》が鎮座しており、しかしこれだって俺の環境ではなかなか良好に聴けない稀少局、そのさらにずっと奥に潜んでいるであろう憧れのキリヤバンバ！日本の古豪DXersたちは、さすがに皆さん受信されている。「☆キラ様〜☆」などという愛称とともに掲示板などで受信報告があがるのを垂涎の眼差してこれまで見てきた。SW55の

周波数をセットすると、おおっ、聞こえてきましたぞ、アンデス独特ののんびりとした、聞き取りやすいスペイン語が。おやっ、ケチュア語も混じるなあ、この部屋、けっこうローカルノイズが強そうだけど、クリアに入るぜ、まあペルーにいるわけだから、当然ちゃあ当然だが、それにしても人生初入感だ、疲れも吹き飛ばす！アンデスの奥地キリヤバンバから届く音が、身体の隅々までエネルギーを充たしてくれる。よし、今回も良い滞在にするぞ！白々と明け始めた空を見ながら、俺はそう誓った。



朝食は古い豪華サロンのようなところでビュッフェ形式、北米からのお客さんがちらほら、みんな年配の落ち着いた方々ばかり。それにしても、朝になって明るい光で宿舎を眺めると、近代的なホテルばかりが建ち並ぶリマにあって珍しい古風な佇まいである。由来をたずねてみると……いやはやびっくり、ここは、ペルーにおけるアンデス考古学の開祖フリオ・テーリョの邸宅だったのだ。昔散歩していた時に眺めていた考古学レリーフの由来がいま判明した。テーリョはアンデス高地の先住民村落に生を享け、その後、苦学の末に研究者となり、数々の大発見を通じて、ペルー考古

学のまさしく礎となった立志伝中の人、その彼が晩年を過ごした家が、ホテルとなって、俺を待っていてくれたのである。廊下のいたるところに、素人目にもそのとてつもない価値がわかる考古学遺物がところ狭しと置いてある。どうやら昨晚ジョシュア君がいていた《テーリョの間》というのが彼の居室だったということもわかってきた。願わくばリマ滞在中、そこで過ごすことができれば……

お腹もくちたところで、さあ初仕事だ。古文書館までは自動車で30~40分くらい、最近のリマ市街の交通渋滞は殺人的で、昔の倍くらいは時間がかかる。通常はタクシーで移動するが、リマの場合、このタクシーがとてもやかいなのだ。いわゆる非合法タクシー、つまり《中古車を買う》→《道ばたで売っている「TAXI」というステッカーをフロントガラスに貼る》→《はい、今日からオイラもタクシー運転手！》的なものばかりなのだ。もちろん大半は善良ドライバーだが、しかし、助手席に身を潜めていた仲間にホルマリン臭がされて身ぐるみを剥がれ、気がついたら真っ裸で道路脇に転がされていた、なんていう恐ろしい話を、いままで何十、何百と聞かされてきたこちとらのか弱き心臓は、目の前を列をなして過ぎていく空車の群れを見やりながら、いつもプルプル震えている。でも幸い俺には、いつもリマ滞在中でお世話になっているハイヤー運転手のトゥリオ氏がいてくれる。長年の良きつきあいの彼に、いつもホテルと文書館の送迎を頼んでいるのだ。当然流しのタクシーよりは運賃はかかるが、安全第一、さっそく今回も彼がいつも拠点にしている高級ホテルの前まで行ってその姿を探す。小柄なトゥリオが、遠くから俺を見つけ、駆け寄ってきてくれた。抱擁も挨拶もそこそこに、滞在中の足になってくれるか頼んでみた。いやあ、このところ閑だったんで、大助かりでっせ、ささ、さっそくいつもの古文書館にまい

りやしょう、というわけで滞在最初の関門はスムーズに通過できた。

古文書館着、ここでも30年来のつきあいのメネシオ館員が両手を拡げて迎えてくれる。女性館長グティエレスさんにお土産を渡しつつ——今回は、リマも日本食ブームということで「お箸」をペアで——久闊を叙す。日本人研究者はこういう気配りがあるから私は好きだわ、と開けっ広げにおっしゃる。次回も何か持ってくるってこったな。挨拶もそこそこに、古文書の撮影を開始する。偶像崇拜根絶巡察文書、というのがお目当ての史料群だが、30年前に本格調査をした時、かなりの部分をノートに筆写している。今回は、まだ筆写していないものを含めて、2,000葉くらいを撮影する予定。かつては、大型の一眼レフを三脚に据えて一枚一枚丁寧に撮ったものだが、最近は小型のデジタルカメラで軽便に、多少光に問題があっても現像ソフトで修正も容易、手軽に立派な文書写真ができあがる。カメラはRICOH GR IIが今回の調査を助けてくれる。さっそく作業開始。ただ、閲覧机に古文書を広げ、適度な距離を保ち、覆い被さるように腰をすこし曲げての撮影は、これは身体にくる。20枚も撮ったところで、もう疲れてしまう。実質一週間の作業とはいえ、けっこうしんどいことになりそうだな、でもここでしか手に入らない宝物群、よしっ、がんばるぞ、と気合いを入れて、16時まで根気よくデジカメに収めていった。

文書館を出ると、トゥリオが迎えに来てくれていた。リマの交通事情、前より酷くなっているねえ、いやもうあがったりでさ、前はミラフローレスから空港は30分見とけば十分だったんすがねえ、いまは下手すると2時間かかる時もあるんすヨ、もうかないませんがな。彼の嘆きも深まっているなあ、とは言え、リマの道路網に関してはまるで「蟻の通り道」すら熟知しているかのごときトゥリオ、渋滞

箇所を巧みに回避しつつ、あっという間にホテルに送り届けてくれた。じゃあ、明日も8時にホテルに来てくれるかい？がってんでさ、セニョール・カイ、時差ばけも出てくる頃でしようし、どうぞゆっくりお休みになっておくんなせえ。トゥリオと別れ、ホテルの部屋に戻る。撮影した写真の整理をはじめだが、たしかに突然の睡魔に襲われ、ベッドに倒れ込むかたちとなる。

目を覚ますと時計は19時を廻っていた。スーツケースの荷物を整理し、洋服などをクローゼットに入れ、書籍類を整頓したところで、あらためて受信装備を点検する。宮さんがご調整くださった中波DX用PL-380改を含め、一式すべて無事であった。ペルーの食事は昼ご飯がメインだから夜は軽くパンにハムくらいで済ます。ちょっとワインを添えて。普段の出張だと、夜は仕事仲間と飲みに出かけ、歴史談義や四方山話に花を咲かせるところだが、今回は友人たちにもこちらからは積極的に連絡せず、限られた休息の時間は、アンデス世界のラジオ文化研究に専念することにする。さあ今晚からすこし腰をいれて聴いてみよう！昨夜から泊まっている部屋には小さなバルコニーがあり、テーブルと椅子が置いてある。ここにまずはシエスタM-ALAを、太平洋の荒波に向けて屹立させる。同軸ケーブルも長めにご用意くださったので部屋に引き込み、シエスタ師特製のCMCを挟んでM-ALAの屋内ユニットへ。電源はACアダプターにローノイズ電源をつなぐ。そしてラジオには、やはりシエスタ師特製のGAISO+ATT Boxを介して接続。まずは短波帯にペルーのローカル放送局を探してみる。日本列島から憧れの眼差しで見やっていた局たち、一体どんな感じではいってくるのだろうか。今朝のキリヤバンバの強度からもかなり期待できるのだが……

おおっ、続々と入感だ。

4748kHz 《Radio Huanta 2000》
4775kHz 《Radio Tarma》
4995kHz 《Radio Cultura Amauta》
5025kHz 《Radio Quillabamba》
5981kHz 《Radio Chasqui Red Integridad》
6174kHz 《Radio Tawantinsuyu》

WRTHを片手に周波数を確認しながらペルー国内短波局を受信できるかぎり探索していった。それにしても、アンデス世界においてラジオ文化は活き活きと息づいているなあ。高山地帯ではまだインターネットも行き届いていないし、民衆層の唯一の情報源がラジオ、という村落もたくさんあるのだろう。山を旅するたびに、居酒屋や食堂、よろずや風キオスクでは、いつもラジオがガンガン鳴っているもの。昔は日本もそうだったよ。それにしてもアヤクーチョ地方のワンタHuantaには2局もあるんだね。アヤクーチョといえば、数年前、調査旅行をしたところ、ワンタのすぐそばをトラックで走っていた。あのときはBCLとはまったく無縁の生活をしていたから考えつくこともなかったけど、いまだったら、絶対に放送局訪問をしているだろうな。放送局を訪ねて、アンデスの山で、人々とラジオが日常的にどのような関係を結んでいるか、なんていう調査が将来できたら素敵だぜえ。いつの日か、『アンデス世界におけるラジオの社会史』なんて本が書ければ、これは夢のような話だなあ。実際、アンデス近代史の研究史を眺めてみても、ラジオ放送と先住民文化との関係に踏み込んだ論攷はみあたらない。よし、それでは今度は本格的に、アンデス高地のフィールド調査を含む研究を組織してみようか、なんて将来構想(妄想?)を、ペルー短波各局を聞き流しながら、頭に育てていく。それにしても放送の内容が凄い。もう完全なローカル・ワールド。「尋ね人です！どこどこ村のファン・

ゴンサレス・キスペさん、お母さまがお病気ですので、すぐにご家族にご連絡ください！携帯番号xx-yy-zz-wwまで。」「眼鏡調整、コンタクト・レンズのことならオプティカ・ロドリゲスにいますぐ！」「明日、聖マリア教会で、炊き出しがあります。おいしい鶏肉のスープが供されますので困っていらっしやる方は是非」「本日の農民集会では、新政府の政策への対応を協議しますので、こぞって参加を！」的な、町の日常に根ざした、それこそ昔の田舎の農協有線放送のような感じ。Radio Quillabambaのように、同じ内容をスペイン語とケチュア語で交互に放送するところもある。土っ臭いワイノヤクンピアの音楽が軽いフェージングとともに耳に心地よい。こういうのを、日本列島の海岸辺りに陣取って聞くことができたなら、素晴らしいだろうなあ。でもそろそろ夜も更けてきた。明日も朝から古文書との格闘だ。今日は、この辺にしよう。



翌朝、4時に起床。時差ぼけの影響もある。カーテンを開けると、暗いリマの冬の朝だ。この時期、海岸部のお天気は、毎日かわり映えがしない。ほぼ一日、曇天。お日様が姿を現すことはほとんどない。たまたま顔をのぞかせると「今日は太陽のやつ、狂ってやがる」なんて悪口を叩くのがリマっ子。文書館には、開館前に到着、早朝の激しい渋滞にもかかわらず、トゥリオの選ぶ道だけは空いて

いる。きょうも一日撮影だ。ほんとうであれば、じっくり閲覧机に座り、古文書一枚一枚読みながらノートを取りたいのだ。というのも、この偶像崇拜根絶巡察文書というのがじつに面白い史料。17世紀に入り、カトリック教会のスペイン人巡察使が先住民村落を急襲し、インディオたちのなかで、キリスト教に背を向け、隠れて伝統的な儀礼をおこなっている者たちを逮捕する。そして拷問などの手荒い手段をもちいて、その一切合切を白状させ、呪具や呪物を破壊したり、焼却したのち、被告たちの頭を刈り上げ、見せしめにすべく上半身裸にしてラバの背に乗せて村を引き廻す、そして鞭打ち……神に仕える者たちの剥き出しの暴力のすさまじさ。先住民たちが逐一自供する、伝統的な儀礼の豊かさ。その一部始終が豊かなディテールとともに詰め込まれたこの記録は、アンデス関係の史料のなかでもとびっきり面白いもののひとつだ。それにちょうど地球の裏側では、同時代、まったく逆の事態が進行していた。日本列島では、隠れキリシタンたちが、幕府の過酷な弾圧に苦しんでいたのである。歴史の皮肉であることよ。まあ、史料の内容は、帰国後、ゆっくりと読むわいな。いまはとにかく撮影だ。そろそろ悲鳴をあげだした足腰に、15分おきに、スクワットの二つ三つをくれてやり、鼻息荒く、GR IIのシャッターを押し続ける。

ホテルに戻ってからは、30分ほどの昼寝を微睡んだあと、古文書写真を一通り整理し、さてこれからどうするか。夜は、古くからのペルー日系の親友と会食だ。それまでの時間、しばし研究書を読み、そして30分ほどラジオに耳を傾ける。そうそう、朗報があった。フロントのジョシュア君、ホテルに戻ると、セニョール、明日の朝に《テーリョの間》が空きますので、どうぞお移りください。荷物は、お出かけの間に、われわれで移動させておきますよ、おお、それは嬉しい！いや、でも荷物を運ぶのは、ラジオやアンテナもあるし、

俺がやるよ、それにしてもほんとうにありがとう ¡Muchísimas gracias! 今いる部屋も良く受信できているが、時間によっては、どうも隣接する高層マンションから発するノイズで電波にかなりのダメージがある。《テーリョの間》は二階だし、すこしマンションからも離れているので、きっと受信状況は改善されるであろう。さて、今日からは、海外から聞こえてくる短波放送をすこしずつ聞き始めてみるか。

国内放送を探している時の印象では、各バンド、さまざまなスペイン語が聞こえている。衰退著しい海外短波放送界ではあるが、どうやら中南米のスペイン語圏は、まだ活況を呈しているようだ。Radio Habana Cuba (15370kHz等)とRadio Martí (9565kHz等)は、それこそ中国国際放送放送／台湾国際放送の関係の相似形をそのままラテンアメリカに移植したようなライバル局、双方、強さで競合しながら明瞭に飛び込んでくる。Radio Católica Mundial (11870kHz)などの宗教局もとても元気な印象。Radio Romania Internacional (9730kHz等)やVoice of Turkey (9870kHz等)など日本でお馴染みの局のスペイン語放送も強力に入感している。東京・武蔵野の我が家の環境では、いつも微弱なRadio Guinée (9650kHz)、Voice of Greece (9935kHz)、Radio Medi 1 (9575kHz)も見違えるような鮮明さだ。どの局も、ほぼリスニング・モード。俺も本気でペルー移住を考えようかな。

ひとしきりSW55をいじくっていたら、フロントから電話、友人夫妻がご自慢のアルファ・ロメオで迎えに来てくれた。この日系の友人とは、俺がかつて客員として教えていたリマのカトリカ大学で知り合った。当時彼は哲学の教師、穏やかな性格の知的な彼とはすぐに仲良くなったが、やがて彼は大学教師の職をあっさり捨てて、ビジネス（商売）の道に入っ

ていった。いまは、中古医療器具（CTスキャン機材など）を輸入したりしてとても景気がよいようだ。アルファ・ロメオの心地よい加速力に背中を押されてあつという間にペルー料理の老舗ホセ・アントニオ José Antonio^{アシエンダ}に到着。古い農園風の邸宅をレストランに改造し、昔なじみのペルー海岸部の料理、いわゆるクリオーリョ料理の本物を提供してくれている⁶。まずは蒸留酒ピスコのカクテル《ピスコ・サワー》をアペリチフにして、セビツェやアンティグーチョ、ロモ・サルタードなどを堪能する。今日のこの時のために彼が用意してくれていたスペイン・リオハの年代物赤ワインがグラスに注がれ、陶然とした気持ちになる⁷。昨今のペルー事情や彼と夫人（日本から来られて彼と一緒になられた芸術家）の最近のお仕事のことなど、興味深い話をいくつも聞きながら幸せな気持ちになり、昼間の重労働の疲れも吹っ飛んでしまった。ホテルに戻り、ベッドに潜り込んで、睡魔到来までの間、ペルーの中波帯にダイヤルを合わせる。20～30kHzおきにラジオ局が乱立していて大賑わいだ。戸塚DXersサークルの先輩たちからは、中波の逆TPにチャレンジする^{うごめ}よう勧められていた。しかしこれだけ中波局が蠢いているところに、DX局が入り込んでくる余地はあるのだろうか……などといったことを考えているうちに、ずっと夢の世界に入ってしまった。

翌朝は土曜日。またも夜明け前、4時に起きてしまう。土日は文書館もお休みだ。疲れを取るべくあと数時間情眠をむさぼる^{クリップ}もよし、しかし、ここは一念発起、いっちょ崖に出て中波DXにトライしてみるか！この日のために、お忙しい宮さんが、いまDX巷間で飛ぶ鳥を落とす勢いのPL-380を俺のために改造してくだ



さった。太平洋の向こう岸から、北米のさまざまな中波局を射落としているPL-380改。リマでの実力はいかに！

海岸段丘の上の部分は、マレコン malecón と呼ばれる遊歩道になっている。最近は、リマっ子たちのデート・コース。日曜日などは大混雑する。それもそのはず、崖から見下ろす太平洋が実に美しいのである。とくに夕暮れ時はごった返す。打ち寄せる波を眼下に見やりながら、将来の幸せな夢を語り合うカップルたち。しかし、早朝4時にはまだそんな連中は現れない。だれもない静かな崖ぶちから、PL-380改を海に向かって突き出してみる。ところが……まったく、だめであった。先にも触れたが、20～30kHzおきに立ち並ぶリマ・ローカル局、そのほとんどは強力な24時間営業、DX局を探そうにも、隙間がまったくない。しばらく粘ってダイヤルをぐるぐる、上から下まで何度も往復させるが、聞こえてくるのは週末パーティ用の番組で流されるサルサやグンビアの音楽、はたまた、土曜早朝の宗教番組で、世界の滅亡間近なことを絶叫する説教師の洞間声……海岸段丘に身を乗り出し、冷たい海霧に長時間身をさらしていたせいだろうか、やっ、やばっ、下腹部に異変

⁶ ペルー料理の概略については、PROPAGATION第4号に執筆した拙稿を参考のこと。

⁷ ペルーでも《コルク代》と通称される金額（とても安い）を払うと好きなワインを持ち込むことができる。

が、おおっ、これは《インカの呪い⁸》の徴候か！くわばら、くわばら、ホテルに退散だ。この日の午前中は、中波DX不首尾のショックもあって少し意気阻喪し、ベッドの中で本などを読みながら安静にする。幸いインカに呪われはしなかったものの、今日は無理をせず、来週の最後の仕事のためのエネルギーを充填することにしよう。

午後になって、いよいよ《テリョの間》への引っ越しだ。18～19世紀のコロニアルな風情を遺す素敵な部屋。小さなバルコニーが張り出していて、M-ALAを設置するには絶好。窓からは太平洋の波の輝きを見渡せ、目の前をパラグライダーが滑空している。少し元気も出たので、土曜の夕方は、短波受信に切り替えて、耳をそばだててみた。この日は、アジア世界から海を渡ってくる電波がとても元気。やはり最強不敵は、中国国際放送！スペイン語のみならず、中国語放送も激烈に入感し、南米においてもDX潰しの面目躍如。でも台湾国際放送の日本語放送がきこえてきた時には、何かほっとした気持ちになった。KBSの日本語放送も快闊に聞こえている。こういう、なにか迷子になったような電波には、とても親近感が湧くなぁ。NHK国際放送も非常にクリアに台風情報を流していたが——日本のみんな、大丈夫かなぁ——嬉しかったのは、ラジオNIKKEIが聞こえてきたこと。瞬間的だったけど、SAも確認できた。平壤放送のあのお馴染みのISも、アジア世界を遠く離れて生活していると、なにか郷愁味を帯びている。All India RadioやIRIBも、それぞれの民族音楽を放送に乗せながら、アンデス世界に着実に触手を伸ばしている。

ペルー周辺国からの短波受信状況も書いておこう。ボリビアからは、3310kHz《Radio Mosoj Chaski》、5952kHz《Emisora Pio XII》、6025kHz《Red Patria Nueva》、

6135kHz《Radio Santa Cruz》。エクアドルからは、6050kHz《HCJB-Voz de los Andes》。そしてブラジルからは、お馴染みの6180kHz《Rádio Nacional Amazonia》をはじめ、日本ではその存在すら知らなかった4765kHz《Rádio Integração》、4865kHz《Rádio Verdes Florestas》、4925kHz《Rádio Educação Rural de Tefe》などを受信することができたが、ちょっと意外であったのはブラジルに数多く存在する短波局がほとんど入ってこなかったこと。ボリビアの各局もそれほど強くなかった。アンデスの峻嶺の連なりが電波の通りを妨げているのかな、などということを考えてみたが、非科学的のような気もする。



翌週は、ひたすら写真撮影に明け暮れる。腰から背中にかけて、鉄の板がはまってしまったような感じ、もうバリバリに凝っている。しかし、当初の予定よりも多くの、興味深い古文書の撮影もできたので、身体痛も報われ

⁸ 《インカの呪い》とは、外国からやってくる観光客を襲う、アンデス独特の激しい下痢のこと。

るというもの。金曜日には、古文書館の皆さんに別れを告げ、いよいよ帰国の準備にはいる。翌土曜日には、前述の友人夫妻が、リマから2時間ほどのところにあるプクサナ海岸に連れていってくれた。ご存じの通り、ペルー沖は豊かな漁場、プクサナにはその魚たちと共に生きるアザラシやペンギン、ペリカンたちが群生している。そうした海獣の野生の姿をはじめて見ることができてとても興奮した。なによりも、海辺で食べるセビツェのうまさは筆舌に尽くしがたかった。



すっかり日焼けして宿舎に戻り、史料の整理も、荷造りもほぼ終えたところで、最後のラジオ聴取。今日は、リマ地方を拠点とする中波局を、低い周波数から順に、網羅的に録音することにした。以下、その成果をざっと羅列していこう。すべて鮮明に受信されたものばかりである。

540kHz 《Radio Inca del Perú》
 560kHz 《Radio Oriente》
 580kHz 《Radio María》
 600kHz 《Radio Cora》
 620kHz 《Radio Ovación》

640kHz 《Radio del Pacífico》
 660kHz 《Radio La Inevitable》
 680kHz 《RBC Satelital》
 700kHz 《Red Integridad》
 730kHz 《Radio Programa del Perú》
 760kHz 《Radio Mar Plus》
 780kHz 《Radio Victoria》
 820kHz 《Radio Libertad》
 850kHz 《Radio Nacional del Perú》
 880kHz 《Radio Unión》
 900kHz 《Radio Felicidad》
 930kHz 《Radio Moderna》
 960kHz 《Radio Panamericana》
 990kHz 《Radio Latina》
 1010kHz 《Radio Cielo》
 1040kHz 《Radio Metropolitana》
 1060kHz 《Radio Éxito》
 1080kHz 《Radio La Luz》
 1110kHz 《Radio Feliz》
 1130kHz 《Radio Bacán》
 1160kHz 《Radio 1160 Onda Cero》
 1180kHz 《NSE Radio》
 1200kHz 《Cadena Radio》
 1220kHz 《Radio Fé》
 1250kHz 《Radio Miraflores》
 1300kHz 《Radio Comas》
 1320kHz 《Radio La Crónica》
 1360kHz 《Radio Bienestar》
 1400kHz 《Radio Callao Super》
 1440kHz 《Radio Imperial 2》
 1470kHz 《Radio Capital》
 1500kHz 《Radio Santa Rosa》
 1570kHz 《Bethel Radio》

これぞ雨後の竹の子の林立、といわずして、なんといおう。このほかにも、WRTHに未掲載の不明局もいくつかある。首都圏のラジオだけでこれだから、ペルー全土の状況は一体どうなっているのだろうか。とにかくにも、びっくり仰天であった。

さあ、いよいよ帰国だ。調査の合間を縫って、非常に限られた時間しか受信には割けなかった。戸塚DXersサークルの先輩方から課せられた宿題の10分の1もこなせなかったと思うが、仕事で来ているのだから当然だ。しかし、ラジオと一緒に出張することがもたらす大いなる魅力を満喫することはできた。さらに今後の夢のような展望として、《アンデス世界におけるラジオ文化史》研究という真面目なテーマをも構想することもできた。古文書撮影はハードではあったが、ラジオの音は、疲れた魂を癒やしてくれた。あらためてBCLという余暇を「再発見」できたことの僥倖をかみしめた次第である。



帰国便は、往路よりもさらに時間がかかる。México D.F.では9時間の待ち合わせ。ラウンジで、ボーイさんに注がれるままに、白ワイ

ンを喉に流し込む。帰りの787では、初めての経験もあった。真ん中3列シートの二つを占めたのは、メキシコのテレノベラ telenovela⁹から飛び出てきたような美男美女の若いカップル。俺の隣に座ったのは美女のほうで、女優のペネロペ・クルスにそっくり、どうやら新婚旅行で日本列島を目指していたようだ。新婚さんのお邪魔をしてはいけないと、ひっそりと映画などを見ていたら、メキシコを出て7時間ほど経った頃だろうか、流れてきたのはすこし緊張気味のCAの機内放送、「この飛行機にお医者様はご搭乗されていませんか？」どうやら子供の急病人が出たようだ。具合が悪ければ、近隣の空港に緊急着陸というようなこともあるかもしれない、地図で確認すると、一番近いのがホノルル辺り、これはハワイに降りる、ということもあるやもしれぬ、などとドキドキしていたら、アナウンスに即応して、すくっ、と立ち上がったのが、隣のカップルの美男氏、彼は医者^{médico}だったのだ。やがて戻ってきたが、子供の容態は安定し、大事にはいたらなさそう。しばらくすると、CAたちが代わる代わる御礼に来ていた。なかなか爽やかな光景であった。

そのあとは、成田までぐっすり。ふと俺の右腕付近に暖かいものを感じる。見やると、熟睡するペネロペ嬢がその美しい寝顔を俺の肩に載せていたのである。動くとお休みの邪魔になるなど、じっとそのご尊顔を拝しながら、しばし素敵な時を過ごす。袖振り合うも……的なエコノミー・シートならではのひとときだった。次に目を覚ました時には、眼下に房総半島が見えていた。またあそこにメンバーとペディに行きたいなあ、などと思いつつ、ようやく仕事の旅を終えた。

⁹ メキシコ版連続テレビ小説。濃厚なメロドラマばかり。

岡村 博行



2016年の和島ペディションの報告をします。今回のメンバーはいつものT氏、N氏、M氏、そして自分の4名。今回はいつものお馴染みのメンバーが勢ぞろいした。参加のT氏とは実に3年ぶりの再会である。当日、まず、燕三条の駅に降り立つとN氏、M氏のお出迎え。そこから例年なら地元のスーパーへ食材を買い出しと、なるのだが、今回はあの有名な燕三条系背脂ラーメンのお店に向かう。実は、以前からN氏とのやり取りの中で自分が「燕三条系のラーメンを一度、食してみたい。」とリクエストしていた要望にN氏M氏が応えてくれた形となった。今回、お世話になったお店は福来亭 白山町店。燕三条系背脂ラーメンはカップ麺では食した事があるが実物は初めてである。入店すると、お昼時なのか客が結構、沢山、居て賑わっている。奥のテーブルに座り、待つこと約10分、待望の「背脂ラーメン」が厨房から運ばれて来た。一目、ラーメンを見ると、確かにスープの表面には白い背脂が沢山浮いている。



刻んだ玉ねぎを沢山入れると、油気が中和され食べやすくなるとの事でN氏が店内に置いてある玉ねぎを小皿に取り分けてくれた。早速、玉ねぎをラーメンの中に大量投入、スープをまず一口、味は意外とあっさりしているような感じを受けた。これにはちょっと拍子抜けである。自分はもっと脂でギトギトした感じなのか、と思っていたが、普通にスープも飲める。まあ、これも玉ねぎを大量を投入したからかもしれないが、麺の感じもラーメンのちぢれ麺というより、日本ソバに近いストレート系の麺だった。今、思うと食券にはラーメンとは書いては無く、「中華ソバ」と書いてあったのでこれが当たり前なのかもしれない。無事、念願の「燕三条系背脂ラーメン」を完食し店を後にし、途中、スーパーに寄り、買い出し、ペディ会場に向かう。天候は曇り。時々、バラバラと雨粒が舞い落ちる。いつものように車内ではもっぱらBCLの話、この会話が非常に面白い。車でしばらく走行してる内にいつものペディ会場に到着、受付をしてキャビンに荷物を運び入れる。もう、皆さん慣れた手つきでいつものセッティングをし始める。使用アンテナはいつものK9AYと今回は自分が導入したML-200が初参戦。モビでは結構、お世話になったアンテナだが果たしてペディ会場では期待通りの性能を発揮できるのか気になる。今回はこの2本のアンテナをメインに使用することにした。



展望台上に張った ML-200

いつものようにアンテナ等、セッティング後、早速、キャビン内で皆さん、聞き始める。肝心の ML-200 だが、結構、良い感じで聞こえている。これは期待できるのでは？と思いはじめ。夕食まで皆さんとワッチ。今、考えると夕方は意外と TP が聞こえていたように思える。日本海側で聞く TP 局、なかなか乙なものである。夕食は今回はキャビン内での焼き物がメイン。アルコールも入り皆さんと話が花が咲く。色々とやり取りしている内に夜も、更けて 23 時過ぎになる。この時間、自分は和島で是非とも受信してみたい局があった。それは「しおかぜ」の中波放送である。この放送は北朝鮮の拉致被害者に向けてモンゴルから送信されている。ペディの数週間前から自宅でもそれらしいキャリアは受信できていたが、確認には至らず、やはり、日本海側に行かないと受信は難しいと考えていた。1431kHz に合わせて放送開始の 23 時半を待つ、23 時半にキャリアオン、「ふるさと」のメロディーが流れ始め放送が始まった事が確認できた。信号は極めて強い。試しに屋外に出て、ポケットラジオで聞いてみた所、此方でも良好に聞こえていた。この様子では朝鮮半島内でもクリアに聞こえている事だろう。早く拉致問題が解決できるようにという思いを込めて放送を聞いている自分の姿がそこにあった。

その後、03 時まで仮眠と思ったが、実はこの日は連休という事もあり、国内の民放放送が 03 時に放送開始してしまう日でもあった。そこで、自分は 03 時までワッチ。何か聞こえて居ないか、SDR でサーチする。すると、EX-Band でギリシャパイレーツが聞こえている事が解る。ここで、タイミング、よく今回も Gary Debock 氏、謹製の Ultralight Radio が登場。屋外で聞いてみた所、見事、1611kHz のギリシャパイレーツをキャッチできた。

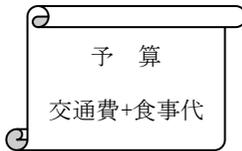


Ultralight radio でギリシャパイレーツをキャッチ!!

まさか、ギリシャパイレーツを Ultralight Radio でキャッチできるとは夢にも思わなかったので、正にこの瞬間、Ultralight Radio の性能の凄さを実感した次第である。その後、Ultralight Radio では、1449kHz のイランが爆裂入感。この局は、去年も受信できたが今年も強力な信号を届けてくれた。この受信もロケーションの恩恵を受けているのだろう。関東では考えられない受信だと、思った。長波では昨年受信できなかった、153kHz の Antenna Satelor の入感を確認。今季は太陽黒点数が極大期を過ぎ去って減少傾向にあり、その恩恵を受けた格好となる。これから、数年間は中波と長波は良い状態で受信できると思われる。所でアンテナの ML-200 だが抜群の性能を発揮してくれたようだ。K9AY から ML-200 に切り替えると国内の放送は全く聞こえなくなる。指向性が秀逸であり、FLAG ANTENNA で聞いているような感じに陥った。今後もこのアンテナは活躍してくれると思う。03 時以降は自分は SDR に任せて仮眠を取る。朝起きると、今回も綺麗な青空の好天気。今回も遠くに佐渡を見る事ができた。撤収後、いつもの朝食を取りに市場に行く、今回の朝食は刺身定食。相変わらず朝から豪華だ(笑)



その後、お土産を買い、燕三条駅まで送って頂きました、来年お会いしましょう。との誓いを皆で立てて帰宅の途に就いた。



中波 DX ペディは SDR 所有が必須なのか？

澤谷 淳一

「SDRを持っていないと、ペディに参加しても独り浮きそうでいやだなあ・・・。」

BCL 関係の雑誌やブログでよく目にする各クラブやサークルで開催している「ペディ」。ノイズの無い場所で思いっきりワッチできるは魅力ですよね。



専門誌にも多くのペディ記事が掲載されている

筆者も数年前 BCL の専門誌でペディの記事を読んで魅力を感じたものの、TDXC のペディへの参加に対して2つの不安がありました。

- 1) 自分はペルセウスといった SDR 受信機を持っていない。自分だけ普通のラジオでワッチするとつまらないのでは？
- 2) 参加メンバーは中波 DX の達人ばかり。会話

についていけず独り浮いてしまうのでは？

この会報を手に入れている読者の中にも、筆者と同じ不安を感じている方がいらっしゃるはず。そこで、「中波 DX ペディとは当日どのように進むのか」、「SDR 受信機を持たない中波 DX に全くの素人の筆者が参加した印象」を述べていきたいと思えます。

■ 中波 DX ペディについて

TDXC のペディを例に見てみましょう。

1. 開催目的
今のところ、受信対象は中波が中心です。時期により北米や東南アジアなど異なります。
2. 開催場所
神奈川県茅ヶ崎市の海岸、千葉県いすみ市太東崎などで開催することが多いです。また単発で北海道や沖縄にも足を延ばします。(さすがに参加人数は少ないですが。)
3. 参加者
平均年齢は 50 歳位？ですが、20 代のメンバーもいます。技術系、文系など多岐にわたります。

4. 日帰りペディと宿泊ペディ

1) 日帰りペディ

- ・移動はクルマ、電車様々です。
- ・日没時からのワッチに備え、16 時前に現地入りします。
- ・テント内での受信となります。
- ・夕食はコンビニ弁当が多いです。
- ・20 時頃には撤収します。



太東崎ペディでのテント

2) 宿泊ペディ

- ・移動はクルマ、電車様々です。
- ・日没時からのワッチに備え、16 時前に現地入りします。
- ・ログキャビンや民宿での受信となります。
- ・夕食は自炊や近所の料理屋が多いです。
- ・翌日の午前中には撤収します。
- ・仕事などの都合上、宿泊せず初日で帰るメンバーもいます。



茅ヶ崎ペディでのログキャビン

5. 開催日の調整

TDXC メンバーにメールで候補日が伝達され、ネ

ット上の「調整さん」などにより多数決で決定します。また、家庭や仕事の都合で急きょ欠席になるメンバーが毎回数人出ますがそこはお互い様です。

6. 持ち物類

1) 共用機材

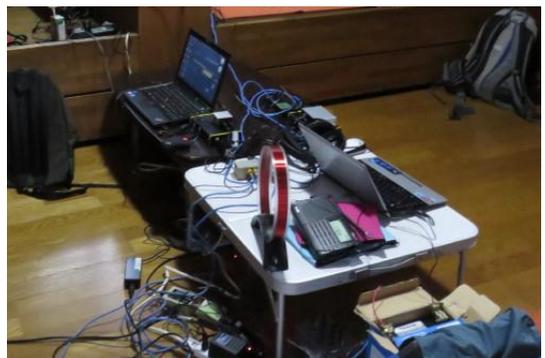
- ・テント、アンテナ、分配器、バッテリーは主要メンバーが持参します。



テントなどは全員で設営

2) 各自の持参物

- ・受信機材 (SDR、ノートパソコン、Ultralight DX 用ラジオ、IC レコーダーなど)
- ・アメニティグッズ (ミニデスク、座布団・折りたたみクッション、ヘッドランプ)



宿泊ワッチの場合はキャンプ用ミニデスクが便利

7. ワッチ中の様子

SDR で受信したデータを PC に取りこむ作業が中心となります。同時に各周波数をサーチしながら入感情報をメンバー間で共有します。

その情報を利用して Ultralight DX 用ラジオでの受信も楽しめます。ログキャビンやテント内はノイ

ズレベルが高いため、Ultralight DX は野外に出て行きます。



パソコンとにらめっこしながらのワッチ

日帰りペディでは、受信しながらコンビニ弁当をいただきます。宿泊ペディでは、受信はSDRに任せて、キャンプサイトで鍋を囲んだり、料理屋に出向きます。



受信はSDRにまかせて、事前に仕込んできた食材で鍋！

8. 費用の精算

現地の撤収が完了したら、帰りのコンビニなどに寄り、高速料金やガソリン代などを割り勘で精算します。

■ 筆者のBCLレベル

初心者の読者の方々と同等もしくはそれ以下の状況です。(笑)

- SDRは持っていません。Ultralight DX用に改造した中華ラジオやAN-200といった小型ループアンテナ程度が中心です。
- 中波DXに関しては、630kHz、850kHz、1548kHz、

1700kHz といった超常連局しか聞いたことがありません。

- 聴きどころが整理された周波数リストなど便利資料も持ち合わせていません。



ペディ用の設備はこの程度

■ ペディに参加した感想

2015年からチョイペも合わせて5回ほど参加してきました。そこから得た感想は、「初心者の自分でも十分楽しめる！」というものでした。

1. SDRがなくても十分楽しめる

筆者の受信スタイルは、Ultralight DX。外付けバーアンテナ改造ラジオや無改造ラジオと小型ループの組み合わせで海外中波局を狙います。

そのため、メンバーのいるログキャビンやテントを離れての受信となりますが、ずっと独りぼっちというわけではありません。SDR組のメンバーもUltralight DX改造ラジオを持って屋外に出てくるので、その時は合同ワッチ大会になります。



みんなでUltralight DX

なお、受信しっぱなしでは、一期一会で悲しいので、必ず IC レコーダーで受信音を持ち帰り、後日動画サイトなどで公開して情報の展開を行うようにしています。

2. 達人たちのリアルタイム入感情報は貴重

ただ無造作にダイヤルを回しても知識の乏しい筆者としては効率が上がりません。そこで、頻繁に SDR 組のテントにお邪魔して「どこが聞こえていますか〜？」と情報を仕入れに行きます。デルタフラッグなど専用アンテナ+SDR の組み合わせで受信できた局は、ポータブルラジオでもなんとかキャッチすることが可能だからです。



「〇〇kHz が聞こえているよ！」の情報は有難い

テントに顔を出すとそのままおしゃべりタイムになることもありますが、そこで仕入れた情報によりオーストラリア 4TAB (1008kHz) やキューバ Radio Rebelde (1620kHz) など今まで全く知らなかった局を聞くことが出来ました。

初心者だからこそ、達人たちにくっついて受信することはとても有意義だと思います。

3. 会話の 9 割は雑談

達人といえども、元は BCL や無線少年。ドライブ中の話題は、専門的な話題は殆どなく、BCL を始めたきっかけや関連するオモシロ話が中心です。初心者の筆者でも話の輪に参加でき、2 時間半のドライブの時もあったという間に現着してしまいました。

4. 短波ワッチはアリ？

「自分は短波がメイン」という方も多いと思いま

すが、そういう方々も十分楽しめると思います。開催時間がどうしても中波中心となってしまいますが、ノイズの少ない環境での受信は、短波でも成果を出せるのではないのでしょうか。



ノイズレスの環境は、短波でも有利なはず

■ ペディを上手に活用しよう

初心者から見ると、ペディというどうしても「参加させてもらう。」というイメージが先行しますが、是非「ペディという機会を上手に活用する」という姿勢で参加してみてください。

他の人との設備が違ってても、「自分の受信スタイル」を上手にペディに落とし込むことが出来れば、想像以上に楽しめますし、それは筆者が実証済みです。



自分のスタイルを大切に

そしてペディへの参加は、受信の幅だけでなく趣味としての奥行も広げてくれるとても良い機会だと思います。とはいえ、飛び入り参加で和気あいあいは、よっぽどの方でない限り難しいですよ。そ

のような場合、各クラブやサークルで開催しているミーティングや懇親会に参加して事前に顔見知りになってからペディに参加すると、自然に馴染めると思います。

■ 少しの勇気で世界が広がる

いかがでしたか。「これなら自分も参加できそう。」と思いませんか。今回は TDXC のペディを題材にしましたが、各クラブやサークルで開催しているペディも多少の条件は異なるにしても大きな流れは同じと思われます。

是非、自分に合ったペディを見つけて参加してみてください。ほんの少しの勇気で趣味の世界が大きく広がることを期待しています。

【筆者が参加した過去のペディ記録】

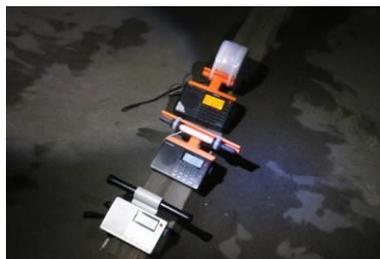
2017. 03. 19_千葉県いすみ市太東崎
<https://blogs.yahoo.co.jp/sawapon308/14851394.html>



2016. 09. 22_千葉県いすみ市太東崎
<https://blogs.yahoo.co.jp/sawapon308/14465442.html>



2016. 04. 16_神奈川県茅ヶ崎市
<https://blogs.yahoo.co.jp/sawapon308/14086678.html>



2016. 03. 14_神奈川県茅ヶ崎市
<https://blogs.yahoo.co.jp/sawapon308/14009126.html>



2015. 05. 23_神奈川県茅ヶ崎市
<https://blogs.yahoo.co.jp/sawapon308/13276769.html>



ちよいぺの軽量化

－ 試行錯誤編 －

板倉 健

Photo: Ken

■PROPAGATION2016も無事発行されまして、おおいに盛り上がりから数か月、忘年会の時期でしたか？某氏とちよいぺの軽量化の話題で盛り上がっていたのをしっかりとH編集長に聞かれておりました。(笑)という訳で、今回は得意な料理話(あまりDXには関係ありませんが。)は横に置きまして、普段取り組んでおりますちよいぺの軽量化について試行錯誤的なあれこれを書いてみたいと思います。

■様々なDxer 諸氏のブログなどを拝見してみると、ちよいぺ用の工夫も敬服させられるようなものが沢山ありますが、色々と自分なりに日々試行錯誤を繰り返して工作し、失敗してはまた工夫を重ねつつちよいぺなどでそこそこの成果が出たりする自己満足の世界だとも思っているのです、お酒の肴にでもなれば幸いです。

■かなり前になりますが、TDXCの自称工作班の面々が拙宅に集まり、何回か工作会を行った経緯があります。その時、盛り上がっていたのが「UltraLight Radio」。PL-380に外付けのバーアンテナを付けて、感度UPを図ろうというものでした。この「UltraLight Radio」はまさにちよいぺにはとても良い1台だと思います。(詳しくはPROPAGATION Edition4をご参照ください)

★PL-380改(UltraLight)★



★AN-200★【茅ヶ崎サザンビーチにて】

■最近ですと、こまめな定点観測でお馴染みのさわぼん氏が愛用しているミニループ「AN-200」+市販ラジオの組み合わせがとてもいいと思います。私も「AN-200」を持っていますので、ちよいぺに出かけた時に「UltraLight Radio」と受信比較をしてみたいと思っています。

AN-200を使用した記事はさわぼん氏が「手持ちラジオでお手軽高感度ミニループで中波DX大作戦」で詳しく記述されていますのでご拝読ください。

■少し変わったところでは、ドングル+スマホ+HFコンバーターの組み合わせで、スマホで中波を聞くことができます。ちよいぺの軽量化って意味では、最も軽量ですね。購入後早速家で試してみましたが、ゲインをかなり絞らないと、混信の嵐になってしまい(選択度が良くない)DXには向かない第1印象でした。

設定は比較的簡単にできます。拙宅で使用した機材と、設定方法は以下の通りです。

<機材>

- ・ドングル:TV28Tv2DVB-T(R820T2)チューナー
- ・スマホ:XPERIA(SO-04H)(Android)



- ・USB(microBtoA)変換アダプター
- ・HF UP CONVERTER: SC-HFCONV-100

+SC-HFCONV 専用収納アルミケースキット
(有)シャフトコーポレーション製)



- ケーブル:MCX-P/SMA-P 変換ケーブル
MCX-P/BNC/J 変換ケーブル
- HUB: USB3.0+2.0 7ポート HUB(5V)
- ガルバニックアイソレーター(自作)
- ANT:ALA1530S+Portable + CMC(自作)



<アプリケーション>

SDR Touch Live radio via USB(無料)
RTL2832U driver(無料)
SDR Touch Key(999 円)

GooglePlay より上記アプリケーションをインストールし、
機材を繋げば、とても簡単に AM ラジオが聴けます。
ただし、1つだけ注意点があります。スマホが USB ホスト
機能に対応している機種でないとう動作しません。(*1)
SC-HFCONV-100 は100MHzに UP コンバートする
のですが、DFC-28M(大進無線)の28MHzUP コン
バーターでも対応可能です。

とにかくとても簡単にラジオが聴けます。(スマホなら
「Radiko.jp」でいいじゃんとなつこみが入りそうです
が)しかし、前述したようにとにかくゲインを落とさない
と、混信がひどいし、DXには耐えられません。

ここで、ふと閃きました！HFコンバーターの先に、普
通に拙宅で使用している Δ LOOPX を繋いでいたの
ですが、 Δ LOOPX はアクティブアンテナなので、ゲインも
高い。そこで、前述の AN-200 で試してみたらどうな
のだろう？

早速ベランダにて聴いてみます。比較の為に同時に
PL380改(Ultraright)も聴いてみることにしましょう。
以下が比較データになります

<受信比較データ> (ANT AN-200)

1278Khz RKB 毎日放送(自宅)

•ドングル 34443

•PL380改 44444

1287kHz 北海道放送HBC(自宅)

•ドングル 34343

•PL380改 44343

1161kHz NHK(熱海)(サザンビーチ)

•ドングル 45454

•PL380改 45544

★PL380改はAN-200と垂直になるように配置、ド
ングル+HFコンバーターはAN-200とケーブル接続。

■なかなかいいじゃないですかあ(笑)

AN-200がちょいと嵩張るのが、難点でしょうか？
スマホ+ドングル+HFコンバーター+AN-200の
組み合わせベターです。

ちなみに、USBHUBの電源供給(5V)ですが、拙宅
ではACアダプタを使用しましたが、先日TDXC諸氏と



茅ヶ崎にちょいぺに出かけた折には、後術のBESTEKの5Vバッテリーを使用しました。

その後も拙宅にて、ドングルのSDRソフトを操作してみました。今ひとつチューニングの操作性が悪い感じがします。オプションメニューでAGCやSquelch、Gainコントロール、FilterWidthの設定などの細かい設定はありますが、私の読解力不足のせいか、今一選択度の向上は出来ませんでした。(引き続き要調査です)

★(*1)スマホにUSBメモリやマウス、キーボードを接続して使うことができる「USBホスト機能」に対応している機種 of スマホでないとは動作しません。

■ノートPCベース+SDRとなると、比べるのは

- ・エクスカリバーPRO GDC33
- ・ペルセウス
- ・SDM-F2

の3つでしょうか。

拙宅の固定BCLでは、上記3台を聴き比べていますが家では、軽量化は意識しないので、SDM-F2以外は普段の電源はリニアトランス式の安定化電源から供給していますが、ちょいぺに出かけるとなると、バッテリーが重いの、やはりバッテリーの軽量化が一番でしょう。



★鉛バッテリー 1.9kg 12V 2000mA

鉛のバッテリーは安定していますが、重いのが欠点です。スマホ充電用の大容量モバイルバッテリーは5Vなので、

ALA1530S+IMPERIUM Portable(12V)アンテナには使えません。



★大容量モバイルバッテリー 354g 5V 20100mA

5V⇒12VUPコンバーターという手もありますが、機材が増えるので除外と思っていました。

ところが、モバイルバッテリーのOUT側(USB端子)とDCプラグ(2.5mmオス)の変換ケーブルを検索してみたら、なんと5V⇒12Vの昇圧コンバーター付の変換ケーブルを見つけてしまいました！

コンバーター部分がUSB側の端子に小さく格納されているので、嵩張らずこれは便利な1品です。(推測ですが、昇圧コンバーターの場合熱量が少なく放熱板が不要なので小さくできるのだと思います)



★LANMUUSB 5V-9V/5V-12V 電源供給ケーブル (BoostInside) (*2)

迷わず「ちょいぺの軽量化」の1品に加えましょう(笑)

■最近ネットでみつけたジャンプセットというバッテリーをいくつか購入してみました。(車の緊急用スターター)ジャンプセットのバッテリーは基本12Vなので、ANTに

はそのまま供給できて、スマホ充電用の5V出力端子もあるので、PERSEUS(定格5V 700mA)にも使えます。もちろんエクスカリバーは12VなのでOKです。問題は長時間稼働できるか??実験したところでは、1台あたり2時間程度のちょいペなら問題なく稼働できます。(今回限界までは試してません)ジャンプセットのバッテリーは鉛バッテリーに比べて軽いので、2個持参しても有りですね。

ジャンプセットのバッテリー(12V)&モバイル充電バッテリー(5V)の組み合わせで、ちょいペに出かけるのが最も機材が少なく且つ軽くて済みそうです。



★ジャンプセット 662g 12V/5V 5600mA

ジャンプセットのバッテリーは何種類かカラーがありますが、うち1つのカラーリングがPERSEUSのカラーとほぼ一緒なのでとてもマッチします。



★PERSEUS とジャンプセットバッテリーのペア

■先日茅ヶ崎柳島キャンプ場でのペディの折に、PERSEUSの帯域録音が途中でフリーズしてしまうという不具合がありました。S師の見解ではPERSEUSは電圧

の変化に弱い傾向があるとの事でしたので、鉛バッテリー⇒(ワニロクリップとDCプラグケーブル自作)⇒自作DCDCコンバーター(12V/5V)⇒自作DCケーブル⇒PERSEUSの接続のどこかに原因があると睨んでいました。

ジャンプセットバッテリー⇒USB/DCケーブル(市販)⇒PERSEUSとシンプルな構成にしたので上記問題はとりにあらず解決です。

■次は、アンテナマストの工夫です。

ALA1530S+IMPERIUM Portableの支柱はネットで見つけた「のぼり用の支柱」を使っています。

SDM-F2は電源はPCのUSBからの供給なのでいいのですが、ANTが12VのALA1530S+IMPERIUM Portableを使用しているので、12Vの小型バッテリーは必要となります。思い切ってパッシブ型のアンテナでちょいペに行くなら、迷わずSDM-F2を持って行きます。しかし、前述の5V⇒12V昇圧ケーブルを見つけたおかげで、ジャンプセット&モバイルバッテリーでも十分行けるのでANTのバッテリー問題は解決しました。

それはさておき、支柱の持ち歩き用の工夫ですが、のぼり用の支柱をゴルフのアイアンケースの入るくらいのちょうどいいサイズにカットして、中に繋ぎ用のパイプをセットして、最長3m位の高さが確保出来るように加工しました。のぼり用支柱の先端部分に、プラスチックのイレクターパイプ(1m)とジョイントを真ん中につけて接続すれば、T字形の三角LOOP部の出来上がりです。

ALA1530SのアンテナBOXと3mの同軸ケーブル(BNC)を接続して、逆三角形のLOOPが完成です。



のぼり用支柱を支える土台は、購入したのぼりに付属していたのですが、4方向に足が90度広げる形になっていて、安定感はあるのですが、かなり重いのが欠点で



す。(鋼鉄製) ちよいぺに出かけて、支柱を支える適当な樹木や柵があればゴムバンドでぐるぐる巻きで済むのですが、何も支えになるものが無い時は、土台がないとどうしようもありません。また、バイクや車の時は多少重い土台を持参しても問題ありませんが、電車や自転車の時は少しでも機材を軽くしたい！



ランタンスタンドとペグを使って、固定するっていう方法も試しましたが、ランタンスタンドもかなり嵩張ります。ここは、課題が残るところです。



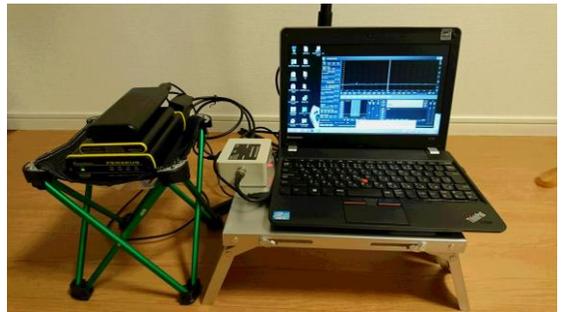
★アンテナセット(ALA1530s+ & 支柱)

■ちよいぺ用セットが出来上がりました。

- ノート PC (ThinkPAD)
- PERSEUS (定格:DC5V 700mA)
- BASTEK バッテリー (5V/12V) × 2
- ALA1530S+IMPERIUM Portable (3mBNC ケーブル)
- 5V/12V 昇圧変換ケーブル (ANT 用)
- ANT 用支柱 (のぼり用)
- ガルパニックアイソレータ (自作)
- CMC (自作)
- ANNKA モバイルバッテリー (5V) 予備
- USB コード、USB 電源コード、イヤホン

<サブセット>

- PL-380 改 (Ultra Light)
- AN-200 (ミニ LOOP)



★PERSEUS とバッテリーセット

■ちよいぺ用のアンテナはLOOP型 (ALA1530s+) を使用していますが、フラグアンテナのNULLの抑え込み (指向性) には敵いません。いつもTDXC諸氏のペディに参加させて頂くときは、N氏持参のTDDFを張るので使わせて頂いておりますが、1人でちよいぺに出かけた時もフラグアンテナ願望はもちろんあるわけです。

先日茅ヶ崎の柳島キャンプ場にて開催されたペディにてアンテナの大御所であるS師に伺ったところ小型のフラグアンテナでも充分楽しめるそうで、さらにさらに、LOOPでもNULLを抑え込める？って言われていたような気が。。

又、LOOPアンテナも支柱ではなくALAの室外BOXからロッドアンテナを伸ばすイメージで簡略化しようと試みていますが、まだまだ試行錯誤中です。

色々DXer先輩諸氏のご意見を聞きながら、奥深きアンテナとBCLを楽しんで行きたいと思っている今日の頃です。

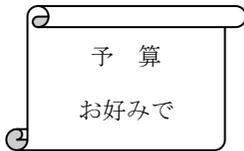
(※2) 昇圧変換ケーブル使用時のMW, SWでのノイズ発生はありませんでした。

<終わり>



チャレンジ難易度目安 (5段階)

ミニテントを活用



冬の江の島 テントで快速移動大作戦

澤谷 淳一

「ノイズの少ない野外での受信や無線活動は魅力だけど、冬は寒くて・・・。」

近年よく耳にするチョイペ。大勢の仲間で大々的に遠出をして大きなテントやアンテナを建て、遠方を狙うペディに対して、比較的近所で手軽にワッチするのがチョイペ。空いた時間を利用して手軽にチャレンジできるのが魅力ですね。

チョイペのスタイルは、屋外にテーブルを置いてそこにお店を開くのが一般的ですが、日も暮れて冷たい風に吹かれながらワッチするのはさすがにできませんし、突然の雨の場合には大切な荷物が濡れてしまいます。

中と外は薄い膜だけで仕切られていますが、テントの中は風も入らず驚くほど快適です。誰もが幼いころに憧れた「秘密基地」という言葉がぴったりのミニテント。あなたもチャレンジしてみませんか？

■ テント導入に必要なもの

キャンプ経験がない方の場合、テントの導入は敷居が高く感じられそうですが、心配いりません。最低限必要なものは「テント」「床マット」「グランドシート」の3つだけです。

あとはそれらを詰める大きめのザックがあれば完璧です。



雨に降られた昨年の太東崎ペディ



最低限の持ち物はこれだけ

そんな時は、ミニテントを導入してみましょう。

普段からザックに詰め込んでおけば、思い立った

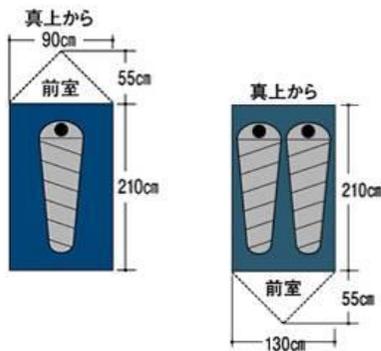
らすぐに出かけられるので、今まで以上に受信のアクティビティが上がること確実です。(笑)

■ 「テント」について

今回は、一人でのチョイペを主眼としていますので、テントもそのサイズを前提にお話していきます。

1. 狙い目は二人用

一人で使うから一人用と思いがちですが、荷物の置き場所を考えた場合、二人用が丁度良い広さで重さも一人用とさほど変わりません。



幅のわずかな差でも居住性は大きく異なる (※1)

2. 一人で設営できるクロスドーム型

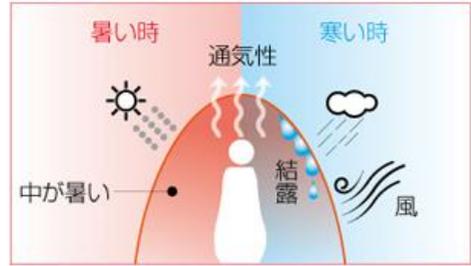
設営は一人で行う必要があり、あまり複雑な形状のテントは避けましょう。2本のポールをエックス状に組み合わせるクロスドーム型が設営・撤収共に簡単でお勧めです。



シンプルな形状のクロスドーム型 (※2)

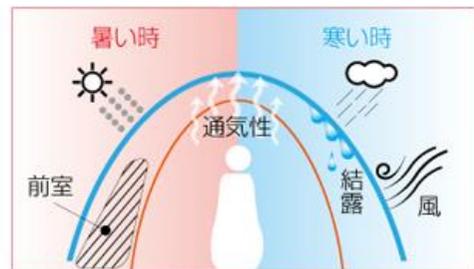
3. シングルウォールとダブルウォール

シングルウォールは名前の通り 1 枚の膜で空間が構成されるタイプで、テント本体の膜が防水機能を持っています。



シングルウォールの特徴 (※3)

ダブルウォールテントはテント本体の上に雨避けの防水フライシートをかぶせたタイプで、2枚の膜の間の空気層のおかげで外気の影響を受けにくく、室内の結露も少ないのが特徴で多くのテントはこのタイプになります。



ダブルウォールの特徴 (※4)

シングルウォールの方が軽量で設営もより簡単ですが、その分価格も高くなります。筆者も購入に当たりどちらにするか最後まで悩みましたが、価格面でダブルウォールタイプを選びました。

変わり種として、テント全面がメッシュになっていて風通しがいよタイプも発売されています。夏の受信に活躍してくれそうですが、使用時期が限定されるので初めて購入する場合は避けた方がよいでしょう。

4. グランドシートで汚れを防ぐ

地面の上に直にテントを張るとテントの底が土で汚れてしまいます。また、乾いているように見えても地面からは水分が蒸発しているため、テントの底が濡れていき、下手をすると室内に水が浸入することになります。

これらを防ぐのがテントの下に敷くグランドシートです。オプションとして発売されていることが多いです。

グランドシートの大きさはテントの床面と同じか少し小さなサイズを選びます。床面より大きいと雨が降った時にグランドシート部分に降った雨がテントの下に流れ込む可能性があるからです。

雨の心配がない日のチョイペであれば、安いブルーシートをグランドシート代わりに使う方法もあります。



厚めのブルーシートで代用も可能

5. 価格と重さは反比例

当たり前ですが、登山専門店やスポーツショップなどで売られている登山用は全ての材質が軽量化されており値段も4万円前後と非常に高価です。

ホームセンターなどで売られているツーリング用は登山用に比べ重さも収納サイズも多少大きくなりますが、1万円を切る商品もありお財布に優しいのが魅力です。



お財布に優しいツーリングテント (※5)

目的地までの移動が電車中心なら登山用、車中心ならツーリング用といったように自分のチョイペスタイルに合わせて選ぶのが良いでしょう。

インターネットの商品レビューや購入者のブログも参考になりますのでチェックしてみましょう。

6. 必ず試し張りを行いましょう

テントを購入したら実践投入する前に必ず近所の公園などで試し張りを行いましょう。未開封のままチョイペに持っていき、ぶっつけ本番で張ると設営に手間取りワッチの時間が十分とれない事態になってしまいます。

また設営時より撤収時の方が難しいことも覚えておきましょう。ミニテントの場合、収納バックが小さめに作られていることが多く、綺麗に畳まないで入らないので、何度も練習しよう。

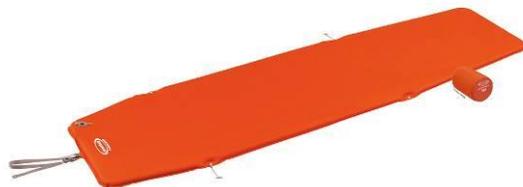


収納バックに合わせてテントを畳む

■ 「床マット」について

テントの床は薄い膜のため、地面のゴツゴツや冷たさが直接伝わり居住性が良くありません。そのためテントの中にマットを敷きます。マットの種類には、「空気注入式」「ウレタン+空気注入式」「ウレタン単体マット式」などがあります。

空気注入式は使わない時は空気を抜きコンパクトになるので嵩張らず使いやすいのですが、値段が高い傾向にあります。



収納サイズがコンパクトな空気注入式 (※6)

ウレタン単体式は、丸めたり折りたたむことで収

納めますが、空気注入式に比べて嵩張る傾向にあります。表面がアルミ蒸着された断熱性に優れた商品もあります。



アルミ蒸着されたウレタン単体マット

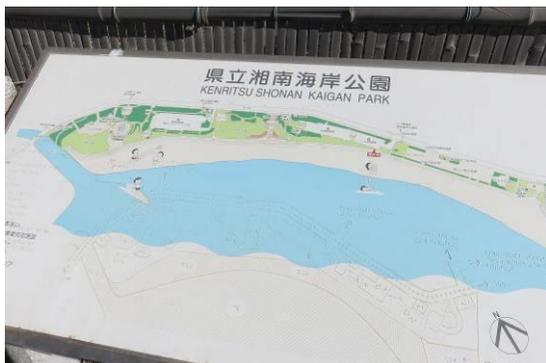
筆者は以前ウレタン単体の丸めるタイプを使用していたのですが、丸めても真ん中に隙間ができてしまい嵩張る、巻き癖が付いてテントの中で丸まってしまうため、現在は折りたたむタイプを使用しています。

長さも 1.5m や 1.8m など種類がありますが、ラジオを聞くだけといっても横になりたいこともあるでしょうから 1.8m をお勧めします。

■ 冬の江の島移動レポート

1. 今回はアマチュア無線のチョイペ

2017 年のお正月気分が抜けてきた週末、江の島から少し西側の「湘南海岸公園」に行ってきました。



目の前が砂浜の気持ちが良い公園

10:30 に小田急片瀬江ノ島駅に到着。海岸沿いに出るとドーンと江の島がお出迎えです。



竜宮城のような片瀬江ノ島駅



無線機・アンテナもあり、ザックはパンパン

天気は良かったのですが、あいにく風が冷たく、そのおかげか遠くには雪をかぶった富士山を眺めることが出来ました。



スカッと晴れた湘南の海

戸塚 DXers サークルのメンバーには事前にメールで移動することを連絡。筆者の電波がどれくらい聞こえるのか受信してもらうことにしました。

2. まずはテントの設営

現地に到着後、一息ついたら周りの人の迷惑にならない所にテントを設営します。テントの中に風が入らないよう入口が風下に来るようにします。これを怠ると、テントが風であおられる危険性があるからです。



設営の手間も実は楽しい

晴れの日で昼間のテントなら、フライシートは不要ですが、風が冷たかったので今回は使用しました。



秘密基地が出来ていく



四隅にペグを打って地面に固定したら完成！

5分程度で設営完了。室内にウレタンマットを敷き、荷物を入れて機材を配置していきます。



2人用のテントでも荷物を広げるとこのとおり

今日は 21MHz での無線運用を行うのでアンテナも設営します。持参した釣竿アンテナをホームセンターで購入したラック用パイプを使って垂直に建てます。

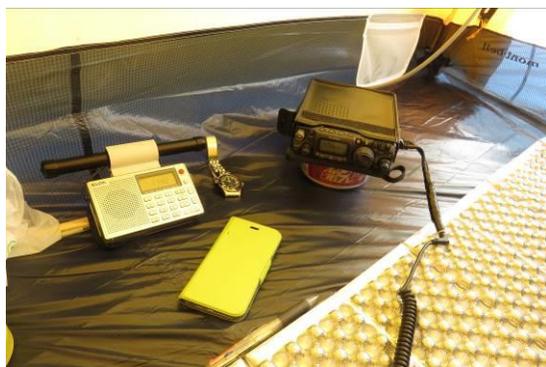


完成したお手軽アンテナ

3. 仲間に届かない自分の電波

再び、戸塚 DXers サークルのメンバーに運用開始をメール。今日の無線機は短波 (HF) 帯移動運用の

定番、八重洲 FT-817ND。最大出力 5W ですが、今日はエネルギーでの運用のため 1W で頑張ります。



早速、運用開始！

仲間に届くことを期待していざオンエア！スタンバイすると。「・・・」何も聞こえてきません。

手元のスマホには「聞こえません。」「空耳っぽく何か聞こえる程度。」などのメールが。なんとか、HAさんとだけ 54/32 で QSO 成立となりました。



打ち上げ角が低い垂直系アンテナだからか？（※7）

MY さん（かながわ SC99 局）@相模原

→ QSO ならず 距離 20Km

HA さん（JS1BXH 局）@戸塚区

→ QSO なんとか成立 距離 15Km

IK さん（JA1FUE 局）@戸塚区

→ SWL ならず 距離 8Km

楽々 QSO 成立とはいきませんでしたでしたがワッチしてくれたメンバーに感謝です。その後、打ち上げ角の低さを活かした遠距離 QSO を楽しみました。

沖縄県石垣島移動局 58/55

パラオ共和国移動局 59/59

4. 昼食はカップ麺、そしてお昼寝

お昼になったので、カップ麺で昼食です。山専用ボトルで持参した熱々のお湯を注ぎ、てんぷらそばをいただきます。



テントの中での食事は凄く楽しい

相変わらず外は風が強く真冬の寒さですが、テントの中は陽射しのおかげでポカポカ。着ていたダウンも脱いでシャツ一枚でも十分過ごせる暖かさです。ミニテントの本領発揮ですね。



室内は 20°C 以上！



波の音を聞きながらお昼寝、贅沢なひと時

5. 撤収こそ丁寧に

15:00 過ぎに撤収作業を開始します。前にも述べましたがテントは張る時より畳む時の方が難しいので丁寧にいきます。ポールやベグなど細かい部品も忘れやすいので一か所にまとめて仮置きするのが良いでしょう。



ポールは長いので周りの人に注意しながら折たたむ

アンテナも解体して、全てザックに収まるまで30分くらいかかりました。



ゴミが残っていないか確認して撤収

■ テントペディの注意点

ここで、注意点について述べておきます。

1. テントの中では火気厳禁

テントの中でシングルバーナーなど火気を使うのは厳禁です。テントには通気口が付いていますが、酸欠で死亡したり、テントに火が付いて炎上などの危険性があります。

シングルバーナーなどでお湯を沸かししたりするときは必ずテントの外で行いましょう！



通気口が付いているからといって火気使用OKではない

2. テント泊は許可されている場所で

チョイベでは日帰りがほとんどですが、やはり宿泊してみたくするのが人情ですね。しかし残念なことに大抵の公園などではテント泊は許可されていません。必ず事前に確認を取るようにしましょう！

またテントの設営自体、禁止されていることもありますので、現地の注意書きの看板をチェックしておきましょう。

3. 周りの人に迷惑を掛けない

いくら日帰りテントといっても、風光明媚な撮影スポットのド真ん中にテントを設営するなど、周りの人に迷惑を掛けないように注意しましょう。

■ 最後に

ミニテントの活用、いかがでしたか。ノイズが少ないロケーションで快適なワッチが楽しめる一つの方法です。テント一つで新しい世界が広がるかもしれません。是非チャレンジしてください。

【使用したテント類】

テント：mont-bell ステラリッジテント2

マット：サーマレストZライト ソルレギュラー

【出典】

・写真（※1～4、6）

mont-bell <http://www.montbell.jp/>

・写真（※5）

LOGOS <http://www.logos.ne.jp/>

・写真（※7）一部加工

yahoo 地図 <https://map.yahoo.co.jp/>



新潟県コミュニティ FM 局 全局受信ドライブ

五十嵐 雄希

2016年の夏休みは8/10～8/17の期間で予定通り休めそうであるが、家族それぞれ仕事や塾の夏季講習、学校の部活などでなかなか予定が合わず、家族全員で出かけられそうなのは8/13,14くらいである。この日は渋滞のピークになる模様で出かけるのは避けたいが、2年程仕事の都合で帰省していないし、年明けは息子の高校受験を控えており次の正月休みも帰れそうにない。一家全員では難しいが、少し顔を見せに行こうということで、ドライブがてら一人で8/10～12の3日間帰省することにした。

せっかく一人で帰るならば新潟のCFM局を満喫しようということで、早速調査する。ネットを検索すると、新潟県のHPに各ラジオ局や地域コミュニティFM局の周波数一覧が掲載されている。

<http://www.pref.niigata.lg.jp/bosaikikaku/1234123293550.html>

これによると新潟県内にCFMは12局あり、最北は新発田市、最南は妙高市にある。新潟県は縦に長いこともあり、かなりの距離があるが(約170km)、幸い島しょ部に佐渡島や粟島にはなかったため、今回の思いつきが現実的なものとなった。今回、原則として各CFM局のサービスエリア内で自社製作番組を聞いてレポートを送付することを目標とし、局舎またはスタジオにも行きたい。移動時間も考慮しながら、自社製作番組が放送されている時間帯に聞くというの

が結構難しく、夜には実家につくことを条件とすると、1日4局程度が限界である。また、番組表を事前にチェックした上でルート選定することが重要である。そこで、おおまかな計画を以下のようにした。

<新潟県CFM受信ドライブ計画>

一日め: 横浜→圏央道→関越道→実家への経路を考慮し、中越地方の局を受信

二日め: 実家から北側の下越地方の局を受信

最終日: 上越地方の局を受信後、上信越道→関越道→圏央道のルートで自宅へ

訪問順序は最短距離優先とせず、自社製作番組を聴けることを優先してルーティングする。



■1日目 8/10

① FM雪国(FMゆきぐに) 76.2MHz

出発前日にインターネットの路線検索ツールで調べたところ、戸塚→湯沢IC間は約3h程度、FM雪国のタイムテーブルによれば、14:00まで自社製作番組のようである。次のFMとおかまちのローカル番組が15:00からなので、十日町市への移動時間も考慮し12:30着を目標とし、余裕をもって8:00前に自宅を出発。ところが、圏央道の鶴ヶ島JCT付近で渋滞、さらにはその先でも渋滞があり、早くも計画に黄色信号が点灯。途中の休憩を無理の無い範囲で最小限とし、12:20頃に関越トンネルを抜けてすぐの土樽PAにて休憩。ここでFMゆきぐににチューニングすると弱いながらもなんとか聞こえ出す。湯沢ICにて関越道を降り、一般道で越後湯沢駅近くの公営駐車場に駐車し”ミセスダイナマイト”という生放送の情報番組を楽しむ。越光玄米蔵からのレポートで、酒粕のソフトクリームなどの名物が紹介されており、行って見たくなったが、この日4局制覇のためここは我慢。この後、スタジオに向かおうと思い改めて調べてみると、スタジオは南魚沼市六日町にあることが分かった。勝手に越後湯沢駅周辺だと思い込んでいたが、あわてて六日町に向かう。20分ほど車を走らせると、国道17号線の六日町の交差点から「FMゆきぐに」の文字が見えた。



FMゆきぐにの局舎



FMゆきぐにのQSLカード

② FMとおかまち(ほっこりラジオ) 78.3MHz

六日町から峠道を通り、十日町市へ。13:40頃にFMとおかまちの入っているキナーレに入る。キナーレは美術館や入浴施設、レストラン、物産売り場などが併設された施設で、道の駅クロステンと併設されている。15:00から始まるローカル番組まではまだ1時間以上あり昼食もとっていなかったため、まずはお腹を満たそうということでFMとおかまちのスタジオ横にある越後しなのがわバルに入る。どうせならば地もの食べたいので”畑のお肉どんぶり”を頼む。名産の車ふや野菜のどんぶりと具沢山のお吸い物、つけものなどがついており、ごはんも野菜もとてもうまい。



畑のお肉どんぶり

満足したところでまだ時間があるので、明石の湯に浸かることにする。平日ということもあり空いており、広々とした湯船で足を伸ばして浸かる。15:00前に湯から上がり、休憩所でのんびりしながら受信することに。15:00から”ライトオンアワー”という番組が始まり、聞いていると「松代地区で熊が目撃されたため、付近の皆様はご注意ください。」なんていう山間部独特の情報があつたりして、ローカル感を楽しむ。30分ほど聞いたところで、スタジオに向かい、少し見物したところで車に戻り、FMとおかまちを聞きながら次の目的地へ向かう。



ほっこりラジオのスタジオ

③ エフエム魚沼(FM うおぬま) 81.4MHz

十日町市から魚沼市に向けて、峠道をドライブ。次のFM 魚沼は局のHPに番組表が掲載されておらず、ローカル番組が聴けるか若干の不安が。魚沼市に近づいてくると、FM 魚沼が聞こえてきた。内容は市からのお知らせのような内容のローカル番組である。(帰宅後に再度確認すると、8/12に番組表が掲載された。2015年12月に開局したばかりであり、同局のHPはまだ発展途上にある。)

スタジオのある魚沼市役所堀之内庁舎の駐車場にて番組を聴いた後、スタジオ見学できるか見に行く。庁舎の入り口付近にFM 魚沼のポスターがあることは発見できたが、どうやらスタジオは庁舎の3Fのようである。すでに17:00を過ぎており、職員の姿もまばらで、庁舎の3Fにズカズカと行ける雰囲気ではない。残念ながらスタジオ見学はあきらめ、次に向けて出発する。



FM うおぬまのポスター

④ FM ながおか 80.7MHz

国道17号線を長岡方向に走る。小千谷あたりからFM 長岡が聞こえ始める。FM ながおかの番組表によれば、しばらく自社制作番組が続くようなので、宮内駅前の青島食堂で長岡名物のしょうがラーメンを食べていくことにする。新潟4大ラーメンの一つである長岡系ラーメンと言われ、豚ガラを使った比較的油っこい醤油味に生姜の風味を利かせたスープに、柔らかめのチャーシューが組み合わされるラーメンである。

秋葉原にも出店したようであるが、ここ数年は帰省する度に立ち寄っている店である。



長岡名物 青島食堂のラーメン

ラーメンを食べた後に、駐車できる場所で聞くことにする。18:30からの”地域広場多言語放送 ワールドカフェ”という外国人居住者向けにやさしい日本語と英語、中国語で長岡市からのお知らせや便利情報等を伝える番組を30分聞いたところで、引き続き次の番組を聞きながらFM ながおかの社屋がある場所に向かう。カーナビにセットした住所に到着したが住宅地の真ん中のようなところでそれらしい建物が見つからない。周辺を何度か走ってみたものの、見つかることができず、19:30を過ぎてすでに日も暮れており、周囲の様子も見えずらいので、スタジオ見学はあきらめて実家に向かうこととし1日目は終了。



FM ながおかの QSL カード

■2日目 8/11

⑤ FM にいつ(RADIO CHAT) 76.1MHz

朝7時頃起床し、まずは両親と墓参りに向かう。行く途中は小中学校時代の学区内であったり、遠足で行った河川敷であったり懐かしかったが、早々に済ませて新潟市秋葉区(旧 新津市)にあるFMにいつに向かう。向かいながら同局を聞いているとしばらくはなつかしの歌謡曲が流れていたが、10:00からはスタジオから生放送の番組である。ナビの案内に従い、到着したところには鉄道科学館なるものがあり、敷地内にはSL C57と上越新幹線の初代車両が展示されている。新津はJRの3路線が乗り入れる新津駅があ



新津鉄道資料館のC57と上越新幹線車両

り、さらにはJR東日本の車両製作所がある鉄道の町である。同じ敷地内の新津地域学園という建物内にFMにいつのスタジオがあった。建物内に入ると、1Fにスタジオがあり、スタジオ前には見学用に椅子がならべられていたため、10:00開始の番組”クリック秋葉区”を聞きながら見学した。



FMにいつのQSLカード

番組が始まると、パーソナリティの東村里恵子さんがオープニングの中で「スタジオ前には黒いポロシャツにめがねをかけたお兄さんが遊びにきて下さっています。」などと紹介され、お兄さんというよりはおじさんなんだけど...と少々照れくさい。

40分ほど見学したところで、次の目的地に向かい出発する。車中でも引き続き聞いていたら、11:00から引き続き東村さん担当の”なじらねラジオ”が始まり、メッセージを募集していたので、帰省しておりドライブしながら聞いている旨と先ほどスタジオ見学にお邪魔したことをメールすると、番組で読んでもらうことができ良い記念となった。

⑥ エフエム角田山(ぽかぽかラジオ) 84.9MHz

次は新潟市西蒲区(旧 巻町)にあるエフエム角田山を目指す。局名にもなっている角田山は巻町観光の中心地であり、海沿いに立つ標高481.7mの山であり、隣の弥彦山とともにハイキング、登山をする人々でにぎわうスポットである。この角田山を目印に田んぼの真ん中を走る道をドライブする。この風景は新潟の平野部で育った私としては一番落ち着くというか田舎に帰ってきたと感ずることができる風景である。



新潟の田園風景



ぽかぽかラジオのQSLカード

エフエム角田山付近に来たところで、ショッピングセンターの駐車場で”ラブラブサースデー”という生放送の地域情報番組を聴く。この日は山の日であり、山の日

についての話題や、甲子園でこの日に出場する新潟の中越高校についての話題などを聞く。その後、エフエム角田山の局舎を見た後、次の目的地へ向かう。

⑦ エフエムしばた(Radio AGATT) 76.9MHz

次の目的地は新発田(しばた)市にあるエフエムしばたである。新潟市西蒲区から新発田市への距離は55kmほどであるが、国道116号線と国道7号線の新新バイパス(無料の自動車専用道路)を使用しておよそ1時間程度であり、田園風景と青い空を見ながらの気持ちよいドライブであっという間についた感じがした。新発田市についてから15:00からの自社製作番組が始まるまでは1時間ほどあったので、食堂で昼食をとった後に、スタジオのある新発田市生涯学習センターに向かう。スタジオは生涯学習センターの一角にあり、ガラス貼りのスタジオの前にはテーブルと椅子が並べられていた。15:00からの番組は”かお



Radio AGATT のスタジオ

るとちあきの新発田の風って美味しいね”という番組で、”かおる”とは新発田市長の二階堂馨さんであり、ちあきさんとの軽妙なトークが楽しい。生放送ではなく、再放送であったが、スタジオ前で番組を楽しんで、生涯学習センターを後にした。その後、新発田城跡を見て、次の目的地である新潟市 JR 新潟駅前に向かう。



新発田城



Radio AGATT の QSL カード

⑧ けんと放送(FM KENTO) 76.5MHz

次の目的地である FM KENTO の番組表によれば、木曜日は朝から 23:00 まで一日中様々なジャンルの音楽を流しているようであるが、唯一 16:20~16:30 ニュース、天気予報を放送しているようである。新発田市から FM KENTO のある JR 新潟駅前に向けて FM KENTO を聞きながら国道7号線新新バイパスを逆戻りする。新潟駅前につくと、車を駐車場に停めて、FM KENTO のある駅前プラカ3ビルに向かう。プラカ3の入り口にスタジオがあったが、入り口のカーテンが閉まっており、少し眺めてから再び車に戻



FM KENTO のスタジオ

り、FM KENTO を聞きながら実家に向け走る。16:20 少し前に沿道の停車スペースに停車し、ニュース、天気予報を待ち受けるが、時間を過ぎても相変わらず音楽が流れている。16:30 に CM が入り、いよいよニュース、天気予報か！と思ったが、CM の後は再び音楽が流れ、こりゃレポート書けないな...と思いながらも CM の内容のみスマホに記録し、観念して実家に向け再度走り出した。そうこうしているうちに、サービ

スエア外となり、聞こえなくなりました。

⑨ 燕三条エフエム(ラヂオは〜と) 76.8MHz

新潟市から実家に戻る途中で、燕三条エフエムのスタジオがあるJR燕三条駅に立ち寄る。しかしながら、行くと見るとスタジオがあったはずの場所は蛻の殻になっている。スタジオはどこに行ってしまったの〜と思いながら、実家に戻る。



ラヂオは〜とのスタジオがあったはずの燕三条駅

実家に帰った後、FM KENTO の敗北感から本日の最終ノルマである燕三条エフエムをすぐにも聴きたい気分であったが、十日町市に本店を置く有名なそば屋である小嶋屋の県本店に行き、両親、姉夫婦、妹家族と団欒のひと時を過ごす。おいしいそば、てんぷらなどを食べて、大満足で実家に戻る。

実家に戻ると早速ラジオを付け、20:00 からの”燕三条系さとちん電波”を聴く。この番組、パーソナリティのさとちんとお菊さんがリスナーのメッセージを読みながらうだうだと話しているだけの番組であるが、お菊さんのコテコテの燕三条弁とうだうだと話している話題が楽しく、あっという間に1時間の番組が終わった。

改めて、燕三条エフエムのスタジオの場所を同局のHPで調べてみると、燕市の交通公園というところに移っていることが分かった。明日予定している上越地方の3局に向かう前に立ち寄ることとし、二日目を終了した。

■最終日3日目 8/12

最終日の最初の目的地は柏崎市のFMピッカラであるが、その前に燕市交通公園にある燕三条FMのスタジオに向かう。実家から車で30分ほどで到着。広々とした公園の一角に小さな社屋があり、その中にスタジオがあった。生放送の時間ではないためスタ

ジオは無人であり、早々に柏崎市に向け出発する。



交通公園内の燕三条エフエムスタジオ

⑩ 柏崎コミュニティ放送(FMピッカラ)

燕市から柏崎市に向けては長岡市の寺泊地区方面に向かい、海岸線沿いの道を柏崎市に向け走る。夏の青空と日本海を眺めながら、混雑のない道を走るのは本当に気持ちがいい。しばらく走るとFMピッカラが入感し出す。



柏崎に向けて日本海沿いを走る国道402号線

東京電力の柏崎・刈羽原発の近くにTEPCO サービスホールという広報施設があり、ここで休憩をかねて受信する。この施設、高校生のときに見学に訪れており、30年振りの訪問である。ここで聴いた”Morning View”という朝7:00からの生放送番組では、9:00前の10分間近く原発に関する情報が放送されており、柏崎は原発の街なのだ改めて実感。

ところで、FMピッカラの”ピッカラ”とは柏崎市に本社や工場があるお菓子メーカーの(株)ブルボンの製品である”ピッカラ”が由来だと思い込んでいたが、あらためてFMピッカラのHPを見ると”ピッカラとは、柏崎の民謡、三階節の一節からとりました。米山から雷が光る様子を表わしています。その雷を電波のイメージと結び合わせ、愛称『FMピッカラ』が誕生したのです。”と書かれており、お菓子のピッカラもこの民謡が由来であろうということが分かった。

TEPCO サービスホールで30分ほど聞いた後、引き続きFMピッカラを聞きながら、柏崎市市街地のスタジオに向かう。20分ほどでスタジオに到着し、外からスタジオを見学し、次の目的地である上越市に向かう。



FMピッカラの局舎



FMピッカラのQSLカード

⑪ エフエム上越放送(FM-J) 76.1MHz

柏崎市から国道8号線を走り次の目的地である上越市に向かう。次のFM-Jでは11:00からの”すまいるカフェ”という生放送番組を聴くことが狙いである。柏崎市ー上越市間は距離が45km程あり1時間程度の所要時間であるが、何とか間に合いそうだ。この間も日本海沿いの区間が多く、気持ちよく走る。

上越市付近に近づくとFM-Jが聴こえ出し、スタジオのある本町に11:00までにスタジオにはたどり着け



本町雁木(がんぎ)通り

そうしない。バイパスのパーキングスペースに車を止めてしばらく受信する。上越市のイベント情報や上越市からのお知らせなどを聴いて、引き続き番組を聞きながらスタジオのある本町雁木通りに向かう。”雁木”とは雪国新潟の商店街でよく見られる雪除けの屋根のことであり、FM-Jのスタジオは雁木のある商店街にある雁木通りプラザというビルの中にあった。このビルの2FにFM-Jの入口があったが、中に入ってみるとスタジオは見えず、事務所のようなところであった。番組表と団扇をいただいて即退散した。



FM-JのQSLカード

⑫ FMみょうこう 78.5MHz

FM-Jのスタジオに行く際に駐車した商店街の駐車場で78.5MHzにチューニングしてみるとFMみょうこうが入感している。ちょうど12:00からの生放送番組である”Coming Up!”が始まったところであり、駐車場でそのまま受信する。この放送を聴いて初めて知ったのだが、1842年4月12日にパンを日本で初めて本格的に製造したとのことに由来し毎月12日は”パンの日”だそうで、この日のテーマは”好きなパン”だった。聴いているとリスナーから続々とメッセージが寄せられている。この局は2015年12月に開局したばかりの比較的新しい局であるが、多くのリスナーをつかんでいることに驚いた。ちなみに、FMみょうこうを運営する会社は上越ケーブルビジョン(株)であり、この”Coming Up!”はスタジオの映像をCATVでも同時放映するという試みも行っているそうである。せっかくなので私も微力ながら番組に参加しようということで帰省先から帰る途中で聴いているということと好きなパンをメッセージとして送り、スタジオのある妙高市に向

けて出発した。番組を聞きながら走っていると、先ほど送ったメッセージを読んでいただいた。



FM みょうこうに向かう

妙高市に到着し少し迷った末に、まだ新しい局舎に到着。スタジオの中が外から見えるようになっており、外からスタジオの中を見たところパーソナリティの鶴見幸恵さんが手を振ってくれて、CFM って身近でいいなーと思いながら FM 妙高のスタジオを後にした。



FM みょうこうの局舎



FM みょうこうの局舎

■終わりに

この度は故郷である新潟県のコミュニティFMを聞きながらドライブをしてみた。帰省の際には実家のある中越地域には行くものの、上越地域、下越地域にはなかなか行く機会がなく、非常に楽しい旅となった。何より都会と違って渋滞が少なく、運転が楽しい。

帰宅後、全 12 局にレポートを送付し、8 局から返信をいただいた。9 ヶ月ほど経ったつい先日返信があった局もあるので、まだ今後も返信があるかもしれない。楽しみに待ちたいと思う。

～おまけ～

新潟に帰省するひと月ほど前、娘の所用に付き合ひ、大阪に行ってきました。3 連休、かつ直前に急遽決まったため宿が取れず、深夜高速バスでの移動となりました。大阪に着いて娘を目的地に届けてからは、しばしフリータイム。大阪城、道頓堀、通天閣界限などを放浪して昼呑みを楽しんだりしました。もちろんラジオも聞き、FM 大阪、FM802、FM COCOLO に後日レポートを送付しました。

レポート送付後に知ったのですが、FM 大阪は QSL カードを発行していないとのことで、FM802、FM COCOLO から QSL カードが届きました。これまたレポートを送る段になって知ったのですが、FM802、FM COCOLO は経営母体が同じであり、同じデザインの QSL カードが送られて来ました。



FM802 の QSL カード



FM COCOLO の QSL カード

編集対談「わが青春の CALL SIGN、そして PROPAGATION へ」

(せきやま☆あすか・長谷川 眞也)

せきやま☆あすかさんから、「PROPAGATION 創刊 5 周年の記念企画として、会報とか編集をテーマにした対談をしませんか」とのお誘いがありました。かつて KDXC (関東 DXers サークル) のスタッフとして会誌「CALL SIGN」の編集に携わり、現在は秋葉原 BCL クラブ主幹として活発にミーティング活動などを展開しているせきやまさんと、BCL サークルの会誌編集について、サークルのあり方について、サークルや会誌の過去と現在、そして未来への展望を存分に語りあいたくて、TDXC 忘年会がは

じまるまでのひととき、ご希望だった「海が見えるカフェ」でお会いしました。師走の横浜港、氷川丸とマリントワーを眺めながらの開放的な雰囲気の中、話は様々に展開して・・・。

2016 年 12 月 17 日 15:30 HARBOR'S CAFE 大さん橋本店*にて 構成：長谷川 眞也 PHOTO：せきやま☆あすか、長谷川 眞也

※ 2017 年 5 月 26 日から、Cafe&dining「blue terminal」に店舗が入れ替わりました。

PROPAGATION 編集苦勞譚

せきやま：めでたく TDXC と PROPAGATION が 5 周年なんでね、記念というかお祝いというか、現役の編集長と伝説の編集長 (笑) との、夢の編集会議みたいな感じでいきましょうか！

長谷川：よろしく願いいたします！

せきやま：ところで、なんか「PROPAGATION がマンネリ化」っていう話があるみたいだけど？

長谷川：私が一部の会員に問題提起してみたんですけど、皆さん「今まで通りでいいんじゃないか」という意見でした。

せきやま：でも編集長としてはさ、考えるところがあるわけで

しょ？ たとえば PDF 会誌の DL 数が減っているとか、読者からの反響がほとんどないとか。

長谷川：たしかに反応はあったほうがいいですね。

せきやま：つくった本の反応がないとね、単純に寂しいっていうのもあるし、本当にこれでもいいのかな…みたいな迷いも出てくるよねえ。

長谷川：一般読者から Edition 4 の反応がなかったもので、会誌の内容が内向きになりすぎてはいないかな、と今回思いまして…。

せきやま：ていうかさ、基本的には最初から自分たちの好きなことをやって、好きなことを書いていこうという会誌だったわけでしょう？

長谷川：ええ (笑) 内向きで全然構わないはずなんですけど。

せきやま：それがいつの頃からか、外を気にしはじめたんだ (笑)

長谷川：最初にサークルや会誌をはじめたきっかけ自体は、内輪でちょっと遊んでみようというものでしたが、同時にもうちょっと仲間を増やしたいなというのもあって。

せきやま：なるほどね。PROPAGATION を出すことで、仲間も徐々に増えてきてるみたいだしね、年に一人か二人くらい？

長谷川：今年は峯松さんにお仲間になっていただきました。

せきやま：じゃあまあ、そんな感じで現状は満足と。

長谷川：僕としては十分ですね。逆にこれ以上メンバーが増え続けると、(会誌編集の)首が回らなくなりそうで…。

せきやま：ああ、編集長としてはオーバーフローなのかな？でも毎号のページ数は増えてきてるじゃない。

長谷川：もっともっと記事を書きたい、という方々の希望には応えたいので。

せきやま：技術的に編集をもっと楽にする方法とかは、考えてる？

長谷川：投稿を最初からPDFにしてもらって、こちらではPDFを組むだけにしています。でも後からの直しが結構多いんですよ。PDF原稿を全部繋げて皆さんに見てもらおうと、やっぱりこの部分を変えたいとか、この内容は問題がありそう、とか。そういうチェックが、号を追うごとに細くなってきているというか。

せきやま：そうなんだ(笑)

長谷川：最初の頃はチェックも緩やかだったんですけど、Edition 3で一部記事にクレームがあって、それ以降は内容のチェックがかなり厳しくなりました。

せきやま：なるほどねえ。内容について、みんな慎重になってきているんだ。それで直しも増えてると。投稿が増えると、その辺のチェック作業も増えるよねえ。

長谷川：ええ、これは誹謗中傷になるとか、差別的な内容だとか、これはネットからの無断借用になるとか。

せきやま：そういうチェックの苦労は、投稿をPDFにしたところで変わらないもんね。

長谷川：逆にPDFにしちゃうと文章の直しができないので、原稿を戻して書き直しをお願いしたり、こちらでWord書類を修正したりしなければならなくて。

せきやま：それはでも絶対必要になってくる作業だもんね。

長谷川：そういうチェック項目というかガイドラインみたいなものは、なるべく事前に執筆する皆さんに認識してもらおうとしています。

せきやま：最初っから、問題のない原稿が届けばねえ(笑)

長谷川：それが理想です(笑)

せきやま：じゃあ投稿者にも、かなりのところでご協力をいただいているんだ。

長谷川：はい。それでも油断すると、たまにチェックをかいくぐって入ってくるんですよ。ヤバめのが。

せきやま：(笑)

長谷川：僕も気が付かなくて、これ面白いじゃんと思って通した原稿が、後から「この内容はまずいんじゃないの」という声が上がったり。

せきやま：いろんな人の立場や目で見ると、ねえ。

長谷川：チェックする人数が増えたと、そういうダメ出しの数も増えてきて。

せきやま：だからといって、ページ数も内容も制限してっていうよりかは、好きなことを好きなだけ書いてもらって、それをまとめたものを出したいよね。

長谷川：できるだけ、その人が書きたいものを尊重したいんです。同じようなものばかりでも面白くないですし。

せきやま：じゃあ結局は、大変だけど編集長に頑張ってもら

しかないよねえ。

長谷川：(笑)

せきやま：後は皆さんに…、ガイドラインっていうか、そういうの明文化してるの？

長谷川：もう結構な量になってきてますね。

せきやま：やっぱりね、注意書きみたいのってどんどん増えていっちゃう。

長谷川：初見の方には嫌がられるくらいに(笑)

せきやま：そうだろうねえ。そんなの全部読みたくないよ(笑)

長谷川：普通、原稿の依頼するときに、事前にそんなガイドラインの話なんてしないですよ。だいたいそういうチェックは編集者の仕事で。

せきやま：しないよね。編集者がダメ出しして筆者とやりとりしていくもんでさ。

長谷川：あるいは編集の方で勝手に書き直しちゃったり。

せきやま：あ～、あるある。

CALL SIGN 編集苦労譚

長谷川：そこで先輩にお聞きしたかったんですけど、CALL SIGN 誌やってた時は、そういうチェック機能はあったんですか？

せきやま：そうねえ…、基本的に情報交換誌だったから、海外のクラブの会報に載ったことを書く時は、ソース元を書いたりしてたね。あとは差別用語とか誹謗中傷みたいの、まあそういうの書きちゃう人もいるから、そこはバッサリカットするとか。カットしたことも、特にその人には伝えないで。書いた方も多分わかってただろうというか、



それについてなんか言われたこともなかったね。

長谷川：読者から、なにかクレームとかはなかったですか？

せきやま：今ほど厳しくなかったっていうか、昔はのんびりした時代だったから。目の色変えて抗議するとかは無かったねえ。今は怖いもんね。

長谷川：顔も勝手に載せるなど言われますし。

せきやま：当時はデジカメとかじゃなかったし、写真1枚撮るのもお金と手間が掛かってたから。写真自体が今ほど溢れてなかったよね、写真載せることも滅多になかったし。ペディションとかミーティングで撮った記念写真なんかは、なにも悪びれもせず会報に載せてたし、顔載せたら困るとかいう話も無かったと思うよ。まあ顔が載ったとしても、百人程度のサークルの会報っていう狭い世界だけの話だったから。ネットで拡散するわけでもなかったし、そんなに怒る人もいなかったよ。

長谷川：でも、CALL SIGNを店頭で売ったりもしましたよね。

せきやま：せいぜい50部くらいかな。全国の書店で何万部とかいう話でもないし。まあおおらかな時代だったからね、今よく読んだらヤバイ話とか結構載ってたりすんのかも。

長谷川：関山さんが編集やってた時って、歳いくつだったんですか？

せきやま：22、3くらいだったかなあ。

長谷川：毎月の編集作業は大変だったんじゃないんですか？お仕事もあったでしょうし。

せきやま：大変は大変だったけど、まあ面白かったからね。大変よりは面白さの方が上回ってたよ。

長谷川：投稿の数だって、かなり多かったですよ。

せきやま：(CALL SIGN 1993年9月号を見ながら)すごいね、この月は投稿者33名！(笑)

長谷川：それぞれのいろんなコーナーに届いて…。

せきやま：各コーナー担当の人が投稿をそれぞれまとめてくれたし、それがもうまとめてある形でこっちに届くから、極端な

話、オレは順番決めてならべるだけ(笑)ただ原稿は4ページ単位でつくってたから、余ったり足りなかったりした時は、こっちで埋めたりしたてね。

「好評BCL教室 生徒募集中」とかやってたっけ？おぼえてねえ(笑)

長谷川：これなんか面白そうですね、「山とラジオのアワード」。

せきやま：なんだっけこれ(笑)申請が来なかったから、アワードは一つも発行されてないよ。

長谷川：この当時としては画期的だったと思いますよ。アマチュア無線でも、SOTAという山のアワードが最近流行ってます。

せきやま：BCL教室とかもさ、毎月のミーティングの情報交換だけじゃあ間が持たないから企画したの。まあ、なんかのマネだよ。

長谷川：ペディの企画もあったり(CALL SIGN 1993年7月号)。

せきやま：ああ、ほんとだ。伊豆だね。数十メートルのロングワイヤーって、ちょっとショボいよねえ(笑)「宿の温泉で汗を流し、恒例の大宴会へ。飲む、遊ぶ、歌う、語る、そして笑うー。」ほう、いいね(笑)

長谷川：(笑)せきやまさんの編集には、このサークル楽しそうだなって雰囲気が出てるんですよ。

せきやま：ペディションだったり、企画ものとか考えたりね。当時はネットも無いし、会報がネットの世界っていうかね。掲示板でもあり、ブログであり、ホームページであり、みたいなところがあった。

山が好きで、BCLが好き — そんな山岳BCLのアワードが誕生しました。

「山とラジオのアワード」

★「山とラジオのアワード」通称「山ラジオ」は、山登りの好きなBCLのための、まったく新しい形のアワードです。以下のルールをよく読んで、あなたも挑戦してみませんか？

- (1) 国内の山岳*の山頂でワッチする（受領対象は国内・海外を問わずすべての放送）。
* 国土地理院発行の1:25,000または1:50,000の地形図に山名が記載されているもの。
- (2) 一つの山に対して最低1枚のQSLカードを得ること。
- (3) 1日に何山でもOKだが、同一日のカードは認めない。
- (4) 登山の手段は問わない（車、ロープウェイ等でも可）。

★当アワードは「山ラジオ10」「山ラジオ20」「山ラジオ30」……と、10山ごとに発行します。以下の必要事項を明記の上QSLカードと共に「山ラジオ事務局」まで申請してください。

- (1) 山岳名・所在地・標高
- (2) 受領局名・周波数
- (3) 受信年月日・時間
- (4) 受信機名

申請先: 山岳倶楽部「山ラジオ事務局」



秋のペディション [予告編]

★以下の予定でペディションを実施しようと考えています。参加してみようかな、と思う方はご連絡ください。

日程: 10月9日(土)~11日(祝) 2泊3日
場所: 東伊豆・今井浜海岸
交通: 伊豆急行河津駅(東京から特急で2時間半)
宿: 温泉賢別荘「今井浜シーサイドハウス」
参加費: 1泊 10,000円(朝・夕食込み)
備考: 交通費は各自でご負担ください。

★現地は太平洋を一望できるBCLには絶好のロケーション。今年4月に行ったミニペディでは、特に北米中波や東南アジア、オセアニア等の放送が良好に入聴していました。アンテナも数十メートルのロングワイヤーを張ることができず。そんな素晴らしい現地でBCLを楽しむんだ後は、宿の温泉で汗を流し、相別の大宴会へ。飲む、遊ぶ、歌う、語る、そして笑う……。あなたもぜひ、ご参加ください。

連絡先:



長谷川：なるほど。

せきやま：これしかなかったからね…。しかし、昔も今も似たようなことやってんだね。

長谷川：(笑)

せきやま：みんなで色々楽しめるようなことをやりたかった。まあ、CALL SIGNは23年も前になるんだけど、でもこれ今読んでも面白いなあ。で、今の時代はPROPAGATIONがある。

長谷川：うーん。

せきやま：オレがBCLを20年ぶりに再開して、ネットでいろいろ見てたらPROPAGATIONを見つけてね。PDF版を読んで「すごいなあ」って思って、イマドキっていうかね。今はクラブとかサークルっていうのもほとんど無くなっちゃって、情報もコミュニケーションもネットになっちゃって。昔こんな月刊の紙媒体でやりとりしてた世代から言わせてもらうとき、ネットでさ、今聞いたものを書き込めばすぐ伝わるわけじゃない。すごく幸せな時代になったよね。ネットだけで問題ないって時代に、本っていうか会誌っていう形で作ってる人たちがいるっていうのを知って、単純にびっくりしたし、驚いた。

長谷川：そうなんです。本が作

りたかったんです。

せきやま：CALL SIGN みたいな、ぺらぺらのショボいのにくらべたらさ、PROPAGATIONは第一号から100ページ越えでしょ。ボリュームがすごいなど。今時これだけのものを書けて作れる人がいるってすごいなって思ってるんですよ。

長谷川：1年に一回だからできるんですよ。

せきやま：それでもすごいなって思うよね。で、中身もさ、単純にロギングとかじゃないんだよね。入門みたいなものもあれば、ノウハウ、ハードのレビューとか、多岐に渡って。特にいいなと思ったのは、座談会。何人かの参加者が、酒なんか飲みながらワイワイやってる世界が座談会から見えてくるじゃない、それが羨ましくて。会誌をつくっているのも羨ましいんだけど、サークルの活動としてこういう座談会ができて、BCLとかDXとかラジオとかの話ができる世界が羨ましかったし、ネットの時代にこういうことをやってる人がいるんだと、とにかく何から何までびっくりしたね。

長谷川：こういう集まりとか活動をもう10年以上も続けて。酒飲み話も面白かったり

するから、いつかなんらかの形に残したいなっていうのは前から思ってたんですね。

せきやま：Edition 4になって、さらに厚みも増して、内容もバラエティに富んできたよね。編集長として好きなページは？ オススメとかあるの？

長谷川：どの記事も愛着はあるんですけど、この号のオススメはこの2つのアンテナ製作の記事ですね(PL-380用外付けバーアンテナをつくろう、ER-C57WR用外付けバーアンテナをつくろう/澤谷 淳一)。

せきやま：ああ、自分でも工作とかやってるし。

長谷川：作りたいと思いましたし、澤谷さんをご自分のブログでこの製作記事を発表されてましたが、こういう良い記事がブログの過去記事に流れていってしまうのがもったいなかったというか。過去記事の検索も大変だし、本を見開きながらのほうが工作もしやすいかなと思って。

せきやま：たしかにねえ。

長谷川：読んで面白い記事もいろいろ、実用的な、使って便利なお内容がいいなど。手前味噌ですが、自分で書いたFM局のログ(Edition 1「2013 DX REPORT」)なんかは、いまだに

聞きながら見返してますもん。

せきやま：資料的価値のある記事ね。じゃあ今後もそういった記事を増やしたいと。編集長的には、こういった記事を増やしたいという希望をみんなに伝えたりしてるの？

長谷川：ピンときたブログ記事を見つけたら、それを原稿として書いてくれませんか頼んでみたりしてます。書いてくれる人もいるし、書いてくれない人もいます。

せきやま：わりとTDXCのひとは書いてくれるでしょ。普通は書いてくれないもん。乗ってくる人はあんまりいないね。

長谷川：昔は、執筆者のスカウトとかしてました？

せきやま：誌面で投稿募集をかけた、特集記事とかで書いて欲しい人に打診したりはあったけど、基本的には自由投稿。執筆をお願いするようなことはあまりなかったと思う。「中国、ロシアのラジオ新事情」（CALL SIGN 1993年7月号）、これなんかかもね、別段この人にお願いしたわけじゃなく、勝手に書いてくれたって感じだね。まあなんかはずみで「ちょっとなんか書いてよ」「いいですよ〜」みたいなノリはたまにはあったけど。

長谷川：（せきやまさんからの）メールに「昔は投稿が少なく苦労した」ってありましたが、これだけ投稿者が多いのに苦労なんてあったんですか？

せきやま：オレは多いとは思わない。だって93年9月当時の会員数218人のうち、投稿者が33人だしさ。

長谷川：それはそうかもしれない

いけど…。

せきやま：もっといてもいいと思うよ。

長谷川：もっとすごい本を作りたいと思ってたんですか。

せきやま：だって218人いるんだもん。

長谷川：そんなにたくさん投稿がきたら、せきやまさんもパンクしちゃうでしょ？

せきやま：「どしどし投稿してください！」って会報に書いてるからねえ。それは全部受け止めるつもりでやってるから。

「最近投稿が多すぎるので、やってられません。手加減してください」なんて言えないじゃん（笑）

長谷川：（笑）

せきやま：欲を言えばキリないけど、全体の80パーセントくらいのひとが投稿してくれてないわけでしょ。

長谷川：読んでるだけの人がいっぱいいる、と。

せきやま：それはしょうがないんだよね。みんながみんな一生懸命ラジオを開いてるわけではないし、ラジオ全然聞いてない人もいだろうし、投稿できるレベルではないっていう人もいだろうし。会員全員が投稿するのは無理だとしても、こっちとしてはできる限り投稿したくなるような会報をつくと。

長谷川：せきやまさんが編集長になっていきなり部数が200部に増えた、とKDXC年表にありますけど（せきやまさんは1987年から7年間編集長を務めた。87年当時、せきやまさんは22歳）。

せきやま：それこそ7年も経つと、マンネリだよ。最初の1

～2年だよ、ほんとに新鮮で面白かったのは。

長谷川：せきやまさんが編集長就任して2年後には、60名前後だった会員数も200名を超えたそうですね。

せきやま：へえ〜、そうだったんだ。じゃあその1～2年の間はオレ結構がんばったんだね（笑）

長谷川：そうだと思います。就任当時の会誌を読んだことがないので。

せきやま：この頃はコピー誌。A3で両面コピーして半分に折って。会員数が増えて部数も増えてくると、さすがにコピー誌は無理（笑）コピー代で1万掛かっちゃってたし。コンビニのコピー機で、片面10円。夜中に4～5時間ず〜っとコピー機独占。レジの人も、コピー代で1万円払うとギョッとしてたよ（笑）

長谷川：へえ〜。

せきやま：次に使ったのがリソグラフ。仕組みが違うコピーみたいなもんで、印刷所に原稿を渡すと、印刷はしてくれるんだけど並べて折るのは自分でやる（笑）コピーより安かったけど、

ただ印刷してくれるだけ。でも部数が増えてくると製本も大変になってきたから、いよいよオフセットに。ある程度部数があれば、それほど高くないと。原稿を渡すと、本になって仕上がってくるし。

長谷川：楽になりますよね。

せきやま：それまで集めてたサークルの会費はミーティングの会場費と会報の製作費に使ってたんだけど、結構余ってたから、ここらでもう

オフセットにしちゃえと。

長谷川：会員にはオフセット誌は歓迎されました？

せきやま：そうね、オフセットにするから会費値上げ、といったこともなかったし。当時、年会費は一般4,000円くらいだったかなあ。会費据え置きで本の見栄えも良くなったから、文句言う人はいなかったね。あとオフセットのちゃんとした本にして定価もつけると、本屋さんでも売ってくれる（笑）X-1さんとか、あと確か神田の書泉ブランドで。

長谷川：ほお～。

せきやま：まあ、これも仲間を増やすためのひとつの手段だよな。TXDCがPROPAGATIONを発行して仲間を増やしたいっていうのと同じで、KDXCも同人誌の形にしてお店で売って世に出して、そこから入会希望者が出てきたらありがたいし、毎月買って読んでももらえればそれもありがたいし、どこの誰だかわからない名もなき読者でも読んでももらえれば仲間だし。そんな感じで頑張ってきたかな。オフセットにしようとかお店で売ろうとかのアイデアや交渉はKDXC代表の山田靖次さんと、オレは本をつくるだけ、山田さんとは二人三脚だった。山田さんは神田の出版社に勤めてたから、その辺に詳しくて。あまり名前は出てこないけど、山田さんがいなかったらここまで発展しなかったと思うよ。

BCL 本の新たな可能性

せきやま：KDXC 設立 10 周年のときにね、10 周年記念の文集を作ろうという企画をして、投稿

を募集したんだけど、ほとんど来なかったのよ。

長谷川：（笑）

せきやま：ショッキングだったよ（笑）だってさ、10周年記念だよ。学校の記念文集みたいな感覚で考えてたんだけど、ゼロではないけど何人かからしか来なかった。寂しかったし、思い知らされたね。募集くらいじゃみんな書いてくれないんだって。ミーティングの常連だって書いてくんなかったんだよ（笑）

長谷川：ひどいですねえ（笑）

せきやま：ほんとに別冊にしたかったんだけど、とても数が集まらなかったから、会報の一部で文集コーナーみたいな感じになっちゃったんだけど。あの時あらためて思ったけど、募集なんかしてもみんなそう簡単に書いてくれない。今でもそうなんだけど。

長谷川：今でも小冊子（BCLは趣味の王様）を作ってるじゃないですか。よく投稿募集かけてますけど、集まりますか？

せきやま：ほとんど来ないね。一番最初に作ろうとした時、甲斐さんと佐藤さんくらいしか来なかった。さすがにこれじゃ形にならないから、「申し訳ないけど、ちょっとうちでは都合が悪くて作れなくなっちゃったんですけど、PROPAGATIONっていうのがあるんで、そっこのほうに載せてもらったらいいんじゃないすかね？」みたいな感じで。

二人：（爆笑）

せきやま：そういう経緯でお願いしたこともありましたね。でもやっぱり厳しいね。普通にオープンな形で「こういう本つくりたいんです」「募集してます」って呼びかけても集まらないし、知り合いに声かけてもなかなか書いてくれない。「忙しくて無理」みたいに、だいたいいい返事はもらえない。だから最近では考え方を变えて、PROPAGATIONがもうあるんだから、違う方向の本をね。ひとつは「ブログのまとめ」。書き下ろしは大変だけど、1年間書いてたブログをまとめて残す形。これならもうすでに書いてあるんだし、楽だよな（笑）

長谷川：個人誌ですね。

せきやま：そうね。その人の1年の記録みたいな形、それだったらできるんじゃないかなと。書き下ろしはやっぱ大変だし、頼むのも申し訳ないし。

長谷川：各自が自分で出す、と。

せきやま：そういうのをみんなやったら、っていう提案。ブログとか消えちゃうのも勿体無いし、後々に残しておく、人のためにもなるし自分のためにもなる、っていうね。おのおのでやるのもいいし、何人かで一冊



にまとめるのもいいし。それ
だからできるのかな…と思った
けど、そんな提案すらもなら
反応がないねえ（笑）

長谷川：（笑）

せきやま：ほんと、人をその気
にさせるのは難しいっていうか。
だから PROPAGATION っていう

「形」になっているのは奇跡的
だと思うよ、本当に。みんな興
味がないんだよね、こうして本
にしてまとめるとか形にして残
すとかに。ブログならブログで
書いて終わり、それっきり。
いい記事があっても、5年後10
年後に残ってるかっていうと、
リンク切れで無くなってたりす
るじゃない。すごく勿体無い。

長谷川：ブログの過去記事も、
探すの大変ですよ。

せきやま：ブログに記事の目次
がちゃんとあるわけでもないし、
一生懸命発掘するみたいに遡っ
て遡って…。たとえば検索サイ
トで PERSEUS って検索したって、
一部のブログやサイトしか出て
こない。あとはみんな埋もれ
ちゃって。ブログとか個人個人
がまとめて残すみたいなのを
する時間的な余裕も、みんな
無いのかな、きっと。

長谷川：個々では色々やってる
と思いますよ。僕も BCL を再開
した時は入門書もなかったし、
どの受信機を買っていいかわ
からなかった、ホームページ
とかブログを検索して、いい
記事があったらプリントアウト
してファイリングしてました。

せきやま：そこまでやるんだ、
ブックマークくらいじゃなくて。

長谷川：自分だけの入門書籍を
作るんです。今でもいっぱい
ファイル持ってますよ。

せきやま：その発想だよ！
オレも勝手に人のブログまとめ
てる。

長谷川：個人で見ると人には構
わないでしょうし。

せきやま：そういうこと。個人
でブログまとめてくれる人も出
てこないから、だったら自分で
人のブログ勝手にまとめて一冊
にして、一人で見てニヤニヤし
てって、やっぱやってるんだね。

長谷川：やってますよ。一時期
しこたまファイル本作ってて。
で、中川さんが毎年発行してい
た PDF の BCL 書籍（MY BCL
LIFE）に出会って、その後 CALL
SIGN のことも知って（CALL
SIGN 刊行当時、筆者は BCL をや
めていた）。それらを真似した
い、というのが会誌発行の原点
だったんです。

せきやま：そういえば、
PROPAGATION に CALL SIGN の
ことが載ってたじゃない

（Edition 2 「誌上放談・元
KDXC 竹野 OM を囲んで～BCL
サークルの運営と会誌のあり方
～」）。しかもこれに載ってた
のって俺が作った時の会報だ
ったし、CALL SIGN のこととか
KDXC のこととか竹野さんのこ
とが出てて、なんかオレもまん
ざら関係なくもないかなって
思ってさ。

長谷川：竹野さんとはこのとき
初めて会ったんですけれど、
CALL SIGN を作った本人から会
誌製作ノウハウとかいろいろお
話を聞いて、座談会記事にして
残したいなっていうのがあって。

せきやま：で、その話なんか役
に立った？（笑）つくりたいっ
て気持ちが高まった？

長谷川：情熱というか、作りたい

っていう熱意が、今の人と違
うっていうのは感じました。

せきやま：へえ。例えばどうい
う点で？

長谷川：毎月これだけの会誌を
つくってたエネルギーというか、
今は絶対できる人いないだろう
なあって。みんなネットで満足
しちゃってるし。

せきやま：でもオレはネットで
いいじゃんって思うけど。ネッ
トって便利じゃん。ただ遊びと
してこういう本作るのはオレは
好きだけど、ほかの人には勧め
ようとも思わない（笑）

長谷川：それに近いものはあ
って、ネットは便利だけど、手元
に残しておきたいのはプリント
アウトして本にしたいわけです
よ。いつでも読めるように。あ
の時の飲み会の話をもた読み返
したいとか、製作記事を何度も
調べたいとか。本ならいちいち
パソコンを開けなくてもいいし。

せきやま：確かにそうなんだよ
ね。まあネットは重要なだけ
ど、こういう紙のものもあ
っていい。紙とか本とか会誌で
ないと、残せないものっていう
か表現できないものがある
っていうか。実際に会って話
す飲み会のニュアンスとかは、
ネットの掲示板とかじゃ表
現できないしね。

BCL サークルと会誌の 過去・現在・未来

せきやま：10年前は、BCL も
もっと盛り上がったと思うん
ですよ。いまはブログや掲示板
も減っちゃったし。それは放送
局の数が増っちゃったのが大き
いかな？

長谷川：インドネシアやアフリ
カが好きなのは、聞くもの自体

が少なくなっちゃいましたね。
せきやま：短波なんかはさ、今じゃ数少ない残された局をなめ回してるみたいっていうかさ。昔のたくさんあった南米局みたいに、コンディションやペディションで聞こえる聞こえないって一喜一憂するDX的な楽しみ方が減っちゃって。これじゃ盛り上がりがないよねえ。

長谷川：ネットが無かった昔は情報交換の場が会誌しかなくて、投稿して、活字になったものを読み合っ、共感し合っ。

せきやま：もっと前と言えば日本 BCL 連盟発行の短波誌だよ、あれで回ってたんだよね、

(BCL の) 世の中が。あれが無くなっちゃって、途方にくれた人が多くなった中で、KDXC の会報が短波が担ってた部分のほんの一部を頑張っ続けてきたというかね。

長谷川：情報を読みたいという人と、情報を発信したいという人と、両方の熱意が CALL SIGN に集約されてたというか。

せきやま：そうね。これは言っ方がいいわかんないけど、他に無かったんだよね、こういったサークル。短波がなくなって、BCL 連盟がなくなって、ミーティングもどんどん衰退して行く中で、奇跡的に生き残っってきたというのはあるね。

長谷川：短波を読んでいた人は、CALL SIGN も読みたいだろうなって思いますもん。

せきやま：情報難民っていうの？ そういい人たちの受け皿になっていたのかな。そういうのも多少意識してやってたけどね。あと東京のサークルっていう地の利があっ。やっぱり

BCL の人口が多かったもん。そういうベースがあっから、サークルとしてやってこれと思うよ。これが地方で2~3人しかいなかったら、ここまで持っこれなかったよ。ミーティングだっ、多い時で15人とか、それもやっば東京だったからっというのもあると思うよ。ミーティングの場所も色々考えてさ、オレが最初にいったところは祐天寺で。行くのは手間でもなかったんだけど、やっば山手線の駅周辺の方がもっと大勢の人が参加しやすくなるんじゃないですかねっ、目黒周辺で探したりして。少しでもメンバーが増えるようっ、真面目に考えてたね。

長谷川：いまミーティングやっっている秋葉原っというの、集まりやすい場所っということですか？

せきやま：単純にイメージっいうか、BCL に秋葉原は外せない場所だしね。まずはオフ会っ形で、大宮で何回かやっ、まあ一番最初のオフ会は秋葉原だったんだけど、ほとんど人が来てくれなかった。ただそのオフ会に、あの山下透さんが来てくれたのがいちばんの収穫
(笑)

長谷川：山下さんとは交流があったんですか？

せきやま：全然。昔ミーティングで1回くらい会っことはあるけど、向こうも覚えてないだろうし、期待も何もしてなかったからびっくりしちゃっ。いまでも交流して、いろいろ勉強させてもらっよ。

長谷川：山下さんがオフ会に参加した動機はなんだったんです

か？

せきやま：なんだろうねえ。こういうオフ会みたいのが好きみたいだよ。もともと奈良でB連のミーティングチーフやっ、アジア放送研究会じゃない全国規模のBCLクラブ(日本DXersクラブ)もやったらしい。長谷川さんも前にアジア放送研究会のフォーラムで会ったでしょ？

長谷川：会っと思うんですけど、話もできなかつたし、面識も特に無かつたですし…。

せきやま：山下さんっ近寄りがたいイメージっいうかさ、しかもオフ会でお会いした時なんかさ、二人きりだよ、二人きり。もう大変なことになったなと思っ(笑)。

長谷川：(笑) せきやまさんに会いたかつたんじゃないですか。

せきやま：わかんない(笑)

長谷川：秋葉原のミーティングにしても、せきやまさんに会いたっという人が来てるんだと思うんですよ。せきやまさん自身が情熱的だし、最近はいっぱいラジオも聞けるみたいだし。

せきやま：なんか派手にやっるからねえ(笑) でもそれでいいと思ってるの。なんのためにみんな集まるかっと思ったら、昔は情報を集めるためだった。今は情報はネットで手に入るしね。言っちゃ悪いけど、みんなそこまで熱心にラジオを聞けるわけでもないだろうし。で、わざわざ電車賃と時間使っ、実際にオフ会に足を運ぶっ大変なことだよ。TDXC の飲み会だっ、みんなに会いたいな、話したくなっいうので集まるんであっ、なにか情報を求め



て来てるわけじゃないよね。そういう感覚。みんながみんなそういうのを求めているわけじゃないと思うけど、同じ感覚の参加者の人たちといろいろ話をしたり、楽しんでくれる人もいるからね。そういうひとのためにやるのは、意味があると思うね。

長谷川：さっきネットでも十分っておっしゃってましたけど、ネットよりさらに突っ込んでその人を知りたいとか話したいとか、そういう時は実際に集まって顔を合わせたいですし、集まって盛り上がればサークルや会誌を作りたくなったり。ネットよりさらに何かしたいなっていうときに、人は集まるのかなと。

せきやま：そうねえ、でも余裕がないとできないよね。経済的なもの、時間、家族の理解とか、余裕、ゆとりがあって恵まれた人でないと、なかなか難しいと思うんだよね。情熱だって生まれてこない。毎日毎日働くので精一杯、疲れて帰ってくりや家では母ちゃん子供になんか言われて…なんてところじゃ、ラジ

オ聞くヒマも聞く気も起きないし、そんなじゃサークル活動や会誌作りましようなんて、そんな気になれないよね。だからTDXCの皆さんは、本当に恵まれてるなって思うね。

長谷川：そうかもしれないねえ。

せきやま：掲示板でDX情報出して人たちだって、恵まれてるんだと思うよ。いいロケーションに住んで、いいアンテナや受信機を持って、聞く時間があって、家族の理解もあって。じゃないと、できない趣味なんだもん。

長谷川：できないですね、確かに。

せきやま：BCL (DX) が恵まれた人だけの趣味みたいになってる気がしてね。それはまずいと思って。どっちかっていうと恵まれてない人の方が多いんだから。そういう人でもBCLが好きでラジオが好きなら、秋葉原に近い人でないと難しいかもしれないけど、ほんのわずかな時間でもBCLの世界で楽しんでもらえたらいいかなあと思って、

ミーティングやってる。地方とか韓国からも参加したいって方が出てきてくれて、期待してくれてるんだ、ありがたいなあって。それでもって、交流が広がっていったら面白いだろうなあって。けっこうオレって欲張りだから、やっただけでハイ終わりじゃつまらないんだよね。なんかやったことで、そこからまた新しいアイデアが生まれたりとか、そういうものに期待するとか、得るものがあると思うんだよね。参加者にもそういうものを感じてもらえたらいいなと思うし。いまKTWRを聞きながらチャットとかやってるんだけど、あまりラジオ聞いてなかった人もちょっと聞いてみようかなと思ってくれたりとか、久しぶりにラジオ聞いて楽しかったとか、そういうのが生まれていくといいなって。

PRORAGATION の 5 年、 そして 10 年

長谷川：そろそろまともにいきましようか。

せきやま：来年 5 周年だもんね。じゃあ次の 10 周年に向けての抱負を。

長谷川：もう先の話ですか？

せきやま：そうそう、今までの 5 年から、次の 5 年に向けて。どうよ、仲間を増やして、誌面も充実、ボリュームもアップ、当然もう 200 ページ 300 ページ。厚みも本が立つくらいに。厚みの分だけ、楽しさも、喜びも、倍増。おお、いいね～ (笑)

長谷川：作業も倍増で辛さも倍増… (笑)

せきやま：アハハ、そこなんだよねえ (笑)



長谷川：PROPAGATIONには担当ごとのエディターもないし。

せきやま：ほら、ゲラっつーの、最終的なものができるじゃない。主要な人が集まって読み合わせすると楽なんじゃない？ 一日掛かりになるかもしれないけど。

長谷川：今でも仮組みしたPDFを何人かでメールで回してチェックしたりもしてます。

せきやま：実際に会ってやった方が、楽なんじゃないのかなあ。

長谷川：たしかにひとりで行るのは、もう限界があると感じてますので…。

せきやま：集まりやすい、ご近所さんでやるメリットっていうのもあるんじゃないの。一つのご提案として。

長谷川：考えてみます。

せきやま：あとさ、会誌ってみんなで作るもんだけど、編集って立場は孤独な部分あるじゃん。長谷川さんはどのくらい感じてる？

長谷川：うーん、孤独6割くらい。

せきやま：じゃあそこを5割にするとか。孤独感を少しでも減らせていけたら、それだけ長続きできんじゃないの。「協力しますよ」なんてみんな言うけど

さ、それでも編集長だけの孤独感っていうのはあるよね、締め切り間際になると余計に。集まって最終校正をやるって言うのはいいと思うよ。あとオレなんかからすると、TDXCはハードル高いつていうか、意識的に敷居高くしてやってるじゃん。誰でも入って来たら困るっていうか、ハードルを乗り越えた人だけを受け入れるっつーか。

長谷川：だから、年間に増える会員は数人です。

せきやま：そこは譲れないんだ。じゃあ読んで仲間になりたいなって思わせるように、意識して会誌つくるってことはしないの？ あくまで好きなことだけ書いて、それに共感する人だけが来てくれればいいっていう。

長谷川：そこが難しい…。

せきやま：多少はあってもいいと思うんだけどね。迎合するってわけじゃないけど。

長谷川：サークルが和を重視したスタンスなんです。せきやまさんのようにウエルカムっていうか、万人を受け入れるというスタンスは…。

せきやま：怖いもんね。だってひとりへんなのが入ってきたら、終わっちゃうからね(笑) へん

だけどやけに発言力があるヤツに引っ掻き回されたりとかね。

長谷川：もともと仲がいい顔ぶれ同士の遊びからはじまってますから。

せきやま：無理だよ、やっぱ怖いもの。よっぽどへんな人、ガチな人はたまにいるけど、あとはみんな普通だよ。そんなに怖がなくてもいいのかなかと思うんだけど、まあ人それぞれだからね。オレみたいにへんなのさんぞん見てきてるほうからしたらさ、まだまだ無菌室で純粋培養された人たち、みたいな(笑)

長谷川：僕なんか特にそうですもん。なんか変なこと言われるとすぐダメージ受けちゃうし。

せきやま：オレだってダメージあるけど、回復力早いから。それなりに気にはするけどね。じゃあまあ5周年、あんまり無理のないようにね。

長谷川：5周年企画でDX年鑑を作りたかったんですけど、なんか大変そうで…。

せきやま：それは10周年のときでいいんじゃない？ 楽しみにしてるよ(笑)

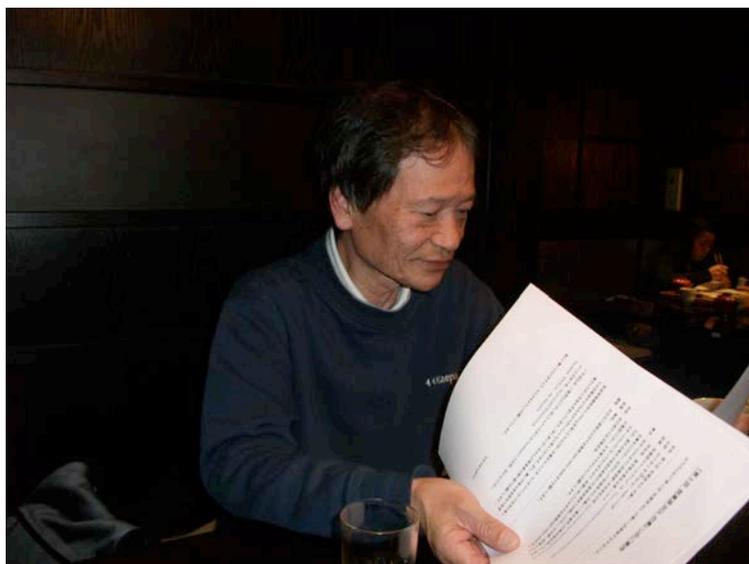


OM 探訪

第3回「田辺 保晴氏」

中川 弘夫

雑音対策～「結構沈思黙考してますよ。電車の中でも出し抜けに思い付くので、いつも小さいメモ帳を持っていて、思い浮かんだことを書き出すようにしています。」…未だ現役で DX 局を追う、その源流を探る。



田辺 保晴 OM 近影

【ラジオ技術への萌芽】

「PROPAGATION 4 を見たとき嫌な予感がしたんですね。次来るんじゃないかと思って(笑)」。インタビュアーの我々(せきやま☆あすか氏と私)の緊張感をほぐす心遣いだろうか。田辺氏のインタビューはそんなジョークから始まった。前号は同じ浦和にお住まいの林義晃 OM であり、距離的に近いとい

うことで某かの予感をお感じになったようである。実際には TDXC のお仲間であるせきやま氏が田辺氏とお近づきになり、その縁で私にご推挙下さり、その話に飛び付いたところご快諾頂けたという経緯であった。田辺氏はキャリアの長い DXer であり、短波誌で南北アメリカのアドバイザーを務めた実力者でありながら、その人間像や来歴

についてはこれまで目にする機会がなく、私自身非常に興味があったのである。

田辺氏は 1957 年生まれの 59 歳。南北アメリカアドバイザーの OM という相当のベテランではないかと思っていたが、自分達と世代的にあまり変わらなかったことにまずは驚いた。確かに、短波誌を読み返すと「私も学生の身ですので」という記述があり、当時未だ 20 歳そこそこだったのである。

田辺氏の BCL 歴は小学校時代に始まる。きっかけは友人宅で触れた電子ブロック。そこで電子回路に興味を持ち、早速自分でもゲルマラジオを作って学校で聞いていた際に、先生から「本屋に行けばもっといろいろあるから探してごらん」とアドバイスされて深みにはまっていく。実際にそこから文部省認定ラジオ技術講座を受講したり、アマチュア無線の免許も中一で取得

している。このように BCL への第一歩は、BCL そのものではなく、ラジオ技術への興味だったのである。

【BCL～DXer へと成長】

「スターという 5 球スーパーのラジオを作って、それには短波があったから聞いてみた。最初に驚いたのは JJY。次にモスクワ放送。何これ？と思ってラジオの製作を読んだ。そこで山田耕嗣さんの BCL コーナーを知り、解説を読んで『こういうことだったのか！』と知ることになった。ラジオジャパンも、何故こんなものがあるのか驚いたけど、そこで知ることになりました」。その辺りから興味の対象は BCL そのものへと移って行く。

スターではコイルを変えて、当時高い周波数でしか放送していなかった DW を受信したりして暫く遊んだ。しかしながら限界を感じ、父親にねだって次にトリオ 9R-59D を入手することになる。これは音が良くて、短波を聞かないときは TBS とかも聞いていたそうである。

そうして日本語放送～国際放送～更には DX 局受信へと進んでいったが、この時点で大きな影響を与えたのは日本短波クラブ (JSWC) だったそうである。

「入会してから一番教えて貰ったのは赤林さんですね。当時は勿論メールなどないし電話もそんなに手軽ではなかったので、殆ど手紙を経由して教えて貰いました。赤林さん、山口（五十三）さん、それから亡くなった牛込さん。牛込さんのお宅は足立区と比較的近所でしたので、よく出入りさせて貰いました。

そうして成長する田辺氏を DXer として更にレベルアップさせたのは JADX (Japanese Association of DXers) であった。「あそこは厳しかった。一応審査があるんですよ。○×が点けられる (笑)。当時はハイレベルの集団でしたからね」。そこで先輩達から教えを受け、実力は飛

躍的に伸びていくことになる。

【20 歳のアドバイザー】

そんな頃 (76 年 7 月)、創刊して間もない短波誌のアドバイザーにならないかという話が舞い込んできた。これは前任者である前述の山口氏からの推薦である。「ジャンルのには中南米が一番好きだった。丁度帰宅する時間帯に聞けるから。それから南米の音楽のノリの良さも一因でしょう」。当時は中南米 DX が盛んな時代であり、この分野でも大勢の実力派 DXer がいた。例えば「墨田区かどこかで開業医をしておられた関谷さんという方は高名な中南米 DXer で、日本で初めて 90mb で中南米を



せきやま氏と歓談する田辺 OM



BCL 復活後に収集した QSL (復活前にゲットした珍局各局の QSL は、
残念ながら現時点まで行方不明につき掲載出来ず)

聞いた方」だそうである。そうした実力派 DXer を尻目に田辺氏が若干 20 歳でアドバイザーに就いたのは、その時点で氏の実力がそうした DXer と遜色ないだけのものを備えていたからであろう。

田辺氏は若くはあったが、既に「確たる自分」を持っていたようである。それを象徴する出来事として氏が語ってくれたのは、珍局ドミニカのレポートに関する事件。当時ドミニカは超珍局であったが、「ある時ここを受信したというレポートが届いたのでこれを掲載したところが、あちらこちらから批判された。『聞こえる訳ないだろ、何で載せたんだ』と。でも私は反論し

ました。『じゃああなた、絶対聞こえないって言えますか?』とそうしたらまた、今度は別の人からドミニカを受信レポートが届いた。どうやら事実だったんですね。このことで先輩達も自分を認めてくれたように感じました」。信じたものを貫き通す、田辺氏の意志の強さが感じられるエピソードである。

ところで田辺氏は 79 年 5 月より突然「早乙女賢」のペンネームを用いている。私は早乙女氏が田辺氏のペンネームであると、今回取材をするまで気が付かなかった～注意深く読んでいる人はすぐに気付いたであろう。何故ならば 4 月号で田辺氏は早乙女氏に引き継ぐことを全く触れ

ずに、次号で早乙女氏が登場しているのである。早乙女氏という名は常連レポーターとしてもそれまで一度も登場しなかったのだから、二人は同一人物であることがすぐに分かるというものだ。そこに気付かない辺りが、やはり中学生だ。ペンネームを用いるようになったのは何か本名が名乗りにくくなる事情があったのでしょうかという質問に対しては、全くそうではなく「単なる遊びで意味はない」とのことであった。

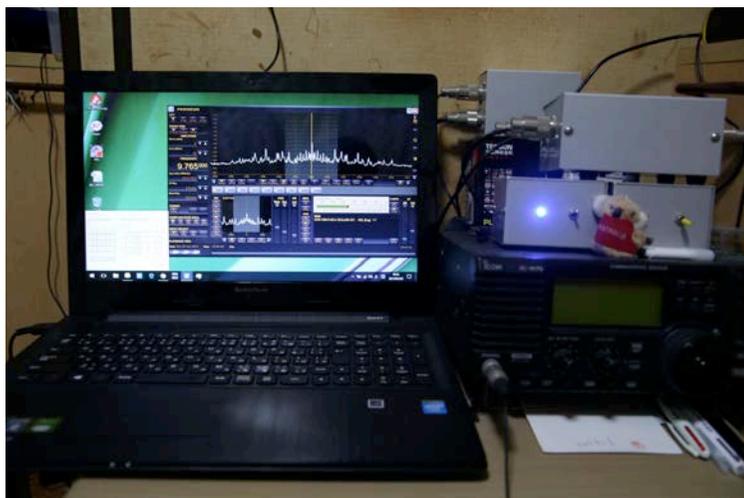
【BCL 休止、そして復活】

その後 80 年 5 月に田辺氏 (早乙女氏) はアドバイザーの任を降りた。これも就職等で退任を

余儀なくされた訳ではなく、このまま BCL だけやっていたのかという疑問が湧いたことによるものとのことであった。「BCL 自体が嫌になった訳ではないが、アドバイザーとして義務的に聞くのが嫌になったのだと思う」と語った。当時タモリ氏の BCL ワールドタムタムの投稿者からのレポートを整理しにラジオたんばに通ってもいけなく、これも義務的であり嫌になり始めていたのである。

アドバイザーを退任して BCL 自体も殆ど休止。「多分他に関心が向いたのでしょ」とのことであった。そこから 20 年くらいのブランクに入るが、この間は他の趣味の一つである天体に走っていたようだ。「昔の仲間との交流はあったので、(短波誌が休刊となり B 連が解散したという) BCL 界の概況は知っていたが、こんなに局数が減っていたとは知らなかった」らしい。

復活の経緯は良く覚えていないが 2000 年頃、お嬢さんと秋葉原に来ていて食事をしていた時に、たまたま金銭的に余裕があって衝動的に IC-R75 を買ったことに始まる。この件について田辺氏は何故そうなったのか正確な記憶が無く「不思議だ。何故買ったんだろう」と首を捻っ



自作機器が多数ある田辺 OM のシャック

ていた。

そうして復活して暫くすると、影山敦久氏開発の Δ LOOP 7 を製作し、本格的に DX 活動を再開する。当初は昔と異なり DX 局がなかなか聞こえなかったとのこと。「雑音ですね。例えば 3310 の R. Mosoj Chaski は全然聞こえず、ノイズ対策バイアスティ回路、CMC、電源回路のフィルタ、タップ、電話回線等様々な点をいじってやっと聞こえるようになってきた」。

現在の BCL 界では局数が減ってモチベーションが保ちにくいこともあり、最近では中波にシフトしている。ただ中波は市販の機器だけではなかなか聞けないので、「自ら半田ごてを握り工夫することが必要であるし、それが楽しみでもある。しかし工具箱から半田ごてを出すまでが億

劫(笑)。未だ 60mb がダメ。あれは冷蔵庫が原因かも。冷蔵庫は電源切らないからね。結構沈黙思考してますよ。電車の中でも出し抜けに思い付くので、いつも小さいメモ帳を持っていて、思い浮かんだことを書き出すようにしています。この歳で英語の勉強もしています」。

田辺氏は少年時代にラジオ製作や電子回路の勉強に夢中になったのと同じように、還暦の声を聞く今になっても上述の通り色々と学んでいる。この自身を向上させようという勤勉な姿勢こそが、当時若くして中南米分野のトップ DXer の一人になり得た、そして現在も現役で DX 局を追う稀有な OM である所以であろう。我々後を追う世代が見習いたい姿勢であると感じる。

TDXC 会員シャック訪問記 ～板倉健さんのシャック編～

五十嵐雄希

2016年暮れにTDXCのお仲間である板倉健さんのシャックを訪問させていただきました。同年秋頃にマンションに引越しされ、飲み会やペディションでお会いした際に「シャックが片付いたら是非見に来てください」とお誘いいただきました。お言葉に甘えて、お仲間の甲斐さん、宮内さん、私の3名でお邪魔させていただきました。

■まずはリビングへ

板倉さん宅へ上がらせていただくと、まずはリビングへ通されました。リビングには大画面のTVとオーディオセットが構えています。オーディオはハイレゾ音源を再生することに拘って構築されたものなのですが、今後導入予定の海外製スピーカーがあり、まだまだ発展途上だそうです。

BCLである板倉さんのオーディオはこれだけではありません。なんと、オーディオセットの裏側付近に回ってみると、なんとAR7030 PLUSとプリ

ンプDPA-100Bが配置されており、その音もオーディオセットで聞くことができるようになっておりました。

■”板さん”の手料理

板倉さんは多趣味でかつ徹底して取り組まれる方で、BCL、オーディオ、テニス、そして料理にも凝っておられます。TDXCが毎年実施している茅ヶ崎柳島キャンプ場でのペディションの際にも豪華なおつまみや食事を振舞ってくださり、板倉さんがペディションに参加されるようになって以来それまでのコンビニ弁当から格段のグレードアップが図られています。そんなことから、「板倉さん」というお名前と板前のような玄人はだしの料理の腕前に敬意を表してTDXCメンバーからは”板さん”と呼ばれております。

この日も我々がオーディオセットやラジオを眺めたりいじくったりしている間、板倉さんは料理の準備をなさっていました。我々が訪問される日に合わせて北海道のイクラ、熊本の馬刺し、長崎のからすみなどの豪華なおつまみとともに日本酒等のお酒を振舞って下さいました。これらの食材はふるさと納税によって入手されたものということで、参加者一同ふるさと納税のやり方などについてもレクチャーを受けました。



リビングの豪華オーディオセット



オーディオセットの裏側にはAR7030 PLUSが



板さん手作りのオードブル

■いよいよメインのシャックへ

参加者一同お酒が入っていい気分になったところでメインのシャックへお連れいただきました。デスク横のラックにはユニカ UR-2A、TECSUN S-

2000、IC-R75 と IC-R8500 などの受信機、さらには安定化電源やプリアンプなどの周辺機材が多数。PC デスク上には PERSEUS, FDM-S2 が並びます。SDR は他にも EXCALIBUR も所有されています。板倉さんは SDR を知って興味を持たれたことがきっかけで長年中断していた BCL を復活されたそうであり、SDR の導入には力を入れておられます。



板倉さんのメインシャック



ラックには受信機の数々

部屋の外のベランダに目をやると、ApexRadio の 303WA-2, Δ LOOP X が設置されており、分配器、切替器を通して、各受信機に接続されていました。

■中華ラジオのショールーム

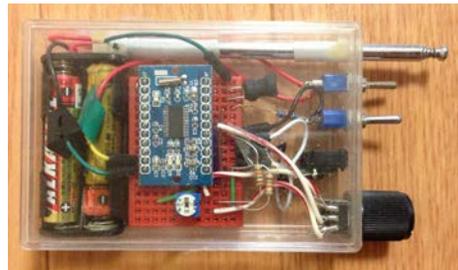
シャックの入口付近に目をやると、白い棚の上にはポータブルラジオが多数陳列されています。SONY ICF-SW7600GR をはじめ、DEGEN DE1103 や TECSUN PL-880, PL-660, PL-380 (Ultra Light 化改造版) など多数。SONY もありますが、なんといいましょうか中華ラジオのショールームのようです。

これらのラジオがきれいに整然と陳列されている様に凝り性の板倉さんらしさを垣間見ました。



まるで TECSUN のショールームのよう

この棚を見てもう一つ興味深かったのは aitendo の DSP ラジオモジュールを利用したブレッドボードラジオの数々。板倉さんは電子工作もお好きで、ブレッドボードラジオの工作や Δ LOOP X もご自身で組み立てられたそうですし、TDXC 有志が集まって UltraLight アンテナ工作会が実施されたこともありました。



DSP ラジオキットを使用したブレッドボードラジオ

■最後に

そんなこんなで楽しく興味深々でおじゃまさせていただきましたが、シャック訪問の前の週に実施された忘年会に参加できなかった甲斐さんを囲んでの忘年会その2のような感じでお酒と料理までご馳走いただきました。この後、戸塚駅周辺のお店を2件ハシゴして2次回、3次回と夜の戸塚の街を放浪し、参加者皆で楽しいひと時を過ごすことができました。

年末の慌ただしい時に私達を快くお迎えいただいた板倉さんにこの場を借りて御礼申し上げます。

リビングDXの構想

板倉 健

Photo: 五十嵐雄希、Ken

■PROPAGATION2016で、五十嵐氏が執筆されている「TDXC会員シャック訪問記 ～甲斐迅さんのシャック編～」で詳しく記述されていますが、この時私も甲斐亭にお邪魔させて頂きました。甲斐氏が保有されているヴィンテージ機の数々もさることながら、リビングでBCLという発想！と寛ぎながらDXという居心地の良さに、かなり感化されまして、私も自宅のリビングを何とかDX化？できないものか？と思い立ちまして、着々とDX構想を練りだしたわけでありませぬ。

■私もBCL愛好家の1人として、自分の書斎兼My寝室は自由奔放に大好きなラジオ機器を配置して、デスクを中心にBCLを楽しんでいます。家族共有の空間であるリビングは「なるべく物を置かない！」と言う奥方との協定(不文律)が高い塔のようにそびえ立っておりまして、自分勝手にリビングDX化を推し進める訳にはとてもまいりませぬ。

実は何年か前にも、防災にも役立つからとリビングに受信機を置こうとしたところ、防災用ならポケットラジオで充分じゃん！デカイラジオ置く必要ないじゃん！と一蹴された経緯もあります。

■今回は用意周到に計画を練り、まず外堀から埋める作戦にでました。

題して「リビングリニューアル大作戦！」

まずエアコンをダイキンの「うるさら7」に買い替え。私が気管支が弱く喘息持ちであることを訴え、部屋の空気浄化も兼ねて、空調からチェンジしました。

リビングの換気口も特殊フィルターを付けた大き目の換気口に変更。

次に10年以上使用しているリビングのTV(液晶32型)&TV台、HDD録画チューナーを奥方の寝室に移動し、50型の液晶TVとTV台セットをを新調。さらに古くて嵩張るホームシアターセットをMy書斎兼寝室に移



動し、省スペース型のサウンドバー(Sony HT-NT5)に買い替え。



逆に私専用で使用していたオーディオセット(HDDオーディオプレーヤー:Sony HAP-Z1ES&プリメインアンプ:YAMAHA A-S2100)をTV台の下に格納。無事外堀を埋めました。

さあ、仕上げに内堀も埋めましょう。(笑)

TV台に収まりきらない機器(DAC、ブルーレイプレイヤー等)を配置するためにTV台に直角に収納棚を配置(目立たないように)。余ったスペースにN氏より安く譲って頂いたAOR 7030と受信アンプ(DPA-100B)、安定化電源を無事格納。



以前の設備より全体的に大きくなりましたが、目くらましの50型大型液晶TVの存在感と格段に良かったサウンドバーの音響により、ドラマ好きの奥方にとっては満足なリビングリニューアルになった事は言うまでもありませんが、無事に受信機器も配置できた私にとっては作戦大成功！です。(懐は相当ダメージですが)

受信機器はTV台に直角に配置された事で、普段TVを見ているときは視界に入りません。AOR7030の収納位置が窓際でしたので、アンテナケーブルも窓用の平ケーブルに変換して窓の隙間からベランダに出して、直ぐアンテナ(SA-7000)に接続できました。



■程なくして、ベランダにSA-7000がよきって建っているのを発見した奥方でしたが、やはり大型液晶TVのインパクト(50型)は大きかったようです。ノープロブレムで済みました。



★AOR7030と受信アンプ(DPA100B)
(若干配線が美しくない。。。)

■窓の横にAOR7030&受信アンプが配置された事で、窓際に座椅子を持って行き横に小さなサイドテーブルを置いて寛ぎながらダイヤルを回す事が出来ます。

AOR7030の出力は、そのままプリメインアンプ(YAMAHA A-S2100)のLINE INに繋ぎスピーカーから音を出します。

やはり良いアンプとスピーカーを通してラジオを聴くと少しだけリッチな気分になります。

リビングDXはMWでごりごり電波を追いかけるより、SWでラテンの音楽などを聴きながら、曳きたての豆で入れたコーヒーやロックで美味しい焼酎を楽しむ。そんなリラックスしたスタイルが合っているでしょう。

時間帯は休日の黄昏時かな。。。 (笑)



★大型TVの影でAOR7030を操作するM氏(笑)

■今回はリビングDXの構想を実現すべく、タイムリーな作戦でしたが、懐のダメージが大きく以前からリスペクトしているDali(OPTICON6)のスピーカーには手が回りませんでした。

同じく、手に入りたい1品のNRD-345と合わせて近い日々にリビングDXのバージョンアップを図りたいと思っております。



★Sony HAP-Z1ES

■余談ですが、書斎にあるノートPCにiTuneソフトが入っており、CDを借りてくるとドライブに差し込めば、iTuneライブラリに格納される訳ですが、同時にリビングのHAR-Z1ESにも転送されるソフトも起動されるので、とても便利です。(Wi-fi)

最近お気に入りの某女子大生ドラマー(I氏と共通の趣味です)の音楽を聴いたり、リビングDXでBCLを楽しんだりと色んな音の楽しみがあります。勿論ブルーレイで映画を楽しむ時も、サウンドバーにするか？DAC&プリメインアンプ&スピーカーで聴くかも楽しみ方色々であります。

<おわり>



上: iPad Mini と Logicool の「キーボード」
中左: Elecom Bluetooth 受信機
下: SONY CF-1990 ラジカセ

Radio Australia を 今は Streaming から ラジカセで聴く

宮内 聡

■2016年も12月に入り、オーストラリアの ABC は短波での国内放送、海外放送を共に1月末で終了する旨の発表があった。この正式な発表を前に、数日間停波してしまう、という事件があった。もしやこのまま停波してしまうのでは、という直感的な危機感を抱き、早速同局にメールをしていた。数日してメールでの返信が届く。曰く、いついつには再開をす。技術的な理由でなく、なんだか人的な問題が理由とされていた。こんな短波を楽しんでいる人口がどれだけ居るのか、そんな調査をされていたのかもしれない。結果、それ程の問い合わせも来なければ、いよいよ、この波を停止するアナウンスを出しても影響はないだろう、という判断に導いてしまったのかもしれない。

■僕自身の単なる BCL をする上での儀式に過ぎないのだけど、昔から新しいログブックを付け始めるときには、いつも Radio Australia を探してログ張の一番上に記録してから、他の局を付け始める、そんなことを続け

てきた。この記事を書いているのは12月某週末だが昼夜強力で良好な電波を届けてくれている Radio Australia が本当に停波してしまうのかと思うとなんとも悲しくなる。

■こんなことは、もしかしたら誰もがしているのかも？と思いつつ、何かそんなに意味があるのか、という自らの突っ込みを入れながら、「それらしく聴く」方法を探ってみた。短波がなくなった際に Streaming での聴取を想定し、短波っぽく聴こうとトライしたのが、これ。iPad で受けて・Bluetooth で飛ばし、Bluetooth を受信したら今度は、短波付きラジカセの LineIn ジャックへ。タブレットや PC で聴くのとでは視覚的に大きく違う、昔のラジオから流れる Streaming！これだけでも、「BCL」を楽しんでいる気になれそうである。必要なら他に一緒に聞きたい局を QRM として Mixing したり、ノイズレベルを適当に加味すれば、バーチャル(短波)受信である。SINPO=53353 にはなる計算だ。そう、P=Propagation、短波では排除できないフェージング部分をどう解釈するか。Sync-AM が「超」強力になっての谷間のない電波とする？本来であれば有難いはずの現象なのに、ここだけは違和感を排除できない。でも慣れるしかないか。と個人的には妥協してしまった。



■ABC/Radio Australia の短波の価値は言わずもがなの広大な豪大陸・太平洋地域における、シンプルな情報ソースとしての価値であり、この地で聞く番組の中でも、主観的な魅力としては、そのユニークな音楽番組にある。年齢層別に Tripple J、Double J など、対象セグメントを細かく見据えた音楽番組など、好奇心の衰えないおっさんが聞いても十分に楽しい。これ誰だろう、という気になる曲を、曲名解読アプリ Shazam で検索しても、検索履歴が2桁や3桁の、かなりマイナーと言っては失礼だが、希少価値？のある、“味のある” Alternative Rock 番組、これは他では見当たらない。こんな聞き方をしているリスナーが極東に居たことを静かに宣言し、いつの日か”過去の技術”と言われた短波放送が再開されないか、とノスタルジックなことを語ってみる。■



上: リプルーグ・ヴィンテージ地球儀
下: SONY ICF-2010

ヴィンテージ地球儀 リプルーグのある BCL 書齋

宮内 聡

■リプルーグというアメリカの地球儀を eBay でクリックした。ヴィンテージもので、金属部分がいまいちだが、良品、とアバウトな説明書きだけで、販売された年代も判らずではあったが、いちいち確認してどうする、聴くのも野暮だと思いながら、そこそこクリアな写真が数枚掲載されてあったのと、過去取引も粗ほぼ100%に近い取引満足の記録がついていた売主だったので、ここは信じるしかない”えいっ！”これこれ、と知った顔でゲットである！

■これ、普段は殆どお世話になることもない、男性雑誌の Hail Mary Magazine (株)ヘイルマリーカンパニー発行)の4月号を偶々手に取ったのがきっかけで、その

中に紹介されていた記事を何度か読み返して、これ、感じるなあ、と単純に影響されてしまった、のが素直な直接的な理由である。

■僕は実は普段から地図の色使いについてはうるさい。そこにあるその地図の色使いが、なんとも淡い・無難な・冒険しない・それっぽい、安っぽい想像力の域を出ていないのを嘆いている。海なら水色、山なら土色や緑。そうしないと文句でも言われるのだろうか。対照的なのがスイスやカナダの水河地形を現した地形図などで、その色使いが美しく、繊細と大胆がバランスよく同居している。舶来物にめっぽうあまい評価も影響しているのも確かではあるが、この記事の言葉を引用させてもらえば、(リプルーグは)”これは美術品”であり、”漆黒の海と鮮やかな陸地のコントラストが、あたかもポップアートのよう・・・”というその表現そのものである。もともと、地図や地球儀など、普通に考えて、古くなればその価値は低下してしまうのだけど、この製品は、実用品の振りをして実はアートに昇華してしまっていて、時間はその価値を逆に押し上げる側に作用しているのだと気付く。

■ところで、地球儀を傍らに置く、というのを BCL として考えてみる。グレーラインを示す便利なサイトなども、極側の面積が膨大に拡大されてしまったメルカトル図法に落とし込まれていることが殆ど。そこで、BCL がプロパゲーションと戯れるのであれば、その立体感を手元にあることのありがたさにも気付く。地球の裏側との位置関係を、まさに手に取り・ひっくり返して、ある時は太陽の来る側(側面から)眺め、次の瞬間には、南北極側からと、何度も手にとって見渡せるこの作業、これはプロパゲーションルートを想う際の欠かせないロマンティックな作業でもある。

■こんな地球儀と一緒に、ヴィンテージ受信機との相性も抜群、と想像するのであるが、うちのシャックには、僕の年代での夢の・憧れの JRC NRD505、515、それに米国育ちの ICF-2010 くらいしかない。そこで TDXC のお仲間であり、ヴィンテージ機をこよなく愛し、優しく操る「甲斐」さん宅へ持ち込んで、リプルーグとの相性をいち早く確認してみたいといった、個人的な衝動に駆られてしまった。ヴィンテージ嬢の摘みを愛おしく触られている甲斐さんに、同じように、やさしく廻されるリプルーグ、幸せそのもののはずである。■

片手で簡単に世界中のラジオを探索できる Radio Garden について

峯松 史明

1. 1993 年頃の話

日本でインターネットが普及し始めたのは、1993 年頃からだったと記憶しています。当時、私の職場でも Windows3.1 に Internet Chameleon をインストールし、ウェブブラウザには Mosaic を入れて、インターネットを体感し、業務に活かせないか検証しようとしていました。当時は確かインターネット回線は、IIJ に接続された 256kbps 程度のものであったと思います。また、当時は電子メール、ニュースグループ、そして数はそれほど多くなかった WWW を閲覧する程度でした。しかも、WWW なんて静止画が全部出てくるのに数秒から数十秒待つことも多かったように思います。インターネットで音声や映像のストリーミングなんて、夢のまた夢といった感じで、ストリーミングという言葉すら十分に認知されていなかったと思います。

2. パソコンから流れてきたリンダ・ロンシュタットの歌声

1995 年頃だったと思いますが、アメリカから 128kbps で、ステレオの音声ストリーミングを流すという話を知り、専用の受信ソフトウェア(確か Stream Works だったかと思います。)を職場のパソコンにインストールして、本当に聞こえるか試したことがありました。結果は、なかなか聞こえてこなかったのですが、少しの間だけ、ブツブツと途切れ途切れになりながらも、リンダ・ロンシュタットの澄んだ美しい声による What's new

(<https://goo.gl/N6ZJA2>) がステレオで聞こえてきたのです。これは当時の私には本当に衝撃的なものでした(図 1)。大学生の頃に、YAESU FRG-7 とナショナルのループアンテナで、グアムの中波放送 KUAM をキャッチした時にノイズの中から聞こえてきたローラ・ブラニガンの How Am I Supposed To Live Without You(図 2)と同じくらいの驚きと、そのメロディに言葉にならないロマンを感じたのでした。(<https://goo.gl/Tc7p2u>) この体験から、私は「インターネットは我々の世の中を大きく変えるという噂は本当なんだ！」と信じるようになりました。

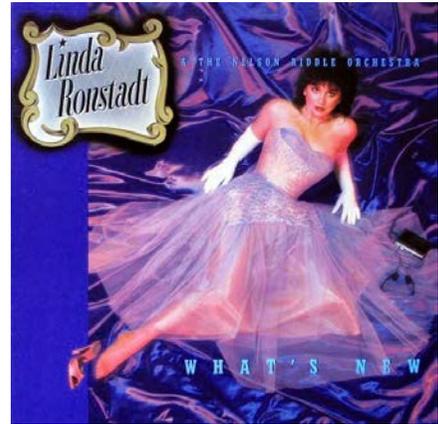


図 1 128kbps ステレオで途切れ途切れに聞こえて来たリンダ・ロンシュタットの
What's new



図 2 KUAM で雑音の中から聞こえてきた
ローラ・ブラニガンの
How Am I Supposed To Live Without You



図3 Radio Garden の操作画面(緑の点がラジオ放送局、マウスで地球儀を回転出来る)
中波 TPDX で常連局の KFOX(1100kHz)を聞いているところ

3. そして、今、Radio Garden の登場

1993 年から 20 年以上が経過しましたが、この間、インターネットは飛躍的に進歩し、インターネット先駆者の方々が予想したとおり、我々の生活を大きく変化させてきました。インターネットストリーミングにより世界中の音声ストリーミング放送が当たり前のように楽しめる世の中になっています。その反面、短波放送の数は激減し、さみしいものになったのも周知のとおりです。

さて、現在、爆発的に普及した音声ストリーミング放送ですが、これまで、私自身がそれを十分に楽しんできたか？と聞かれると、否定せざるを得ません。その理由は、ものすごく大量にある音声ストリーミング放送を容易にかつ包括的に探索、ワッチ出来る場所(環境)が無かったからです。Google 等の検索エンジンを使い、音声ストリーミング放送局を探すことは出来ますが、例えば BCL 世代ならおなじみのラジオであるスカイセンサー 5900 のスプレッドダイヤルを回しながら、そして、その国

のことに想いを馳せながら選局するという感覚がどうしても得られませんでした。数々の選局ソフトウェアも登場してきましたが、どちらかというジャンル分けされたリストの中から選ぶというような味気ないものばかりで、自分が BCL に夢中になっていた頃の感覚が蘇ることはありませんでした。

そんな中、2016 年に音声ストリーミング探索サービスが登場しました。それが Radio Garden(ラジオの庭園)です。Web ブラウザからこのサイト(<http://radio.garden>)にアクセスすると地球儀がブラウザ上に現れます。音声ストリーミングを提供している放送局が、そのロケーションごとに緑色の点で地球儀上にプロットされており、リスナーは、マウスで地球儀を回しながら、聞きたい局を国別に探すことが出来ます。そしてその点をクリック、あるいは、その点の付近にマウスを持ってきた時に現れる放送局リストの中から聞きたい局をマウスで選択すると、その音声ストリーミング放送が受信できるという仕組みにな

っています(図 3)。しかもノクイことに、選局中は、ノイズやかすかな混信(ちょっとSSBチックな(笑))まで聞こえてくるのです。前述したスプレッドダイヤルを回す代わりにマウスで地球儀を回し、そして地球儀を眺めながら選局をすることで、その国に想いを馳せながら選局する感覚が見事に私の中には蘇りました。大変簡単なインターフェースなので、どなたでもお使いになれると思います。使い方を紹介しているYouTube動画がありましたので、リンクを掲載しておきます。(https://goo.gl/HNY6cm)

4. Radio Garden を生んだ欧州プロジェクト

こんなノクイサービスを提供したのは誰なんだろうと思ひ、調べてみると大変興味深い結果が得られました。Radio Garden を我々に提供してくれたのは、ヨーロッパで生まれたTRE(Transnational radio encounters)という研究プロジェクトです(図 4)。TRE は直訳すれば、「国(国家)を超えたラジオ放送との出会い」という意味になります。(http://www.transnationalradio.org/) このプロジェクトリーダーはドイツ、マルティン・ルター大学ハレヴ

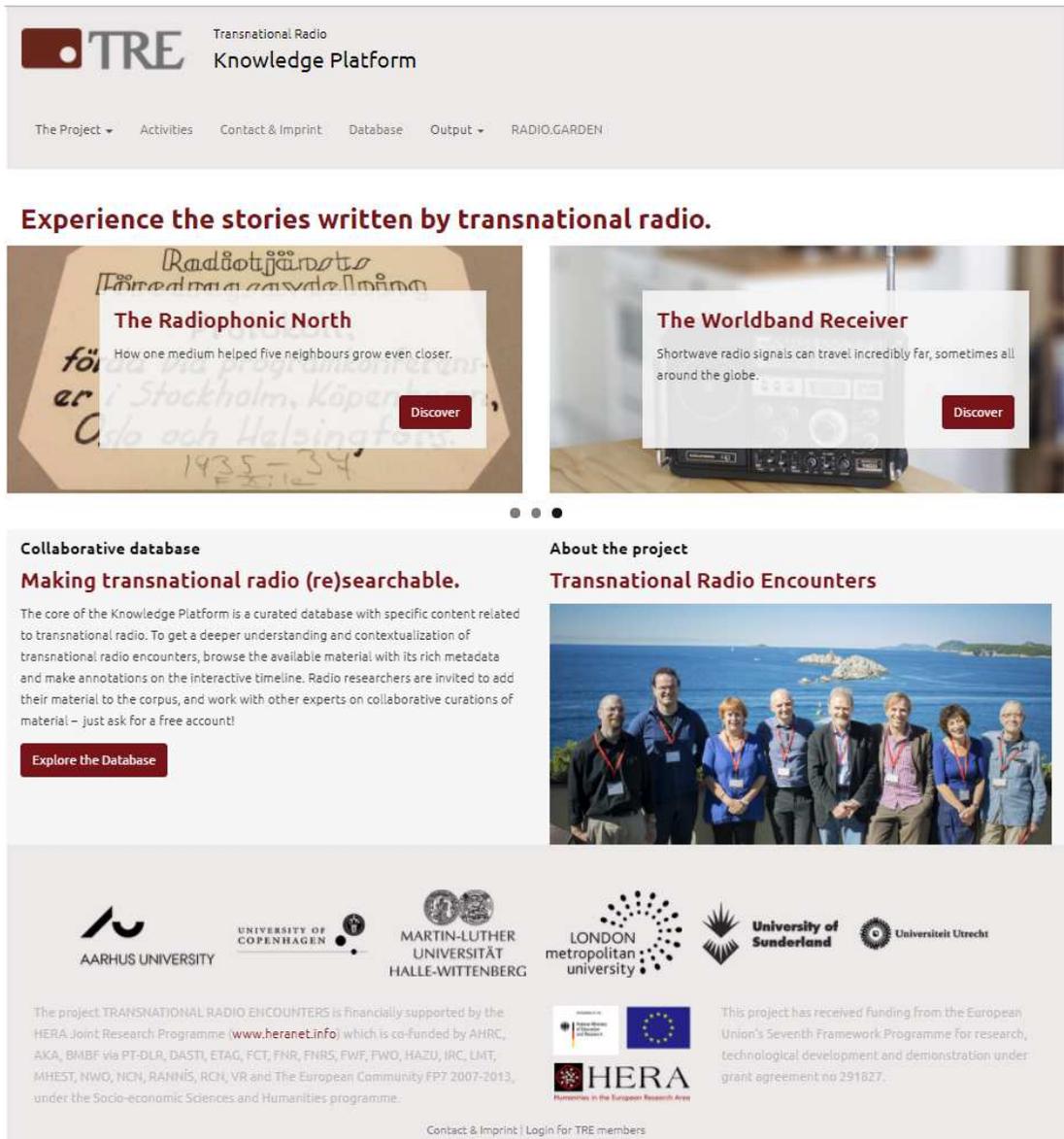


図 4 TRE(Transnational radio encounters)のホームページ(<http://www.transnationalradio.org/>)

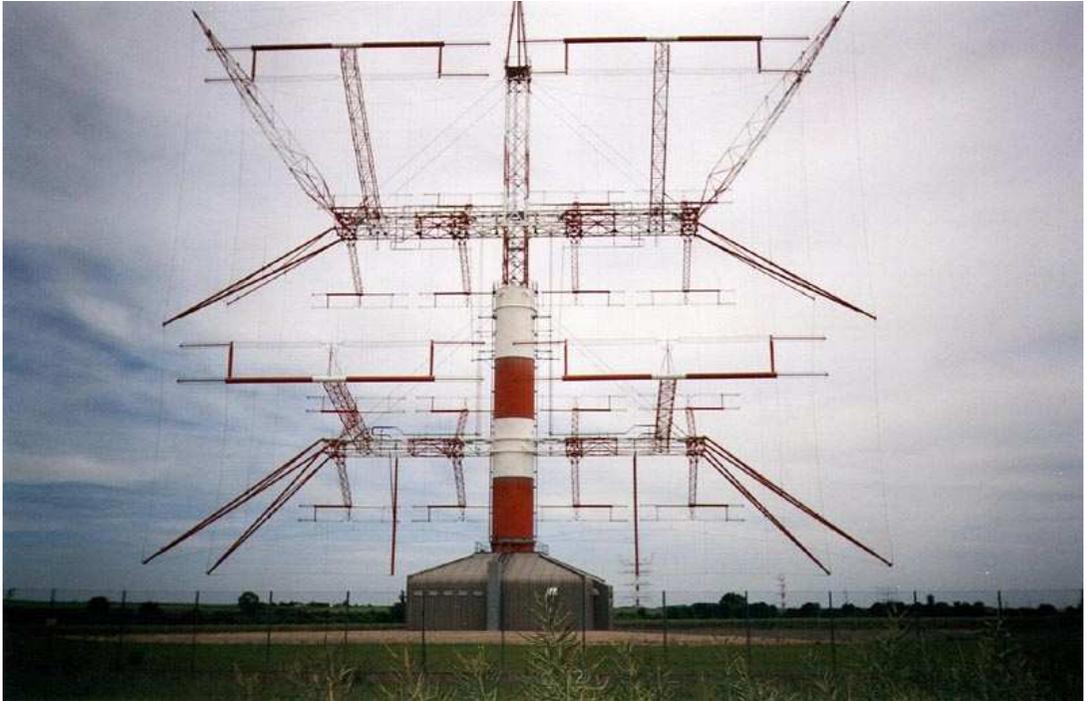


図5 フランス・イスターダンにある回転式の短波送信用カーテンアンテナ (TRE のホームページより)

ッテンベルグの Dr.ゴロ・フェルマー教授です。フェルマー教授によると、この TRE プロジェクトの目的は、一部意識を含めて書いてみますと、

○どのようにラジオというインフラが公共圏、非公共圏の構築に寄与しているのか

○音声表現とラジオ放送によってリスナーの中に呼び起こされる一体感によってもたらされるもの

○ラジオを通じて可能となった国家を超えた(文化的)出会いがどのようにこれまで記録(アーカイブ)され、再利用されているのか、そしてそれらの記録がどのように国境を超えたラジオ放送との出会いに利用されているのか

を調査・研究することだそうです。そして、フェルマー教授は、同プロジェクトのホームページにて、短波放送や SWL、DXing についても、触れられています (<https://goo.gl/P6QFcf>)。このページにはあのフランス・イスターダンにある回転可能な、短波送信用のカーテンアンテナの写真も掲載されています(図5)。また、フェルマー教授は、自身が子供の頃のラジオ放送の思い出について、「子供の頃、夜に、ラジオからポーランド語で数だけを読み上げる放送が聞こえてきて、あれはスパイ向けの乱数放送だったに違いない。」と語っていらっしやいます。この話は、フェルマー教授の語りとして、

Radio Garden の Stories から、ドイツの地点をクリックすることで聴くことが可能です。これ以外にもヨーロッパの様々な TRE プロジェクトの参加者が、自分と、海外のラジオ放送との出会いについて語っていらっしやいます(図6)。フェルマー教授もきっと欧州の BCL でいらっしやるに違いありません。

Radio Garden では、インターネットの新しい音声ストリーミング局の追加も申請により可能であり、また、海外ラジオ放送と自分との出会いについても語る場所が用意されています。今のところ欧州圏の方々によるものばかりですが、ぜひ我々日本人 BCL も、自分と海外放送との出会いについて語り伝えることにトライしてみたいものです。

5. Radio Garden で聞けるステーションジングル集

Radio Garden では、各国のラジオ局のステーションジングルもアーカイブされており、楽しむことができます。その中に日本の文化放送(JOQR)の有名な QR ソングも含まれています。興味深いのは、1977年にアメリカの CPMG という会社が1965年に生まれたこのジングルソングをアメリカ人シンガーにより、新しく作り直したのも記録されていることです。日本語の歌詞で歌うのは、アメリカ人の歌手にとって大変だった様子です。新し

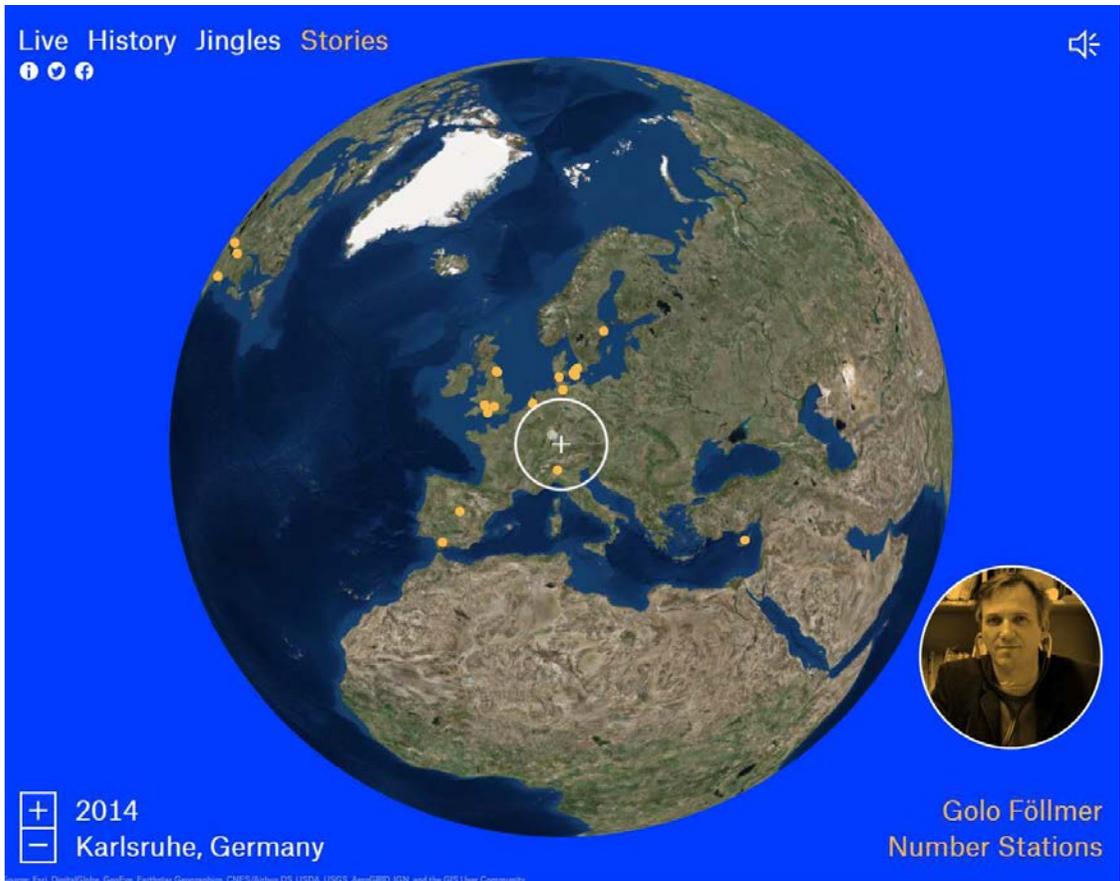


図6 TRE 参加者によるラジオ放送に関する思い出等を本人の声で聴くことが出来る
これは、プロジェクトリーダーの Dr.ゴロ・フェルマー教授が語っているところ

いバージョンのジングルをよく聞くと、確かに日本人ではないなと感じられます。とても珍しいジングルではないでしょうか？

6. おわりに

Radio Garden をこの世にリリースした TRE プロジェクトは、ラジオ放送の研究を通して、新しい国家を超えて取り組むべき事項は何かを捉えようとしているようです。そして、彼らは、ラジオ放送の意味に関する新しい知識を創出し、さらにグローバリゼーションとデジタル化の時代に耳を傾けることによって、人々の移住や、文化的アイデンティティ、ラジオ放送との出会いや、ラジオ放送に関する記憶に関する様々なディスカッションの中にラジオ放送の研究を位置づけています。なんだか実にヨーロッパっぽい研究ですね。

「最近の若者は…」と言うと、苦笑されそうですが、「ラジオってどうやって聞くのですか？」という質問をする若

者がこのインターネット時代に登場してきているようです。ラジオは音声のみで伝わることから、どうしても頭の中で想像しながら聴くことになります。この想像という行為はとても大切なことだと私は思います。そして知らない世界に想いを馳せるという経験は、ラジオ放送だからこそ効果的に出来る部分もあるのではないのでしょうか？

あの一大ブームとなった BCL 時代を経験してきた私達には、海外放送を聞くことで、その放送電波を送ってきた海外の国々についていろんなことを考え、感じた経験が少なからずあると思います。そしてその経験が今の私達の一人ひとりの行動規範のどこかに組み込まれているのかもしれない。若者のラジオを聞く経験が激減している今、ラジオ放送の魅力を若い人に伝承していくことが出来るのは、BCL を細く長く続けてきた私達なんだろうと思います。TDXC の活動を通じて、一人でも多くの若者がラジオを聞くことに興味を持ってくれるならば、とても素敵なことだと思うのです。



■はじめに

以前、PROPAGATION 2016 (Edition4)にて取り上げた、『MacでPERSEUSを動かそう』にてBootCampでWindows7を動かし、SDRを使用していた。しかし、昨今のセキュリティ問題の観点から、今回は、最新OSである、Windows10への新規インストールを行い、PERSEUSのセットアップまでを行った。

■使用機材

- ・ Mac PC
(当方は MacBook Air 13-inch 2013 Mid を使用)
- ・ USB メモリー
(容量 8GB 以上を使用)
- ・ PERSEUS
- ・ Windows 10 Pro OS

■インストール準備

・ OS のダウンロード
まず、マイクロソフト社のページ (<https://www.microsoft.com/ja-jp/software-download/windows10ISO>)にてWindows 10のOSをダウンロードする。ページ内のエディションの選択では、Windows 10 Anniversary Update 直下の「Windows 10」を選択し、「確認」をクリック。次に製品の言語の選択では、「日本語」



↑ Windows10 ダウンロードページ
を選択。その後、「64-bit ダウンロード」をクリックしダウンロードを行う。

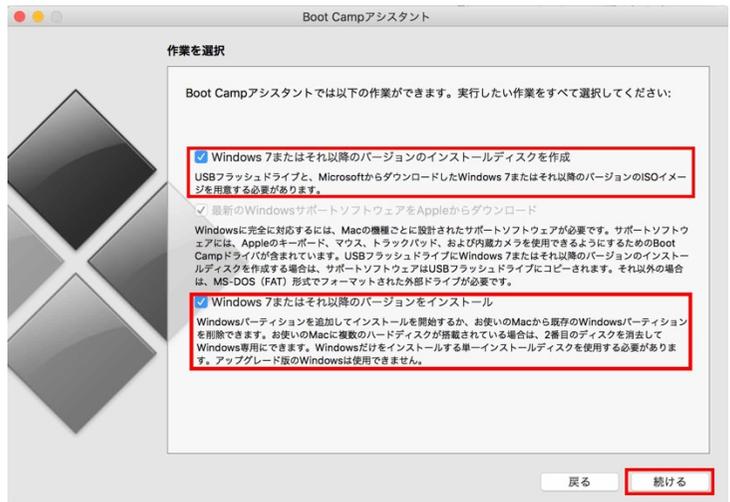
■BootCampの設定

●USBメモリーをMacPCに挿入し、画面下 Dock バーの「Launchpad」→「その他」→「Boot Camp アシスタント」の順にクリック。

●Boot Camp アシスタントが表示されるので、「続ける」をクリック。

●作業を選択 (図1)
この画面では、「Windows 7 またはそれ以降のバージョンのインストールディスクを作成」と「Windows 7 またはそれ以降のバージョンをインストール」の2つにチェックを入れ「続ける」をクリック。

●次に、Windows インストール用の起動可能な USB ドライブを作成 (図2) という画面で、「選択」→「ダウンロードした、Windows 10 の OS ファイルを選択」→「OK」(※自動的に選択されてる場合もある。) 保存先ディスクでは、USBメモリーが認識されていることを確認し、「続ける」をク



(図1)



(図2)

リック。ドライブは消去されま
すと警告画面が表示されるので
これも「続ける」をクリックし、
BootCamp アシスタントが変更
を加えようとしています。とい
う画面で Mac のログインパス
ワードを入力し「OK」。

●Windows 用のパーティシ ョンの作成

Windows にどれ位までのデー
タ領域を分け与えるかを指定す
る。指定する時は、macOS と
Windows の間にある「・」を
左右にマウスをずらしてパー
ティションを決める。

(当方は、Windows 用パー
ティション 40GB と指定した)
指定したら、「インストール」
→「ログインパスワードを入
力」→「OK」→再起動

(※パーティションが作成で
きません等のエラーが表示され
た場合は、リカバリーモードの
「ディスクユーティリティ」に
て「ディスクを修復」を行うと
改善される場合がある。)

■Windows のセットアップ

ここからは見慣れた Windows
の画面だ。

- ・インストール言語「日本語
(日本語)」
- ・時刻と通過の形式「日本語
(日本)」
- ・キーボードまた入力方式
「Microsoft IME」
- ・キーボードの種類「日本語キ
ーボード 106/109 キー」を選
択。(通常は自動的に選択され
ている) →「次へ」→「プロダ
クトキーを入力」→「次へ」を
クリック。オペレーティング
システムの種類が表示されるの
で「Windows 10 Pro」を選択
し「次へ」をクリック。ライセ
ンス条項に「同意する」にチェ
ックを入れ「次へ」。

●Windows のインストール場
所を選んでください。ここで
は、パーティションで区切つ
た Windows の領域を指定しま
す。

「ドライブ 0 パ
ーティション
3:

BOOTCAMP」
を指定(当方は
40GB でパー
ティションを選
択したので、

3.79GB の領域を指定)→「フ
ォーマット」→復元出来ない旨の
警告が表示されるので「はい」
をクリック。(※ここで選択を
誤ると Mac 自体が使用出来な
くなる可能性があるので要注
意！)

フォーマットされ、「ドライブ
0 パーティション 3:」を選択
→「次へ」。

●Windows のインストール

Windows のインストールが開
始され、2 回再起動を行い、セ
ットアップは完了する。

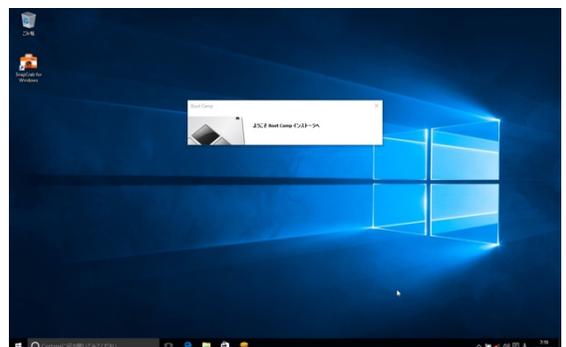
■Windows の設定

再起動後、すぐに使い始める
ことができますと画面が表示さ
れたら右下の「簡単設定を使
う」をクリック。

●アカウント設定のための「ユー
ザー名」、「パスワード」の設
定を行い「次へ」。

●デスクトップ画面が表示され
あとは、無線 LAN アダプタ、
キーボード、トラックパッド等
の Mac に搭載しているデバイ
スを Windows で使用できる為
のドライバーのインストールを
行う。

インストール後、画面中央に
「ようこそ Boot Camp イン
ストーラーへ」と表示されるの
でそこをクリック。ウィザード



が表示され「次へ」→「完了」
→「はい」→再起動
これで Windows が使えるようになった。

■PERSEUS の設定

●ドライバー・ソフトウェア
ダウンロード

AOR 社のホームページ

『PERSEUS 情報コーナー』
(http://www.aor.co.jp/perseus/perseus_info.html)にて、

ドライバーとソフトウェアをダウンロードする。

ページを下へスクロールし、

「NEW ペルセウス署名入り
USB ドライバソフトウェア
インストーラ(27 September
2016 公開) (ZIP 5.5MB)」と
「ペルセウス・ソフトウェア
最新バージョン (4.1a) ダウン
ロード (2013.06 現在) (ZIP
8.1MB)」の2つをダウンロードし、ZIP ファイルなのであらかじめ展開 (解凍) しておく。

●PERSEUS ドライバーイン
ストール

PERSEUS をパソコンに接続し、デバイスマネージャーで確認すると「ほかのデバイス」内の「不明なデバイス」として認識される。

正常に動作させる為に、ドライバーのインストールを行う。

「不明なデバイス」→右クリック「ドライバーソフトウェアの更新」→「コンピューターを参照してドライバーソフトウェアを検索します」→ダウンロードし展開 (解凍) したフォルダ内「PerseusDriversUpdate2016a1」→「x64」のフォルダを指定し→「OK」→「次へ」

→「インストール」をクリック



↑PERSEUS 情報コーナー ホームページ

これでドライバーがインストールされ、PC で PERSEUS が認識されます。

●ソフトウェアの起動

ダウンロードし、展開 (解凍) したもう一つのフォルダ「Perseusv41a」→

「perseus.exe」をクリックしソフトウェアを起動。

ファイヤーウォールの警告が表示されるので「アクセスを許可する」をする。

これで波形が表示されてれば設定は完了だ。

■おわりに

Boot Camp によって Mac と Windows の二刀流。1 台で2つの OS が利用でき、なんとも便利な機能だ。

ただ弱点は、記録容量の少なさだ。PERSEUS で録音する際は、USB メモリーか外付け HDD へ保存することをお勧めする。



↑正常にインストールできれば上のよう波形が表示される

Colibri NANO SDR を手に取って。

岡村 博行



Colibri NANO という dongle 型 SDR を今回、入手出来ましたので初感を此処に記ます。

Colibri NANO とは？

Colibri NANO とは、ロシアの無線機のメーカー、Expert Electronics 社 が製造した dongle 型の SDR 受信機です。高性能 SDR 受信機の欠点は小型化できないことです。しかし、あの有名な SDR 受信機、イタリア、Microtelecom 社の PERSEUS が発売されてから約 10 年、経ちました。世の中の技術も進歩し、高性能の小型の SDR 受信機が登場しても良い頃です。Colibri NANO のスペックを見ると、PERSEUS と同程度の能力があり、発売前から、一部の BCL の間では、話題に上っていました。小型の SDR があれば、外出先で聞くときも持ち運びに便利だと思います。Colibri NANO は夢を叶えてくれるでしょうか？ また、Raspberry Pi という、小型の PC に繋ぐ事によって、LAN 経由で操作が可能な模様ですが、詳細は不明です。今回、この SDR 受信機の入手先は NSI Electronics という米国のディーラーです。プレオーダーから待つこと、約 2 ヶ月で実物は送られてきました。外観は dongle 型ですので大変小型です。しかし、小型の割には部品装填が多いのか、ずっしりと重みがあります。

受信テストを試みた。

到着後、早速、受信テストをしてみました。まず、Colibri NANO を PC の USB ソケットに取り付けます。プラグアンドプレイなのでネットから自動的にドライバーがインストールされます。SOFTWARE は Expert Electronics 社の Expert SDR 2 を使用しました。Expert SDR 2 をメーカーのページからダウンロードして PC にインストールします。

参照 : <https://eesdr.com/en/products-en/receivers-en/colibrinano-en#downloads>

これで準備完了です。(但し、メーカーによると、FTDI チップが接続された他のデバイスが PC にあると Colibri NANO が認識できない時があるそうです。その場合は Colibri NANO の Serial Number をご自分の PC に登録する必要があります。詳細はメーカーの HP をご覧ください。)

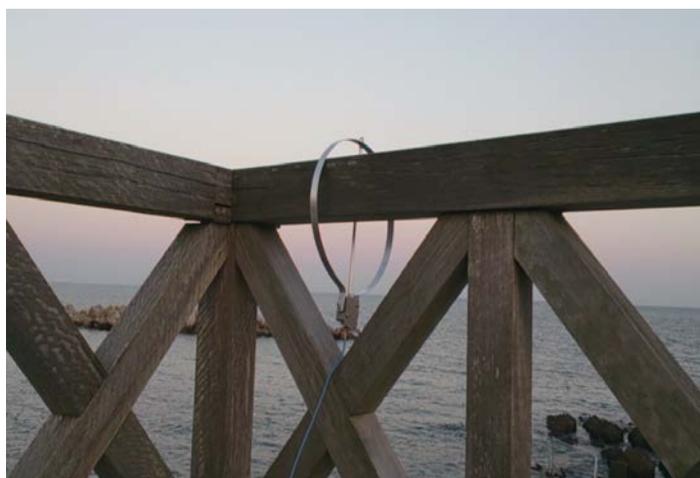
アンテナを Colibri NANO に繋ぎ、PC の画面上で Expert SDR 2 を起動し、ソフトのスイッチを ON にします。すると、画面上に綺麗な緑色の波形が浮かび上がりました。操作も実に快適です。Expert SDR 2 は大変 GUI が見やすく、好感が持てました。心配されていた MW, SW 帯でのスピリアスの波形も全く見えません。Colibri NANO は FM, VHF, UHF 帯も受信可能範囲になってます。しかし、30MHz 以上は Under Sampling となっており、特に FM 放送を受信する場合には中波帯、短波帯の影響を最小限に抑える、High Pass Filter が必要な場合があります。夜間には DX 局も受信できました。Expert SDR 2 の受信音ですが音質が大変良いです。自分では WinRadio の Excalibuar シリーズと同等、若しくはそれ以上と感じました。

不満点が続々と・・・

起動後、暫くして、ある異変に気が付きました。それは、起動中、Colibri NANO 本体の温度が異常に高くなる事です。冬場なら、未だしも夏場の運用なら心配になるほどの熱さです。部品装填が多い事からかもしれませんが放熱板は必要だったのかも知れません。Expert SDR 2 を使用して不満点も幾つかでてきました。もっとも、重要だと思われるのが、Expert SDR 2 上で IQ ストリームの再生が出来ない事です。IQ ストリームの録音は Expert SDR 2 上で可能ですが、何故か、再生機能が Expert SDR 2 上には、ありません。実は IQ ストリームの再生には別の Expert SDR IQ Playear という再生専用のソフトが必要です。所が、現時点の Expert SDR IQ Playear はバージョンが古くて起動すると、エラーが出ます。この点は、現在、メーカーに改善要望を出している所です。予定では秋頃、迄に、Expert SDR IQ Playear の最新バージョンをメーカーが作成する模様です。また、Third Party Software の、HSDR については、現在の EXTIO.DLL のバージョンでは録音するとゲインが 60dbm 高いというバグがあるので、設定で -60dbm 下げれば、帯域録音も可能であることが解りました。尚、SDR#については前バージョンのみ使用が可能な模様です。

Colibri NANO で屋外運用テスト。

ある日の夕方、海岸に赴き、Colibri NANO の屋外運用テストを実施しました。使用アンテナ今回は ML-200 の直径 40cm 小型ループアンテナです。まず、アンテナを柵に設置します。



ループアンテナでテスト

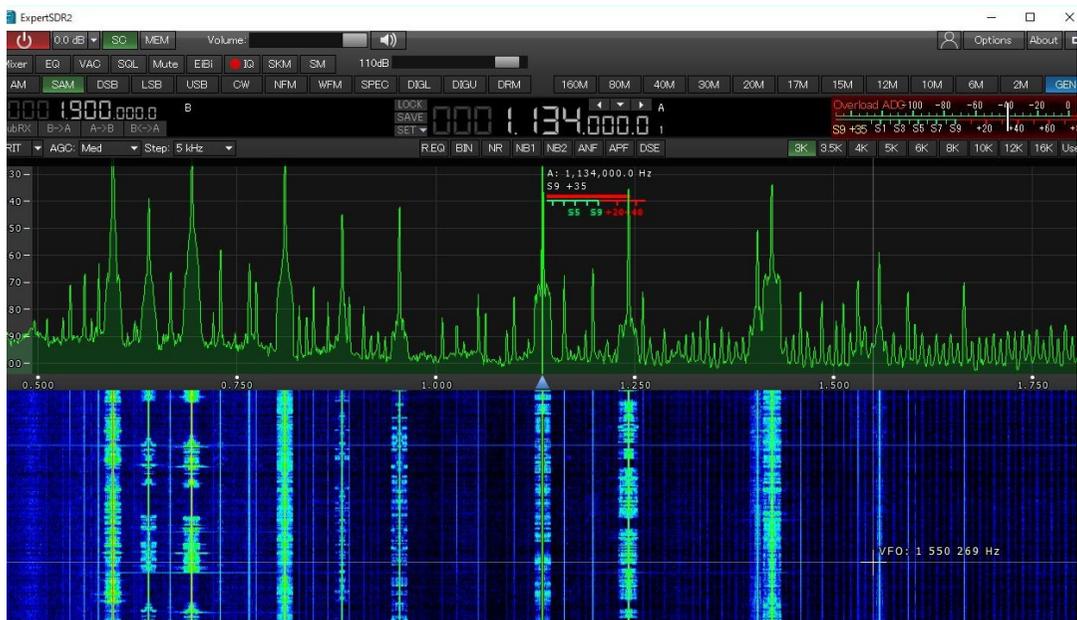
その後、アンテナを Colibri NANO に繋ぎ、各配線をします。後は、PC 上でHSDR を立ち上げるだけです。尚、アンテナアンプの電源は PC の USB 側から取りました。



セットはこれで完了です。SDR が小さくなった事で全体の総重量が軽くなり身軽になりました。HSDR の画面を見ると綺麗に放送の波形が見えています。夕刻になるに連れ、オセアニアの各局の信号が強くなって行きます。この日の受信では 567kHz のグアム局は完全に国内局を潰す勢いで聞こえていました。日没前後の1時間ほどを HSDR を使用して帯域録音をしました。帰宅してからファイルを再生してみました。特に、これと言った支障は無かったように思えます。一応、短時間でしたが屋外テストは成功の様です。Colibri NANO は新しい屋外運用受信の形を導いてくれる気がしました。

Colibri NANO の評価？

さて、この SDR 受信機の評価はどれくらいでしょうか？ Colibri NANO は现阶段ではソフトの完成度も低く、不満点も多くあります。しかし、あえて、新しい SDR 受信機の新たな道を開いたという所は評価したいと思います。近い将来、ソフトの完成度が上がってから、再びレビューできることを夢見てこの記事を終了することにします。



Expert SDR 2 の画面

船舶気象通報の中波放送廃止を知って

山田 寿一

昨年（2016年）9月30日に船舶気象通報（いわゆる灯台の放送）の中波での放送が廃止となりました。

当方は以前から船舶気象通報に興味を持っていました。放送はご存知のとおり、1670.5kHz（搬送波周波数は1669kHzであるため、実際にはUSBモード1669kHzで聴くことができる。）で、単調な機械音声によるアナウンスではあるものの、1時間で日本全国全ての放送を聴くことができるため、手軽にワッチすることができます。また、ベリカードが各局独自のもので、そのほとんどが灯台の写真をあしらったとても美しいものであることから以前から魅力を感じており、ぜひ全局のベリカードを取得しようと密かに目標を持っておりました。

ただ、各局の送信出力は低出力であることから、全局制覇するのはなかなか容易なことではありません。「全局制覇なんか簡単だ！」とおっしゃる方もおられると思いますが、それなりの受信設備、ロケーション、更には電波コンディションが揃わなければ難しいものと考えています。当方の受信環境はノイズだらけのロケーションのため受信報告を送るとなると内容も正確を期さなければならず、なかなか厳しいものでした。また、当方のルーズな性格も相まって「そのうち全局聴いてやろう」と延ばし延ばししていたところ、平成28年9月28日の新聞で灯台の放送が9月30日12時に廃止となることを初めて知ったのでした。

廃止のニュースを知ってからは焦りました。まだ聴いていない局はたくさんあります。また自分のロケーションではとても残りの3日間で全局を聴くのは無理でしょう。でも、まずは駄目元でも頑張ってワッチするしかないと決め込み、夜から深夜にかけて受信機と対峙することとしました。

9月30日の廃止まで、できる限り受信機と格闘してみたものの、やはりノイズが強く、とても全局受信には至らないことは明らかでした。聞えた局に対しては受信報告を送りました。しかし、聞こえても内容が不明瞭で受信報告を送ることができない局

や全く聞こえなかった局もかなりあります。このまま終わってしまうのは自分としても非常に不本意です。

そこで、頭をよぎったのは、とにかく船舶気象通報を行っていた各局に対して感謝の手紙を書いてみようということです。灯台の放送に興味を持ち、船舶気象通報の放送を何度か聞く試みを行ったが、結局聴くことができず、非常に残念に思っていること。今まで長年放送を行ってこられた職員の皆様にお疲れさまと感謝の気持ちを伝えること。今回中波放送は廃止となるものの、今まで放送されてきたという証跡を歴史にしっかりと刻んでおくことは大変重要なことであること。そのためにわれわれ船舶気象通報の放送愛好家として放送の証跡を保存し、放送が行われていたことを将来に伝えてゆくため、局のベリカードのフォーマット、パンフレット、灯台の写真等の資料をできれば提供していただきたいことを手紙に書いて送ることにしました。手紙を送ることにしたものの、当方のパソコンが現在故障中で、手紙を短時間にたくさん作成することができません。やむなく手書きで作成したのですが、当初は受信報告を送ることができなかった全ての局に送付すると意気込んでいたものの、作成に時間を要したことから途中で挫折してしまいました。ただ、手書きで手紙を作成したことから、手紙を受け取った側には当方の気持ちがしっかりと伝わったものと考えております。

上記を行った結果、一部の局から丁寧な返信をいただくことができましたので、受領したベリカードとともにそれらをとり纏めてみることにしました。

その結果、平成27年以降に受信報告を送付したのは20通で、そのうち返信があったのも20通分で、実に返信率は100%でした。一方、受信できずに手紙を送ったのは9通で、そのうち返信が得られたのは6通分となり、返信率は66.7%でした。これらを返信の状況によりパターン化してみました。ここに記載したのは、平成27年以降に受信報告を送った局と、放送廃止日の平成28年9月30日までに受信



しゃこたん H27.5.6 受信



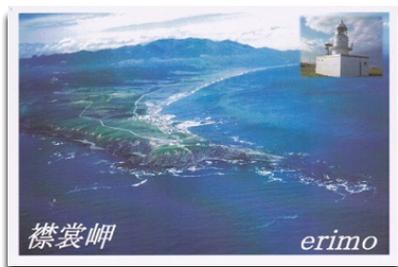
しゃこたん H28.9.3 受信



しゃこたん H28.9.30 受信

を試みたものの受信報告を送るまでには至らず、やむなく手紙を送った局について纏めており、平成26年以前に返信を得ている局については一部を除いて記載していません。

■ペリカードを受領した局

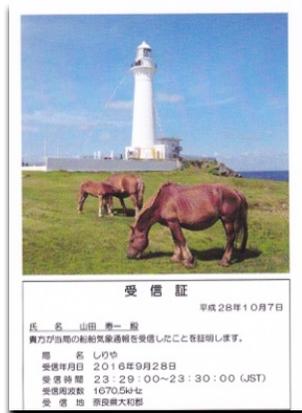


神威岬灯台の写真を用いたものです。ところが、若干ながらそれぞれデザイン等が異なっているところが興味深いところです。まず、平成27年5月6日受信分。これは写真にワープロ打ちで確認文や受信データが記入されており、裏面は白紙です。次に平

しゃこたん、えりも、くしろ、しりや、にゅうどう、のじま、いぬぼう、いろろ、はちじょうじま、だいおう、むろと、はぎみしま、あわしま。

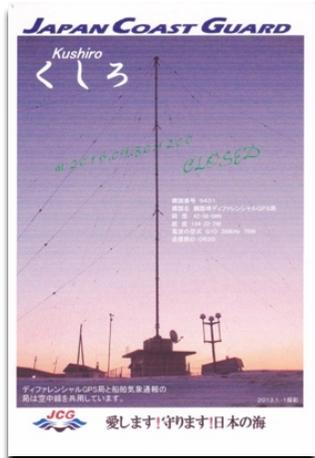
「しゃこたん」のペリカードは今回の平成28年9月30日受信分を含めて平成27年5月6日受信分から合計3枚のペリカードを取得しました。3枚とも同じ

成28年9月3日受信分のカード。こちらは写真の余白に手書きで「神威岬灯台」と記入され、確認文や受信データは写真の裏面（正式にはペリカードの表面）に記入されています。平成28年9月30日受信分については、基本的に前述の平成28年9月3日受信分のカードと形式は同じですが、写真の画像・色合いが9月3日受信分より若干明るくなっています。同じ写真のカードでもこのように若干異なるため、それぞれ個別にデザインを楽しむことができます。



「くしろ」のペリカードは空中線の写真のバックに「at 2016, 09. 30. 1200CLOSED」の文字が刻まれた放送廃止の特別ペリカード仕様となっています。

「のじま」は、平成27年5月6日受信時に取得した際のペリカードは通常の葉書形式で灯台の写真デザインしたものですが、今回受領したペリカードはデジカメ写真によるもので、灯台がアップで撮影され周囲に桜の花が咲き乱れている美しいものに変更されていました。インターネットで「のじま」のペリカードを検索したところ、こ



の新たなデザインは平成 27 年に変更されたもの
 ようです。このように最近ではほとんどの局がデジカ
 メ写真を用いたペリカードに変更されてきていま
 す。

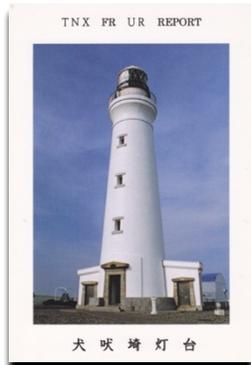


のじま H27. 5. 6 受信



のじま H28. 9. 29 受信

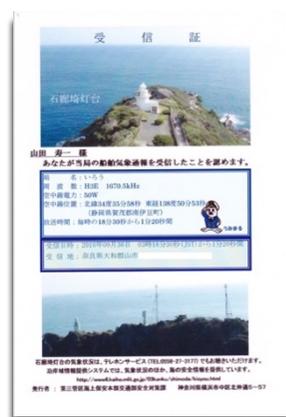
どの局もデジカメ写真を利用するのは、局同士の横
 のつながりによるものなのか、それとも上部組織か
 らの指示なのでしょう。ここまで書いたところで、
 以前「きんか」に受信報告を送付し、その返信
 で担当者の方が東日本大震災以降業務が多忙でそ
 ろそろペリカードの図案を変更しなければならな
 いが検討する時間がないと愚痴をこぼしておられ



たのを思い出しました。その後、新たな「きんか」
 のペリカードは受領していませんが、こちらもデ
 ジカメ仕様になったのでしょうか。因みに「のじま」、
 「はちじょうじま」「いろいろ」は、平成 27 年 5 月 6
 日に受信し、それぞれの海上保安部交通課へ受信報
 告を送付したところ、まとめて第三管区海上保安本
 部から返信がありました。そこで今回は 3 局の受信
 報告をまとめて第三管区海上保安本部へ送付しま
 した。なかなか返信が得られず、半分あきらめてい
 たところ、108 日後に第三管区海上保安本部から返
 信をなんとか受領することができました。これが今
 回最も日数を要した返信となりました。

「いぬぼう」は、以前筆者が東京在住時に日帰り
 で犬吠埼灯台を見に行ったこともあることから、ペ
 リカードの灯台の写真を見るたびに当時を思い出
 されて感慨深いペリカードです。

「むろと」については、ペリカードにおもしろい確



認文が記入されています。「貴局」からの受信報告書
 は。。。と報告者のことを「貴局」と表現しています。
 受信報告書の頭文で良く用いる「貴局の放送を受信
 しました。」の「貴局」と混同されているのかもしれ
 ません。なお、「むろと」は平成 28 年 5 月 6 日受信
 分のカードも取得していますが、こちらも確認文は
 「貴局」となっています。

「あわしま」のペリカードは名刺サイズの小さな
 ものです。平成 28 年 5 月 6 日受信時のカード N o
 は 3 番でしたが、今回平成 28 年 9 月 28 日及び 9 月
 30 日受信時のカード N o は 78 番でその間に 75 件
 分のペリカードが発行されていることがわかります。
 また、カードとともに同封されている送付文は
 平成 28 年 5 月 6 日受信時のものはごく普通のもの
 でしたが、平成 28 年 9 月 28 日及び 9 月 30 日受信



あわしま H27. 7. 7 受信

あわしま H28. 9. 28 受信

あわしま H28. 9. 30 受信

時の送付文は、発行者の押印があり、9月30日で廃止となったことやこれまでの永きにわたる受信に対する感謝文が記入されていました。

確認文のところが赤字となっており、その上から取消線を引き、取り消した受信確認文の下に「放送最終日のフォーマットです。記念に贈ります。長い間、受信の試みお疲れ様でした。」と労いの言葉をいただきました。非常にありがたいお言葉です。

■受信確認証のフォーマットを受領した局



やぎしり、しおのみさき、おおせさき、やえせ、みやこじま。

残念ながら9月30日までに受信報告を送るまでに至らず、やむなく手紙を送ったところ、返信が得られた局です。

「やぎしり」からはベリカードに使用される写真に説明文が記入されたものが送られてき

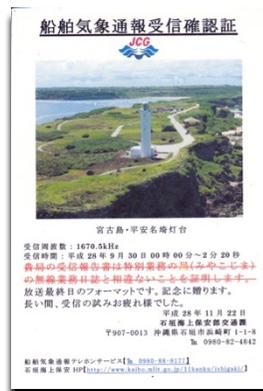
ました。通常はこの写真の裏面に受信確認文と受信データが記入されます。

■パンフレットを受領した局

へぐら、やえせ

上記同様、9月30日までに受信報告を送るまでに至らず、やむなく手紙を送ったところ、返信が得られた局です。

「へぐら」からは、受信確認証は受信した証であるため、確認証のフォーマットを送付することはできないと断られました。また、船舶



「しおのみさき」はベリカードのフォーマットに分類しましたが、受信報告を送ることができなかったため



め手紙を送ったにもかかわらず、受信確認証そのものが送られてきました。また、上述の「むろと」と同様、確認文が「貴局が受信した放送は、。。。と報告者のことを「貴局」と表記していました。

「おおせさき」と「やえせ」はベリカードのフォーマットで受信データのところが「*」マークとなっているものを送っていただきました。

「みやこじま」はベリカードのフォーマットで受信

気象通報のパンフレットも近年は作成されていないため在庫がないが、過去のパンフレットが倉庫にあったのでコピーを送付するとのことです

そのパンフレットのコピーをいただくことができました。わざわざ倉庫まで行って過去の資料を探していただいたこと大変感謝します。



「やえせ」からは、平成28年9月30日で一部の情報提供業務が終了となる旨の通知文書をいただくことができました。

■空中線の写真を受領した局

おおせぎき「おおせぎき」からは、ベリカードのフォーマットとともに、空中線の写真をいただくことができました。

■記念品を受領した局



だいおう

「だいおう」からは、ベリカードとともに、大王埼灯台の写真デザインしたバッチをいただくことができました。モノトーンでレトロな雰囲気を醸し出している洒落たバッチで筆者にとっては大変ありがたいグッズで

す。ベリカード発行担当様のご厚意に非常に感謝いたします。

■返信をいただけなかった局

大阪ハーバーレーダー、とい、たこばな

大阪ハーバーレーダー、とい、たこばなは、受信報告を送るに至らず手紙を送りましたが、残念ながら返信を得ることができませんでした。特に「大阪ハーバーレーダー」は自宅と同じ関西圏内でありながら、受信できないのは電波の不思議と言わざるを得ません。

以上、船舶気象通報からの返信状況について纏めてみましたが、船気象通報の短波放送廃止後も、良き思い出としていつまでも愛好家の皆様のの心の中に残る一助として、少しでも本稿が貢献することができれば非常に幸いです。ありがとうございました。

特別 編集後座談会

山田寿一・竹野伸郎

(竹野) 今回は山田さんの原稿の編集に携わることが出来て、とても嬉しかったです。ご協力ありがとうございました。

(山田) こちらこそ、お声がけいただきましてありがとうございました。おかげで久しぶりに BCL の趣味でやりがいを感じました。(笑)

(竹野) そう言っていたいただけと嬉しいです。山田さんとは昨年(2016年)に尾崎さんのイベントで偶然お会いしてとてもびっくりしました。

(山田) 以前から尾崎さんにはお会いしたいと思っていました。何年か前にイベントへの参加のお誘いをお手紙でいただき、その時はこちらの都合で参加できず、それ以降そのままになっていました。そのことが頭に残っており、いつか機会があればお会いしたいとは思っていました。最近になって H C J B に受信報告をししばしば送るようになったこともあり、意を決して今回お会いすることにしました。

(竹野) なるほど。いずれにしても、お会い出来て嬉しかったです。そんな意味でも尾崎さんに感謝、ですよ。ところで、山田さんと日本語放送、尾崎さんというイメージは実はないんですよ。海外日本語放送は聞いてましたっけ？

(山田) 以前から日本語放送もそれなりにポツポツとは聴いていました。ただ、最近では以前ほど B C L (DX) をアクティブにやっていないので、外国語の放送と比べると気楽に楽しめるものとして日本語放送を聴く比重が増えてきています。H C J B で言うと、エクアドルから放送されていた時代に受信報告を送るとその返信に同封される「La Voz」の余白に必ず尾崎夫人が丁寧なメッセージを書きくださり、他の日本語放送に比べて親近感があったこと、日本語放送の中で放送に携わっておられる方と接点を持ちやすかったのが先ほど述べた理由もあって尾崎さんでした。

(竹野) そうですよ。あの Lz Voz のメッセージ



は感服しますよね。逆に新しいカードのためだけに（当時は2か月に一回デザインが変更になっていた）レポートするのも恐縮することもあってね。

（山田）わかります。こちらも近況報告くらいしっかりしないと、と思いました。

（竹野）最初に山田さんには90年後半から2000年はじめにかけて私の「趣味」にお付き合い頂いて本当に申し訳なく思っていました。当時、私が某クラブでやっていたことは単純に自分の思い付きばかりでしたからね。皆さんにご迷惑かけたと思っています。

（山田）丁度自分が関西から東京へ転勤となり、それまでは、自分一人で細々とDXに励んでいたのですが、東京転勤を機会にDX仲間を作るためにクラブに入会させていただきました。ミーティングにもしばしば参加し、とても楽しかったです。また、ペディションにも行って普段自宅で聞こえない珍局をキャッチするなども刺激がありました。ここで一気に自分のDXの世界が開けたので竹野さんにはとても感謝しております。

（竹野）そうですね、それなら良かったです。ありがとうございます。いやいや、それより山田さんからは情報は外（海外）にだすものだ、ということをお教え頂きDXに対する考え方がわかりましたよ。

（山田）そうですね。そんな話しましたっけ？

（竹野）言葉は悪いですが日本で当たり前で聞いている局でもUSやヨーロッパでは全く違う。だから、毎週でも「聞こえている」ことを報告する。だから「聞こえていない」こともビッグニュースになると。

（山田）エラそうですね（笑）でも確かにそんなことを言っていましたね。当時は米国のDXクラブ等にも入会し、常連局でも何でもレポートしていました。ある局が急に聞こえなくなったらそのことも報告する。すると海外のDXerからお前のレポートは参考になると言われ、ますますレポートに励む。そんな感じでしたね。

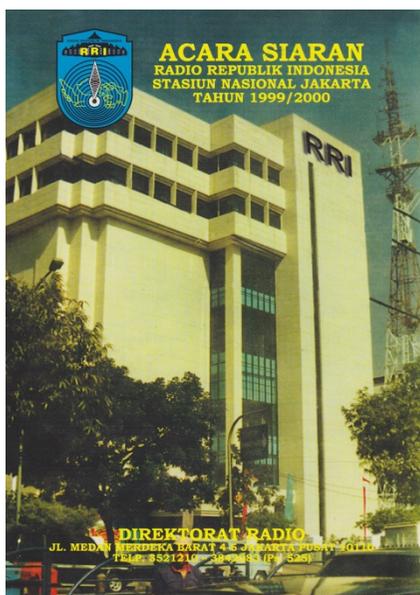
（竹野）ところで、ラジオは聞かれていたのですか？ 私は2008年くらいから全然規聞いていないの

ですが（本当に）ただ、幸い皆さんからお声掛け頂くのでラジオがらみのお付き合いは細々と頂いています。酒、がメインですが。

（山田）私はアクティブではないですが、ラジオは聴いていました。受信報告も送る回数は激減しましたね。DXクラブも入っていません。入ろうと思うこともありましたが、性格がズボラなもので手続きが面倒で実行に移しませんでした。同様の理由でWRTHの購入もここ数年は全くしておりません。ネットで情報が得られるのでそれで良しとしていました。

（竹野）まあ、情報はネットでかなりの部分がカバーできるのかなと思います。実際やってないんで知りませんが（笑）山田さんはまだインドネシア聞いているんですか？

（山田）短波でやっているインドネシアも減ってしまい、聞こえる局も雑音に埋もれているのでBGMにもできない状況です。積極的に受信報告を送って



RRI Jakarta



RRI Sumenep

聴く状況ではありませんが、インドネシアへの興味は持ち続けています。今は主にネットで放送を聴いています。放送では音楽番組が楽しいですね。インドネシアはポップス以外にもガムラン音楽、ダンド

ット、スンダ音楽等、いろいろなジャンルがあり、放送から流れる音楽に飽きることはありません。また、週末はジャワ島の RRI から放送されるオールナイトの Wayang Kulit を聴きながら眠りについていきます。

(竹野) Wayang Kulit !! 懐かしい。思い出しました。

(竹野) 話はかわりますが、なんで今回船舶気象通報だったんですか？昔のイメージだと山田さんがそれらを聞くようなイメージは全然ないのですけど。所謂、業務局ですよ。でも、やはり QSL カードへのこだわりはあるんですか？

(山田) そうですね。放送局の QSL には興味があるのですが、その延長線で船舶気象通報を聴くようになったと思います。船舶気象通報の QSL は灯台の写真デザインしたものがほとんどで、澄み渡る青空に真っ青な海、大自然の中に灯台が映し出されている構図がとても好きです。見ているだけで気持ちが晴々してきます。そんなところから、様々な船舶気象通報の QSL を集めだしました。東京在住時には犬吠埼灯台へも行きました。

(竹野) 確かに。デザインは綺麗ですね。そういう見方もありますね。

(山田) それと、業務終了のニュースを見たものですから。

(竹野) 原稿に書いておられましたね。やはり電波、特に低い周波数のものはことごとくなくなっていくような気がします。

(竹野) で、ちょっと気になっているのですが、インドネシア等の放送局から得られた DX グッズはどうしておられますか？以前はクリアファイルにいられていましたが日本語放送などは、どかんとまとめてしまっています。アフリカとかそれっぽい奴はまだクリアファイルにいられていますけど。

(山田) QSL や QSL とともに同封されてくるスケジュール表、パンフレット、そして封筒もクリアファイルに保存しています。クリアファイルに入らない大きな封筒やカレンダーなどは、手提げの紙袋にドカドカと入れています。最近は昔のクリアファイルを開いておらず、引っ越し時に詰めた段ボール箱のままにしていますが、自宅の改修をした際に土埃にまみれてしまい、ダンボールの中まで埃が入り込んだので、少し保存状態が悪くなってしまいました。

今も送られてくる返信物は基本的にはクリアファイルに入れています。

(竹野) いや、そのダンボールの中ま

で埃がってのが凄いですね。時代、ですかね。

(山田) 時代というより、家の改修時に玄関当たりの壁を取り壊したりしたのですが、その土埃が家の奥まで入ってきて大変だったんです。すごく驚きました。

(竹野) それは大変でしたね。私自身はそろそろすべて写真にとってホームページにアップして原本は捨ててしまおうと思っていますよ。あういうのは非常にパーソナルなものですからね。

(山田) ホームページにはアップしてみたいですね。ただ、原本はこれからも保管しておきたいです。確かにパーソナルなものです

が、歴史的価値はあると思いますので将来何かの役に立てればと思います。

(竹野) 歴史的価値っていうのはちょっと大袈裟なようながしますが。

(山田) うーん、そうでもないと思いますよ。例えば Q S L 博物館なるものができれば、賛同者の Q S L を集めてそこに展示とかやりたいです。夢のような話で「それならおまえがやってくれ！」と言われてそうですが。。

(竹野) ぜひやって下さい！

(山田) ちょっと待って下さい。(笑) ヤフオクで Q S L がオークションに出されているものもありま



RSPD Kabupaten Cianjur のスタッフたち

すが、それもひとつの活用方法だと思います。

(竹野) 全然知りません。そうなんですか?? 個人的には人が得た Q S L をもっていて何が楽しいんだと思うけど。

(山田) はい、QSL は受信した証であるから自分がこの局を受信した証明です。そういう意味で竹野さんのおっしゃることは正しいと思います。ただ、個人が持っているだけではもったいないと思うのです。今後何十年先にこのような放送局があったと今以上に過去を懐かしむ時代が来るかもしれません。その時に QSL は単に個人の受信証明としてだけでなく、BCL 界、もしくは放送の歴史に広く価値を持つものだと思います。そういう意味で QSL のオークションも自分としては意味があるものと考えています。ただし、日本ではオークションの値段がとても高すぎ、これでは購入者がいないのでは思われます。欧米では e-bay で 1950 年代以前の古い骨董の価値がある QSL が比較的安価でオークションにかけられており、ある程度の市場ができていますと思われれます。

(竹野) それもまたびっくり。おもしろい。

(山田) そう考えると QSL のペーパーベースでの保存も必要かなと思います。なので今のところは QSL の処分は考えていません。

(竹野) なるほど。考えられることはいろいろありそうですね。山田さんの場合はいつも学術的ですよ、ラジオにしても。どこか研究対象にしたいというイメージが凄くありますよ。

(山田) そんなことはないですよ。

(竹野) いや、学術的ですよ。昔 10 年、20 年前? に話した時に、これだけインドネシアにお世話になっているのでぜひ、インドネシアの放送の調査をしたい、実際に今、国会図書館に行っていると言っていたでしょう。

(山田) はー確かに。実は今でもそれは思っています。太平洋戦争の前後からのインドネシアと放送のかかわりについてきちんと調査したいと思っているのですよ。国会図書館で調べようとする結構あるわけですよ、そういう資料が。例えば何々って放送は何年にオランダ、あるいは日本の支援により何年に放送開始したとかね。また、インドネシアの放送局からも時々好意で放送に関する資料をいただくことがあります。それは日本人の立場で書かれた図書館の書物と異なり、インドネシア人が自国か

ら見た立場で書かれた資料です。同じ出来事でも記載の表現が違うんですね。そんな違いも整理してみたいと思っています。インドネシアの放送にかかわった人間としてはそこまではやってみたいんですよ。

(竹野) やろうとしている事が桁違いだよ。ひっくり返りそうだよ。でも、なんかそういうの懂れますよ。

(山田) 先の Q S L の事もそうですがそこにつながっていくと思います。でも何か大風呂敷を広げすぎて実行できるのかどうか。。。

(竹野) 素晴らしいです。ぜひ実行してください。何かまとめる作業があれば遠慮なく言ってください。手伝いますので。

(山田) その際はぜひ、よろしくお願いします。

(竹野) 今回は原稿ありがとうございます。この TDXC の皆さんは素敵な人ばかりなのでぜひ機会があれば一度お会いしてみてください。

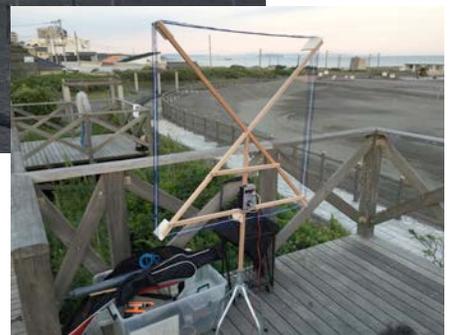
(山田) ありがとうございます。ぜひ!

(竹野) お互い、東京オリンピック世代、2 回目の東京オリンピックに向けて気合入れていきましょう!

(山田) そうですね。よろしくお願いします。



近鉄大和西大寺駅前 魚源さんにて 2017/6/24



特集 2 アンテナをつくろう

コンディション、ロケーションに次いで、アンテナはDXingの重要な要素です。現代の受信機は性能差が少なくなり、アンテナの重要性がますます高まっています。

自宅に設置するタイプの高性能な市販品アンテナは多くありますが、ペディションで使うための大型アンテナは種類も少ないので、自作することが多くなります。このアンテナでどんな局が聞こえるだろう…、夢や希望を胸にワクワクしながらアンテナを作るひとときには、格別なものがあります。アマチュア無線の世界でも実績のあるFBなアンテナの製作方法を、その道のベテランOMにたっぷりご紹介いただきました。

そして子供の頃に憧れた往年のループアンテナ、その新旧2機種の使用レポと、ウルトラライトラジオ用のバーアンテナ製作記もあわせてお楽しみ下さい。



1. はじめに

中波 DX 用アンテナといえばビバレージ・アンテナが有名です。そのバリエーションとして地面上に這わせたビバレージ、BOG (Beverage On The Ground) もよく使われています。

一方、ここ数年、欧米の DXer が使い始めたアンテナがあります。それが「デルタフラッグ (Delta Flag: DF)」です (図 1)。DF は、米国のハム、K6SE が 160mb 用受信アンテナとして開発したものです。EWE やフラッグアンテナのように、その指向性はカージオイド特性になります (図 2)。その名のとおり外観は三角形のアンテナで、ポール1本で設置できます。その底辺のエレメント片端にマッチング・トランス (MT: Matching Transformer)、反対側に終端抵抗 (TR: Termination Register) が配置されます。終端抵抗側が指向性のヌルになります。

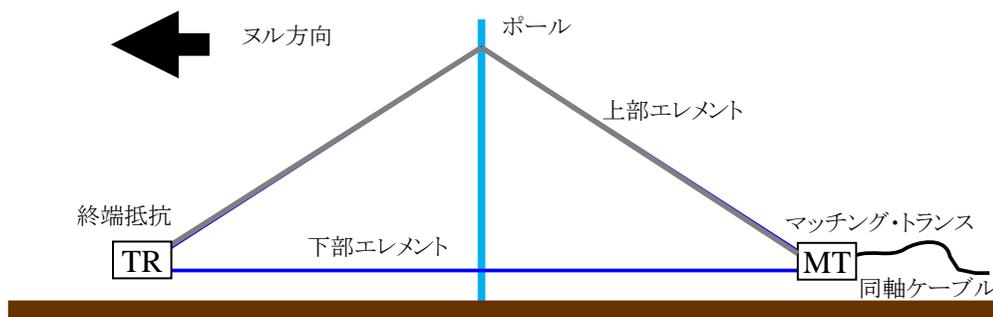


図 1. デルタフラッグアンテナ

DF やフラッグのベースになったアンテナは、1995 年にハムジャーナル 100 号で JF1DMQ 山村氏が発表した「小型ビーム・ループ・アンテナの研究」で取り上げられた小型ループアンテナです。この記事以降、海外の文献や Web ページで盛んに取り上げられるようになりました。私も記事発表直後に高さ 1m、長さ 5m の長方形アンテナを試作しましたが、短波帯は使えるものの中波帯ではゲインが低く使いづらい印象でした。

その後、受信スタイルが変わって DX ペディションで DX を追いかけるようになりました。当時は、ビバレージや同じカージオイド特性を持つ K9AY をメインアンテナとして選択し使っていましたが、海外 DXer が使い始めたのをきっかけに、2009 年頃から DF を使い始めました。

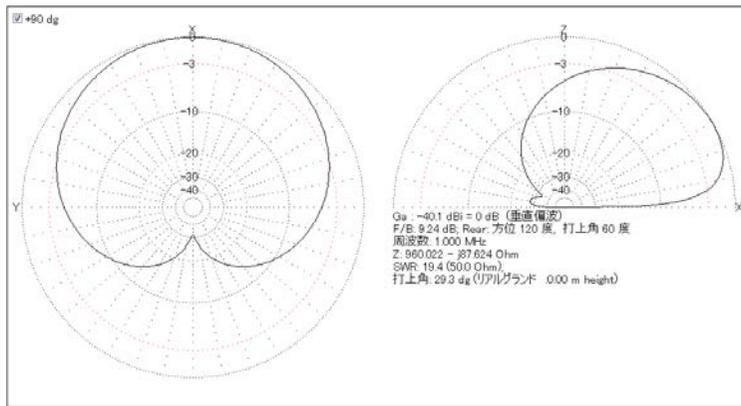


図2 デルタフラッグの指向性(上がアンテナ前面、下が後面)

現在使っているDFは、下部エレメント長が18m、高さ4.5m、周囲長38mの大型サイズです。これくらいの大きさになると中波でもゲイン低下が少なく、使いやすくなりました。性能は中波だけではなく長波や短波も想像以上に良好です。しかもK9AYやEWEのような接地も不要です。架設も簡単で、本機を2基、4基と組み合わせ、フェーズド・アレイとしての性能向上も期待できます。

今回は、この現用中のDFの製作と使い方についてご紹介します。

2. アンテナシステム構成

DFは、マッチング・トランス(MT)、終端抵抗(TR)、上部エレメント、下部エレメント、ポールで構成します。以下、それぞれについて説明します。

2-1. マッチング・トランス(MT)



図3 マッチング・トランス MT の外観と内部

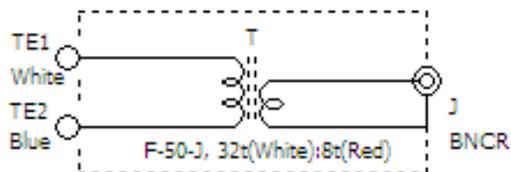


図4 回路図

MTの外観と内部を図3、回路図を図4に示します。DFの指向性がカージオイドになるとき、終端抵抗の値は概ね800~1kΩになっています。これはDFの特性インピーダンスなので、受信機に接続するには、この特性インピーダンスを受信機のアンテナ入力インピーダンス50Ωに変換する必要があります。

MTのトランスTは、トロイダルコアのF-50-Jを使ったインピーダンス比16:1(巻数比4:1)のトランスです。F-50-Jは、手持ち品です。代替品となるFT-50-75は秋葉原の千石電商等で入手できます。入手しやすい43材のトロイダルコアも使用可能です。その場合は少し形状の大きなFT-82-43を使い、巻き数も増やします。

図5にトランスTの外観を示します。具体的な作り方は以下のとおりです。

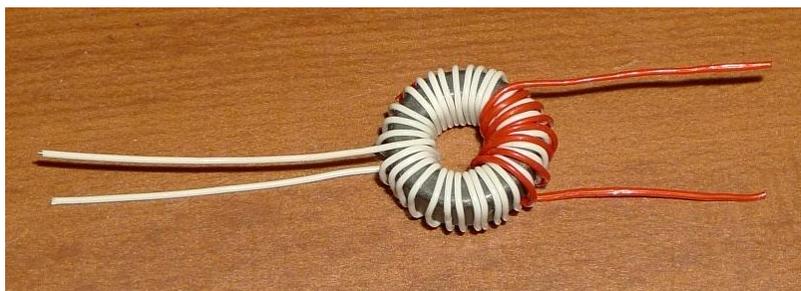


図5 トランスTの外観

- ① F-50-Jのトロイダルコアに0.26mm径のラッピング線(白)を32回(FT-82-43の場合は40回)巻く。この巻き線が一次側(DFのエレメント側)になる。
- ② 次に一次側とは反対側にラッピング線(赤)を8回(FT-82-43の場合は10回)巻く。こちらが二次側で受信機のアンテナ端子側になる。
- ③ ケース(TB51)にジョンソン・ターミナルと同軸コネクタBNCRを取り付ける。
- ④ 出来上がったトランスをケースに入れ、一次側はジョンソン・ターミナル、二次側にBNCRに接続する。
- ⑤ トランスをバスボンドで固定する。

製作したTの周波数特性を測定してみました(図6)。このようなインピーダンス比の異なるトランスを測定する場合、同じものを2個製作し、図7のように接続して測定します。ロスの値は正確な数値ではありませんが、目安としては測定値の半分としてみればよいと思います。

測定の結果、低い周波数は約35kHzまで伸びており、高いほうは17MHz程度までは1dB以内のロスに収まっているようです。



図6 MTの周波数特性(左:0~200kHz、右:0~20MHz)



図 7 MT の測定方法

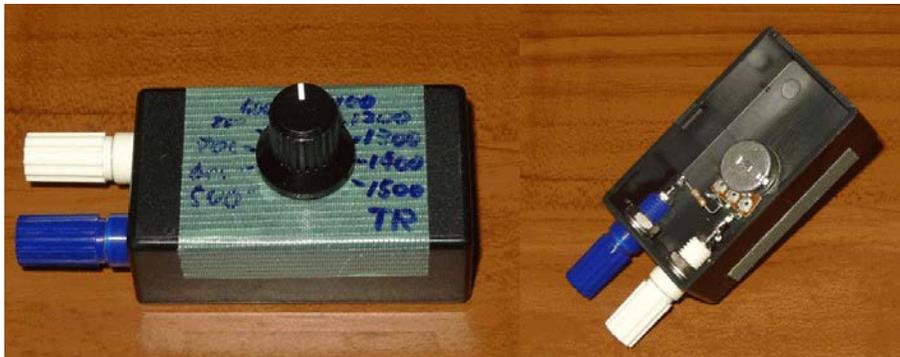


図 8 終端抵抗 TR の外観(左)と内部(右)

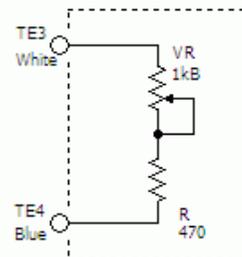


図 9 回路図

2-2. 終端抵抗 (TR)

終端抵抗 TR の外観と内部を図 8、回路図を図 9 に示します。TR には可変抵抗器を採用しました。これは DF の設置状況などによる指向性の変化を終端抵抗の値を調整して最適化するためです。具体的な作り方は以下のとおりです。

- ① ケース(TB51)にジョンソン・ターミナル(白、青)を取り付ける。
- ② 可変抵抗器 1kΩ(B カーブ)を取り付ける。なお巻き線型の可変抵抗器は高周波では使えないので、炭素皮膜型か金属被膜型を使う。
- ③ 可変抵抗器と直列に 470Ω の抵抗を接続し、可変範囲が概ね 470~1470Ω の範囲でできるようにする。
- ④ 可変抵抗器の代わりに固定抵抗器を接続してもよい。抵抗値は 820~1kΩ の間で選択する。これも巻き線型は使えないので炭素皮膜型か金属被膜型を使う。ジョンソン・ターミナル間に固定抵抗器を取り付ける。
- ⑤ 調整時の目安として、図 8 のように抵抗値の目盛りを記入する。

2-3. 上部/下部エレメント

エレメント長を決める前にアンテナの大きさを決める必要があります。アンテナの大きさは、上述したように、中波 DX 用で外来ノイズが少ない場所で使うため大きめで、底辺の長さは 18m、全長 38m としました。短波用としてなら、その半分のサイズでも十分使えると思われます。

エレメントには 0.3 スケア (SQ) の VVF ケーブル (青と白に色分けされた平行ケーブル)、20m を裂いて使いました。エレメント両端は、MT や TR のターミナルと接続しやすいように Y 型の圧着端子を付けました。

2-4. ポール

中央のポールは、カーボンを使っていないグラスファイバー製が望ましいので、ワールドワイドから販売している HAM 用グラスファイバーポール W-GR-540H Mini を使いました。

このポールは、本来、釣竿用なので軽量で収縮させると持ち運びやすくなります。

ポールの最先端は細すぎて使いにくいので、これを外し、2段目に小型カラビナをつけたエレメントを保持するアダプタを作って取り付けました (図 10)。



図 10 エレメント保持用アダプタ

この状態で DF の三角形の頂点の高さは約 4.5m となります。

ポールの地面への固定は、アルミ製の L アンクル材の先端を斜めに切断し尖らせた「杭」を地面に打ち込み、ポールは杭に釣竿固定用のネオブレン製バンドを巻きつけて固定します。

底辺エレメントの両端を地面に固定するため、1m 長の園芸用支柱を使いました。この支柱にもカラビナを取り付けてエレメントを固定しやすいようにしました。ただし園芸用支柱は、細いとたわむので、太めでたわみにくいものを使うのが良いでしょう。

3. 設置方法

アンテナの架設は以下のとおりに進めます。なお、この方法は一例であり、他にも簡単な方法があると思いますので参考としてください。

- ① あらかじめ各エレメントの中央に、ビニールテープなどで目印をつける。
- ② アンテナを設置する場所と方向を決め、下部エレメント (青) を地面の上で伸ばす。伸ばす方向は、ヌルと反対方向がビームの正面になるので、正面をターゲットに向けるか、多少正面からずれても、真後ろにヌルに落としたい局がくるよう位置決めする。
- ③ 下部エレメントを伸ばしたら、① で付けた目印の位置に杭を打ち込み、ポールを取り付ける。
- ④ ポールを立てたら、下部エレメントをポールの高さ約 50cm の位置に固定します。
- ⑤ つぎに、上部エレメントの中央をポール先端のカラビナにとおし、下部エレメントと平行に伸ばす。
- ⑥ ポールをゆっくり確実に伸ばす。
- ⑦ 両エレメントの両端に MT と TR を取り付け、上部エレメントを園芸用支柱のカラビナにとおし、支柱を地面に固定する。
- ⑧ MT に同軸ケーブルを接続すればアンテナ架設は完了。必要に応じて MT の直後に CMC を入れる。
- ⑨ TR が可変できるようにした場合は、受信機の S メータを見ながら、ヌルに落としたい局の受信レベルが最小になるよう終端抵抗を調整する。

以上で設置は完了です。設置・撤収は慣れると 15 分くらいでできるようになります。



図 10 架設状況(左:TR側、右:MT側)

4. 使い方

接続方法の一例を図 11 に示します。MT と RX 間にはコモンモード・チョーク(CMC)とガルバニック・アイソレータ(GalIso)を接続することをお勧めします。これにより、ノイズやアンテナの指向性の乱れを軽減できます。なお、CMC と GalIso については、参考資料の③、④をご参照ください。

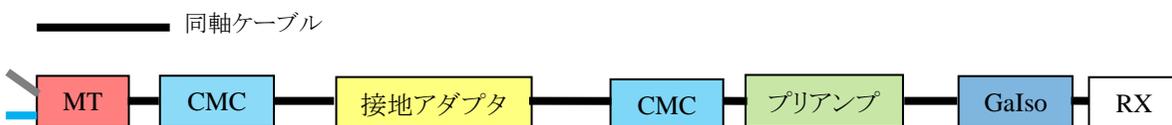


図 11 接続方法

また MT からの同軸ケーブルの引き出し方にも注意が必要です。下部エレメントの下を通すと影響を受けて指向性が乱れるようです。従って、アンテナを上方から見て、エレメントから直交に同軸ケーブルを引き出すようにします。おそらく定石があると思いますが、現在のところまだ見つかっていませんので今後の課題とします。

5. 使用状況

接続を完了したら、アンテナの真後ろになる局を受信します。受信機の S メータか SDR の画面をみながら、受信レベルが最小になるよう TR を調整します。概ね、800~1k Ω の範囲でヌルになると思いますが、混信局が真後ろからずれていると、ヌルが取れなかったり、取れても TR の抵抗値がその範囲を外れる場合があります。たとえば後方 130~150 度付近に局があると、終端抵抗値は 600 Ω 付近となります。

ヌルがとれると最適値に合わせない場合に比べて 10~20dB の差があります。この差により混信が軽減され、目的局の了解度の up につながります。

表 1 に神奈川での試験結果、表 2 に岡山での試験結果を示します。

受信局		NHK東京第1	NHK東京第2	AFN	TBSラジオ	文化放送	ニッポン放送	ラジオ日本
周波数	kHz	594	693	810	954	1134	1242	1422
受信地からの方位		6度9分12秒	6度28分18秒	10度36分18秒	15度37分35秒	26度3分59秒	102度1分11秒	59度50分59秒
信号強度(北向き)	S+dB	9+40	9+40	9+40	9+30	9+20	9+30	9+20
信号強度(南向き)*1	S+dB	9+20	9+30	9+25	9+15	6	9+35	9+20
N-Sレベル差	dB	20	10	15	15	38	-5	0
信号強度(南向き)*2	S+dB	9+20	9+30	9+25	9+15	9	9+30	9+20
N-Sレベル差	dB	20	10	20	15	20	0	0
信号強度(30m長ロングワイヤ)	S+dB	9+50	9+50	9+30	9+35	9+25	9+40	9+30

*測定条件: エレメントは0度-180度方向に架設。エレメント長=24m。10dB NFBプリアンプ使用。データ提供: Shinさん

表 1 神奈川での試験結果

表1では DF を南北方向に設置し、MT と TR の位置を変えて受信レベルと測定しています。*1は、文化放送 JOQR が最小になるように TR を調整した結果で、*2 は、NHK 東京第一放送が最小になるように調整した結果です。N-S レベル差を比較すると、どの局(アンテナからみた方向、周波数)で調整するかにより、アンテナ後方から到達する局の受信レベルが変わります。従って、特定の局だけ受信レベルを落としたい場合は、その局だけの受信レベルをみて TR を調整すればよく、周波数が異なり、方向も異なる複数の局の受信レベルを下げたい場合は、TR の値をいくつか設定し、各局の受信レベルが平均的に下がる TR の値に設定するのが望ましいと考えます。

終端抵抗値 (Ω)	1449kHz 西日本放送 受信レベル(dBm)
500	-94.6
600	-105.0
700	-91.7
800	-85.9
900	-84.0
1,000	-82.8
1,100	-81.6
1,200	-80.2

表 2 岡山での試験結果 データ提供:しんぞうさん

表 2 は、DF のビームを北東に向けて固定し、右後方 130~150 度に位置する局の受信レベルの変化が TR の値を変えることで変化することを示しています。1449kHz の西日本放送の受信レベルは、TR の値が 600Ωで最小値の-105dBm となり、TR が 1,000Ωの場合と比べて、20dB 以上受信レベルを落としています。これは、アンテナからみた局の方向が 130~150 度の間にあり、ちょうど 600Ω付近でヌルになるからで、アンテナシミュレーションの結果とほぼ一致します。従って、TR の値により、局の位置が多少真後ろから離れていても、ヌルに追い込めることができます。これを覚えておけば実戦でも役にたつでしょう。

なおヌルの調整は、日没前の昼間の時間帯に実施し、その設定値を覚えておき、日没後再調整する場合は、微調整程度に留めるのが良いと思われます。これは日没後は電離層反射の影響で、受信レベルが変動し最適な値が分りにくくなる場合があるからです。

さて続いて実際の使用感です。このアンテナのおかげで多くの DX 局を国内の大混信の中からピックアップできるようになりました。全長が 200m 程度の短いビバレージとの比較では、中波の北米局受信において国内混信が少なく、SN、了解度が向上しました。また短波の LA 局受信も良好です。指向性と終端抵抗の調整で、大陸方面の混信局をかなり抑えることができます。

ただし中波帯のゲインについては、日没前や日出後の時間帯では、ビバレージに比べると明らかに不足です。従って、その時間帯は、ゲイン 10~15dB 程度のプリアンプを使うことをお勧めします。良質のプリアンプを入れると、ノイズの中から信号が浮かび上がって了解度が向上します。

プリアンプは、NF が低く、広帯域で IP2、3 特性の良いものがが必要です。一般的には、ノートンアンプと呼ばれるトランス負帰還型で、プッシュプル型のプリアンプが好結果をもたらします。私は自作品と Wellbrook 製のプリアンプ・モ

ジュールを使用しています。他の市販品としては、米国の Clifton Laboratories のキットも価格の割にパフォーマンスが高く、お勧めです。

日没以降や日の出前の夜間の時間帯は受信レベルが上昇し、混信やサイドスブラッシュがうるさく感じる場合がありますので、その場合はプリアンプを off にします。

また製作した MT は、DF だけではなくフラッグにも使用可能で、MLB (Magnetic Long wire Balun) としても使えます。例えば、MT のジョンソン・ターミナルの片側(ホワイト)に 4m 長程度のワイヤを接続し、もう一方(ブルー)にアース棒を接続して接地すると、広帯域なホイップアンテナとして長波から短波ハイバンドまで使用することができます。実際に 2011 年 11 月上旬に実施された欧州パイレーツ局の日本向け試験放送(21MHz 帯)では、18MHz 帯に同調するフルサイズの逆 V アンテナよりも良好に受信できました。

6. おわりに

このアンテナの発展型として、DF を 2 機組み合わせた DDFA (Dual Delta Flag Array) や、4 機まで拡張した QDFA (Quad Delta Flag Array) などがあります。Array 化することで F/S 比や F/B 比を向上させ、混信をさらに低減しています。その効果は実際のペディションで確認しており、実用化されていますので、機会があればご紹介いたします。

なお、本機の製作・使用にあたり、受信機やアンテナ設備等が破損しても当方では責任は持てませんので、あくまで自己責任で製作・使用してくださるようお願いいたします。

最後に、本記事を執筆するにあたり、実際に使用して有効なフィードバックをくださった Naka さんと太平洋さん、わざわざ試験のために DX ペディションに出かけ、貴重なデータを取得、提供してくださった Shin さんとしんぞうさんに感謝いたします。どうもありがとうございました。

皆さんの DXing にお役に立てば幸いです。

以上

◆参考資料

- ① ハムジャーナル 100 号 1995 年 「小型ビーム・ループ・アンテナの研究」 山村英穂
- ② Dallas Lankford 21st February 2009 “Phased Delta Flag Arrays”
- ③ シエスタ 「コモンモードチョークの製作と使い方.pdf」
- ④ シエスタ 「ガルバニック・アイソレータの製作と使い方(暫定版).pdf」

* 本記事は、2012 年 1 月に公開した「デルタフラッグアンテナの製作と使い方」に加筆・修正を加えたものです。

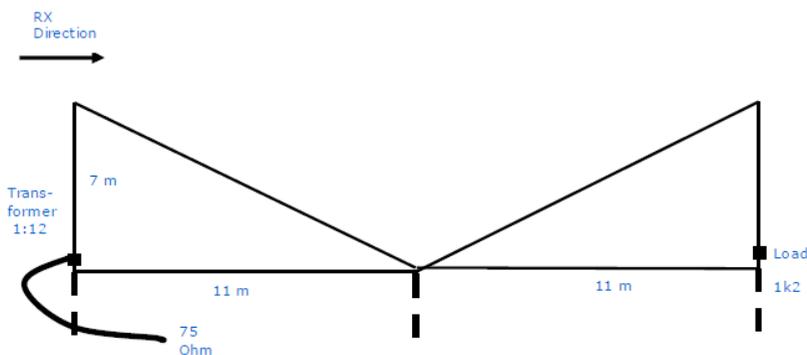
1. はじめに

皆さんは DX ペディションではどんなアンテナをお使いですか？

私は、Delta Flag (DF) 2機をアレイ化した Dual Delta Flag Array (DDFA) を使っていました。DDFA は、底辺長が 18m の DF を 30m 間隔で 2 基設置します。全長は約 50m で、設置には大きなスペースが必要ですが、指向性のキレが良く、同一周波数の混信を大幅に軽減できます。中波 DX にはたいへんな威力を発揮しますが、その大きさゆえ一般的なアンテナとはいえません。

DDFA のキレの良さを小型のアンテナで実現できないか考えていたところ、アマチュア無線の DX ペディションサイトで、DHDL (Double Half-Delta Loop) というアンテナを見つけました。

DHDL は、図 1 のように直角三角形を二つ組み合わせたような形で、それぞれの三角形の底辺と斜辺のエレメントが中央部で上下入れ替わるという変わったものです。ゲインは低いものの、ローバンド DX でたいへん有効だったそうです。



The Double Half-Delta Loop.

図1 DHDL Antenna

図1から「直角三角形の部分を変えたらどんな特性になるだろうか？」と疑問に思い、シミュレーションしたところ、DHDL と同じくらい指向性のキレが良いことがわかりました。

さらに試作したアンテナを DX ペディションでテストしてみたところ、結果も良好で「これは使える！」との感触も得ましたので、シミュレーションとフィールドテストの結果を合わせてご紹介します。

なお本アンテナは、Twisted Double Delta Flag (TDDF) と名付けましたが、同様なアンテナをすでに考案した先人がおり、文末の参考資料に Web ページの URL を記載しました。

2. シミュレーション

MMANA-GAL を使い、図2のような構成でシミュレーションしました。

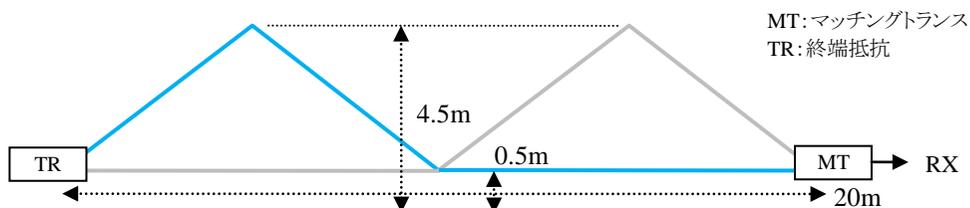


図2 シミュレーションした TDDF の構成

TDDF の底辺長は 20m、地面から下部エレメントまでの高さは 0.5m。各三角形の頂点の高さは 4.5m です。底辺の中心でエレメントは交差していますが、電気的な接続はありません (図3参照)。



図3 中点における元素の状態

右側三角形の底辺の元素は、左側の三角形では斜辺の元素を構成し、右側三角形の斜辺の元素は、左側三角形の底辺の元素を構成しています。

ではどんな特性になったのでしょうか？

図4に TDDF のシミュレーション結果を示します。シミュレーション周波数は 1MHz です。

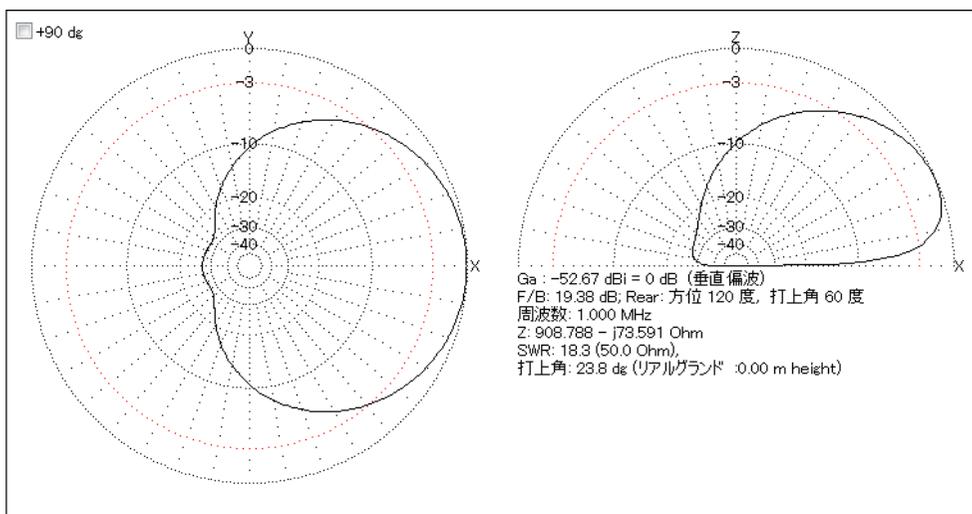


図4 TDDF のシミュレーション結果

特性を比較するため、底辺の長さを TDDF と同じ 20m、高さ 4.5m とした DF の構成とシミュレーション結果を図5、底辺の長さ 18m で高さ 4.5m の DF2機を 30m 間隔でアレイ化した DDFA の構成とシミュレーション結果を図6に示します。

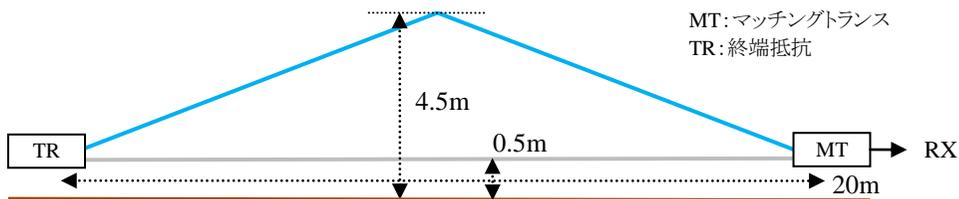


図5(a) DF アンテナの構成

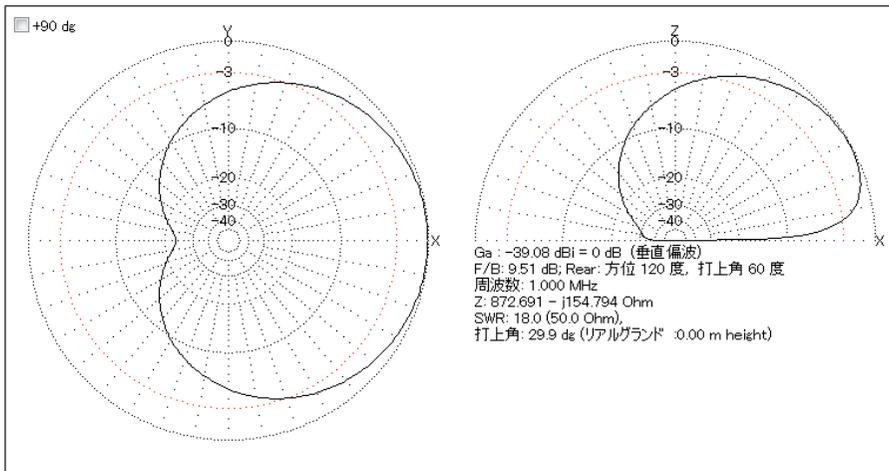


図5(b) DF のシミュレーション結果

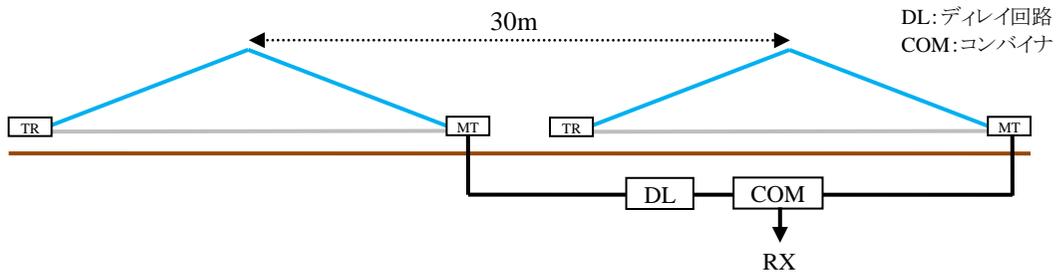


図6(a) DDFA のアンテナ構成

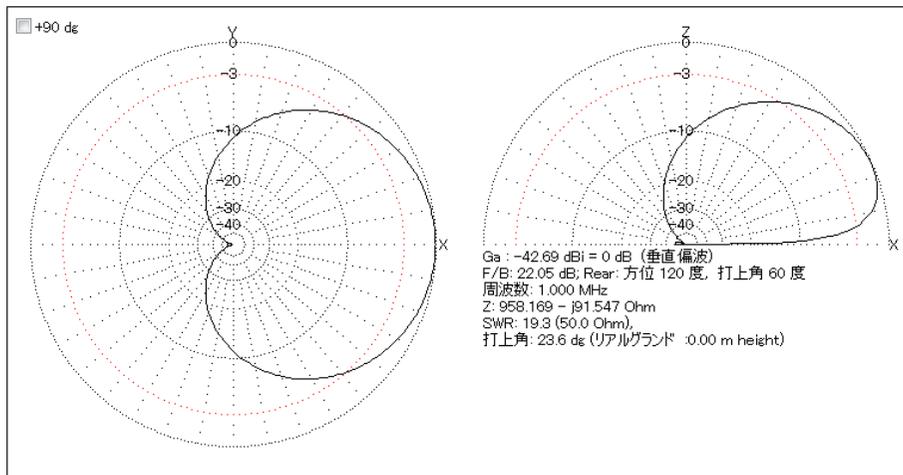


図6(b) DDFA のシミュレーション結果

アンテナ		TDDF	DF	DDFA
ゲイン	dBi	-52.67	-39.08	-42.69
水平面半値角	°	100	140	100
F/B比	dB	19.38	9.51	22.05
-20dB以下の範囲	°	120~240	165~190	115~245
F/S比	dB	10	6	10
終端抵抗値	Ω	950	950	1,000

表1 シミュレーション結果サマリ

シミュレーション結果を表1に示します。TDDF のゲインは、DF と比べ約 13dB(S メータで S2 くらい) 低くなっています。指向性は、水平面半値角(ゲインが-3dBとなる角度)や F/B 比、-20dB 以下の範囲、F/S 比(0° と±90° のゲイン差)などは DDFA に近く、DF より指向性のクレが良いといえます。

ゲイン不足は、給電部に FLG100 のようなアンプや FET フォロアなどのバッファアンプを採用すること、ANT-RX 間にプリアンプを入れること、などで対策可能で、特に大きな問題にはならないでしょう。

以上の結果から、TDDF は従来の DF と同等の設定スペースで、DDFA と同等の指向性が期待できることがわかりました。

ちなみに TDDF のようにエレメントをツイストして指向性を改善する方法は Flag にも応用可能です。図7に横 5m×縦 1m の Flag と中点をツイストした Twisted Flag の形状と、図8にシミュレーション結果(地上高 3m)を示します。

MT: マッチングトランス
TR: 終端抵抗

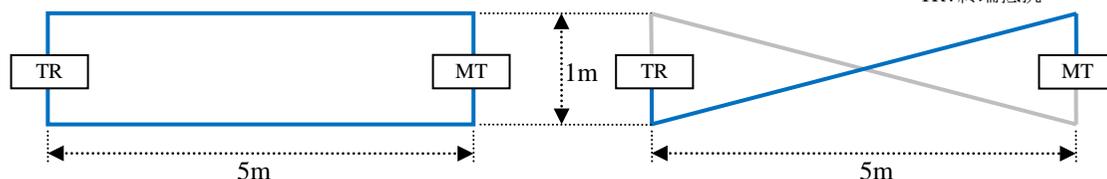
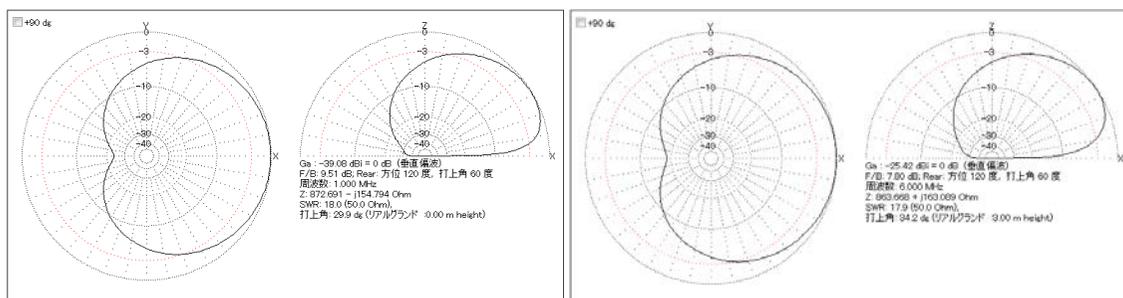
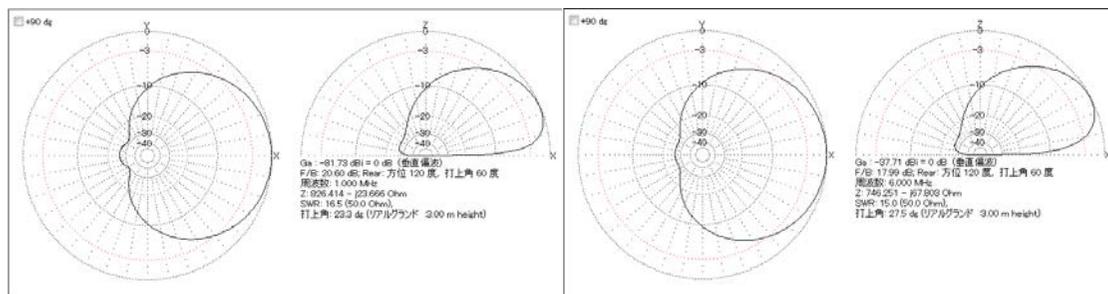


図7 Flag(左)と Twisted Flag(右)



Flag



Twisted Flag

図8 Flag と Twisted Flag のシミュレーション結果

周波数=1MHz、終端抵抗=1,000Ω

アンテナ		Flag	Twisted Flag
ゲイン	dBi	-39.08	-81.37
水平面半値角	°	140	100
F/B比	dB	9.51	20.6
-20dB以下の範囲	°	165~195	120~240
F/S比	dB	6	10

周波数=6MHz、終端抵抗=1,000Ω

アンテナ		Flag	Twisted Flag
ゲイン	dBi	-25.42	-37.71
水平面半値角	°	150	100
F/B比	dB	7.8	17.99
-20dB以下の範囲	°	-	120~240
F/S比	dB	6	10

表2 Flag と Twisted Flag のシミュレーション結果サマリ

図8のシミュレーションの結果を表2にまとめました。シミュレーション周波数は、1MHzと6MHzです。

1MHz(図6左)では、FlagもツイストすることでTDDFと同様に指向性が改善します。ただし大幅にゲインが落ちる(-39.08→-81.73dBi)ので、流石に使いづらいかもしれません。6MHz(図6右)では、ゲイン低下も小さい(-25.42→-37.71dBi)ので十分実用になると考えられます。FB比もFlagに比べると10dB以上良好です。短波帯でこのような指向性が得られるアンテナは、なかなかありませんので、実使用では好結果が得られそうです。Flagをお使いのDXerは、ぜひツイストしてみたいはいかがでしょうか。

3. フィールドテスト

シミュレーション結果が良好だったので、かねてから予定していた2015年3月の茅ヶ崎DXペディションで実践に使用してみました。図9に使用したTDDFの構成を示します。

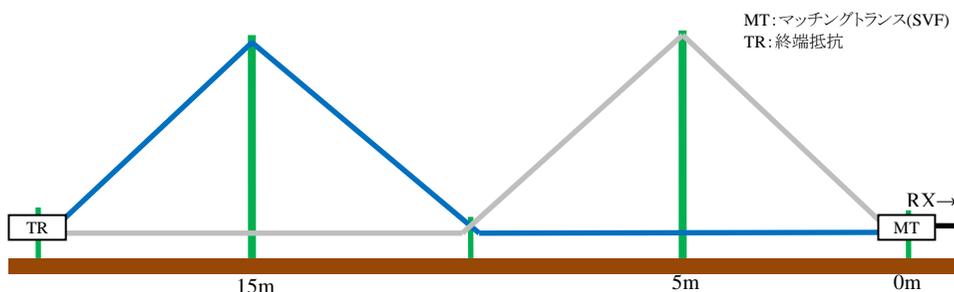


図9 使用したTDDFの構成

底辺の長さ20m、地上高は約0.7m。各三角形の高さは4.5mです。MTの位置を基準点の0mとし、5mと15mの地点にマストを立ててTDDFを構成しました。図10にTDDFの架設状況を示します。



図10 TDDF の架設状況(左:給電部側、右:終端抵抗側)

TDDF は海岸に面したキャンプ場の防風林(防砂林)内に架設しました。給電部には最近のペディで常用している SVF(Supercharged Voltage Follower)と CMC を接続しました。SVF はローノイズ、広帯域、低歪のオペアンプを使用したボルテージフォロアで、エレメントで捕らえた信号をロスすることなくインピーダンス変換する機能を持っています。Wellbrook 製 FLG100 相当のゲインがあり、二次、三次 IM など多信号特性も同等以上です。終端抵抗側には無電源 RTR 用の可変抵抗ユニットを接続しました。図 11 に DF と TDDF の実際の受信状況を PERSEUS のメイン画面 キャプチャを示します。

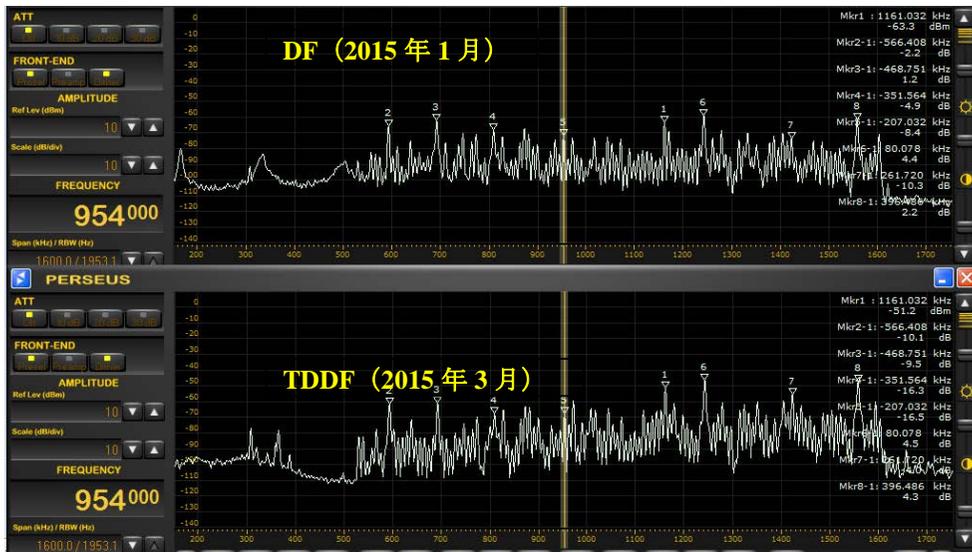


図11 受信状況比較(上:DF、下:TDDF)

図 11 上は 2015 年 1 月の茅ヶ崎ペディションでの DF(底辺の長さ 20m、高さ 4.5m)、下は今回の TDDF による 20 時 JST 受信状況です。どちらもアンテナを設置した位置は同じで、真南の 180° 方向がビーム正面方向です。アンテナと RX 間には、DF、TDDF ともに前述した SVF に加え、10dB のプリアンプをシリーズに接続し、その後 12 分配

器を經由して PERSEUS に接続しています。DF の受信レベルがシミュレーション結果とは違って低めなのは、1月に使用した機材トラブルのためで、正常ならば 10dB 以上受信レベルが高くなります。従ってここでの比較は、絶対的な受信レベル比較はできず、DF と TDDF の相対比較になります。

表3は受信状況比較のサマリです。上から局名、周波数、Mkr No.、受信地からの方位と距離、DF 受信レベル (1161kHz の NHK 熱海を基準にした DF 受信レベルの補正後の受信レベル) TDDF 受信レベル、DF-TDDF 受信レベル差を記載します。Mkr は 1161kHz の NHK 熱海を Mkr1 とし、これを基準に各 Mkr の周波数差と相対受信レベルを示します。

各受信レベルは 20 時正時前後 (19:59~20:01) の 2 分間の Mkr ログを抽出し平均した値です。

局名		NHK 熱海	NHK東京 第一	NHK東京 第二	AFN	TBS	ニッポン放送	ラジオ日本	静岡放送 熱海
周波数	kHz	1161	594	693	810	954	1242	1422	1557
Mkr No.		1	2	3	4	5	6	7	8
受信地からの方位	°	245.1	356.3	356.3	22.2	358.1	72.4	4.1	236.4
受信地からの距離	km	60.3	83.4	83.4	55.1	53.3	29.5	24.5	55.9
受信レベル									
DF ¹	dBm	-51.3	-53.2	-49.0	-53.3	-61.1	-48.2	-62.2	-49.6
TDDF	dBm	-51.3	-61.5	-59.6	-65.5	-70.9	-45.8	-58.9	-46.8
DF-TDDF受信レベル差	dB	0.0	8.3	10.6	12.2	9.7	-2.3	-3.3	-2.8

*1:11.8dB補正後

表3 受信状況比較のサマリ

表3に示すように、TDDF の指向性で、バックにあたる NHK 東京第一、NHK 東京第二、AFN、TBS の DF-TDDF 受信レベル差は、8~12dB 程度、DF より TDDF が減衰しています。これは、TDDF のほうがアンテナ後方から到来する電波に対して利得が低くなっており、それだけ混信を軽減する能力が高いといえます。ただし、同じバックでもラジオ日本は大きな改善効果がみられません。現時点で原因は不明ですが、地形や地面の影響があるかもしれません。

次に実際の DX 局の受信状況です。3月のこの日はコンディションも良く、夕方からグアムの3局が国内局を潰す勢いで深夜まで聞こえていました。また 1350kHz では RCC 下で、グアムの小電力局の明瞭な ID が取れ、普段は受信の難しい台湾やインドネシアも聞こえました。

深夜から早朝にかけては、同一周波数の混信のため関東では受信の難しい南九州の国内民法局の終了アナウンス、国外ではフィリピン、タイ、オーストラリアなどが複数のチャンネルで聞こえ、参加メンバーを喜ばせてくれました。これはコンディションの良さに加え、TDDF の指向性により DF や双指向性ループアンテナでは聞こえにくい局が、混信局が減衰したため聞こえやすくなったものと考えています。

4. おわりに

TDDF は DF 用の終端抵抗と給電部があれば、エレメント変更だけで手軽に試せる高性能なアンテナということがわかりました。また追加のシミュレーション結果から、TDDF のアレイ化により、さらに指向性の良いアンテナ (Dual Twisted Double Delta Flag Array:DTDDFA) ができそうなことがわかっています。機会があればぜひ試してみたいと考えています。

皆さんの DXing にお役に立てば幸いです。

以上

◆参考資料

- ① "TWO GUYS, A RADIO AND A TENT TX3A The 2009 Chesterfield DXpedition"
<http://www.tx3a.com/documents/TX3Astory.pdf>
George Wallner AA7JV
- ② "Comparison of Delta Variants, Bruce A. Conti WPC1CAT"
<http://www.bamlog.com/deltacompare.htm>
- ③ "Double KAZ" Wellbrook Communications
<http://www.wellbrook.uk.com/pdf/doubleKAZ.pdf>
- ④ 「デルタフラッグアンテナの製作と使い方」 シエスタ

*本記事は、2015年3月に公開した「TDDF(Twisted Double Delta Flag)の実験について」に加筆・修正を加えたものです。

1. はじめに

2015年に発表したTDDF(Twisted Double Delta Flag)は、シングルでもアレイ並みの性能が得られたことから、今ではDXペディションのメインアンテナになりました。大きさを底辺長10mから40mまで変えてみましたが、指向性のキレの良さは変わりませんでした。

この性能を維持しながら、さらにシンプル化できないか？シンプル化できれば、荷物が減らせるので、持ち運びが便利になり、さらに活躍の場が広がります。

そこで今回、マストを2本から1本に減らしたアンテナを考案しました。シミュレーションしたところ、TDDFに近い性能が得られ、試作機もDXペディションで良好に動作しましたのでご紹介します。

アンテナ名は、TDF(Twisted Delta Flag)です。

2. シミュレーション

図1の構成でMMANA-GALでシミュレーションしました。外形はDF(Delta Flag)と同じようにみえますが、上下の要素が中央のマストで交差しています。交差部分の電気的な接続はありません。底辺長は18mで、これは先に発表した底辺長20mのTDDFで使用したワイヤーをそのまま使うためです。地面から下部要素までの高さは0.5m、三角形頂点の高さは4.5mで、こちらもTDDFの条件と同じです。

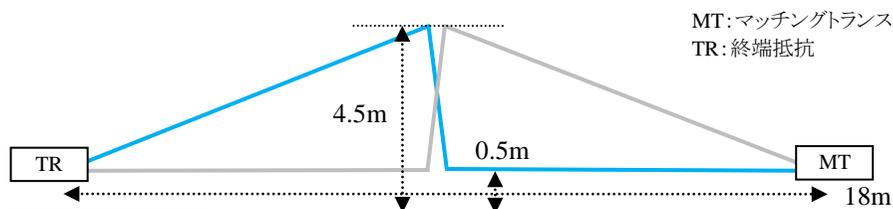
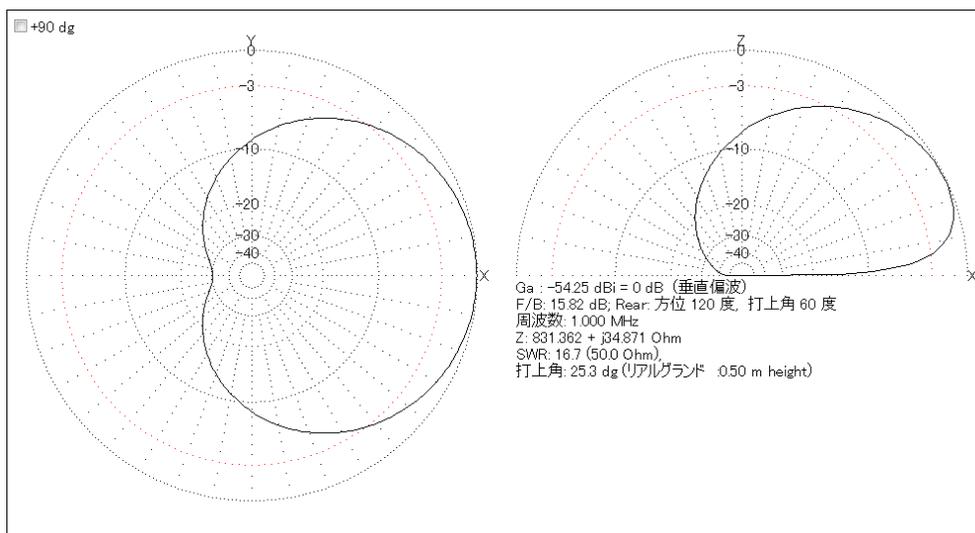
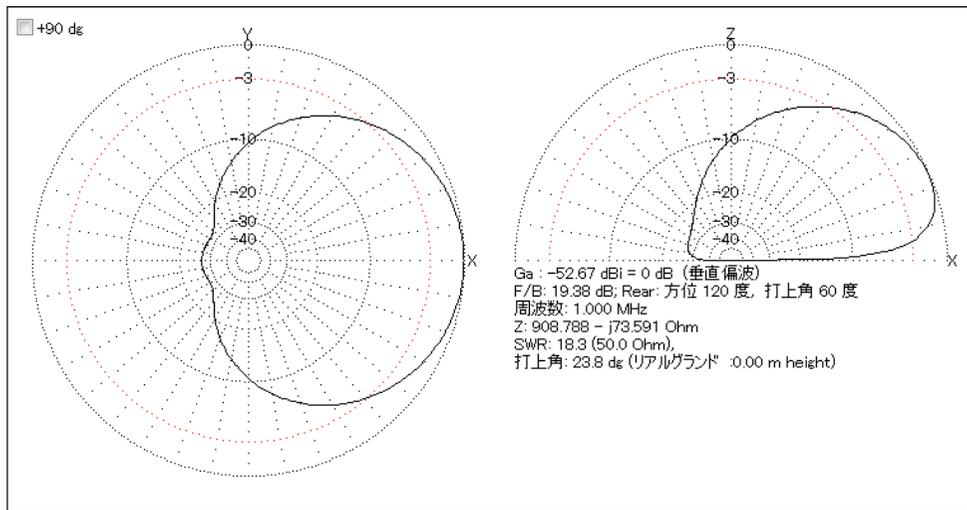


図1 シミュレーションしたTDFの構成

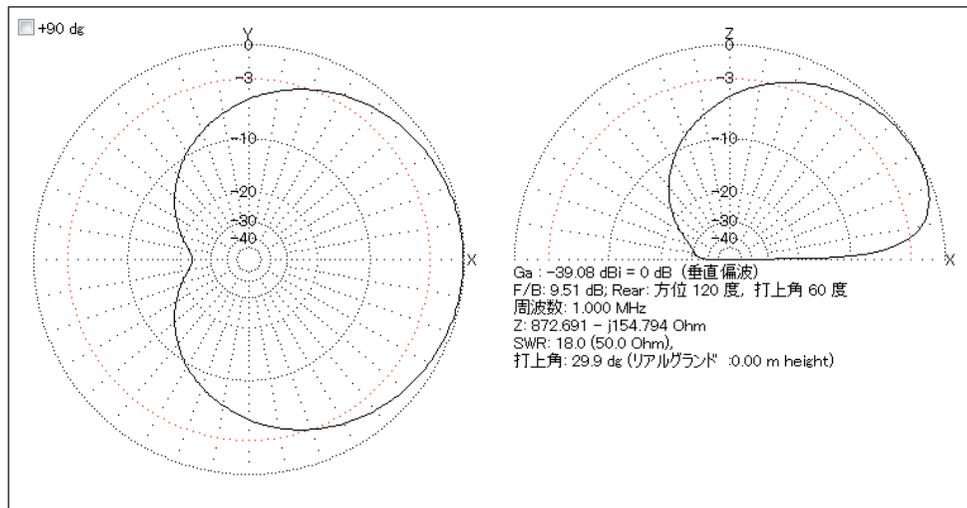
図2(a)に指向性のシミュレーション結果を示します。どの結果もFB比が最大になるよう終端抵抗を選んでいきます。参考までに(b)はTDDF。(c)は底辺長をTDDFと同じ20m、高さ4.5mとしたDFです。シミュレーション周波数は1MHzです。



(a) TDF



(b) TDDF



(c) DF

図2 各アンテナのシミュレーション結果

アンテナ		TDF	TDDF	DF
ゲイン	dBi	-54.25	-52.67	-39.08
水平面半値角	°	106	100	140
F/B比	dB	15.82	19.38	9.51
-20dB以下の範囲	°	135~225	120~240	165~195
F/S比	dB	9	10	6
終端抵抗値	Ω	810	950	950

表1 シミュレーション結果サマリ

シミュレーション結果サマリを表1に示します。TDF のゲインは、TDDF に比べると約 1.6dB 低くなっています。水平面半値角(ゲインが-3dB となる角度)や F/B 比、-20dB 以下の範囲、F/S 比(0° と±90° のゲイン差)なども、若干落ちるようです。

ゲイン不足に対しては、TDDF と同じように給電部に FLG100 のようなアンプや、FET フォロアなどのバッファアンプを採用すること、ANT-RX 間にプリアンプを入れること、などで対策可能と考え、フィールドテストをすることにしました。

3. フィールドテスト

試作機を2017年2月の茅ヶ崎 DX ペディションで使用しました。図3に今回使用した TDF の構成を示します。

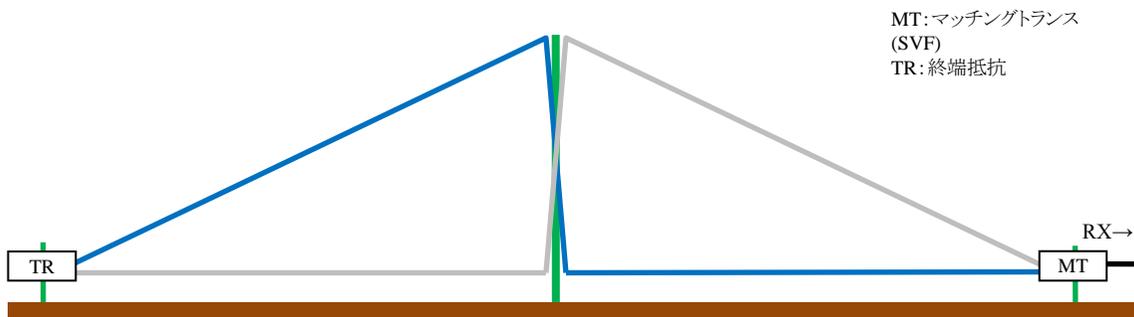


図3 使用した TDF の構成



図4 TDF の架設状況(左:給電部側、右:全景)

図4に TDF の架設状況を示します。架設は、いつものとおり海岸に面したキャンプ場の防風林内です。TDF の底辺長は 18m、下部の元素の地上高は約 0.7m、三角形頂点の高さは 4.5m です。中央のマストの元素交差部分は、マストの両側に元素を添わせ、中央付近で交差させています。

TDF の給電部には、MT に相当する SVF (Supercharged Voltage Follower) と CMC を接続し、終端抵抗側には RTR 用の可変抵抗ユニットを接続しました。

図5に DF、TDDF と TDF の実際の受信状況 (PERSEUS のメイン画面キャプチャ) を示します。

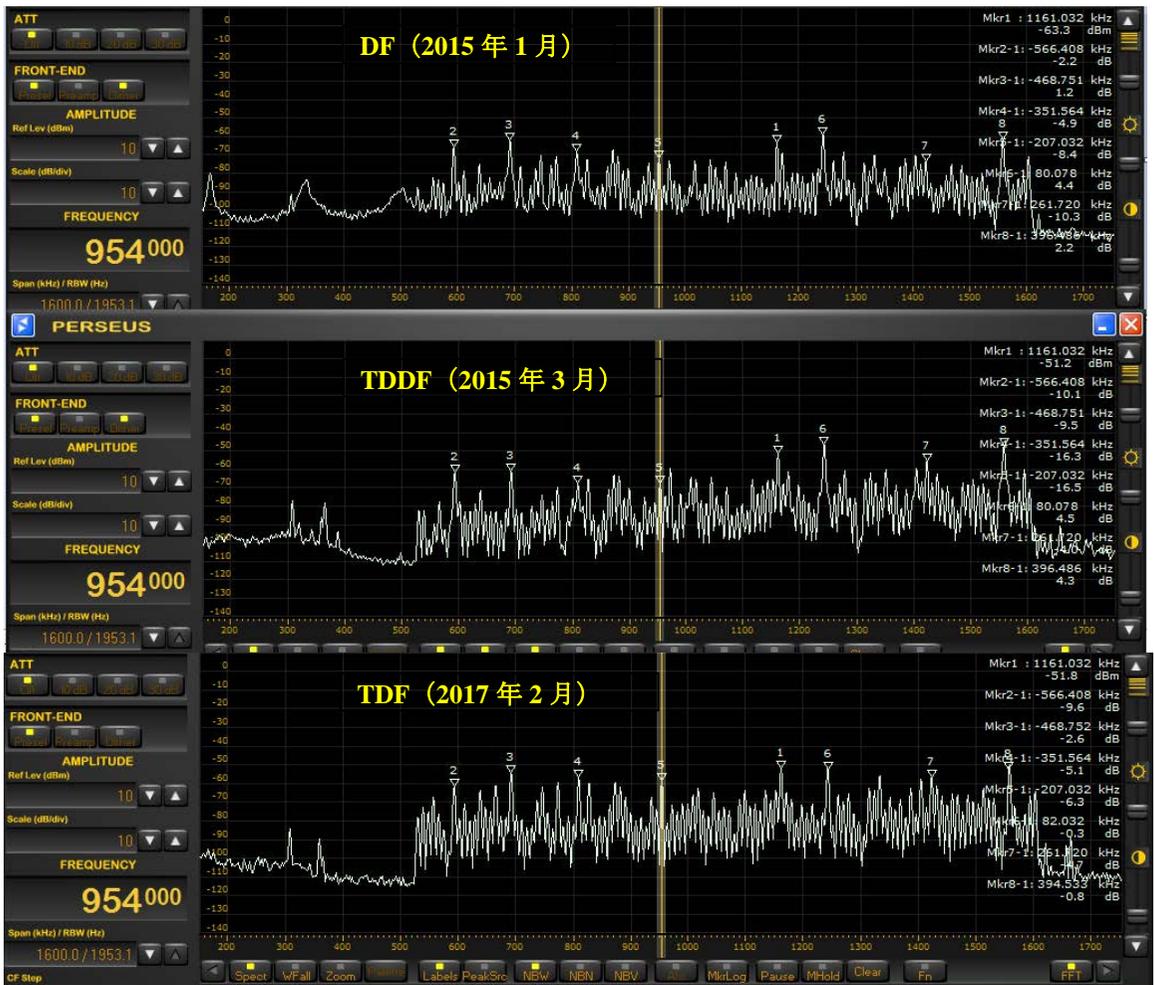


図5 受信状況比較(上:DF、中:TDDF、下:TDF)

図5上は、2015年1月の茅ヶ崎ペディションでのDF(底辺の長さ20m、高さ4.5m)、中は2015年3月のTDDF、下は2017年2月のTDFでの受信状況で、すべて20時JSTです。どのアンテナも設置した位置は同じで、真南の180°方向がビーム正面です。

アンテナとRX間には、DF、TDDF、TDFともに前述したSVFに加え、10dBのプリアンプをシリーズに接続し、その後12分配器を経由してPERSEUSに接続しています。DFの受信レベルが低めなのは、使用した機材トラブルのためで、正常ならば10dB以上受信レベルが高くなります。従ってこの比較は、絶対的な受信レベル比較はできず、DF、TDDFとTDFの相対比較になります。

表2は受信状況比較のサマリです。上から周波数、局名、Mkr No.、受信地からの方位と距離、Mkr.、DF受信レベル、TDDF受信レベル、TDF受信レベル、DF-TDF受信レベル差及びTDDF-TDF受信レベル差を記載します。Mkrは1161kHzのNHK熱海をMkr1とし、これを基準に各Mkrの周波数差と相対受信レベルを示します。各受信レベルは20時正時前後(19:59~20:01)の2分間のMkrログを抽出し平均した値です。

局名		NHK 熱海	NHK東京 第一	NHK東京 第二	AFN	TBS	ニッポン放送	ラジオ日本	静岡放送 熱海
周波数	kHz	1161	594	693	810	954	1242	1422	1557
Mrk. No.		1	2	3	4	5	6	7	8
受信地からの方位	°	245.1	356.3	356.3	22.2	358.1	72.4	4.1	236.4
受信地からの距離	km	60.3	83.4	83.4	55.1	53.3	29.5	24.5	55.9
受信レベル									
DF*1	dBm	-51.3	-53.2	-49.0	-53.3	-61.1	-48.2	-62.2	-49.6
TDDF	dBm	-51.3	-61.5	-59.6	-65.5	-70.9	-45.8	-58.9	-46.8
TDF	dBm	-52.3	-62.1	-55.0	-58.3	-60.0	-50.6	-57.1	-52.5
DF-TDF受信レベル差	dB	1.0	8.9	6.0	5.0	-1.1	2.4	-5.1	2.9
TDDF-TDF受信レベル差	dB	1.0	0.6	-4.6	-7.2	-10.9	4.8	-1.8	5.7

*1:11.8dB補正後

表2 受信状況比較のサマリ

表2に示すように、TDFの指向性でバックにあたるNHK東京第一、NHK東京第二の受信レベルは、DFに比べると6~8dB減衰していますが、TDDFとの比較では、同程度か5dB程度低下しています。またAFNやTBSでは、TDDFより落ちるものの、概ねDF並みの特性が得られており、高い周波数帯のニッポン放送やラジオ日本では、TDDFと同程度か6dB程度良好でした。

全体的には、利得はTDDFとほぼ同等で、指向性はDFより良好だがTDDFに比べると少し落ちる、といったシミュレーションでの結果を確認することができました。実際に聴いた感じも表2の結果に近い印象です。

茅ヶ崎のDXペディションでは毎回フィリピンや豪州の中波局が聞こえるのですが、今回は、先の2回よりもコンディションが良好だったようで、普段聞くことができないチャンネルを含め、多くのチャンネルでABCのNewsテーマを聞くことができました。また同一周波数の国内局が強くて聞こえない複数のチャンネルで小電力の豪州民放局も聴こえました。よってコンディションが良ければ指向性アンテナのアドバンテージは、さらに高いといえるでしょう。

4. おわりに

TDFは、TDDFよりはキレが落ちるかもしれませんが、マスト1本でTDDFに迫る高性能なアンテナだということがわかりました。

個人的な意見ですが、日本国内での中波DX用のアンテナは、ゲイン追求よりも指向性のキレを重視すると好結果が得られます。八字指向性を持ったスモール・ループアンテナは、その一例ですが、目的の局と混信局が指向性の前後で一直線に並んでいると、指向性による混信局の減衰は期待できません。よってそのようなケースでは、DF、TDDF、TDFのようなカージイドに近い指向性のアンテナが有利です。またこれらのアンテナをアレイ化することで、指向性のさらなる向上が期待できます。

またアンテナ系に接続したプリアンプの使い方も重要です。プリアンプを入れることで国内局が強くなると、受信機のAGCが動作し利得が下がり、弱い信号の了解度が低下します。従って、国内局が弱い日出後や日没前は、プリアンプを入れてゲイン重視とし、日出前や日没後の夜間の時間帯はプリアンプをOFFすることで了解度の向上が期待できます。

皆さんのDXingにお役に立てば幸いです。

以上

◆参考資料

- ①「TDDF(Twisted Double Delta Flag)の実験について」シエスタ
- ②「デルタフラッグアンテナの製作と使い方」シエスタ

MIZUHO UZ-K1 製作記

中川 弘夫

一昨年はレトロ工作ということで、ナゾのトライアングルアンテナを製作して楽しんだ。その際は秋葉原のマイクロ・パワー研究所が、かつてミズホ通信が販売していたループアンテナ「UZ-77」の中波帯プリアンプ復刻版を発売したので、それを使ってアクティブ化して使用した。

そのマイクロ・パワー研究所は次の年、復刻版第二段ということで、今度は同じミズホ通信の「UZ-K1」の復刻版を発売してくれた。同社のHPをワッチしていたらその情報を発見したので、すぐさま買い求めに行き入手した。ところが入手は早かったのだが、なかなか製作しようとせず、作り始めたのは1年後の今年となってしまった。回路自体は完成品なので、作るのはフレームの部分だけだったのだが、無精でなかなか動けなかった。



UZ-K1 キット (マイクロ・パワー研究所 HP より引用)

作ってみるとまずまずきれいに出来たので、ここでお披露目してみたい。ちなみに参考にしたのは、短波誌のバックナンバーである。当時の MW-DX の標準ループは一辺 1m の正方形で 6 回巻き、バリコンで同調した信号を、同じフレーム 1 回巻きのループでピックアップして、受信機に給電する仕組みだ。

この古のループを作るのに非常に興味を惹かれ、やっとならして作ってみた。

実はその昔 (中学時代) も製作にチャレンジしたことがある。実際に木枠のフレームとスペーサーを組み立てて 6 回巻きまで作ったのだが、その後同調回路もピックアップループも付加せずに未完成で終わった。大変恥ずかしながらこの回路構成が、そして「誘導結合」という考え方が理解出来ていなかったのだ。今回これを製作して、40 年経ってやっと理解出来たというお粗末さに赤面する思いだ。

さて懺悔はこのくらいにして、実際の製作に進めよう。一辺 1m の正方形は実際に作るとかなり大きい。これを部屋に設置すると邪魔だし、我が家は鉄筋コンクリート造ではないが、窯業系外壁材を使用していたり (基地騒音対策のため) 防音工事を実施しているせいか、室内での受信は不良である。なので自宅での使用ははなから期待せず、キャンプ場等での屋外受信専用で使用することにした。そのためフレームはいつでも分解出来るように、ボルトとナットでの組み立てとした。

材料は下記表の通りだが、長ささえ確保出来れば、角材やスペーサー用薄板の厚さ等は自分の好みで問題ない。

品名	数量	参考単価
ラワン角材 (1,820×18×18)	2	@275
同 (910×18×18)	2	@138
ファルカタ合板 (450×90×6)	1	@108
屋根馬	1	@1,505
TS 継手ユニオンソケット 内径 φ25	1	@78

部品表の最後にある「TS 継手ユニオンソケット」とは水道配管用塩ビパイプのパーツであるが、18mm角のラワン角材の角を微妙にやすりで削ると丁度ここに入る。それを屋根馬に差し込むと、ループが円滑に回転出来るのでお奨めである。

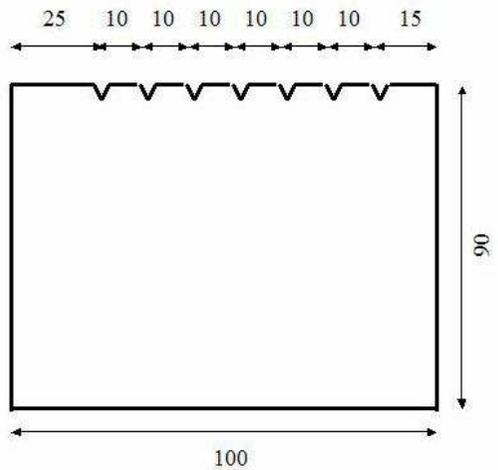
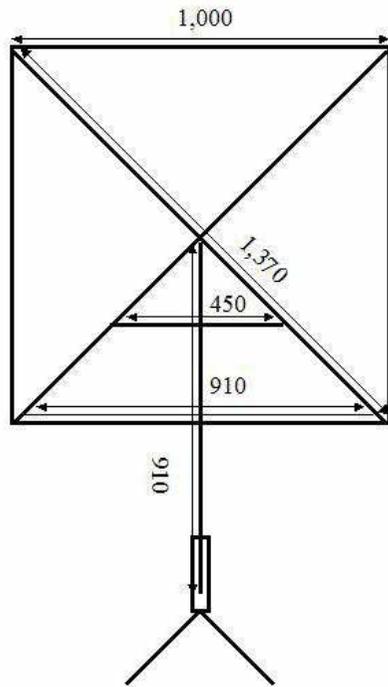


TS 継手ユニオンソケット

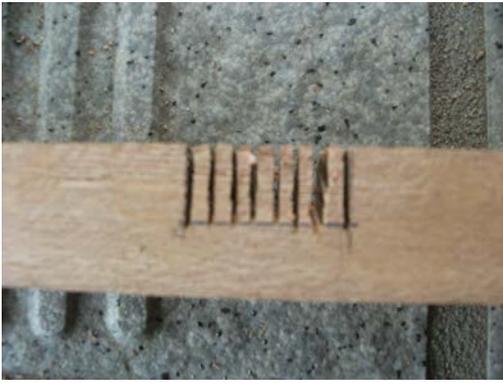


屋根馬に差し込んだ様子。スムーズに回る

部材の寸法は下図を参照して頂きたい。



スペーサーの図。7箇所ある中央の溝はビックアップ要素用いざ着手すると大したこと無かった。唯一苦勞したのは対角線の交点であり、ここは相欠き接ぎとするために、鋸で何本か薄く溝を作り、それをペキペキと折って取り去り、最後はやすりで仕上げた。



同調部はこのフレームに両面テープで貼り付けた。この他エレメントを固定するための金具等を取り付けたが、この辺りは自分の好みで。



さて実戦での使用感だが、一辺 1m×6 回巻きのエレメントから得られるゲインはかなりのものがある。自宅のベランダに設置して ICF-2010 に接続して使用すると、単体では弱々しい 630/KUAM が浮かび上がってくる。また指向性の切れ味も鋭く、アンテナの回転に応じてこれまた信号が浮かび上がったり沈んだりする。エレメントが長かったのか中波帯の下限（500 kHz 帯）には同調していなかったので、若干の調整が必要のようである。

ちなみにシャックに設置されている ALA-1530+AR-7030 でも聞いてみると、同じ KUAM が安定して強力に受信出来る。さすがにアクティブループ+通信型受信機のコンビと比較するのは酷であるが、40年前の中波 DX のアンテナの主流はこれだったので、アンプをかますなど装置を付加してじっくり

ワッチすれば、それなりの DX 局が受信出来るだろう。ただこのUZ-K1 のブーストされない自然な味わいは、前述の通りキャンプ場などのアウトドアで、ポータブル受信機との組み合わせで聞く方が楽しそうである。



本気で MW-DX をするのであれば大型アンテナ+SDR で臨むべきであり、UZ-K1 はまた違った楽しみ方をしたい。とにかくつまみ以外はオリジナルであるというレトロ感が実に良い。このテイストを楽しむのが粋と言えよう。

最後にUZ-K1は「バリコンの在庫切れ」のために一旦販売休止となっていたが、6月17日にパーツを変更して再開となった。いずれにしても限定生産に近い形なので、レトロ気分を味わいたい方は早めに注文なさることをお奨めしたい。

※マイクロ・パワー研究所 UZ-K1 掲載ページ

<http://mizuho-lab.com/uz/uz-k1.html>



茅ヶ崎漁海岸公園にて。木製フレームと増幅されない自然な信号は、アウトドアに似合う



予 算
2,500 円程度

高感度ミニループで 中波 DX 大作戦

澤谷 淳一

「Ultralight DX 用の外付けアンテナは魅力的だけど、自作するのは難しいし・・・。」

前号で特殊なリッツ線を使った外付けアンテナの製作を紹介しましたが、材料の入手や製作失敗時のリスクの面で「誰でも」というわけではありませんでした。



前号で紹介した外付けアンテナ

そこで今回は再現性重視ということで市販のミニループアンテナを使った DX を紹介します。価格も手ごろで操作も簡単ですが、最大感度を引き出すには多少のコツが必要です。

この記事を参考に、憧れの海外中波局のキャッチにチャレンジしてみましょう！

■ TECSUN AN-200 について

多くの BCL に愛用されている PL-380 や PL-660 で有名な中国メーカー TECSUN 社から発売されている中波専用ループアンテナです。店頭ではあまり販売されておらず主にネットでの購入となります。

1. 本体の概要

組み立て不要の完全一体型です。本体の基台部分に同調ダイヤルがついています。接続用のステレオプラグコードが付属しています。

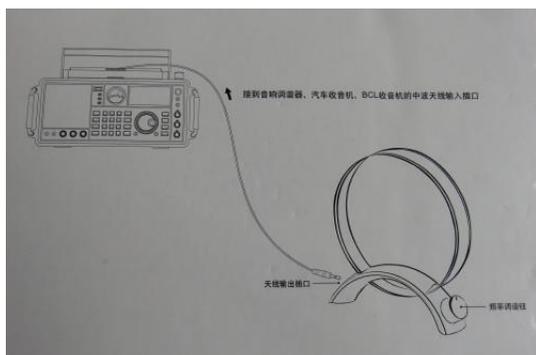


アンテナ自体はシンプルな構成

2. ラジオとの接続方法

付属コードで接続する方法とアンテナにラジオを近づける方法（以下、誘導結合）があります。梱

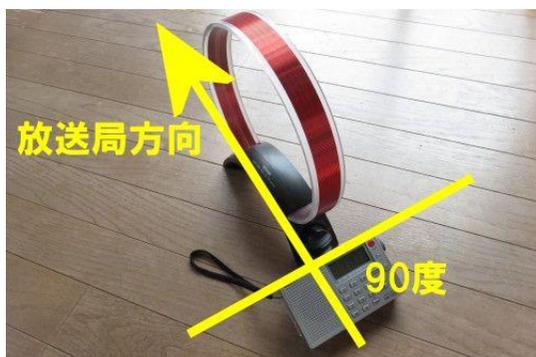
包されている箱には、TECSUN S-2000 と付属コードで接続しているイラストがあり、本来はこのような使い方を想定しているのかもしれませんが。



梱包箱のイラスト

しかしながら、筆者の印象（ネットの情報なども同様）では付属コードによる接続よりも誘導結合の方が良好に感じます。

誘導結合の場合は、写真のようにループの巻き方向とラジオの内蔵バーアンテナが直角になるように近づけます。



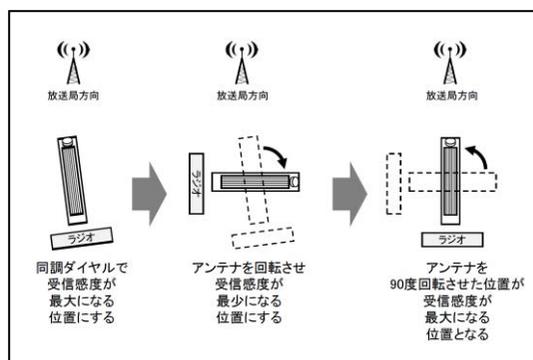
ループの巻き方向とラジオのバーは直角に！

3. 使用方法

ラジオで目的の周波数を受信します。次にアンテナ本体の同調ダイヤルにより目的の放送局の信号を増幅します。その後、アンテナの方向を調整して感度が最大になるポイントを探します。

最大感度の探し方は、下の図のように感度が最小となるポイントを探した後、90度回転させると比較的簡単にベストポイントを見つけることができます。誘導結合している場合は、アンテナと共にラジオも一緒に位置を変える必要がありますが手間

を惜しまず頑張らしましょう。



ベストポイントの探し方

■ 最大感度を引き出すコツ

国内局であれば今までの説明で十分受信が出来ますが、海外中波局を狙う場合はアンテナの性能を最大限に引き出す必要があります。

使用するラジオの種類にもよりますが、概ね以下の特徴を理解しておくとい良いでしょう。

1. 同調は慎重に！

アンテナ基台部分の同調ダイヤルは、ポリバリコンに直結されており、回した感じもネットリ系ではなくスカスカ系です。



ダイヤルは非常に軽く同調ポイントがずれやすい

ダイヤルをちょっと回しただけで同調周波数が大きく変わってしまうため、初めて使った場合、最大感度の部分が探し出せないかもしれません。そのためダイヤル操作は髪の毛一本程度に動かすくらい慎重に行いましょう。

また近隣周波数の強力局が増幅されて聞こえて

きたり、音の無いキャリアが増幅し S メーターのみ振れてくる現象も見受けられますので注意しましょう。

前述のようにダイヤルは非常に軽くちょっと触れただけで大きくずれてしまいます。そのため、同調後はダイヤルには触れない、アンテナの方向転換作業もダイヤルに衝撃を与えないように静かに行いましょう。

2. アンテナとラジオの位置関係を最適に！

誘導結合の場合、アンテナとラジオの相対位置関係によって S メーターで多少の違いが出てきます。筆者の AN-200 使用経験から、ラジオの種類にもよりますが「ループから少し離れた位置」と「ループの輪の中心軸上の位置」が良好ということがわかっていました。



ループから少し離れた位置



ループの輪の中心軸上の位置

そこで今回、アンテナとラジオの相対位置関係による入感強度の違いについて調べてみました。

調査日時 : 2017.05.13 AM10:00
 調査場所 : 横浜市旭区木造屋内 2 階
 受信機 : ELPA ER-C57WR
 対象局 : 茨城放送 1197kHz (水戸局)



実験風景

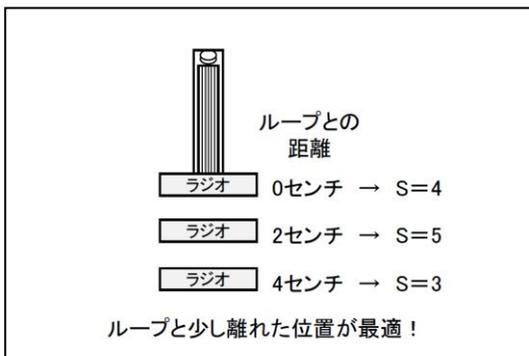
入感強度の測定は受信機の S メーターを使用します。フルスケールで 9 個、一つずつ点灯するタイプです。相対位置により点灯数の違いを調べてみました。



実験で使用する S メーター (写真では S=9 の状態)

1) 水平方向の位置関係の違い

ループアンテナにラジオを密着させて徐々に離して S メーターの変化は以下の通りとなりました。

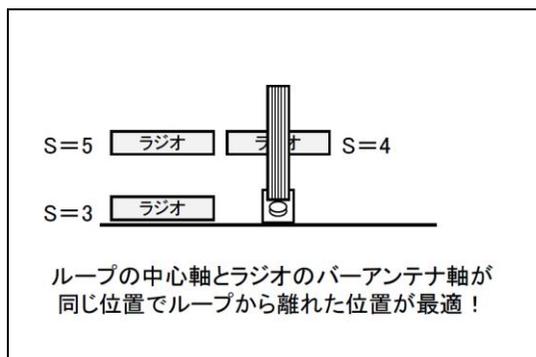


アンテナを上から見た図

ベストポイントはループから少し離れた場所ということがわかります。

2) 垂直方向の位置関係の違い

ループアンテナ対し、ラジオの高さを変えるとともにループアンテナの輪っかの中に配置した場合のSメーターの変化は以下の通りとなりました。



アンテナを横から見た図

ベストポイントはループの中心軸上で、アンテナから少し離れた場所ということがわかります。

■ 実際に聞いてみた

常連局ばかりですが、AN-200 と市販ラジオの組み合わせでの受信結果を以下に紹介します。

2017. 03. 18_Radio Rebelde (1620kHz) キューバ
<https://www.youtube.com/watch?v=I2d9ceZjk60>

2017. 03. 18_KAPL (1620kHz) 米国
https://www.youtube.com/watch?v=_tsQqQEiXiY

2017. 03. 04_XEPE ESPN (1700kHz) メキシコ
<https://www.youtube.com/watch?v=0iDGYHOAhkM>

2017. 02. 25_TWR (1548kHz) モルドバ
<https://www.youtube.com/watch?v=7NUkah0p0MM>

2017. 01. 20_4QD (1548kHz) オーストラリア
<https://www.youtube.com/watch?v=92Zk1XNAkpY>

2017. 01. 12_4QN (630kHz) オーストラリア
<https://www.youtube.com/watch?v=QR4GBDq0MTM&t=67s>

2017. 01. 03_DZMM (630kHz) フィリピン
<https://www.youtube.com/watch?v=0r1IUS21Z3I&t=61s>

2016. 11. 26_KUAM (630kHz) グアム
<https://www.youtube.com/watch?v=B4uD1ECcHgA>

2016. 11. 19_KICY (850kHz) アラスカ
<https://www.youtube.com/watch?v=2Lkg36-4aKM&t=33s>

■ 最後に

ミニループを使った中波 DX 大作戦、いかがでしたか？先にご紹介した受信結果は、連日狙ってコンディションが良い日にキャッチ出来たのですが、高価な受信機とアンテナを使用しなくても中波 DX が体験できることをお分かりいただけたと思います。

この春に参加した千葉県外房太東崎ペディでも AN-200 は大活躍してくれました。



みんなで広げよう、AN-200の「輪」！

Ultralight DX というと「特製アンテナとポータブルラジオの組み合わせによる受信」のイメージが強いですが、市販のミニループを使えば手持ちのラジオで誰でも簡単に Ultralight DX を楽しむことができます。あなたも是非チャレンジしてみませんか。

CC Skywave 専用 Ultralight 外部アンテナの製作



長谷川 眞也

はじめに

TDXC では、小型ラジオに大きなフェライトバーアンテナを取り付けて DXing を狙う「Ultralight DX」が人気です。すでに多くのメンバーが思い思いの改造機を作って楽しんでいます。私も一昨年4月にシエスタさんからフェライトバーを、板倉さんからリッツ線を UL-DX 改造用にお譲りいただきましたが、UL-DX 受信機の提唱者 Gary さん製作の改造版 PL-380 をすでに所有していたので、なかなか自分の改造受信機の製作に至りませんでした。昨年の PROPAGATION Ed. 4 には、澤谷さんの詳細な UL-DX ラジオ製作記事をご寄稿いただいたことで、製作の期は熟したと感じました。仕事がひと段落した昨年秋、澤谷さんの記事を読みながら、小型ラジオ CC SKYWAVE を Ultralight DX ラジオに改造してみました。

CC SKYWAVE とは

カリフォルニア州フォーチュナにある電子機器取扱企業「C. Crane (C クレーン)」は、台湾のメーカー Sangean と共同でラジオを開発しています。ワールドバンドラジオ「CC Skywave」は、単三電池2本込みで 236g と小型ながら中波帯の感度が高く、選択度の細かな切り替え機能やソフトミュートがほとんどないことから、海外では PL-380 と並ぶ Ultralight DX の人気機種になっています。

CC SKYWAVE は日本国内に取り扱い店がありません（国内向けに機能を変更したバージョン「ER-C57WR」は、ELPA から発売されています）が、昨年夏に Twitter にて Leo さん (@LeoGoto_SWL) から、国内でも Amazon.com で購入できることを教えていただき、早速注文しました。本体価格は約 90 ドル、アメリカからの送料は約 5 ドルでした。

CC SKYWAVE は PL-380 よりもひとまわり小さくて





軽いものの、中波帯の感度は PL-380 より高く感じました。逆に FM では、PL-380 のほうが高感度です。ボタン類も比較的押しやすく操作性はいいですが、周波数の 10 キー入力時にまず「FREQ」ボタンを押さなければならないのが、ちょっと面倒に感じます。音質はクリアな高音で了解度も良く、ノイズ成分が静かで聞きやすいです。ただしボリュームダイヤルにガリが発生しやすいので、時々たくさんダイヤルを回して接触不良を改善させています。

UL-DX ラジオ製作のコンセプト

今回の改造に際してのコンセプトです。

- ・ CC SKYWAVE 自体には、極力変更を加えない
- ・ 外部アンテナは、ラジオ本体から着脱可能にする
- ・ ラジオ本体にアンテナ端子を増設し、アンテナを切り替えられるようにする。外部アンテナを取り外せば、CC SKYWAVE の内蔵バーアンテナでも受信できる

当初は CC SKYWAVE を全くの無改造状態で使用し、脱着式のアンテナを誘導結合（ラジオに電線を巻きつける、結合カップラーを近づける、など）させて受信する方式を考えていましたが、スマートに結合させる方法が思いつかず、やむをえずアンテナ端子増設を決めました。

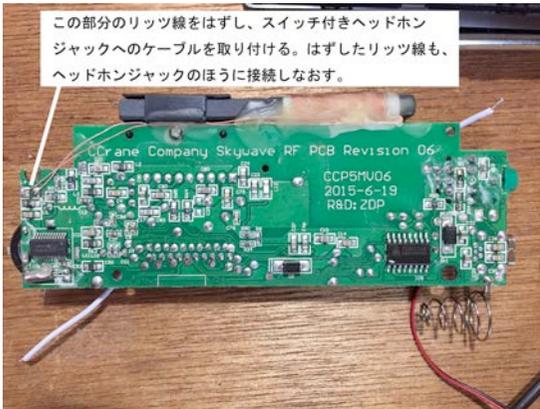


アンテナの製作

まず CC SKYWAVE を開腹し、ストラップ穴のすぐ下に「3.5φヘッドホンジャック 基板・パネル両用スイッチ付き」を取り付けます。内蔵バーアンテナから基板に取り付けられているリッツ線を、外してヘッドホンジャックのほうにハンダ付けします。ヘッドホンジャックと先ほどリッツ線を取り外した基板部分との間は、ビニール線をハンダ付けしてつなぎます。これでヘッドホンジャックにプラグを差し込むことで、アンテナが切り替わるようになります。

外部バーアンテナは、澤谷さんの ER-C57WR 改造記事そのままに製作しました。リッツ線を 62 回巻きましたが、測定機器がないのでアンテナのインダ





クタンズは分かりません (汗)。

ホームセンターコーナンで購入した「ブラック丸パイプ 18 No. 303 1,000mm」と「キャップボルト 頭部キャップ M12 黒 557-762」に、バーアンテナを組み込みました。リッツ線には、いらなくなったステレオイヤホンの端子部分付きケーブルをハンダ付けし、ブラック丸パイプに開けた穴から引き出しています。

バーアンテナとラジオの取り付け方法も悩みました。電子工作用のクランプやデジカメの自由雲台



などが利用できないか考えましたが、たまたま 100 円ショップで見かけた「スマホ三脚スタンド」を使ってみました。三脚を外してスマホ取り付け部分を CC SKYWAVE に挟み込んだら、ちょうどぴったりと固定できました。このスマホ取り付け部分に、バーアンテナを結束バンドで固定しています。「スマホ三脚スタンド」と同様の商品は、ダイソーで「デジカメスタンド用携帯電話クリップ」が売られています。ちなみに「スマホ三脚スタンド」は取り付けクリップの幅が足りず、PL-380 には使えませんでした。

使ってみて

外部アンテナのクリップで、CC SKYWAVE を挟んで固定し、アンテナからのプラグをラジオにつないで準備完了です (ただしこの状態では、ロッドアンテナは使用できなくなります)。内蔵バーアンテナでは聞こえなかった 1664kHz の東京マーチスが弱く受信できるようになりました。PL-380 改の受信音より、わずかに音の力強さが弱く感じますが、使われているフェライトバーが若干小さめで、巻き数も異なるからと思われます (CC SKYWAVE 18cm 約





1cm 径、 PL-380 19cm 1.3cm 径)。なお改造後の CC SKYWAVE は、電池込みで 346g です。

しばらく試していると、アンテナ端子を抜き差しした際にラジオの感度がおかしな具合に変化するのにも気付きました。

*765kHz YBS ラジオ

内蔵 ANT のみで電源 ON S6

外部 ANT を挿すと S5

外部 ANT を外すと S6 に戻る

外部 ANT を挿して電源 ON S9

外部 ANT を外すと S3

外部 ANT を挿すと S9 に戻る

*1664kHz 東京マーチス

内蔵 ANT のみで電源 ON S0 (ノイズあり)

外部 ANT を挿すと S0 (フロアノイズも下がり、ほぼ無音に)

外部 ANT を外すと S0 (ノイズあり) に戻る

外部 ANT を挿して電源 ON S1~2

外部 ANT を外すと S0 (フロアノイズも下がり、ほぼ無音に)

外部 ANT を挿すと S1~2 に戻る

(これはフェライトバーアンテナに関係のない SW・FM バンドを受信しても、なぜか同じ症状が出ました)

宮内さんの会誌 Ed.2 執筆記事に、「C. Crane や PL-380 など DSP チップの載ったラジオだと、FSL の

チューニングが非常にわかりにくかった。これは、ラジオのチップ側が賢くて、弱い信号でもすぐさま増幅してしまうのと、強い信号であってもオーバーフローしない様に、瞬時に調整がされてしまう為と思う」とありましたが、似たような症状が出ていると思われます。「電源を ON した時に接続されているアンテナで感度の最適化がなされていて、それは電源を OFF しないとリセットされない」ように感じます。バーアンテナ切り替えが SW や FM バンドの受信に影響するのは、中波の強入力で飽和しないように DSP で感度の調整をするからかもしれません。外部アンテナを使う際は、あらかじめアンテナ端子に接続してから電源を入れるようにしています。

DX 受信の性能ですが、コンディションの良い晩に KICY を受信できました。

先に行く UL DXer よりだいぶ遅れましたが、部材を提供くださり、製作情報を公開下さった皆さんのおかげで、ようやく自分も自作機で Ultralight DX の世界を楽しめそうです。ここに改めて感謝申し上げます。



意外な状況で性能を発揮!?

乗鞍ハイキングと

CCSKYWAVE

長谷川 眞也



2016年夏の家族旅行は、長野県の乗鞍高原をハイキングしました。当初は上高地に行くつもりでしたが、宿がどこも満室だったので乗鞍に変更。事前にハイキングコースを決めていましたが、ペンションの奥さんから歩きやすく無理のない遊歩道を教えてもらったので、そちらを目指すことにしました。

ただ気がかりだったのは、奥さんから聞いていた熊のこと。つい先日も息子さんとポケモンGOをプレイした近くの道路で熊を見かけたそうです。2016年は各地で熊が出没し、秋田県では5～6月に多数の死亡事故が発生。乗鞍でも2009年9月に畳平で9人が重軽傷を負う被害がありました。

登山の助人? 登場

ペンションから車で乗鞍エコーライン手前の三本滝ゲートまで向かいます。マイカーはここまでしか行けません。ゲートを警備しているおじさんに熊のことを聞いてみると、「歌を歌いながら歩きな。あとラジオを鳴らすとか」とアドバイスが…。事前に熊鈴も調達しましたが、念のために持って行ったコ

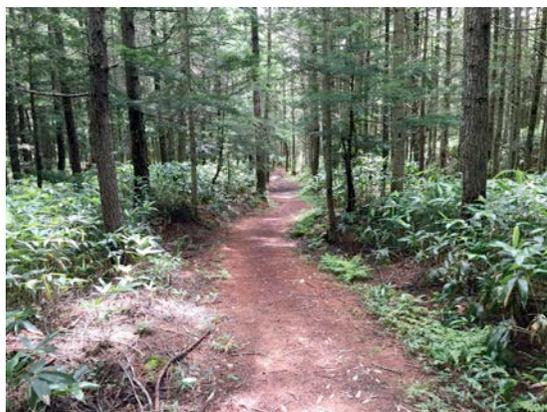


ンパクトラジオ「C. CRANE CCSKYWAVE」も用意。PL-380よりひと回りコンパクトなCCSKYWAVEは、シャツの胸ポケットにもすっぽり入ります。山なのでAM放送は信号が弱く、79.7MHzのFM長野を鳴らしながら出発しました。

見えない熊とのたたかい

ゲートそばの遊歩道に入ります。コースは「子りすの径～東大ヒュッテロ～原生林の小径～乗鞍高原休暇村～口笛の径～あざみ池～小梨の小径～の瀬キャンプ場～夜泣峠～子りすの径～三本滝ゲート」。あざみ池までは下りで、また登ってゲートまで戻るコースです。標高1800mの三本滝ゲート周辺は涼しく、カラマツやシラビソの枯葉がふかふかの絨毯になって歩きやすいです。遊歩道はよく整備されていますが、不気味なことに道中でハイカーとまったくすれ違いません。等間隔に熊よけの鐘（鉄パイプと太いボルト）が置いてあり、おそろおそろ鳴らしながら進みました。

原生林の小径には、熊の巣になりそうな根上がり





乗鞍高原 乗鞍山頂 MAP (<http://norikura.gr.jp/wp-content/uploads/2015/03/乗鞍時刻表2015-3.pdf>) より

(木の根が地面から露出し、空間ができていた状態)がたくさんあったので、ラジオの音量をさらに上げて駆け足で進みました。ここは腐生植物のギンリョウソウの生育地で有名らしく、小さく生えているのを見かけました。



ラジオの音に励まされたハイキング

お昼頃に着いた乗鞍高原休暇村のラウンジでおにぎりを食べて、また山中へ。さらに下りきったところでぽっかりと開けたあざみ池に出ると、はじめて他のハイカーを見かけました。キャンプ場から夜泣峠までの急斜面の登りはキツかったですが、あと

はふたたび子りすの径を戻るだけです。

山道ではV字の斜面に差し掛かると、FMラジオの感度が下がります。ポケットに入れているのでロッドアンテナを伸ばさず、ポケットの中でラジオの角度を変えて感度が上がる向きにします。FM長野は関東ローカル局と違い、流行の曲を流さないポリシーがあるのか、マイナーな曲を延々と流しています(そこがますます日常を感じず、不安感が増したのですが…)。聞き慣れたCM「過払い金は、長野であっても新宿事務所」が流れた時には、苦笑しつつもホッとしました。

4時間半の冒険を終えて

三本滝のゲートに戻ったところで、思わず家族で万歳三唱(笑)。遠くからゲートのおじさんも手を振ってくれました。家族からは「お父さんの短波ラジオが初めて役に立った」と嬉しいような悲しいような感想が(泣)。

何はともあれ、CCSKYWAVEのおかげ?で無事にハイキングが終わってよかったです。最近では人間慣れしたクマには鈴やラジオの音も有効ではないとの指摘もありますが、備えあれば憂いなし。また山に行くときは、ラジオを連れていこうと思います。



60歳からの 入門 BCL ブック

第3回 ラジオを聞こう。

せきやま☆あすか

みなさん、こんにちは。3年目にしてやっと「ラジオを聞こう」がテーマです。ラジオを集めたり仲間との交流も楽しいものですが、やはりBCLはラジオを聞くことが一番楽しいのだなあと思います。この一年間のぼくのログブックからいくつかの受信例をご紹介します。ラジオを聞く楽しみが少しでも誌面から伝われば幸いです。

モンゴルからのテスト送信。

2016年5月末の数日間にモンゴルから中波によるテスト送信が行われました。周波数は1431kHzです。ぼくは5月28日の1時台に受信することができました。とは言っても確認できたのは「ピー」というシングルトーンだけでしたけどね。関東では1422kHzのラジオ日本(JORF)の混信で受信が難しいと予想されたのですが、幸いにも当地は神奈川県内の送信所からだいぶ離れていたためキャッチすることができました。

Radio RSA の IS。

2016年前半にアメリカのWWRBという放送局が昔のRadio RSA(南アフリカ共和国)のインターバルシグナルを使用していると話題になりました。週末の深夜に15240kHzで受信できるということを知ってぼくもチャレンジしてみました。7月10日の0054から開始しました。5kHz上から北朝鮮局の混信がありますが、耳を澄ますとかすかにR.RSAのISが聞こえています。ギター演奏と鳥のさえずりのあのメロディですね。うれしくなりました。

ギニアの放送が復活しました。

2016年の夏、西アフリカはギニア共和国のRadio Guineaが短波放送を再開しました。周波数は

9650kHzです。毎朝3時ごろから6時過ぎまで全国各地で受信の報告があります。国際バンドの31mbでの放送ですので多くのみなさんにとって狙い易いのではないかと思います。ぼくも早起きして聞いてみました。信号強度はまあまあです。ただし、時間帯によっては上下からのサイド混信がだいぶ気になりますので、IDの確認には苦労しました。アフリカらしさを感じる局です。

TP-DXingの入門局。

Transpacific DXingのパイロット局と言われています1700kHzのESPN Radioを受信しました。BCLを再開してからまもなく、中波DXの先輩方からこの局がTP-DXingの入門局だと聞いてぼくもぜひ受信してみたいものだと思っていました。そう「これを聞かなきゃ始まらない」という感じですか。そのチャンスがようやくめぐってきました。秋のDXシーズン真っ盛りの2016年の10月2日、22時ごろに1700kHzに周波数を合わせてみると弱いながらもなにか浮き沈みしているのではないですか。これは憧れのESPN Radioに違いないです。以前にも一度それらしき局は受信できていたのですがはっきりと聞こえたのは今回が初めてです。うれしかったですね。これでやっとぼくもTP-DXingのスタートラインに立つことができたような気がしています。

地中海の風、Radio Medi Un。

2016年の秋、夕方の常連局と言われるモロッコのRadio Medi Unが良好に聞こえていました。周波数は9575kHzです。この季節、当地では15時ごろから入感するようです。ぼくがBCLを休止する前にも聞いたことのある放送局で、このたび20数年ぶりの再会となります。たしか局名の"Medi Un"とは「地中海 No.1」という意味ではなかったかな。昔とおなじく洒落た感じの番組でした。言葉がわからないのであくまでもイメージですけど。まあでもBCLは人それぞれに想像をふくらまして楽しめる趣味でもありますよね。ぼくの中では地中海の風を感じました。ちょうど有名なボサノヴァの「イパネマの娘」がかかっていました。途中から近隣の周波数にジャミングが出て来て受信状態が著しく悪化しますが、いかにも短波放送的な状況でも楽しむことができました。

ラジオを聞くのは楽しいです。ではまた来年、お目にかかりましょう。ごきげんよう。



BCL グルメの旅

「湘南ビーチFM ビール 789」

長谷川 真也

BCL にまつわるグルメを探求する旅シリーズ、今回は神奈川県逗子市のコミュニティFM局「湘南ビーチFM」ブランドのビールを紹介します。

2015年9月に発売となったビール「789」。湘南ビーチFMの周波数78.9MHzがネーミングの由来で、放送局グッズとしては珍しいアルコール製品です。局HPの通販で手に入りますが、実際に飲めるお店もいくつかあるとのことなので、例によって5月末、息子の運動会の代休日に出掛けてみました。向かった先は、湘南ビーチFMのサテライトスタジオがある「リビエラ逗子マリーナ」です。

JR横須賀線逗子駅で下車、東口から住宅街を抜けて逗子海岸まで歩きます。海岸では大勢のサーファーがウインドサーフィンを楽しんでおり、湘南らしい雰囲気を感じられます。そのまま国道

134号線を材木座方面へ進んで逗子マリーナに向かうつもりでしたが、伊勢山トンネル手前で「トンネル内は歩道がなく通行できません」という看板が。交通量が多く、どの車もかなりのスピードを出していたので危険を感じ、しかたなく迂回コースをとりました。

トンネル手前の浪子不動高養寺わきにある、浪子不動ハイキングコースを登ります。湧き水のせせらぎぞいにある山道を20分ほど進むと、標高92mの披露山公園駐車場に出ました。そこから有名人・著名人が多く住む「披露山庭園住宅」を通り抜け、またふもとの海岸線まで降りるとほどなくしてマリーナに到着。炎天下の中、汗をかきながら1時間ほどの散策になりました。

789ビールが飲める「SEASIDE CAFE」は、リビエラ逗子マリーナの奥にある「リビエラプラザ」内にあります。ここは外観からも分かるよう





に元々はボウリング場で、現在はカフェや結婚式場などが入っています。SEASIDE CAFE はハンバーガーやカレーライス、かき揚げ丼などの軽食がメインで、フードコートのようなセルフサービス形式になっています。この日は平日ということもあり、お昼時なのに店内は空いていました。

座席に座り、さてようやく 789 ビールで喉を潤そうと思ったところ、なんと今日は 789 ビールが品切れ！とのこと（涙）。せっかくここまで来たのに…残念でしたがコロナビールに変更、家族もそれぞれハンバーガーとポテト+ドリンクセットをオーダーしました。パンズの表面はカリッとして中は柔らかく、大きいですが楽に食べられます。国産牛 100%のリビエラバーガーは特に味付けがされておらず、ビーフや有機野菜の素材の味を楽しめました。トロピカルバーガーは「タコスソースにパイナップルがいい仕事してた（女房談）」。チキン竜田バーガーは和風ソースがかかった柔らかい鶏肉の竜田揚げで、から揚げ大好きの子も大満足でした。



店を後にして、ヨットハーバーそばにある湘南ビーチ FM リビエラ逗子マリナサテライトスタジオに寄ってみました。2013 年 4 月 6 日から放送を開始したサテライトスタジオですが、平日昼は公開放送がないので、小さなスタジオにはカーテンがかかっていました。

暑い空と湘南の海風、高級住宅街やヨットハーバーといった別世界の余韻に浸りながら、なんとか 789 ビールを飲みたい。そこで帰宅は新逗子駅から京浜急行に乗って上大岡駅で途中下車、京急百貨店 B1F のお酒売り場で 789 ビールをゲットしました。3 種類あり、各 360 円（プラス税）。

帰宅後さっそく栓を開けてみました。ビール製造は新潟県新潟市西蒲区のエチゴビール、販売は逗子・葉山コミュニティ放送となっています。ラベルは FM STATION を愛読したエアチェック世代にはおなじみ、鈴木英人氏のイラストです（氏は湘南ビーチ FM の取締役でもあります）。

ピルスナーはさっぱりした苦味で、甘みとほのかな麦の風味が口の中に残る、ライトでドライな





ビールです（キリッと華やか・女房談）。レッドエールは普通のビールと黒ビールの中のような感じで、うっとりするような花の芳香と苦味。ほんのりした甘みと、カラメルの風味が口の中に残ります（なんかジャスミンがはいってるみたいな・女房談）。スタウトは黒ビールですが軽めで飲みやすく、カレーとも相性良くてスッキリ口の中を洗い流してくれます（爽やかなカラメル味・女房談）。

今回は行けませんでした。池子のオフィス・スタジオ（以前は葉山マリーナにありましたが、津波被害のおそれから2013年3月に逗子市池子に移転しています。ちなみに送信所は、三浦郡葉山町堀内にある大峰山山頂189mにあります）もぜひ訪れつつ、いまいちど逗子の街で789ビールを味わってみたいです。

*789ビールの注文・問い合わせ
 湘南ビーチFM オリジナルグッズ係（平日10:00-17:00）



TEL 046-870-3313
 FAX 046-870-3323
 office@beachfm.co.jp

*SEASIDE CAFE

（リビエラ逗子マリーナ「リビエラ プラザ」内）

平日 9:00~19:00

毎週火曜日 9:00~17:00 ※朝食営業なし

土日祝 7:30~19:00 ※朝食営業時間 7:30~9:00

休日翌日（月曜日） 7:30~19:00 ※朝食営業時間 7:30~9:00

年中無休

〒249-0008 神奈川県逗子市小坪 5-23-16
 0467-23-2211

*京急百貨店

B1 階 食品・和洋酒売場 10:00~20:00

〒233-8556 神奈川県横浜市港南区上大岡西 1-6-1

045-848-1111 〈代表〉



ありがとう いとしの

うおーくまん・すかいせんさー

澤谷 淳一

本書は副題に「ソニー小型オーディオ製品を支えたデザイナー」とあるように、イレブンシリーズ、スカイセンサーの後のテンキー式 BCL ラジオのデザインを担当した谷口修平氏の回顧録である。

近年、BCL ラジオ関係の書籍が発売される中、本書の引用がほとんど見られないことから、BCL 関係者にあまり知られていないのかもしれない。

構成は前半がスカイセンサー誕生秘話、後半は没になった小型テレコが後日ウォークマンⅡに進化していく過程で構成され、同時に企業デザイナーとしての喜びと苦悩がちりばめられることでストーリーに深みを与えている。

スカイセンサーの企画は、松下のワールドボーイへの対抗だけでなく、当時勢いを見せていたラジカセによるラジオ部門の閉塞感の打開を目的に立ちあげられたなど、数年後の爆発的な BCL ブームを前にしてラジオの先行きに不安を感じていた社内描写は興味深い。

思い切った企画の場合リスクが伴うため、企業としてそれを避ける（ヘッジ）する対策を行うことが多いが、BCL ラジオのエポックメイキング的存在の ICF-5500 発売時には縦型デザインが市場に受け入れられない場合に備えてイレブンシリーズのデザインを踏襲した ICF-5400 も同時発売する方策は、社会人の読者であれば共感することだろう。

「短波受信の魅力は、ダイヤルツマミを指先の微妙な感触の動き、息を止めるような、それで、かすかに受信が出来て感激したものだった。その難しさを、あざ笑うかのような～（略）～シンセサイズドチューニング機ができた。」と、アナログからデジタル、そしてダイレクト入力への変遷の動きも描写されている。

当時 BCL だった読者なら、ICF-2001 の登場以降、ソニーはメカニカルラジオから電子ラジオに大きく舵を切ったが、開発陣はそんなに簡単に割りきれ

たのだろうかといった素朴な疑問が誰しもあると思う。ソニー社内でもその論争はあったようで「事業部としては飛躍するのか？今迄の短波愛好者にソッポを向かれてソニーラジオのステータスを失ってしまうかもしれない。」という不安の中、一つの選択を行った。その後の展開は読者の方々もご存じの通りである。

現在の BCL ラジオ市場は中華ラジオが席卷している。DSP といったワンチップラジオが安価で提供され、消費者としては有難い時代だが、デザイン的にはどれも金太郎飴の様に画一的である。ではデザインから攻めたスカイセンサーの様に工夫をこらせばラジオ人口も増えるのだろうか。

ラジオの聴取率は緩やかに減少している中、ティーンエイジのみ上昇傾向にあるという。それは、radiko の登場により彼らのラジオはスマートフォンになっているからであり、そのような現状においてはラジオ人口増加にデザインの役割が食い込む隙は無いかもかもしれない。そういう意味で中華ラジオやアマ無線機の関係者には是非読んでもらいたい一冊である。



「ありがとう いとしの
うおーくまん・すかいせんさー」
谷口修平 著

早稲田出版 ¥1,188

リグの傍に この一冊

「ラジオ受信バイブル」

2017年現在 BCL 関連の本を発行している唯一の出版社、三オブックスの今年のムックが「ラジオ受信バイブル」。過去の「月刊ラジオライフ」と「ラジオマニア」から、様々な遠距離受信のテクニックやラジオ受信機、自作機器などの記事を一冊にまとめたものです。全記事の初出は次の本からとなっています。

ラジオライフ 2013年12月号

ラジオライフ 2014年11月号

ラジオライフ 2015年5月号

ラジオマニア 2008

ラジオマニア 2009

ラジオマニア 2010

ラジオマニア 2011-2012

ラジオマニア 2013

ラジオマニア 2014

ラジオマニア 2015

ラジオマニア 2016

カラー記事「タイムフリーの制限も攻略!? radiko 使いこなしテクニック」だけが書き下ろしと思われ、それ以外はすべて初出の本から記事がそのまま使われています。すでに絶版になっている機材など古い情報については、欄外に適宜注釈が加えられています。筆者もラジオマニアのバックナンバーを数冊所有しているので、掲載記事の半分ほどはすでに読んだことのあるものでした。ラジオライフとラジオマニアから純粋に「遠距離受信」に関する記事だけをピックアップしてあるので、遠距離受信テクニックに興味がある読者には、バックナンバーを集めることなくこの一冊で十分楽しめると思います。ただ、遠距離受信といっても国内局の話題のみで、海外局受信には全く触れられていないところが、BCL 本としては物足りなく感じられました。

DXing は長年続けていると、時に行き詰まったり、マンネリからくる飽きがあったりします。そんなとき筆者は、初心に帰って国内局 DX を楽しめます。コンディションの良さそうな月曜早朝の開始時を狙って、SDR でいっきに国内全局制覇に挑むのもスリルがありますし、ひんぱんにデザインを変えてくれる国内局の QSL カードを収集するのも喜びです。こういった受信のときにうってつけだった船舶気象通報局が廃止されてしまったのは、本当に残念でなりません。

「遠くの局を聞いてみたい」という DXer の本能。三オブックスの本には、DX という大海原を目指して出航し、また疲れて帰ってくる DXer 船たちをいつも照らしてくれる港の灯台の役割を、これからも続けてほしいと願っています。(長谷川 真也)

ラジオ受信バイブル ラジオライフ編

三オムック Vol.933 三オブックス

2017年2月1日発行 ISBN978-4-86199-948-2

1200円(+税) / 電子書籍版 800円(+税)





映画情報

「きみの声をとどけたい」



ミニFM局を舞台に、湘南・鎌倉の町に暮らす女子高生たちの悩みや葛藤、夢を描いたオリジナル劇場アニメーション「きみの声をとどけたい」が8月25日（金）から全国で公開されます。

メインキャストには、新世代ヒロインを発掘する「キミコエ・オーディション」を勝ち抜いた新人声優ユニット「NOW ON AIR」の6人が務めています。

また、ひと足早く4月5日から82.8MHz 鎌倉FMで、毎週水曜 23:00～23:30（再放送 毎週日曜 17:00～17:30）に映画公開を記念したラジオ番組「コトダマラジオ」がスタート。NOW ON AIRのメンバーがパーソナリティーを務めています。

アニメーション映画とコミュニティFMのコラボ、この夏劇場に足を運んでみてはいかがでしょうか。（長谷川 真也）

〈スタッフ〉

監督：伊藤尚往

脚本：石川学

キャラクターデザイン：青木俊直

アニメーションキャラクターデザイン：高野綾

音楽：松田彬人

アニメーション制作：東北新社・マッドハウス

製作：「きみの声をとどけたい」製作委員会

〈キャスト（声の出演）〉

行合なぎさ：片平美那

龍ノ口かえで：田中有紀

土橋雫：岩淵桃音

中原あやめ：神戸光歩

琵琶小路乙葉：鈴木陽斗実

矢沢紫音：三森すずこ

きみの声をとどけたい 公式サイト

<http://kimikoe.com/movie/index.html>

コトダマラジオ

<http://kimikoe.com/kotodamaradio/>

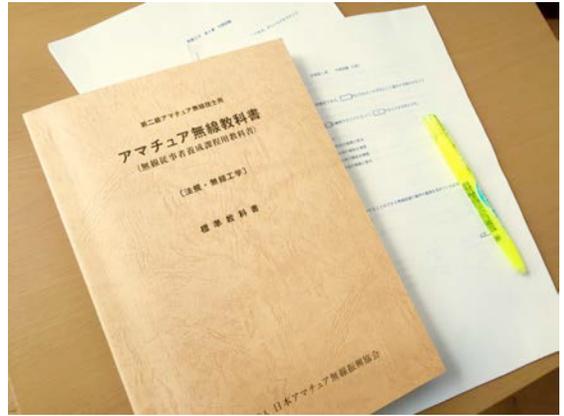


江ノ島電鉄鎌倉駅構内に掲示された地元限定ポスター。

アマチュア無線 再入門

～eラーニングで2アマ取得編～

長谷川 真也



はじめに

第二級アマチュア無線技士の資格を取得するには、これまで国家試験しかありませんでしたが、2015年7月から2アマ養成課程講習会（各地会場で受講する「集合講習」と、自宅のパソコンで受講する「eラーニング」）がスタートしました。これまでの講習会に比べて受講料は高額ですが、短期間の集中学習で2アマの資格が取れます。

太陽活動の極小期が近づくにつれてHFのコンディションの落ち込みはひどくなる一方で、DXとの交信チャンスも減っています。JP1SCQ ミヤさんからは「DXするなら、腐っても14メガ」と常々聞いていましたし、また相手局がこちらのコールをミスコピーすることも多かったので、パワーをもうひと押し上げたいという希望もあり、2アマ資格取得を考えていました。

意を決して2016年4月期の第4回eラーニングに応募しましたが定員オーバーで抽選に漏れ、第5回の7月期eラーニングを優先受講しました。

3アマと2アマの講習会および国試の比較

3アマ

・講習会 受講料 12,750 円
法規 4 時間 無線工学 2 時間
修了試験 / 法規 10 問 無線工学 10 問 60 点
以上で合格

・国家試験 受験手数料 5,250 円
法規 16 問 無線工学 14 問
合格点 法規 55 点 (80 点満点) 無線工学 45 点

(70 点満点)

2アマ

・eラーニング 受講料 49,750 円
法規 17 時間 無線工学 29 時間
修了試験 / 法規 10 問 無線工学 20 問 各 60
点以上で合格

・集合講習会 受講料 69,750 円
法規 17 時間 無線工学 29 時間 計 10 日間
修了試験 / 法規 10 問 無線工学 20 問 各 60
点以上で合格

・国家試験 受験手数料 7,452 円
法規 30 問 無線工学 25 問
合格点 法規 105 点 (150 点満点) 無線工学 87 点
(125 点満点)

受講開始

eラーニングは、決められた半年の受講期間中に、教科書 (371 ページ、法規 7 章、無線工学 13 章。印刷された本とインターネットで閲覧できる本がある) を読んで理解し、各章の「中間試験」5 問で満点を取っていく、という形で進められます。各章ごとの集合講習の様子を収録したビデオ (映像補助教材) がインターネットで自由に視聴できるので、自宅にいながら教室で講義を受けている気分で受講できます。

7 月の受講開始時は、仕事や TDXC の会誌編集などで忙しく、受講期間の半分を切った 10 月中旬から慌てて勉強を始めました。教科書は 3 アマ講習の

ものよりかなり分厚く、覚えなければならない項目もすごく多いです。教科書にアンダーラインを引くのに使った蛍光ペンは、3本を消費しました。また9月頭に中間試験問題のコピーが届いたので、集中的に学習しました。

今回の勉強を通して感じたのは、学校で習った算数や数学をほとんど忘れてしまっていたということ。分数のかけ算や通分、累乗の計算、平方根…まるで覚えてなかったことに、我ながら愕然としました。あと気がついたのは、抵抗やトランジスタ、スイッチやアンテナなどの回路図の記号が、平成26年4月から新しくなっていたことです。特に抵抗の記号はギザギザマークから四角マークに変わっていて、すごく違和感がありました。

いよいよ修了試験

法規7章、無線工学13章のすべての講義を受講して中間試験をオールクリアし、「修了試験」の前に受けておく「判定試験」にも無事合格。ここまでにかかった時間は一ヶ月くらいです。判定試験後にJARDから受験チケットが届くと、すぐに修了試験の予約をしました。受験日は最速で決定、なんと3日後です。

修了試験日の日曜の朝。中間試験解説ビデオをもう一度観直してから、午後到大船駅前の試験会場に向かいました。普段はパソコン教室の会場内にはもう一人受験生がいましたが、別な検定試験のようです。手荷物を預けてから緊張しつつパソコンに向かい、試験開始。最初「無線工学全40問」と表示が出て、「あれ、工学は全20問じゃないの!？」と戸惑いましたが、B問題(1つの問題に5つの解答欄があり、それぞれプルダウンで選択するもの)の各解答数込みの数でした。集中的に勉強してきた中間試験とほぼ同じ出題で、メモ用紙に書いて解くような計算問題は3問。新問は3~4つあり、ちょっと悩みましたが45分ほどで解き終わり、会場を後にしました。外で教科書を見返すと、法規で1問間違っただけだったので気が付きましたが、どうやら他は大丈夫そうです。試験と一緒にきてくれた家族と、柏尾川沿いを戸塚駅まで散歩しながら帰りました。

試験結果は、4日後に郵送で到着。自信はあったものの、やはり合格が気になって仕方ありませんでしたが、結果は合格でホッとしました。従免はそれ

から11日後に届き、すぐに10・14MHzの欄を書き足した変更申請届を電子申請・届出システム Lite で送信。新しい免許状は、変更申請後11日で届きました。

なお、受講した7月期の全受講者数は191人で、うち修了試験合格者数は153人です(合格率は96%)。

おわりに

eラーニングのいちばんのネックは、税込み49,750円という受講料です(集合講習はさらに高額)。料金に含まれている養成課程用教科書5,000円と無線従事者免許申請手数料1,750円、(国家試験の場合)試験手数料などを差し引いても、35,000円ほどの受講料負担になります。これを高いと思うか妥当と思うかですが、私はトータル36時間以上ある映像補助教材にその価値はあると思います。やはり問題集を読み続けるだけの勉強よりも、講師の話を目で見て耳で聞くことでより理解も深まるし、記憶にも印象的に残ります。なお講義ビデオはYoutubeの限定公開版なので、eラーニングにログインした受講者しか視聴できません。「資格をカネで買う講習会」などと揶揄する意見もネット上で見られますが、そうは感じませんでした。

eラーニングはPCとネット環境があれば、好きな時間と場所でマイペースに講義を受けられます。問題集と参考書だけで手探り勉強することにためらっている方は、講習会受講を一考してみてくださいか。

名前	クラス名	受講開始日	受講期間	終了予定日	終了日
長谷川 貴也	A28905	2016/07/01	2016/12/31	2016/12/31	

コンテンツ	予定日	実施日	状況	時間	合否
目録:ポイント:演習	2016/09/21	2016/10/11	学習済	17分31秒	-
問題					
1-1.電波法の目的	2016/09/21	2016/10/11	学習済	17分31秒	-
1-2.電波法令	2016/09/21	2016/10/11	学習済	17分31秒	-
1-3.電波法の用語	2016/09/21	2016/10/11	学習済	17分31秒	-
1-4.行政機関	2016/09/21	2016/10/11	学習済	17分31秒	-
1-5.電波利用料制	2016/09/21	2016/10/11	学習済	17分31秒	-
度					
練習問題	2016/09/21	2016/10/09	-	-	-

<https://jard.or.jp/elc-center/index.html>

September 22, 2016 Taitosaki DX Pediton Log

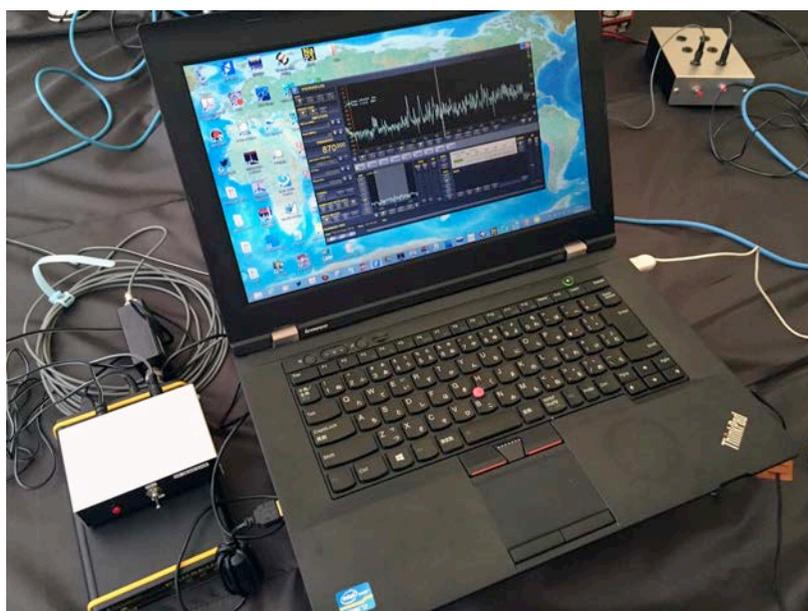
RX: PERSEUS ANT: TDDF (ENE) JST=UTC+9 hours

Freq.	Call	City	State	JST	Condx.	Remarks
550	KTZN	Anchorage	AK	17:59	p	EG "ESPN 5-50 The Zone KTZN Anchorage..."
567	KGUM	Agana	GUM	19:00	vp	EG "...Agana, Guam"
580	KMJ	Fresno	CA	19:00	vp	EG "News Talk...KMJ..."
610	KONA	Kennewick- Richland-Pasco	WA	18:59	p	EG "This is News Radio 6-10 KONA, Kennewick-Richland-Pasco"
630	ABC-4QN	Townsville	AUS	18:00	p	EG ABC News
630	KUAM	Agana	GUM	19:02	f	EG "KUAM AM Agana, Guam...Isla 63"
650	KENI	Anchorage	AK	18:00	f	EG "News Radio...KENI, Anchorage"
670	KBOI	Boise	ID	17:59	vp	EG "We're 6-70 KBOI, Boise"
680	KNBR	San Francisco	CA	19:00	vp	EG "...KNBR..."
700	KBYR	Anchorage	AK	17:59	f	EG "AM 7-00 KBYR, Anchorage. K203BY, Kuparuk and K261AO, Arco Base"
730	CHMJ	Vancouver	BC	18:00	p	EG "♪ AM 7-30~All Traffic, All the Time~. This is AM 7-30"
750	KFQD	Anchorage	AK	0:00	p	EG "♪ News Talk 7-50 KFQD~Anchorage~"
770	(CHQR)	Calgary	AB	18:00	p-vp	EG "This is the all radio station..football game...on News Talk 7-70..."
780	KKOH	Reno	NV	17:59	p	EG "News Talk 7-80 KKOH, Reno. kkoh.com"
780	KNOM	Nome	AK	18:59	f	EG "KNOM, AM FM in Nome. It's 2 o'clock"
801	KTWG	Agana	GUM	19:00	p	EG "...Christian Radio for Guam and the Northern Mariana Islands...KTWG, Agana"
840	KMPH	Modesto	CA	18:00	p	EG "This is Immaculate Heart Radio KMPH, Modesto"
850	KICY	Nome	AK	19:03	g	RS "KICY, Nome"
880	KRVN	Lexington	NE	17:53	p	EG "...on krvn.com"
880	KKMC	Gonzales	CA	18:00	vp	EG "...on KKMC..."
910	CFCW	Drumheller	AB	18:03	p	EG "♪ Alberta's Country Legend~9-10 AM~CF~CW~"
910	KMTT	Vancouver	WA	18:59	vp	EG "ESPN Portland"
930	KNSA	Unalakleet	AK	19:00	p	EG "This is 6-70 KDLG, Dillingham, Alaska...Unalakleet"
940	KFIG	Fresno	CA	16:59	f	EG "9-40 ESPN. KFIG, Fresno"
980	CKNW	New Westminster	BC	18:00	f	EG "Vancouver's News, Vancouver's Talk, This is News Talk 9-80 CKNW"
990	KIKI	Honolulu	HI	16:59	vp	EG "KIKI" FOX Sports Radio
990	KATD	Pittsburg	CA	17:24	p	SP "En San Francisco...KIQL..."
1010	(CBR)	Calgary	AB	18:59	vp	EG "...CBC"
1020	KTNQ	Los Angeles	CA	18:00	f	SP "KTNQ, Los Angeles, KLVE...Univision Radio"
1030	(KTWO)	Casper	WY	17:59	vvp	EG "...kt...com...AM 10-30 KT..."
1040	CKST	Vancouver	BC	18:59	f	EG "CKST is TSN 10-40. Vancouver's Sports Radio"
1050	KTCT	San Mateo	CA	17:59	vp	EG "...PN Radio...DC Morning...KTCT...Sports Leader"
1070	KNX	Los Angeles	CA	19:05	p-vp	EG "This is KNX"
1080	KFXX	Portland	OR	18:59	p-vp	EG "KFXX, KWJJ-HD2 Portland...10-80 The Fan...ESPN Radio"
1090	XEPRS	Tijuana BC	MEX	17:59	p	EG "XEPRS 1090(mil noventa) AM Rosarito, Baja California...San Diego's Sports Leader. The Mighty 10-90"
1100	KFAX	San Francisco	CA	17:59	f	EG "On the iHeartRadio as ♪KFAX San Francisco, Oakland, San Jose ~ A service of Salem Media Group"
1110	KFAB	Omaha	NE	18:00	p-vp	EG "11-10 KFAB, Omaha"
1120	KPNW	Eugene	OR	18:59	f	EG "On Newsradio 11-20 KPNW, Eugene-Springfield"
1130	CKWX	Vancouver	BC	18:00	f-p	EG "CKWX News 11-30 online..."
1140	KHTK	Sacramento	CA	19:00	p	EG "Sports Live Studio. KHTK AM and...Sacramento"
1160	KSL	Salt Lake City	UT	19:00	f	EG "KSL Salt Lake City. KSL News Radio 102.7 FM and 11-60 AM"
1170	KPUG	Bellingham	WA	17:59	p	EG "...on KPUG...Are you listening? on kpug1170.com"
1170	KLOK	San Jose	CA	18:00	p	EG "DESI 1170 AM...You are listening to KLOK, San Jose, San Francisco and Oakland"

Freq.	Call	City	State	JST	Condx	Remarks
1180	KERN	Wasco-Greenacres	CA	17:00	p	EG "This is 11-80 KERN...96.1 FM"
1190	KEX	Portland	OR	18:00	f	EG "...iheartradio.com. 11-90 KEX, Portland. Now KEX new..."
1200	KYAA	Soquel	CA	18:00	f-p	EG "This is Immaculate Heart Radio KYAA, Soquel, Monterey. ♪...Immaculate Heart Radio"
1210	(KMIA)	Auburn-Federal Way	WA	18:00	p	SP "...La Zeta...Bustos Media" "Aquí nomás La Zeta"@1725
1210	KGYN	Guymon	OK	18:59	p	EG "KGYN, Guymon liberal a steckline communications station"
1220	XEB	Mexico City	MEX	18:59	p	SP "XEB La B grande de México"
1270	KNDI	Honolulu	HI	18:52	f-p	Ethnic "KNDI...Honolulu, Hawaii...Radio"
1300	KAPL	Phoenix	OR	17:01	p	EG "The grace of the Lord Jesus Christ and the love of God. You're listening to KAPL AM 13-00, Phoenix"
1300	KKOL	Seattle	WA	18:59	f	EG "Business Radio 13-00 KKOL, Seattle and service of the Salem Media Group"
1310	KMKY	Oakland	CA	17:59	f	EG "You're listening to Radio Punjab AM 13-10 KM-KY, Oakland" ex:Radio Disney (~Oct. 2015)
1310	KLIX	Twin Falls	ID	18:59	p	EG "This is News Radio 13-10 KLIX Twin Falls Idaho, U.S.A."
1320	CHMB	Vancouver	BC	19:01	f	CH "This is CHMB AM 13-20, Vancouver"
1330	KLBS	Los Banos	CA	17:39	f	PR "KLBS..." Portuguese song prgr.
1330	KKPZ	Portland	OR	18:00	p-vp	EG "KKPZ, Portland...kkpz.com"
1350	KSRO	Santa Rosa	CA	17:59	f-p	EG "This is the new...13-50 and New FM 103.5 KSRO..."
1360	KKMO	Tacoma	WA	18:14	f	SP "El Rey 13-60 (trece sesenta)"
1360	KUIK	Portland	OR	16:59	f	EG "The Voice of Washington Country 13-60 KUIK Hillsboro, Portland"
1370	KUPA	Pearl City	HI	18:00	vp	CH "on the KUPA AM 13-70 and FM 103.9 Hawaii, Pearl City. KUPA AM...FM...information..." 6.2kW
1380	KRKO	Everett	WA	16:59	p	EG "...1380krko.com...1380krko.com...KRKO, Everett"
1410	CFTE	Vancouver	BC	17:59	f	EG "CFTE, TSN 14-10 Vancouver's Sports Radio...Bell Media"
1420	KKEA	Honolulu	HI	18:59	p	EG "Hawaii's No.1 Sports Station is KKEA, Honolulu ESPN 14-20 and espn1420am.com"
1460	KION	Salinas	CA	17:59	p	EG "Power Talk 14-60 and 1-0-1FM"
1460	KHRA	Honolulu	HI	18:00	p	KR "Radio Korea Hawaii, KHRA 14-60 Honolulu"
1470	CJVB	Vancouver	BC	17:59	f	Ethnic "Multicultural Vancouver, AM 14-70 CJVB Fairchild Radio"
1480	KGOE	Eureka	CA	17:59	vp	EG "This is KGOE, Eureka"
1480	KBMS	Vancouver	WA	18:59	f-p	EG "14-80 KBMS Vancouver, Portland"
1500	KHKA	Honolulu	HI	17:59	p	EG "KHKA, Honolulu and NBC Sports Radio at AM 15-00 and nbcsportsradiohawaii.com"
1500	KSJX	San Jose	CA	18:00	vp	VN "KSJX, San Jose 15-00 AM"
1510	KGA	Spokane	WA	17:59	p	EG "Sports Radio 15-10 KGA, Spokane"
1510	(KSFN)	Piedmont	CA	18:04	p	CH Talk
1520	KOKC	Oklahoma City	OK	18:00	vp	EG "News Talk 15-20 KOKC, Oklahoma City"
1520	KKXA	Snohomish	WA	18:59	f	EG "Classic Country 15-20 KXA"
1530	KFBK	Sacramento	CA	18:00	p	EG "Radio KFBK Sacramento, KBEB HD2 Sacramento, and KFBK-FM Pollock Pines...dial"
1540	KMPC	Los Angeles	CA	17:59	p	KR "Radio Korea...15-40...Los Angeles"
1540	KREA	Honolulu	HI	19:00	f	KR "This is KREA Honolulu, 15-40 AM dial"
1550	KKOV	Vancouver	WA	17:59	f	EG "America's Best Music KKOV Vancouver, Portland. ♪KKOV~"
1550	KRPI	Ferndale	WA	18:59	p	Ethnic "You're listening to 15-50 AM KRPI, Ferndale"
1560	KNZR	Bakersfield	CA	18:59	p	EG "...KNZR-FM, Shafter" FOX News Radio
1570	KUAU	Haiku	HI	16:59	p	EG "...KUAU Haiku, Maui"
1570	(XERF)	Ciudad Acuña	MEX	18:00	p	SP Music
1580	KGAL	Lebanon	OR	17:59	p	EG "News Talk 15-80 KGAL Lebanon..."
1580	KBLA	Santa Monica	CA	18:59	p	SP "KBLA 15-80 (quince ochenta) AM Santa Monica, Los Angeles"

Freq.	Call	City	State	JST	Condx	Remarks
1590	(KVTA)	Ventura	CA	16:59	vp	EG "(Ventura) AM 15..KV..."
1600	KVRI	Blaine	WA	16:59	f	Ethnic "This is KVRI, Blaine"
1620	KYIZ	Renton	WA	17:59	vp	EG "KRIZ"
1620	KSMH	Sacramento	CA	18:01	vp	EG "ihradio.com"
1620	R.Rebelde		CUB	17:00	vp	SP Time signal
1630	KRND	Fox Farm	WY	18:59	vp	SP "K-R-N-D..."
1640	KBJA	Sandy	UT	18:00	p	SP "KBJA 16-40 (dieciséis cuarenta) AM, Super... This is KBJA 16-40 AM, Super16-40 Sandy, Salt Lake and Utah"
1640	KDIA	Vallejo	CA	18:01	f	EG "...on 16-40 KDIA, AM Vallejo San Francisco"
1650	KFOX	San Francisco	CA	17:59	p	KR "♪...Radio Seoul~AM...You're listening to South California's No.1 Korean Language's Radio Station"
1650	KBJD	Denver	CO	18:00	p	SP "KBJD, Denver 16-50 (dieciséis cincuenta) AM Radio Luz"
1660	KBRE	Merced	CA	19:00	f	EG "KBRE Merced, K289CB Los Banos. The Bear on 105-7" Rock prgr. ex:KTIQ (~May 2016)
1670	KQMS	Redding	CA	18:59	f	EG "News Talk KQMS Redding, KQMS-FM Shasta Lake City. It's 3 o'clock" ex:KNRO (~Aug. 2016)
1670	KHPY	Moreno Valley	CA	19:03	f	SP "ESNE (e ese ene e) Radio"
1680	KGED	Fresno	CA	17:59	f	EG "This is the Conservative Talk Radio AM16-80 The Answer. am1680theanswer.com. KGED, Fresno, now 16-80 news show"
1680	KNTS	Seattle	WA	18:59	p	SP "KNTS 16-80 Seattle...KNTS Seattle..."
1690	KDMT	Arvada	CO	18:06	p	EG "...on KDMT Denver's Money Talk 16-90 AM"
1690	KFSG	Roseville	CA	19:00	p	SP "KFSG, Roseville Sacramento" EG CM then, non stop music
1700	XEPE	Tijuana BC	MEX	17:59	f	EG "XEPE 1700(mil siete ciento) AM Tecate, Baja California. You are listening to ESPN Radio 17-00"
1700	(KVNS)	Brownsville	TX	18:00	vp	EG FOX Sports

Stations logged by Shinya Hasegawa



戸塚川柳道場

2017

名人 板倉 健

グアムより ノイズだらけで 便り来ず
空耳か? 感度上がらぬ 中波耳
ここちよい ラテンのリズムと フェージング
かなたから かすかに届く 君の名は?
ありのまま ゲルマニウムで 中波聞く
夏ちかし サザンビーチで E スポット
海岸で 電波と海の 波ゆらぎ
小粒でも 程よい感度 ミニループ

師範 せきやま☆あすか

花粉飛び くしゃみし出した ハイバンド
衣替え 春のラジオで 聞いてみる
頬ずりを そっとしてみた ラジオ萌え
最大の 受信障害 睡魔かな
ラジオ聞く 今が楽しい 五十代
四畳半 ループアンテナ ぐるぐると

E スポの メイン受信機 カーラジオ
仲間でも 同級生は 特別さ
スマホだめ SDR もっとだめ
七夕は 年に一度の 受信会
アナログ機 シャックにあると ホットする
夏だけの 元気なノイズ 蝉しぐれ
アンテナを 自由研究 してみたい
いつのまに ループにゴーヤ ぶら下がり
風鈴が 深夜にチリン 中波聞く
夕暮れに 冷やしスイカと PNG
窓の外 遠くで花火 ラジオ消す
アンテナに トンボとまった 秋の風
盆休み 北米中波 聞いてみる
E スポも 冷やし中華も 食べ納め
肝だめし ヤフオクジャンク 買ってみる
珍局を 都会で聞くの オツだねえ
おまえもか 電子蚊取りが ノイズ源
TP は 何の略かと ググる秋
夕暮れに コロコロ鳴くよ 秋の局
中秋の 月と二人で ラジオ聞く
南米の リズム刻んで 栗ごはん
南極の 電波どこから 飛んで来る
息白く 電波も凍る 冬の朝

📻📻📻 会員だより 📻📻

●古いBCLの友人と20年ぶりに会った。生まれは千葉と新潟だがお互い昭和40年生まれの同い年だ。千葉の八千代台というところで飲み会を開いた。どうせなら人数の多い方が楽しいのでネットで参加を募った。ありがたいことにお一人の方からお申し出があった。千葉市にお住まいのベテランBCLの方で偶然にも昭和40年生まれだという。「これはBCL昭和40年会設立ですなあ」という話になった。同年代の親睦団体という新しい繋がりが生まれたようだ。

そういうことなら…と、ぼくには他に心当たりがあったので秋田と神奈川の「同級生」お二人に声をかけてみた。「なんだか面白そうですね」と入会を快く受け入れてくれた。これで5人。それぞれに個性豊かで一癖ありそうな面々である。現代のサムライと言ってもよいだろう。近いうちに「BCL40年会・七人の侍」が揃い、世直しできる日が来るのが楽しみだ。(発起人・せきやま☆あすか)



●真に1年は早い。あっという間に3回目の原稿執筆である。今回は妙なプレッシャーがかかり仕事も例年になく多忙と重なって、遅々として筆が進まなかった。やっと6月の締切間際になって2本書き上げた。

この1年もTDXC関連では色々な出来事があり、数々のイベントに参加させて頂き、実に充実した1年であった。やはり共通の趣味を持つ諸氏との交流は楽しい♪ BCLはもちろんであるが、他の分野でも共有できる諸氏がちらほらいて、色々なイベントにご一緒させて頂いた。TDXCの活動として

はTDXCを軸として色々な班(自称)の活動が目立った1年であったように思う。

工作班、無線班、移動運用班、リスニング班、ライブ班、ミリタリー班etc。。あ、T-TDXC(東京在勤班)もありましたね。昨年のPROPAGATIONの会員便りで甲斐氏が「少年の心を取り戻した僕」と書いておられましたが、まさに少年の心を取り戻した「おやじ達」は揃いも揃って実にアクティブだ(笑)

そんな気のいい「おやじ」連中とこれからの1年、さらに1年とTDXCの輪は愉快に広がって行くことだろう。自分的には色々興味湧くことを聊かかじり過ぎて、中途半端な感否めないが、少しは深堀りも入れつつ、この輪を大切に広げて行きたい。TDXC5周年記念イベントも今から実に楽しみである。(板倉 健)

●ここ最近何かと忙しく、BCLが置き去りにされている感がある。原因は家族のケア、そして他の趣味との兼ね合いである。母親は高齢で通院が絶えず送迎が必要だし、娘たちは就活だの部活だので色々心配と面倒を掛けてくれるが、これらの対応は疎かにする訳に行かない。

後者は優先順位の問題になるが、どれもこれもやりたいことなので悩ましい。健康維持も兼ねてやっているテニスは毎週土日、3年前から始めたピアノのレッスンは毎週土曜日なので、これだけで結構行動が制約されてしまう。そんな訳でせっかくお仲間が企画してくれた遠足や無線移動運用にも参加出来なかつたりして、そこからテンションが下がったりする。初夏のチョイペも成果はもう一つだったなあ…。(あ、ボヤキはいかん)

6月は合間を見てPROPAGATION原稿執筆に取り組んだが、これは半強制的にBCLに目を向けさせる良い方法だと思う。勿論嫌々書いている訳は無く、結果的には楽しんでおり自身をモチベートしてくれている。

それから9月には、昨年Cliffで遂に対面したNick氏が来日することになっている。日本語学習のために2ヶ月間学校に通うという、本格的な滞在である。そしてこの間に一緒にペディに行こうと約束し合っている。これは今から大いに楽しみだ。

初夏の今はともかく、秋になればDXシーズンも再開するし、こうした一連の行事が起爆剤になり、年初に自身のHPに記した「BCLへの情熱」が蘇ってくるだろう。そこに到達するまでの暑い季節は、お仲間と飲む冷たいビールでつなごうか。(中川弘夫)

●radikoタイムフリー機能が2016年秋スタートした。過去1週間の番組を自由に再生できるという有難いサービスだ。お気に入りの番組を聴き逃した時に活用するのが一般的だが、最近「普段聴かない曜日・時間帯の面白そうな番組」を探す手

段として使っている。

最近見つけたのがTBSラジオ「司馬遼太郎短篇傑作選」。一つの短篇小説を数週間にわたり朗読する番組で、「登場人物の息遣いまで聞こえてくる」活字で読むのとは一味違った楽しさを与えてくれる。

「最近聴きたい番組が無い。」と嘆いていたが、それは知らないだけで、「地上の星」(中島みゆき)ではないが嗜好にあった番組は結構身近にあるものだと教えられた気がする。(澤谷 淳一)

返信情報 QSL Information

©5910kHz Alcravan Radio

Mar. 09 2017 0808 UTC

E1daysE E-QSL

v/s Rafael Rodoriguez QSL Manager

©891kHz ABC-5AN

Feb. 26 2017 2000 UTC

E5hoursE

v/s Graham Himmelhoch-Mutton, Radio Master Control

(岡村博行)

PROPAGATION Edition 4 正誤表

P86

誤：*SP1/SP2/RX など各ウィンドウはバラバラに表示され、SDRuno を再起動させる「MAIN」ウィンドウのみにリセットされてしまいます。
正：*SP1/SP2/RX など各ウィンドウはバラバラに表示され、SDRuno を再起動させると、「MAIN」ウィンドウのみにリセットされてしまいます。

P145

誤：DX QS0 は、「外国の人が打っている」と考えるだけで

正：DX QS0 は、「外国の人がしゃべっている・打っている」と考えるだけで

誤：慣れれば国内局と変わらぬ感覚で交信できます。

正：慣れれば国内局と変わらない感覚で交信で

きます。

p146

誤：7030 の DC プラグを 2 ターンさせてみたところ、

正：7030 の AC アダプタの DC プラグ側を 2 ターンさせてみたところ、

p147

(上記の交信内容は、録音を後で聞き取ったものです) この部分を削除

p148

誤：カウンターポイズ (3m のフラットケーブルが 4 本) と、5m の電線を 2 本接続。

正：カウンターポイズ (3m のフラットケーブルが 4 本と、5m の電線を 2 本) を接続。

編集後記

■TDXC 会誌「PROPAGATION Edition5」をお読み下さり、どうもありがとうございました。今回もバラエティに富んだ投稿が集まりました。TDXC 初の海外遠征ペディ報告、貴重な南米ルポ、豊富なアンテナの技術記事、恒例の対談録など、メンバーの活動の記録とともに、読んで楽しく役に立つ誌面になりました。ラジオ受信のお供になれば幸いです。

■ 今年 TDXC 設立 5 周年。PROPAGATION 誌も 5 号を数えました。多忙のなか投稿をお寄せくださった会員諸兄に、この場を借りてあらためて御礼申し上げます。この 5 年間会員はひとしく齢を重ね、それぞれに楽しいこと、辛いこと、5 年分の思い出を積み重ねてきたことと思います。そして BCL という共通の趣味を通じたサークル活動で、会員同士の絆も深まった 5 年間でもありました。ラジオはもちろん、ラジオだけではない、末長いつながりが TDXC の理想です。

■当初は 5 周年記念号の企画を考えていましたが、過去を振り返るにはまだ早く、メンバーも「次は何をしようか」という前向きな気持ちが強いので、通常の構成にしました。特別企画は、記念すべき 10 周年まで取っておきたいと思います。

■ オレゴンクリフ合同ペディの記事においては、現地で暖かくメンバーを迎えてくださった Nick さん、Tom さんからも原稿をお送りいただきました。遠方に住む友人たちのご親切に、心から感謝いたします。

■来年もまた会員諸兄と会誌をつくること、読者の皆さんに読んでいただけることを楽しみにしています。次号でまたお会いしましょう。

2017 年夏 長谷川 真也



TDXC からのお知らせ

*TDXC (Totsuka DXers Circle)では会員を募集しています。神奈川県横浜市戸塚区およびその周辺地域にお住まいで、DXing(遠距離受信)に興味があり、会誌の内容に共感いただけた方、DX ペディションを中心とした活動に参加したい方を歓迎いたします。

*会費は無料、会則も特にありません。会誌は一般向けに PDF 版を無料配布していますが、執筆いただいた会員には簡易印刷版を頒布しております。詳細は下記までご連絡ください。

戸塚 DXers サークル(トツカ ディーエックスサーズ サークル) / TOTSUKA DXERS CIRCLE (TDXC)

2012 年 8 月 設立

E-mail: bclguide@excite.co.jp

五十嵐 雄希、板倉 健、岡村 博行、甲斐 迅、栗本 佳明、澤谷 淳一、シエスタ、せきやま☆あすか、竹野 伸郎、中川 弘夫、長谷川 眞也、峯松 史明、宮内 聰、山田 寿一、Nick Hall-Patch、Tom Rothlisberger

戸塚区紹介

区のプロフィール

■地 勢



戸塚区は横浜市の南西部に位置し、南北に長く、北は旭区・保土ヶ谷区の2区に、東は南区・港南区の2区に、南は栄区・鎌倉市に、西は泉区・藤沢市に接しています。

地勢上は、多摩丘陵の南端に位置し、区の中央部を柏尾川が南北に流れて低地を形成しており、その周囲を比較的起伏に富む台地が取り囲むように広がっています。

区域の面積は、35.70 km²で、18区中1番広く、市域面積の8.2%を占めています。

人口は、275,996人で市内第4位ですが、人口密度は1 km²あたり7,731人で10位となっています(平成29年1月1日現在)。

<面積>	35.70 km ²	
<極東>	平戸一丁目1385-39	東西距離 8.40 km
<極西>	俣野町1609	
<極南>	影取町3-7	南北距離 10.05 km
<極北>	名瀬町3420	
<最高地>	品濃町	海拔 99.3 m
<最低地>	東俣野町	海拔 6.5 m

(データで見る戸塚 2017年版/横浜市戸塚区役所総務課 発行 より)

*戸塚区のラジオ局エフエム戸塚(83.7MHz 10W)は、2017年4月29日に開局8周年を迎えた。

PROPAGATION <Edition 5>

2017年8月1日 第1刷発行

発行 戸塚 DXers サークル (Totsuka DXers Circle)

印刷 キンコーズ・ジャパン株式会社横浜西口店

©Totsuka DXers Circle 2017 Printed in Japan

落丁・乱丁本の場合は TDXC 編集部へご連絡下さい。お取り替えいたします。

無断転載・複製を禁ず

Totsuqa DXers Circle